

会 議 録

会議の名称		第1回つくば市陸上競技場整備基本構想策定検討会議		
開催日時		令和2年7月30日(木) 18:30 開会 20:15 閉会		
開催場所		つくば市役所 会議室 203		
事務局(担当課)		市民部スポーツ振興課		
出席者	委員	大澤義明、大山卞圭悟、斎藤まゆみ、岩井浩一、宮本恒男、若山隆男、浅野祐一、石渡琢磨、萩原武久		
	その他	あい造園設計事務所 細谷恒夫、眞鍋章良、菊池俊一郎		
	事務局	市民部 飯村部長、星野次長 スポーツ振興課 伊藤課長、宮下課長補佐、飯村係長、宮本主任、井上主事、白井主事		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	3名
非公開の場合はその理由				
議題		(1) 座長の選任について (2) つくば市陸上競技場整備基本構想について		
会議録署名人			確定年月日	年 月 日
会議次第	1 開 会 2 辞令交付 3 あいさつ 4 議 事 (1) 座長の選任について (2) つくば市陸上競技場整備基本構想について			

	<p>①策定検討会議の概要</p> <p>②計画条件の整理</p> <p>5 閉 会</p>
--	--

	<p><審議内容></p> <p>4. 議事</p> <p>(1)座長の選任について</p> <p>萩原武久委員が全会一致で選任された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 萩原座長あいさつ <p>続いて、萩原座長から職務代理者を指名。職務代理者には岩井浩一委員を指名し承諾を得た。</p> <p><事務局から会議の公開・非公開に関する説明があり、全委員の了承を得て公開を決定した。併せて、傍聴人による写真撮影が許可された。></p> <p>(2) つくば市陸上競技場整備基本構想について</p> <p>①策定検討会議の概要</p> <p><事務局説明></p> <p>座長 ありがとうございます。ここからは何かご意見・ご質問等ございましたら、挙手でお願いしたいと思います。</p> <p>座長 私もこれを読ませていただいて、事務局の皆さんとも様々な話をさせていただいています。</p> <p>スポーツが多様化、高度化するというけれども、どのように多様化していくのですか。あるいは、コロナ禍の後、どのように多様化、高度化してい</p>
--	---

くのですか。その見通しを立てられますか、立てましょうよというようなことを、今、議論を始めているのです。

それと同じように、社会環境の変化を踏まえてとありますけれども、恐らく、日本国内の社会環境を考えてもあまり意味がなくて、つくば市の社会環境をメインに考えてこうあるべきだと、つくば市にフォーカスするというをお願いしているのです。そのことも含めて、ぜひ皆さんからご意見等あれば承りたいと思います。

委員 これから多分、具体的話に入ってくると思うのですが、座長がおっしゃるようにつくばらしさ、あるいはつくば市が日本全体と同じように変わっていくだとか、そういう要素は当然、入れていければと私も思っております。抽象的すみませんが。

座長 つくば市にフォーカスするという大きな意味は、一昨年、つくば市は学校を11校、廃校にしたんですね。多くの小学校が大体、明治6年とか7年の創立ですから、145年から150年近くたっています。恐らく、日本の社会環境あるいは文化が学校を核にして大きくなってきたと見ていますので、子どもたちがいなくなった途端に学校を廃棄するだけでいいのですかというのが、本当に頭にあるんですね。

全部の学校も見させていただきました、廃校になる直前に。本当に涙流れますよ。校舎の前に140年ありがとうと、横断幕を掲げてあったり、子どもたちの作文が並んでいるのですよ。そういう光景を目の当たりにして行政は何をするんですかと、市長にも言っているんです。あの光景を見せてやってくださいよと。

そのことを含めて、多分、競技場という問題も、陸上競技場単体で解決できる問題ではないということは、はっきりしているのだと思っています。

それでは次にいきたいと思います。計画条件の整理について、事務局のほうから説明をお願いいたします。

②計画条件の整理

<事務局説明>

座長 ありがとうございます。アンケート調査結果と施設の概況というところを踏まえて説明をいただきました。

全部聞きますと大変ですのでページを指定したいと思います。今、説明いただきました5ページ、6ページについて、ご意見・ご質問等ございましたら承りたいと思います。どうぞ。

委員 陸上競技場について、前回の総合運動公園は、三百何十億でしたかね。

住民投票でということがあったと思うんですけども、そのときに、陸上競技場は12～13億でできると書いてあったような気がするのです。ということは、予算に関しても民意が関わってくるのかなと思うのですが、予算規模としては大体どのぐらいの話で進めていくのでしょうか。それとも事業が大規模になって、どんどん話が膨れていくと数字っていうのがどんどん大きくなって。そうすると、前回の住民投票の意見とは、またずれてくるのかなと思うんですけど。規模について、考えがどういうものなのかというのを、皆さんの考えも知ってみたいので発言させていただきます。よろしくをお願いします。

事務局 予算規模につきましては、検討会議の中で、まずは皆様に、つくば市に必要な規模や陸上競技場の在り方等を議論していただいて、それらを反映して決定されていくものと思います。

事務局 補足ですけれども、最初から予算規模を決めるということは考えてお

りません。あくまでも、つくば市にふさわしい陸上競技場の在り方というものを検討いただいて、それについて、この会議の中で、概算でどの程度の整備費がかかるかということをお示ししてまいります。

整備費等々については改めてお示しをさせていただければと思います。

座長 どうぞ。

委員 関連するかどうか分からないのですが、15 ページ、私がヒアリングを受けた際の要望が記載されているのですが、陸上競技場の整備は、本体だけではなくて周辺の土地利用も可能になると聞いたものですから、付帯する緑地帯や体育館、研修施設うんぬんというふうに申し上げました。

あるいはジョギングコースができると、ここで小中学生の駅伝大会が開けるなどか。ですから、陸上競技場だけの建設なのか、その辺もこれから検討していかなければならないとは思いますが。

陸上競技場だけだと、いろいろと課題があるかなと。また、利用頻度についても難しくなるかなと思います。

まだ説明されていないですね、陸上競技場の周辺の土地利用については。それは、この後になるのでしょうか。

事務局 最終的には場所にも関わってきますので。

委員の皆さんのご意見等も伺いながら、場所等についても、当然、決定していくことになろうかと思いますが、そのときに、どういった施設が建設可能であるとか、そういうところもまた別の機会に議論をいただく予定であります。

座長 よろしいですか。では皆さん、よろしゅうございますか。

委員 4番に進んでよろしいですか。内容についてですが。

座長 施設に関することですか。

委員 施設の内容の要望ではないのですが、思いというか。15ページです。

座長 順でいきますので。取りあえず、計画条件の整理理念の設定に向けて、5ページ、6ページについてはよろしゅうございますね。それでは7ページ、陸上競技場整備に関する学校跡地調査の概要について、ご意見・ご質問等ございましたら承りたいと思います。どうぞ。

委員 今、陸上競技場の整備と学校跡地の利用について、関連付けてというような方向性があるのかなと感じるのですけれども。

本当に市民の方に役に立つ陸上競技場を造る上では、市民の方の納得というのが重要だと思うんですね。学校跡地の問題との抱き合わせというのは非常にいい考えのように見えるのですけれども、一方で、既に取得済みの土地の利用と学校跡地の利用と、利便の面でどうか、コストの面でどうかというところは慎重に検討して。

陸上競技場の整備と学校跡地の利用を関連付けることは、二つの問題が同時に解決するようで素晴らしいものに見えるのですけれども、既にもう問題として挙がっている取得済みの土地の利用のほうが、例えばコストが少ないとか、既に問題になっているところがクリアされるのであれば、そちらと比べた結果を示す必要があると。そこを明確にしないと、市民の方の納得は得られないのではないかと思うんですね。

ですから、学校跡地の利用についてはとてもいい考えだと思うのですけ

れども、それと同時に、例えば既に取得済みの土地を使った場合とコストの面でどのように差が出るのか、利便の面でどのように差が出るのかというようなところについても、検討が必要ではないかなというふうに思います。

事務局 既に取得済みの土地とは、どの場所をおっしゃっているのか分かりませんが、場所につきましては、一応、順調にいけば第3回辺りで検討していただきたいと思っております。ですからまずは、つくば市にどのような陸上競技場が必要なのかというところを、議論していただきたいと思っております。

座長 他、よろしいですか。どうぞ。

委員 本競技場に関しましては、基本的な考え方としては、つくば市民のためにというところがあるとは思いますが、先ほどの説明の中でも、人口の推移が、将来的には多少減ると見込まれているということでした。

また、つくば市の中学校も今はよその市の会場を借りながら競技を行っている。同じように、つくば市の周辺の地域の小中学校も恐らく、場所を探しながら運営をしているという実態があるのではないかと思いますので、主はつくばだけれども、つくば市周辺の市町村の需要も満たせるというのを目的の一つと考えてもよろしいのでしょうか。

事務局 まずは市民のための陸上競技場ですけれども、周辺部の自治体もということであれば、それはもちろんそういう考え方があってもよろしいのではないかと思います。

委員 ありがとうございます。そうしますと、先ほど使用頻度という言葉が出てきたかと思うのですけれども、これにつきましては、周辺の自治体の小中学校もしくは競技団体の意向に加えて、高齢者や障害者のスポーツ団体、また、県内、範囲を広げて県外からの需要というところも何らかの形で調査できると、使用頻度に関するより具体的な目標設定ができてくるのではないかと考えます。以上です。

座長 今、皆さんにお願いを申し上げたいのは、陸上競技場は、つくば市のこれからにとってどんなものがよろしいのでしょうかということを、議論していただかなきゃいけません。

オリンピックが開催できるとか、全国大会、関東大会が開催できるとか、そのようなイメージは一回、全部排除していただいて。

数万人あるいは数千人収容可能なスタンド、何千台も止められる駐車場、恐らく、そのような場所は確保されていないのですよ。総合運動公園の跡地が何となく皆さんの頭の中に残っているとしても、それも排除をしていただかないと、あそこに何かを作るというふうには市長は言っていないのですよ。あの場所は、使わないのですよ。

そうすると、新たに陸上競技場ができる場所を求めますか。恐らく、土地を求めるだけで何年かかるでしょうか。この自治体のことで申し上げましたならば、1年や2年で決着がつくなんてことはありません。

恐らく、実現するのは、これから15年も20年も先になります。それを望みますか、望みませんかという話なのです。

別に学校の跡地利用ありきではないのですけれども、冒頭申し上げたように11の学校を無責任に放りっぱなしで、建物がもう朽ちてきたから解体して、さら地にすれば、それで自治体の責任終わりでしょう。それでは、自治体が無責任ではないですかと思うんですね。

使える範疇があるのであれば、模索をするというのは当たり前の話ではないですか。それが妥当であるかどうかということ、この委員会では検討していただければよろしいのではないのでしょうか。

1 時間半で終わろうと思っていますので、早めに進めさせてください。7 ページ、8 ページについて、今、議論になっているところは、市内の大会レベルが開催可能な公認競技場、それでは足りないぞというようなご意見があれば承りたいと思います。どうぞ。

委員 今、座長がお話しされた 8 ページ、これは昨年、いきなり新聞や広報で出されたものですね。これがベースとして出ているのかなと思うんですが、内容を見た限り、正直言って私は愕然としました。

つくば市の子どもたちだけが利用できればいいのかと、それが正直な考えです。

つくば市あるいは近隣の小中学生が、つくばの競技場に行きたいなという思いや夢もあると思うんです。競技場ができれば、当然、周辺の市町村からも来られるかと思えます。

ただ、公認の種別が 4 種となると、つくば市の中体連などは大会が開け、隣のつくばみらい市の中体連も、競技場を貸してくださいとなる可能性はありますが、県内の中学校体育連盟となると使えません、正直言って 4 種では。高校の大会も同じです。高校では、4 種では全く利用されないと思います。

大学も同様です。例えば、筑波大学のグラウンドは 3 種ですが、改修工事の際は石岡まで行かれた。つくば市の競技場が 4 種であれば、絶対使われません。

いろいろ維持経費の問題等もあるかと思いますが、広く多く利用されるような競技場であってほしいというのが、私の偽らざる気持ちです。

私も以前は4回、筑波大学で競技会を開催しておりました。つくば陸協として6月に、そして8月にナイター陸上を2回、11月につくば選手権と。今はもう11月の競技会しか開けません。6月、8月は、とても競技場を借りられない状況なのです。

もし4種の公認を進めることになれば、陸協としては使いづらいと思っております。以上です。

事務局 どうもありがとうございます。ただ今のご意見について1点だけ申し上げますと、7ページ、8ページの調査につきましては、あくまでも学校跡地の利活用の調査でございます。

冒頭から申し上げておりますように、つくば市の陸上競技場の在り方というのは、まさに検討会議で皆さまからご意見をいただいてまとめていく予定でございますので、ここに掲載されているものは、あくまでも一つの調査のケーススタディーだにご理解をいただければと思います。以上でございます。

委員 調査報告が31年2月ということですが、当然、コロナの前だと思います。コロナの流行後、多分、大きくいろんなことが変わってくるはずだと思っております。当然、競技場の観客席も、1000席を、多分、フルには使えず、3分の1とか半分でしょう。そうすれば稼働率は当然、落ちる。座長もおっしゃいましたけど、単体で採算って、多分もう合わないのではないかと思います。

だとすれば、付随的な役割というところが大事ななと思ひまして、まず、防災機能、コロナのことを考えると、オープンなスペースで3密を回避できるという意味では、競技場の価値はかなり高まるだろうと思います。

次に、自然環境ネットワーク。今、Go To キャンペーンと言われていま

すが、マイクロツーリズムという言葉が流行ってきておりまして、近場観光ですね。

陸上競技場をベースとしながら、つくばの自然を楽しむとか、周辺との関係性を深めるというのも大事になってくるのかなと思うんです。

最後に、つくば市さんはスーパーシティーとスマートシティーを考えているということですから、例えば電動キックボードを使って動けるとか、そういう付随的なところというのはコロナの後は大事になってくるのかなと思っております。そういうところがある意味、大事かなと思います。

座長 施設の内容をどうするか、あるいは3種、4種という具体的な問題については、今後、当たり前前に議論しなきゃいけない問題ですけども、今、そこに入ってしまうと先に進みませんので、きょうは先ほど説明していただいたところまでを取りあえず進めます。

7ページ、8ページについては今までのご意見、承ったということにさせていただきます。

次、9ページ、10ページ、残念ながら、つくば市は陸上競技場が必要だとして公式の文書で発表したのは、9ページの(2)にありますように、平成31年2月策定のつくば市スポーツ推進計画の中間年の見直し版で、ここで初めて陸上競技場の整備検討についてという具体的な触れ方をしています。

それまでは総合運動公園という中で、陸上競技場もうたわれているんですけど、極めて大ざっぱです。陸上競技場というカテゴリーでしかありませんから。

1万5000人収容のスタンドを付けろとか、それでは立派過ぎて本当に整備可能ですかという話のところから始まって、そのレベルでずっと話が進んできていて、陸上競技場という単体の名前が出てくるのは、ここが残念

ながら初めてなのです。

そこも含めて、陸上競技場というものをこれからつくば市としてどうするのかということ、委員の皆さんにご検討いただかなければいけないと思います。

私、小学校でいつも言うのですが、ここに書いてありますように2048年、つくば市でさえ、人口は約29万人でピークです。細かく言えば、29万4000だか5000だったというふうに思いますけども、いずれにせよ、30万人までいかず、そこからもう、いや応なしに減ってくるんですから。28年後を考えなければいけないということだと思います。

9ページ、10ページ、よろしゅうございますか。11、12も同じような状況ですね、

それでは13ページ、民意の把握というところはどうでしょうか、アンケートのところは。何かございますか、ご質問等。よろしゅうございますか。

それでは先ほど説明いただいた15ページ、スポーツ団体等の意向についてというところで。どうぞ。

委員 内容を変更していただけたらありがたいと思っています。最初の茨城県大会クラスが開催できるというところですが、つくば市内外の子どもたち、選手、高校生、一般の方も参加できる大会と、県全体ではなくて、つくば市を中心とした県南地域を考えています。ですので、言葉がちょっと違ってくるのかなと思っています。

その下、200メートル程度のサブトラックうんぬんは、先ほど申し上げましたように、用地が拡張できるという仮定に従った希望です。

また、将来的には、今、つくばマラソンの実施にあたっても筑波大学に大変なお骨折りとお迷惑をお掛けしているものですから、つくばマラソンのスタートあるいはゴールなどが、新しく造られた競技場でできれば嬉し

いなと思うところです。以上です。

座長 どうぞ。

委員 2番の地域のスポーツ資源への配慮等というところですけど、私たちは、現在、陸上のカテゴリーで小学生や中学生とかが来て、頑張って活動しているわけなんですけども。

土曜だとか日曜だとか陸上競技場がないので、土浦、龍ヶ崎、石岡などに行くこともあるんですけども、陸上専門でやろうと思うとですね。

小学生なんかは、小学校のグラウンドとか、さくら運動公園でやったりするんです。

実際、どのぐらいの人数がやってるかってことなんですけど、大体、土曜1日でも小学生が150人ぐらい、多いときだと200人ぐらい来て活動してるわけなんですけど。

陸上競技場ができれば、もちろんそっちで活動していきたいと思っているわけで、毎年、成長率は大体150パーセントぐらいなので、栗原、桜エリアだけでも大体そのぐらい。これが茎崎だとか、そっち側に活動場所を探して活動できるようになると、300とか400にはなると思うんですね。その中でお聞きしたいんですけど、陸上競技場っていうのを造った場合、稼働率っていう部分で人数の把握っていうことになってくると思うんですけど、市のほうとかで考える場合って何人ぐらい使っていれば稼働率が結構動いたって思えるんですか。参考でお聞きしたいんですけど、よろしいでしょうか。

事務局 すぐにお示しできずに申し訳ありませんが、先ほどの学校跡地調査のケーススタディーのところで、その辺の数字も、ある程度把握していたか

と思いますので、もしよろしければ後ほどお示しさせていただきたいと思
います。

座長 ありがとうございます。

それでは 16 ページ、計画の前提と課題の対応に向けて。これは論点とい
う立ち方で書いてありますけれども、事務局から説明しなくてもいいので
すか。

事務局 これは、皆さんがたでご議論いただければありがたいです。

座長 それでは 16 ページ、一番佳境に入ってくる部分だというふうに思いま
す。

改めて論点の整理をし直して、また議論をいただくことにしたいと思いま
すけれども、論点 1 の 16 ページ、あるいは 17 ページのところでは何かご意
見・ご質問等あれば承っておきます。手短にご指摘いただければありがた
いと思います。

事務局 そうしましたら、要点と論点と記載した A4 版の資料が皆さんの机上に
あると思うのですけれども。そちらは、施設の基本的方向性と整備水準と
いうことで論点 1 から抜粋したものなのです。

例えば、中学校の大会が可能なスポーツ施設で身近な健康づくりの施設
にするのか、また、より高いカテゴリーの大会や大規模なイベントなどで
活用できる施設にするのか、そういったどちらにするかということではな
くて、何を重視するのかということ、ここではご議論いただければと思
っております。

座長 何か、次にこんなことを議論したらいいぞというご提案等あれば承っておきますけれども、よろしいですか。どうぞ。

委員 今のご意見で中学校の大会が可能なスポーツ施設、あるいはより高いカテゴリーの大会うんぬんとありました。1番だと恐らく、つくば市の中学生の大会が開催できればいいような施設と捉えてよろしいのでしょうか。2番のほうは、より高いカテゴリーというのは、つくば市内の小中学生に限らず周辺の小中学生や陸上チーム、あるいは陸上に限らず、その他のイベント等が開催できるような施設というふうに捉えてよろしいのでしょうか。

事務局 ここでは何を重視するかというところを、ご検討いただきたいと思えます。

例として、1番で中学生の大会、2番でより高いカテゴリーということで、ここでは掲載させていただきましたので。あくまでも、何を重視して進めていけばいいのかというところを検討していただければありがたいと思っています。

委員 陸上競技場にこだわる必要があるのかなということは、正直、私も思っています。

広く多く利用される施設であってほしいと思うのですね。陸上以外にもたくさんのスポーツがありますから、陸上競技場で野球はできませんが、サッカーなんかは当然できる競技ですよ。そのために、インフィールドを天然芝にするか否かということでここに出してきているわけですが。サッカーで活用されれば、この施設の利用頻度はかなりアップすると思えますね。

ただ、私も詳しくはありませんが、サッカーで活用するにしても人工芝では、上のレベルの大会は開催できないですね。小中学生の大会等は当然できると思いますけども、高校生のサッカーはどうなんだろう。

あまり陸上に固執すると狭い考え方になってしまうものですから、広く利用されるような施設のほうがいいのかなと思います。

あともう一つ、今、競技施設にいろいろな企業の看板が入っていますね。J:COM スタジアムとかノーブルスタジアムとか。将来的に維持管理が難しくなれば、民間というか企業の力を導入することも考えていいのかなというふうに思います。以上です。

委員 いいですか。

座長 手短に、よろしくをお願いします。

委員 私も意見があるんですけども。今回はあくまで陸上競技場ということを考えていってもらえたらな、それを軸に考えていきたいなっているんですけども。例えば、陸上競技場として実施した人数がどのぐらいだったら評価されるのかっていうのを、何となく聞きたいわけなんですけど。陸上競技場ってものをできたとしたら、私たちがやってるような活動だと、毎週末、使うことができます。それは小学生だとか中学生対象とした部活動の支援だとか、あとは大人も含めて走ることだとか、陸上で走るとか投げるとかフィットネス的に使えるものですから。丸々、陸上を通したスポーツとか、私たちでいう社会貢献みたいな活動ができるものですから、基本的には陸上競技場として私は考えていただけたらなと思っています。よろしくをお願いします。

座長 ありがとうございます。それでは論点2についてご覧いただいて、18ページですね。提供する公共サービスについて、施設が果たす役割をどうするか、方向性を検討する。何か特段、提言等ございましたらおっしゃっていただければ。改めて検討しなければいけない問題ですので、短い時間の中で方向性を導くということではできませんので。これはもう完全に内容に入っていますから、複雑ですので。何か提言等ございましたら承っております。取りあえず、方向性としてはよろしいですか。分かりました。

それでは最後の論点3になりますけれども、管理運営を含めた事業イメージというようなことで19ページになります。

一番上に書いてありますけれども、管理コストの低減と収益性の確保に努める。

これも、今は盛んにスポーツビジネスという表現でいろいろたわわていますけれども、極めて難しいんですね。でも、難しいけれども踏み込まなければいけない時期が来ているのです。特に自治体がスポーツでビジネスするというと、大きな抵抗力がありますが。

でも、多少なりとも利用者の皆さんにも痛みを伴っていただきながら、何かそこに収益を上げるような方策を考えていく時期が来ていることは間違いありません。スポーツ施設が限りなく収益だけで賄えるなんていう話はありませんので、残念ながら。 そういった意味では、投資に加えて受益者の皆様にもご負担をいただく。そうやって、スポーツというものも発展させなければいけない時期が来ているということをご理解いただく。改めて、議論をさせていただかなきゃいけないと思いますけれども。

改まって、こんなことも入れておいたらいいぞというような提言等ございましたら、おっしゃっていただければと思います。よろしいですか。ありがとうございます。

そういたしますと、あと 20 ページ以降につきましてはアンケートと参考資料、陸上競技場の公認レベルの問題やアンケートの内容が入っていますので、これはご覧いただき。今回のような施設整備に、直接的な話ではないと思いますけれども、委員の皆さんが、どのように捉えて参考にしていくかということだと思いますので。

今までのところで何かご質問等ございましたら承っておきます。

委員 参考資料として、例えば、つくば市の周辺の自治体が運営している陸上競技場の施設が、どの程度、整備されているのか。例えば、私の大学の近く、阿見町ですと、あまり使われていないようですし。もう少し先の龍ヶ崎市ですと運動公園の形になっていまして、何種になるのかは分かりませんが、近隣市町村でも使うと思いますので、その辺の資料も作っていただくと大変参考になるかと思っています。

委員 ちなみに申し上げます。1種の公認は県内には笠松だけです。2種は水戸のケーズデンキ、それから古河が2種、筑波大学が3種で、龍ヶ崎、石岡、ひたちなか、日立も3種です。あとは笠松のサブグラウンドが3種になっております。

4種の公認は茨城県内にはありません。阿見町、土浦市の川口運動公園も公認申請しておりません。川口運動公園では、かすみがうらマラソンが開催されていますけれども。公認の記録会は開けません。

4種の公認は茨城県内どこにもありませんので、人口20万を超えるつくば市で、何とか3種をお願いしたいというのが、私の正直なところです。以上です。

座長 それでは最後にまとめさせていただきますと、基本的にはちゃんとした

方向性が見いだされてきて内容の議論に入っていないと、進みながら内容も含めてというのは大変難しい話ですので。

それこそ本当に関東大会ができる規模にするのか、もっと大きい大会ができる陸上競技場を望むのかということから、今、議論になっているように中学生の大会ができるのか、小学生ができるのか、しかも早く整備できるような方向に向かうのか。

そうであれば、どんなことを中身としてやるのか。駄目だったら何をするのか。

あらたに土地を準備するのか、あるいは運動公園の跡地をもう一回、再利用で可能性があるまで待つのか。どういう議論をするかということ、われわれは今日、提案をさせていただきました。

皆さんからもご意見を承りましたので、もう一回整理をして、改めて方向性の議論から始めて内容に入っていきたいと思います。そこで多分、委員の皆さんから提案をしていただいた、提言をしていただいた、ご指摘いただいたことを含めて議論がなされていけばいいのかなというふうに思いますけれども。それで、よろしゅうございますか。

それでは、少々時間が延びましたが、それだけ皆様がたに真剣に考えていただいているということに感謝を申し上げたいと思います。

改めてまた次の委員会の時期については、ご相談をさせていただきながらご案内を差し上げたいと思いますけれども、われわれのほうも論点を整理いたしますので、ぜひ、委員の皆様がたも整理をしていただいて、こんな方向でやったら素晴らしいんじゃないのというようなことも含めて、また次回、議論させていただければありがたいと思います。どうも長い間、ありがとうございました。

一同 ありがとうございました。

事務局 座長、どうもありがとうございました。準備してない資料等もありまして大変失礼いたしました。次回、おっしゃられたような資料も用意するとともに、座長が言われたところを整理して、また皆さんの様々なご意見を伺いながら進めていきたいと考えております。

なお、次回の開催でございますけれども、一応、9月中旬頃を予定しております。日時などにつきましては、改めて通知させていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。それでは長時間にわたりまして、ありがとうございました。以上をもちまして、第1回の検討会議を閉会させていただきます。どうも、ありがとうございました。

第1回 陸上競技場整備基本構想策定検討会議 配布資料

目次

1. 策定検討会議の概要.....	2
1.1 策定検討会議の目的.....	2
1.2 本検討の位置づけ.....	2
1.3 検討の流れと各回の検討概要.....	3
1.3.1 検討の流れ.....	3
1.3.2 本年度 各回の検討概要・スケジュール.....	4
2. 計画条件の整理：整備理念の設定に向けて.....	5
2.1 これまでの検討経緯.....	5
2.1.1 総合運動公園事業検証委員会報告書 2017.4.17（具体的提言）.....	5
2.1.2 陸上競技場整備に関する学校跡地調査の概要（平成31年2月）.....	7
2.2 検討の前提.....	9
2.2.1 つくば市の陸上競技大会等の現状と整備の必要性.....	9
2.2.2 将来の人口と年齢構成の変化.....	10
2.2.3 市内の公共スポーツ施設の概況.....	12
2.2.4 【民意】の把握：市民のニーズ.....	13
2.2.5 スポーツ団体等の意向.....	15
3. 計画の前提および課題への対応に向けて.....	16
3.1 論点1：施設の基本的方向性・整備水準.....	16
3.2 論点2：提供する公共サービスの重点と留意点.....	18
3.3 論点3：運営管理を含めた事業イメージ.....	19

4.	参考資料	20
4.1	陸上競技場の公認レベルについて	20
4.1.1	公認陸上競技場および長距離競走路ならびに競歩路規程 2020年4月1日改正	20
4.1.2	陸上競技場公認に関する細則 2020年4月1日改正	22
4.1.3	公認競技会規程 2020年4月1日改正	23
4.2	高齢化進行に伴う健康づくり及びスポーツレクリエーション需要の変化	24
4.2.1	スポーツの実施状況等に関する世論調査	24
4.2.2	種目別にみた運動・スポーツ実施状況	28
4.2.3	種目ごとの実施率の推移：年代別	30
4.2.4	茨城県の運動・スポーツ実施状況の特徴（全国的傾向との比較 2010～2016）	33
4.3	スポーツツーリズムにつながる資源等	35
4.3.1	環境・景観条件：各種周辺資源とのネットワーク等	35
4.4	社会環境の変化／スポーツにかかる新たな政策等の動向	36
4.4.1	地域スポーツを支える新たなプラットフォーム形成：スポーツ庁 地方スポーツ振興費補助金「スポーツによる地域活性化推進事業」	36
4.4.2	ストック適正化ガイドラインに沿った参考事例	39
4.4.3	公共サービス機能ごとの【事例】	40
4.4.4	【施設種別ごとの主要な検討項目と各機能に対応した工夫例】	42

1. 策定検討会議の概要

1.1 策定検討会議の目的

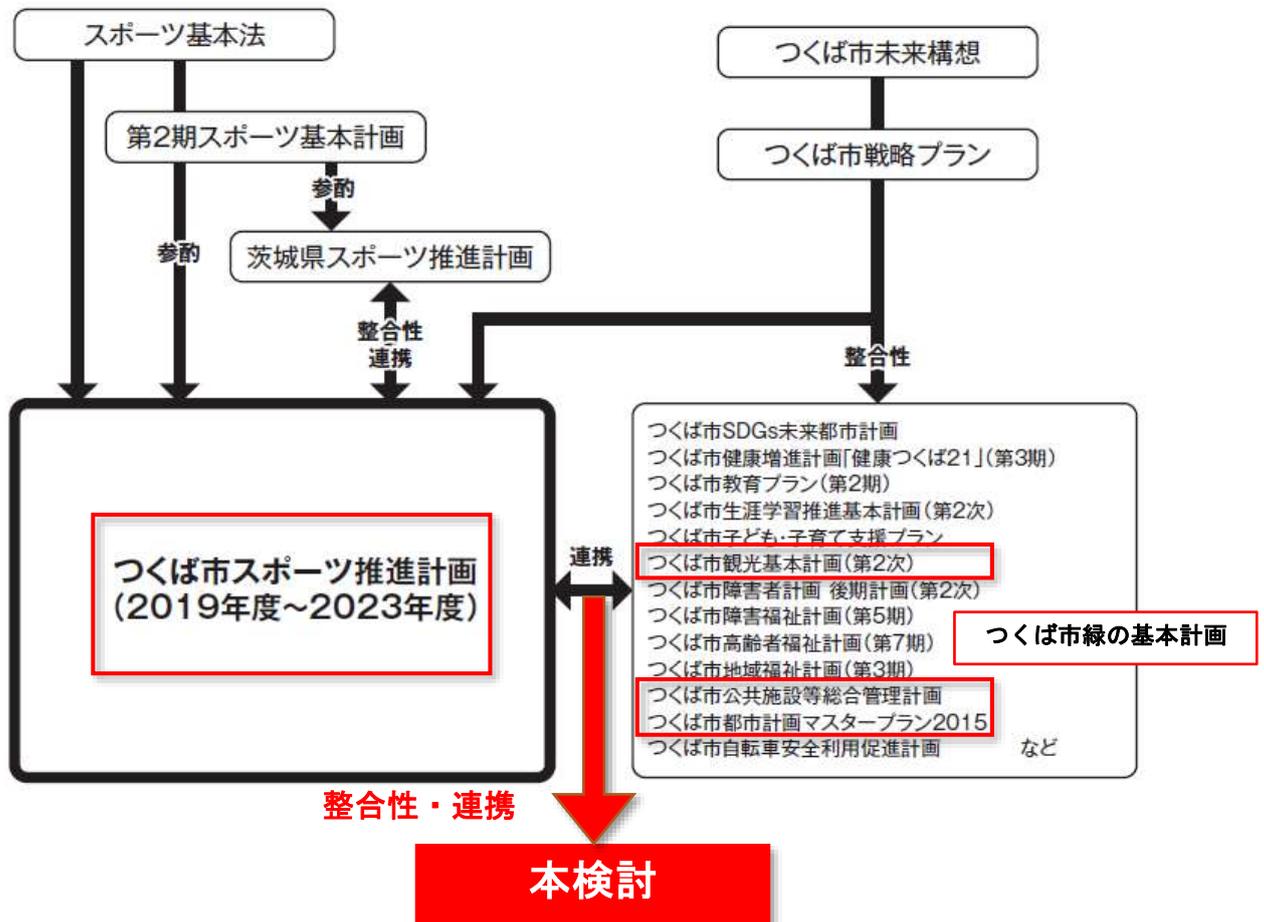
- 陸上競技場整備について、多様化・高度化が進むスポーツに対するニーズと社会環境の変化を踏まえ、つくば市のまちづくりや地域活性化への寄与を含めた陸上競技場整備の基本的方向性を示すことを目的とする。
- 具体的には、将来の管理運営まで含めた事業形態をイメージしながら導入機能・施設内容・規模・整備水準等について検討し、最新の法規制やバリアフリー化等への対応を図る形で基本構想案を取りまとめる。

1.2 本検討の位置づけ

- 陸上競技場基本構想策定（以下、本検討という）は、下図に示すように、つくば市スポーツ推進計画を上位計画としつつ、つくば市戦略プランを受けた各種計画との連携および整合性を意識して検討を進めるものとする。
- 本検討は、スポーツ施設としての単一機能だけでなく、以下のような役割を果たす空間として周辺施設との連携が不可欠である。従って、**都市計画マスタープラン**、**観光基本計画**、**緑の基本計画**等については特に整合性を強く意識するものとする。

- 【地域活性化につながる拠点】
- 【市内の自然・文化関連の既存資源等と連携したスポーツツーリズムの核】
- 【生活環境や景観改善及び防災等の多様な機能を持つオープンスペース・緑化空間】

- また大規模な公共施設のひとつとして、管理運営コスト低減を前提としながら適切なスポーツ環境を整備・維持するとともに、各種施設と一体で市域全体としてのストック適正化を図る必要があるため、**公共施設等総合管理計画**の方向性に沿うことも意識する。



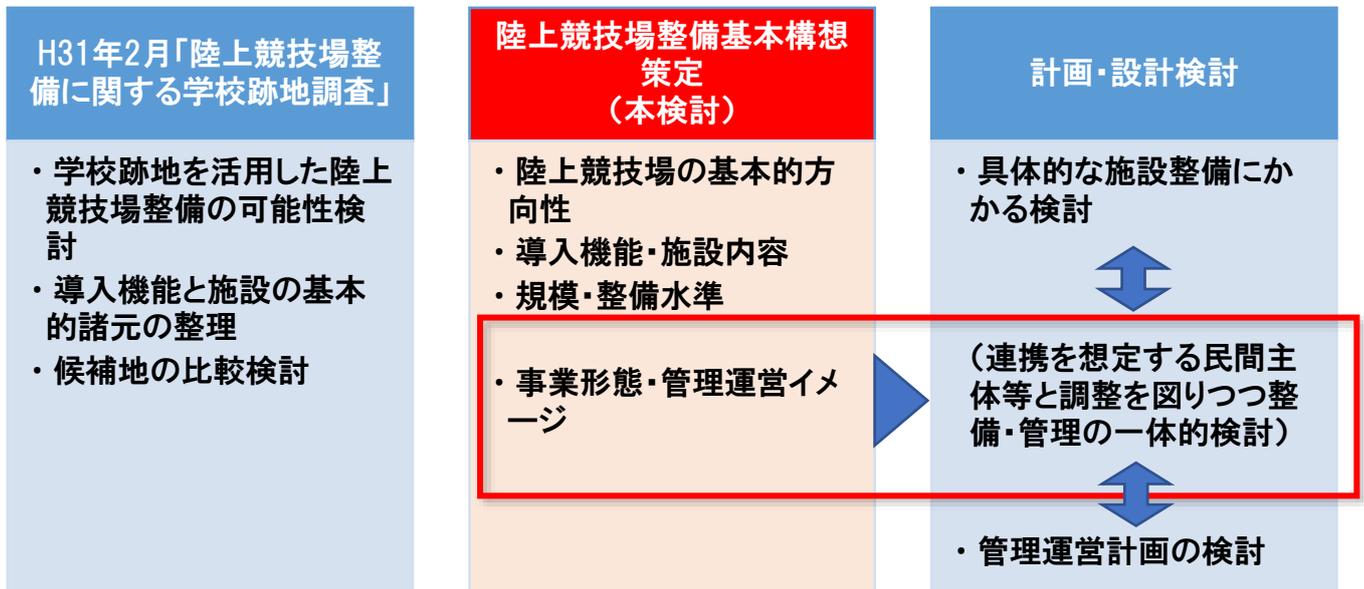
1.3 検討の流れと各回の検討概要

1.3.1 検討の流れ

H12年3月「つくば市総合運動公園基本構想」⇒ 用地の選定に至らず事業中止



H27年2月「(仮称)つくば市総合運動公園基本計画」
⇒ H27年8月 住民投票反対多数で計画を白紙撤回



1.3.2 本年度 各回の検討概要・スケジュール

回数	予定時期	主な協議内容	提示予定資料
第1回	2020年 7月下旬	<ul style="list-style-type: none"> 委員会の主旨、スケジュール、これまでの検討状況等の確認 計画条件の確認（社会状況の変化、上位計画と周辺施設との連携、市民ニーズと団体等の意向等）／課題と対応の考え方について意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> 計画条件のまとめ 近隣自治体の整備事例（整備水準と運営管理面の課題と工夫等）
第2回	9月中旬	<ul style="list-style-type: none"> 計画目標の調整（管理運営イメージ等を含む目標イメージ、導入機能の重点と整備水準設定：誘致する大会カテゴリーの考え方等） 	<ul style="list-style-type: none"> 目標像・整備理念案
第3回	11月上旬	<ul style="list-style-type: none"> 平常時と大会時の利用形態想定とこれに伴う附帯施設の内容と規模の想定 具体的な整備内容案（敷地に即した施設内容と規模の設定） 	<ul style="list-style-type: none"> 整備内容（導入施設内容と規模・整備水準）
第4回	12月上旬	<ul style="list-style-type: none"> 基本構想案のまとめ 事業形態と資金計画（公園としての都市計画決定等）を含む管理運営イメージの調整 概算を含む段階整備イメージの調整 	<ul style="list-style-type: none"> 基本構想案 管理運営イメージ（案） 概算を含む段階整備イメージ（案）
2021年1月		<ul style="list-style-type: none"> パブリックコメント実施（広報つくば1月号掲載） 	
第5回	2021年 2月上旬	<ul style="list-style-type: none"> パブリックコメントの反映の考え方確認 基本構想の最終まとめ案の調整 	<ul style="list-style-type: none"> パブリックコメントの速報結果と対応の考え方 基本構想の最終まとめ案

2. 計画条件の整理：整備理念の設定に向けて

2.1 これまでの検討経緯

2.1.1 総合運動公園事業検証委員会報告書 2017.4.17（具体的提言）

具体的な提言は、下記のとおりであり、市においては、本件調査結果と各提言を踏まえて、とるべき措置、施策を検討した上、今後の市政に活用して頂きたい。

1 大規模事業については民意の把握を適切に行い、市民の直接的な要請に基づくものではない事業については市民への説明を十分に行うこと

少なくとも、市が行う大規模事業については、その計画の段階で、市民からのニーズや要望がどの程度強いのかという民意の把握を適切に行うべきである。市民からの直接の要望は強くなくても、市執行部として長期的な視点から事業を行うことが市民の利益につながると判断して事業を進めていくこともあり得るが、その場合は、特に、その事業が長期的には市民の利益につながることの説明を丁寧に行い、市民の理解を求める努力を継続する必要がある。それによって、市民の理解がどの程度に得られたかを、事業を進めていく過程においても確認する必要がある。

2 事業計画、基礎的検討の段階での議会への報告の在り方（「その時点での議会との関係」を前提にするのではなく、議会との緊張関係の発生を想定した対応）

二元代表制の下では、市当局が計画し推進しようとする事業について、市議会がその目的・趣旨を理解していることが極めて重要である。市長と市議会との関係は、その時々政治情勢によって、様々な関係になることがあり得るのであり、いかなる状況においても事業の目的、内容の合理性、妥当性、財源確保の見通し等について、市議会に対して適宜適切な報告を行っていくべきである。

3 財源、市の財政負担の程度について確実な財源と「見通し」を区別して説明すること

事業によって市にかかる財政的負担の程度は、市民が事業計画を評価する上において重要な要素となる。事業の財源、市の負担の程度について確実なものとして「見通し」とを区別して、市議会に適切に報告・説明するとともに、特に大規模な事業については、早い段階で市民への説明を行う必要がある。

4 大規模な土地取得等における対象選定のルール整備、プロセスの透明化

本件整備事業の用地として本件土地が選定されたのは、事業計画との関係で言えば、他に適地がなかったからであり、それ自体は特に問題はない。しかし、当時の市原市長が経営する病院の立地との関係等から、様々な憶測を招いた面もあり、適地として本件土地が絞り込まれる経過に関して、その判断の客観性が確保されることが重要だったと言える。大規模事業における用地選定等に関しては、判断の客観性の確保という面からも、候補用地の選定等に関して複数の選択肢を示した上で、外部の第三者等による意見を聞くこと

が重要であり、そのための第三者機関を事業計画策定の段階から設置することを検討すべきである。

5 土地取得等の契約の相手方との交渉経緯についての情報開示、説明の在り方

土地取得等の交渉経過については、その交渉の経過そのものを開示することに限界があることも確かであるが、とりわけ、本件のURとの交渉のように、相手方主導で交渉が進む場合には、その進め方について市民から疑念を持たれることになりかねない。途中経過においても可能な限り経過を市議会に報告し、市民にも説明できるようにすることが必要である。

6 大規模な土地取得における適正な価格算定のための鑑定評価のルール化

本件のような大規模な土地取得にあたっての土地鑑定評価に関して、いかなる場合に複数の鑑定評価を行うのか、複数の鑑定結果をどのように取り扱うのか等についてルールを明確化するとともに、鑑定評価に影響を与えるような条件設定を行うこと等、鑑定評価に影響を生じさせる対応を行わないこと等、鑑定評価を公正かつ適切に行うためのルールを整備する必要がある。

7 事業計画や用地取得の段階において、「事業からの撤退」の検討の余地を残すこと

本件のように、契約の相手方が売却価格の水準を明示している場合、それに近い土地の鑑定評価額が出ない場合には、土地買収を断念し、他に適地が見つからなければ計画自体を断念することも検討すべきであった。大規模事業においては、市に大きな財政負担を生じさせる前に、計画断念を含めて客観的な検討を行う必要がある。

以上

2.1.2 陸上競技場整備に関する学校跡地調査の概要（平成31年2月）

(1) 調査目的

- ・ 学校跡地の利活用を推進するにあたり、上郷高校跡地および筑波地区の小中学校跡地の筑波西中学校、筑波東中学校、菅間小学校、作岡小学校、田水山小学校、筑波小学校、田井小学校、北条小学校、小田小学校、山口小学校の11か所を対象に、陸上競技場整備の可能性を含む優位性等を比較検討した。
- ・ 候補地や公認種類、規模等を決定することを目的としておらず、今後、陸上競技場の整備を検討する上で必要な諸条件を比較検討した結果を基礎資料として取りまとめたものである。
- ・ 調査に当たっては、多様化・高度化が進むスポーツに対するニーズを踏まえるとともに、最新の法規制やバリアフリー化等への対応を意識した。

(2) 施設の役割と目標像

① 主な役割と整備のあり方

(1) 市立スポーツ施設（公共社会体育施設）として

- ・ 市民の誰もが、身近にスポーツに親しむことのできる環境の充実
- ・ 公式競技（**市内の中学校の公式競技会開催を想定**）が可能なスポーツ施設整備
- ・ 社会環境変化に即した身近な健康づくりへの寄与
- ・ 障害者、高齢者、子どもたちなど、誰もが安全・安心に利用できる施設整備

② 付随的な役割

(1) 防災機能を備えたオープンスペースとして

- ・ 震災に備えた対応（将来的には広域避難場所／災害応急対策拠点／物資輸送の中継地点等の役割が想定される）
- ・ 水害等に備えた対応（雨水流出抑制機能の担保）

(2) 自然環境ネットワーク等の拠点として

- ・ ウェルネスパーク等の既存公共施設に加え、周辺の公園緑地、小貝川・桜川等との連携を意識した活動ネットワークの拠点化
- ・ 環境に配慮した空間づくり（周辺の田園景観との一体の魅力的な景観形成／再生可能エネルギー活用や整備管理における環境負荷低減）

③ 想定する施設内容と整備水準

- ・ 上記に沿って、市内の大会レベルが開催可能な公認競技場規格への対応を図る。
- ・ 多様な運用の可能性を残すため3種公認で求められる施設内容・諸元を満たすことを目標として検討する。3種公認を受けるためにはインフィールドが「天然芝または投てき実施可能な人工芝」であることが必要条件となる。ただし、この条件を満たす人工芝は特殊な断面構造で高価であり、この部分の稼働率を上げるためにサッカーを中心とした多目的利用を想定した人工芝（投てき実施不可）を採用する事例が多数見られる。本検討においてもインフィールド部は多目的利用を想定した人工芝（投てき実施不可）を採用して4種公認施設として運用することを検討する。こうした対応によって、公認・維持費用を低廉に抑えることも可能となる。
- ・ なお候補地の敷地規模・形状によっては、確保可能な観客席・駐車場等の規模が異なるが、比較検討を行う際の基本条件として以下のような施設内容を想定する。
- ・ 駐車場については、以下のような台数確保が想定されるが、いずれの学校跡地においても現況敷地内でこれを満たすことは難しいため、周辺の用地買収を含めた敷地拡張が今後の課題として残される。

整備施設の想定		
運動施設	陸上競技場	（仮設定）3種相当整備 4種公認登録 ・ 400mトラック1面(全天候型舗装8レーン) ・ インフィールド部はサッカー等の多目的な球技利用を想定した人工芝（球技利用スペース以外は天然芝張り）
	管理棟 + メインスタンド	観客席（1,000席） ・ 管理事務スペース（受付・医務室等を含む） ・ 本部室、放送記録室、審判控室、多目的室、会議室、控室 ・ トイレ（男・女・多機能）／更衣室・シャワー室
	運動器具倉庫	・ 3種相当の器具・備品の格納スペース
園地	観覧・休憩空間	芝スタンド（1,000席）+緑陰空間
	園路広場	・ 修景・休養・遊戯空間・多目的広場（ウォームアップ広場） ・ 入口・拠点広場／外周散策路、ジョギングコース
便益・管理施設	防災備蓄倉庫	
	屋外トイレ	・ 災害対応も考慮した男・女・多機能の各施設
	駐車場・駐輪場	普通車用190台 （バス17台分に転用できる43区画を含む） ・ <u>自動車利用率・最大時同時在園者数から想定した必要数の70%を提供</u> 。大会イベント時等はシャトルバス等を活用 ・ 身体障害者用5台／駐輪場50台

2.2 検討の前提

2.2.1 つくば市の陸上競技大会等の現状と整備の必要性

(1) 公式陸上競技大会開催可能な市の施設がない

小学校・中学校の公式陸上競技大会を開催するための施設がない

- ・ 小学校の陸上記録会は、働き方改革による行事削減に伴い、令和元年度から学園ごとで開催(以前は筑波大学の陸上競技場を借用し、北部と南部に分けて分散開催)
- ・ 中学校の全国大会までつながる中体連主催の大会については、市の大会から公認競技場での大会実施が条件となるため、石岡市などの陸上競技場を借用して大会を開催
- ・ 学校以外では、つくば陸上競技選手権大会が筑波大学の陸上競技場を借用して開催

市民が行っている運動・スポーツの上位にウォーキング・ランニング

- ・ スポーツ環境に関するアンケート調査(H29.3)



つくば市における公共スポーツ施設の整備や子どものスポーツ環境の充実の観点から大きな課題

(2) 「つくば市スポーツ推進計画」で整備検討を明示

陸上競技場の整備検討を「つくば市スポーツ推進計画」で明示

- ・ つくば市スポーツ推進計画[中間年度見直し版] (平成31年2月策定)
 施策⑧ スポーツ施設及び関連する公共空間の整備及び維持管理
- ・ ⇒ 施策推進のために取り組む事項: 小学校・中学校の公式陸上競技大会を開催するための施設がないことから、大会を開催するために近隣の自治体等の施設を借用する状況が続いており、このような状況を改善するために公式記録のとれる陸上競技場の整備を検討する。

市長公約

- ・ 中学生の陸上競技大会を市内で開催できるよう、公式記録の取れる陸上競技場の整備を検討する。

2.2.2 将来の人口と年齢構成の変化

- 2020年3月改定のつくば市未来構想では、2048年に約29万人のピークを迎える人口ビジョンを目指している。
 - 将来の人口減少と高齢化の進行に伴い、財政維持管理・運営に係るコストの低減が求められる
 - 既存の(未活用)公的施設・空間の有効活用を検討
- 総人口や年齢構成の変化に伴う市民ニーズの変化に対応し、必要とされるサービスの提供が必要である。**
 - 少子高齢化の進行に伴うスポーツ需要の変化に対応し、導入する活動・種目の重点検討が必要
 - 社会環境変化に即した身近な健康づくりへの寄与
 - 障害者、高齢者、子どもたちなど、誰もが安全・安心に利用できる施設整備
- 地区別の人口は、つくば駅を始めとしたTX沿線の鉄道駅で人口増加傾向にある一方、行政界縁辺部や郊外(筑波地区、谷田部地区、荃崎地区等)において人口が減少する傾向：公共施設の新規整備や統廃合等を検討する際は、**総人口だけでなく地区別の人口等も考慮**する必要がある。
 - 地区別人口の変化に対応した施設立地や周辺施設との連携が求められる。

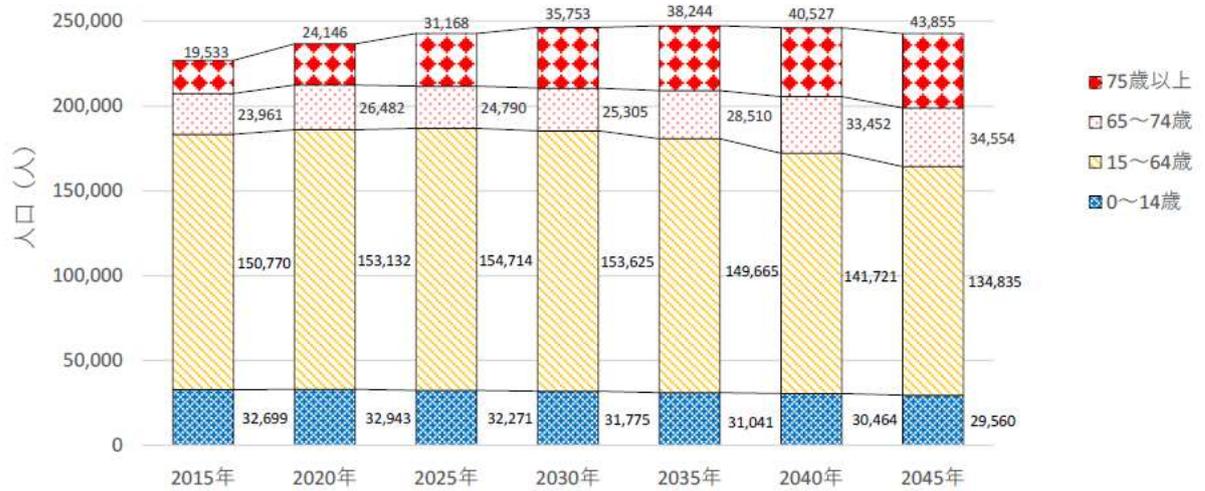


図19 区分別人口の将来推移

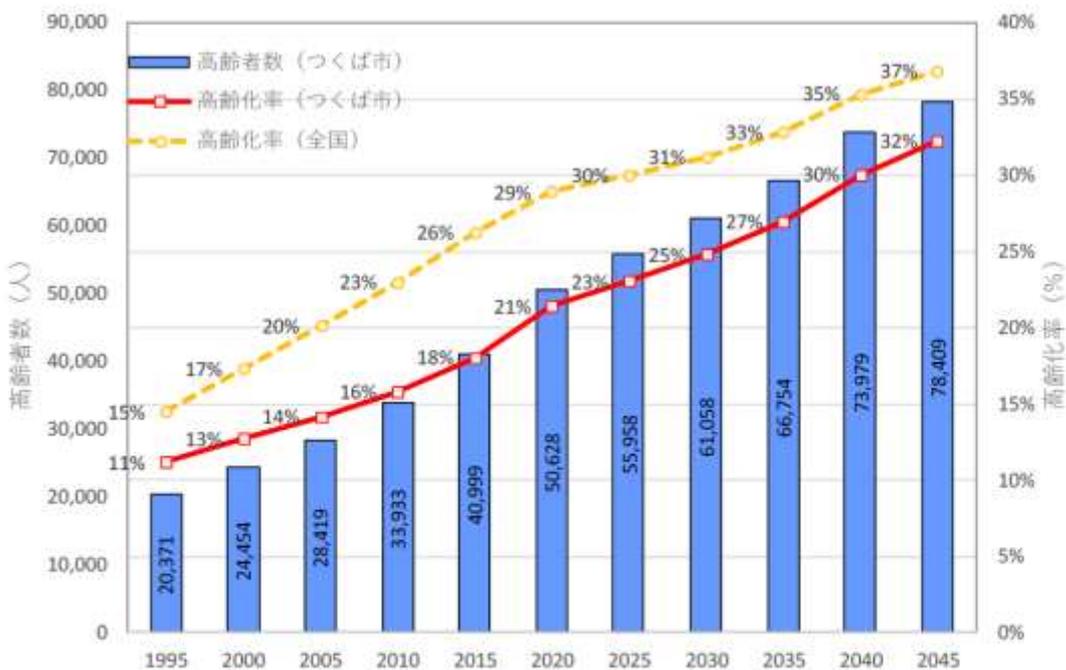
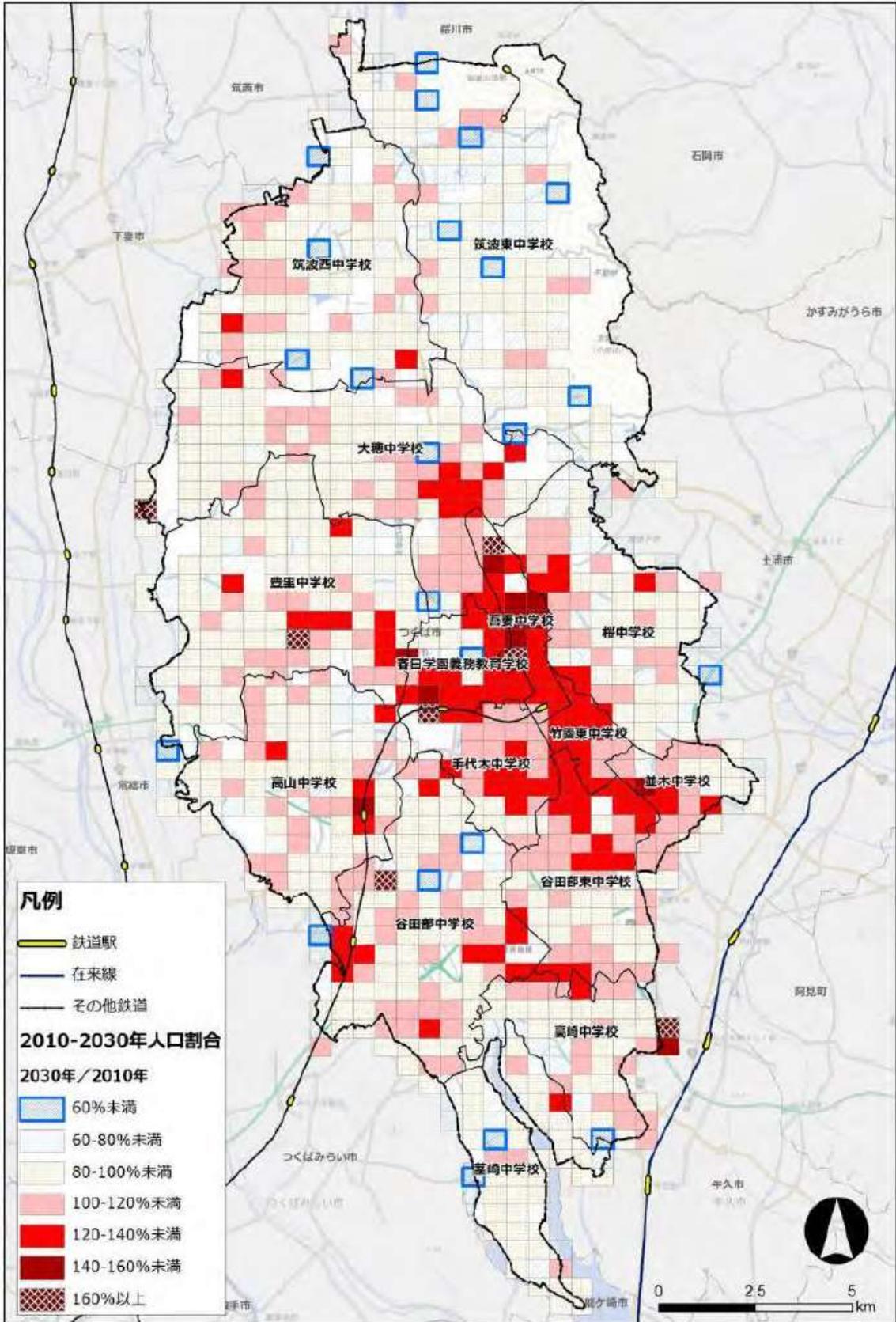


図20 高齢者人口の将来推移

出典：つくば市未来構想

- ・ 市内の高齢化率は全国平均よりも低いですが、2030年には約25%、2040年には約30%と着実に増加する見込みである。
- ・ 今から高齢者が長く健康に社会で活躍できる環境づくりを進めることが重要。特に高齢化や人口減少が進む郊外部では、単身高齢者の増加や人口密度の低下によるにぎわいの喪失、空き地・空き家の増加等への対応が必要である。



2010～2030年 地域別人口増減数
 グラフ・図の出典：「つくば市未来構想」より

2.2.3 市内の公共スポーツ施設の概況

(1) 市内の公共スポーツ施設の概況

- ・ 市営 55、県営 5、合計 60 の公共スポーツ施設（施設の大半が、合併前の旧町村単位で整備されたもの）
- ・ 内訳は体育館 10、サッカー場 6、野球場 14、テニスコート 21、その他スポーツ施設 9
- ・ 市営の陸上競技場は無く、小・中学校の市内大会は筑波大学や石岡市の施設を借用。スケジュール調整等で問題が生じている。

(2) 市内の公共スポーツ施設の利用者数

- ・ 年間延べ利用人数は、平成 27 年度には約 132 万人となっており、平成 25 年度から約 5.6% 上昇している。
- ・ 体育館の利用人数が全体の約 32%、サッカー場が約 9%、野球場が 8%、テニスコートが約 24%、その他スポーツ施設（ふれあい元気広場、つくばウェルネスパークヘルスプラザ、健康増進施設いきいきプラザ等）が約 27%となっている。

(3) 市内の公共スポーツ施設の平均稼働率

- ・ 体育館（アリーナ部分）は約 72%、サッカー場は約 34%、野球場は約 24%、テニスコートは約 39%、その他スポーツ施設は約 76%となっている。
- ・ 最も利用が多いのは「つくばウェルネスパークヘルスプラザ」で、年間延べ利用人数は、約 18 万 7 千人（平成 27 年度）

2.2.4 【民意】の把握：市民のニーズ

(1) 総合運動公園事業検証委員会報告書 2017.4.17（具体的提言）

● 大規模事業については民意の把握を適切に行い、市民の直接的な要請に基づくものではない事業については市民への説明を十分に行うこと

- 市が行う大規模事業については、その計画の段階で、市民からのニーズや要望がどの程度強いのかという民意の把握を適切に行うべきである。市民からの直接の要望は強くなくても、市執行部として長期的な視点から事業を行うことが市民の利益につながると判断して事業を進めていくこともあり得るが、その場合は、その事業が長期的には市民の利益につながることを説明を丁寧に行い、市民の理解を求める努力を継続する必要がある。それによって、市民の理解がどの程度に得られたかを、事業を進めていく過程においても確認する必要がある。

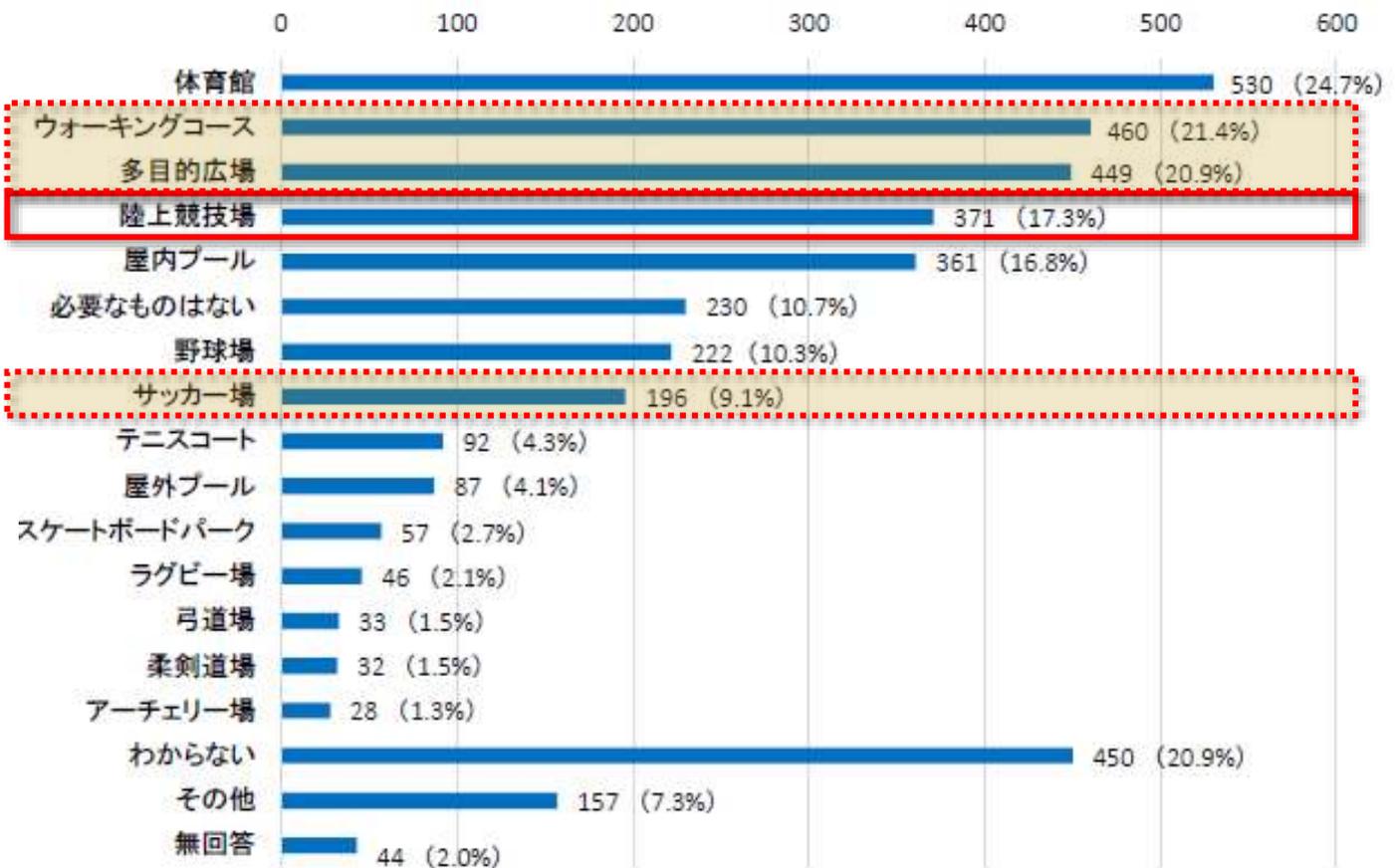
(2) アンケート調査結果：陸上競技場整備にかかる市民の直接的な要請の状況

➤ 「公共スポーツ施設に関するアンケート調査 H28」を実施：スポーツ環境の現状、スポーツをすること、スポーツをみること、今後のスポーツ環境などについての考えや意向を把握

① 今後どの公共スポーツ施設を新たにつくっていくことが必要か

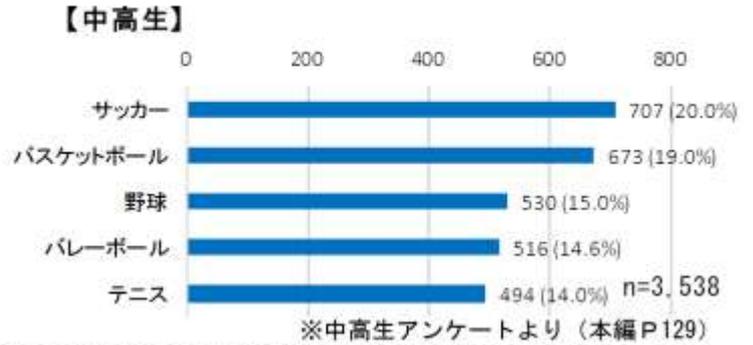
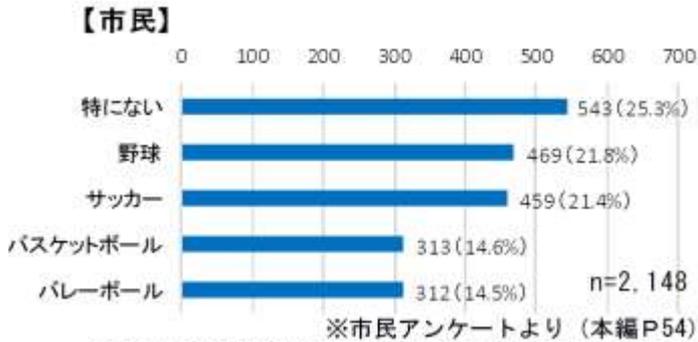
- 問 35：あなたは、今後どの公共スポーツ施設を新たにつくっていくことが必要だと思いますか。（主なものを3つまで選択可）
- 「体育館」と回答された方の割合が最も高く 24.7%。次いで、「ウォーキング・ランニングコース」が 21.4%、「多目的広場」が 20.9%。

● 陸上競技場と屋内プールがほぼ同じで、約 17%。



② 市内で観戦してみたいスポーツ

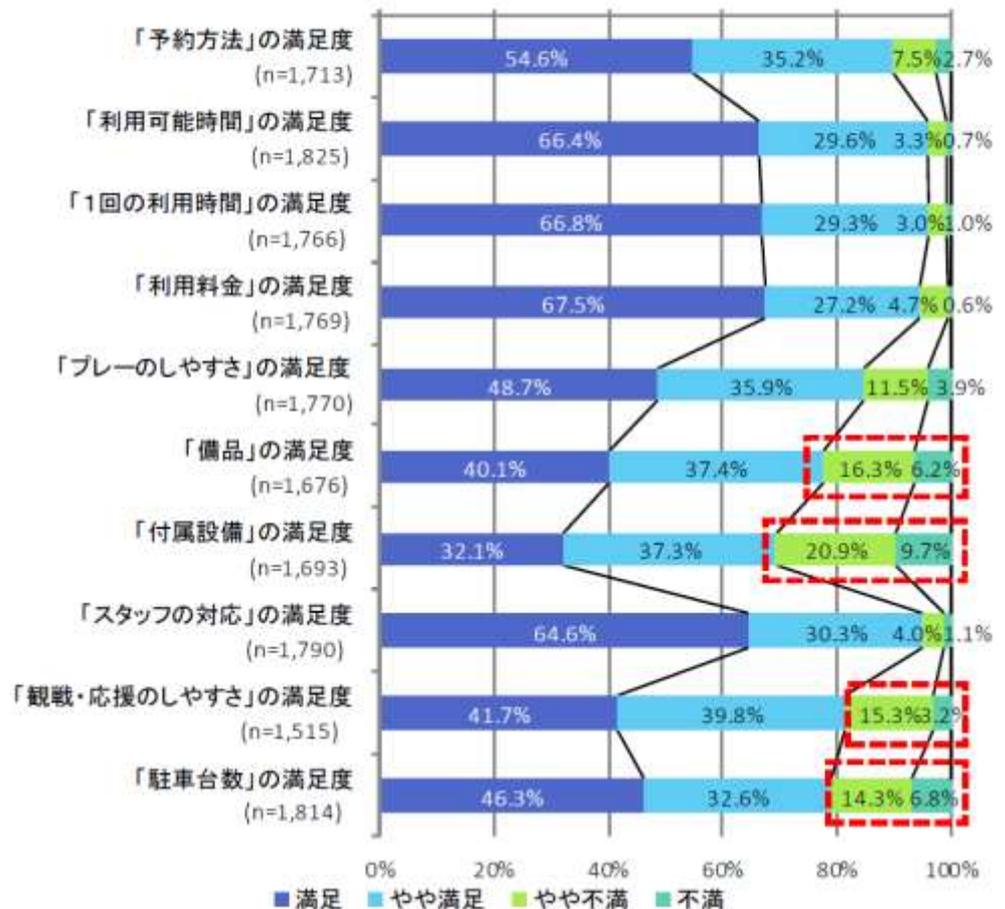
- ・ 市内の公共スポーツ施設について、利用したことが「ある」と回答された方が高い結果となった一方、「観戦や応援をした」と回答された方が低い。
- ・ 市内で応援してみたいスポーツの上位は「サッカー」「バスケットボール」「野球」など
- ・ 自由意見においても、高校野球やプロを呼べる球場、観戦ができる体育館や陸上競技場の整備を望む意見もあることから、今後、**みるスポーツの普及やスポーツをみる環境の整備・充実**が必要と考えられる。



③ スポーツ施設の満足度

- ・ 全ての項目で満足している方の割合が高い。
- ・ 「備品」「附属設備」「観戦・応援のしやすさ」「駐車場」は、不満と思っている方の割合が他の項目より高い。

【施設利用者】



2.2.5 スポーツ団体等の意向

(1) 陸上競技団体の要望（つくば市陸上競技協会代表へのヒアリング）

- ・ 茨城県大会クラスが開催できる、3種の陸上競技場の整備を希望（インフィールドはJFL対応も見込んで天然芝、観客席5000人規模）。
- ・ 200m程度のサブトラック、ウォーミングアップに使える多目的広場、1.5～2.0kmのジョギングコース、競技場周辺には緑地帯、雨天時に利用できる体育館、屋内の研修施設・宿泊施設等を希望。
- ・ 現在、実施している大会では観客が約2,000人、500台規模の駐車場が必要。つくばマラソンのスタートまたはゴール地点となる場所が欲しい。

(2) 地域のスポーツチームへの配慮等

- ・ 安定的な集客や興行収入が期待される地域に根差したスポーツチームとして、「つくばFC」が存在：トップチームの「ジョイフル本田つくばFC」は関東サッカーリーグ1部に在籍し将来の「Jリーグ」参入を目指している。
- ・ JFA公認のロングパイル人工芝が敷設された「セキショウ・チャレンジスタジアム」をホームスタジアムとしているが、JFLに昇格した場合に求められる【天然芝】【観客席数5,000】の要件を満たしていない。

(3) つくば市スポーツ協会（体協）からの要望

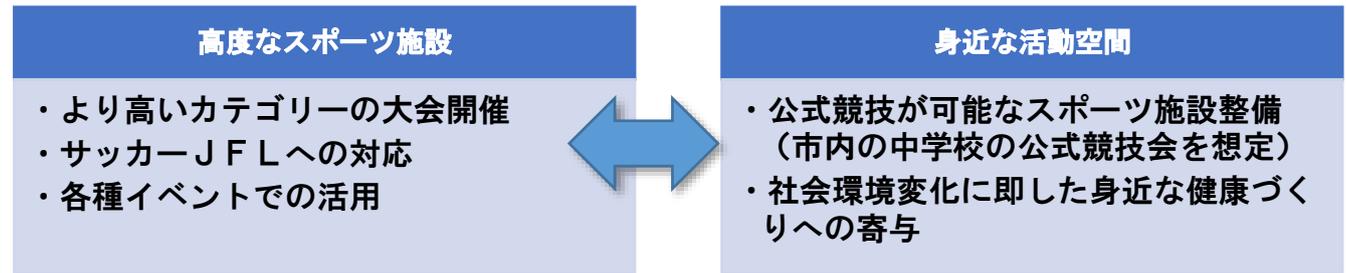
- ・ 総合運動公園整備（陸上競技場単体ではない）
平成25年9月
平成27年1月

(4) つくば市PTA連絡協議会からの要望

- ・ 陸上競技場新設
桜並木学園（並木中、並木小、桜南小）
紫峰学園（筑波東中、筑波小、北条小、小田小）
大穂学園（要小）
平成29年11月

3. 計画の前提および課題への対応に向けて

3.1 論点1：施設の基本的方向性・整備水準



<ul style="list-style-type: none"> ・ 「みる」スポーツの推進、市民のスポーツに対する関心と意識の高揚 ・ 各競技団体が希望する大会カテゴリーの開催に向けて、附帯施設整備を検討 ・ 競技力向上を図るための支援、県民大会への参加、関東大会、全国大会出場のための選手強化・・・等に対応 ・ インフィールドを天然芝として、大規模な観客席と駐車場の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者、高齢者、子どもたちなど、誰もが安全・安心に利用できる施設整備 ・ 「スポーツ庁：スポーツの実施状況等に関する世論調査」で上位となった実施種目（ウォーキング・ランニング等）対応する空間の確保
<ul style="list-style-type: none"> ・ ハイレベルの施設整備と日常利用のバランスを考慮しつつ、大会カテゴリーのレベルアップを検討 ・ 多様な「スポーツプログラム」の提供：ビジネスパーソン、女性、障害者のスポーツ実施率の向上、これまでスポーツに関わってこなかった人の誘引 	

- ・ 「30 陸上競技場整備に関する学校跡地調査（2018）」においては、**市内の中学校の公式競技会開催**を想定し、学校跡地を候補地として必要最低限の規模と整備水準を想定している。
- ・ これに対して、より高いカテゴリーの大会開催を可能とする施設を望む声がある。
- ・ **競技大会の開催施設と日頃の運動に使用する施設**は、仕様や規模が異なりカテゴリーが上がるほど高コスト／駐車場の規模拡大はメインのスポーツ施設整備にしわ寄せが大きい。
- ・ フィールドを天然芝とすると、**養生のために年間稼働日数が大きく減少**（100日以下が一般的）／日常の維持管理費用と定期的な全面張替えを考慮すると**ライフサイクルコストも人工芝より高く**なる（井水が確保できない場合は、水やりのための水道料金も大きな負担増）



人口減少を見据え、大規模・高水準の施設導入は慎重に

- ・ **競技施設と日常利用のバランスを考慮／大会カテゴリーのレベルアップが将来可能な余地を残した整備を検討**
- ・ 多様な「スポーツプログラム」の提供：ビジネスパーソン、女性、障害者等、**これまでスポーツに関わってこなかった人の誘引、スポーツ実施率の向上**

高齢化に呼応し、年代ごとの意向に沿った施設整備の重点化

- ・ サッカーを含めて**競技系の活動は50歳代以上の層で大きく減少**することを考慮
- ・ 高齢層向けには、ウォーキングに代表される**健康の維持増進に対応した空間の充実**が求められる・・・**魅力的な散策休養空間の演出と、周辺と連携した活動ネットワークの拠点としての役割強化**

(1) 日常的利用の活性化と魅力向上のポイント

- ・国のスポーツ関連調査結果では、日常的に実施する運動としては「ウォーキング」が圧倒的に多く、その理由は「健康のため」「体力増進・維持のため」「楽しみ、気晴らしとして」が多い。市のアンケート調査でも同様の傾向が見られる。
- ・本業務のアンケート調査の結果においても、重点施設整備として「一般利用者の日常的利用機会拡大」を重視する回答が最も多い。



① 施設整備について以下を重視する

一般利用者の日常的利用機会拡大

- ・全年代が支持する活動に対応できる施設の充実が効果的(一般的には体育館・プールが、こうしたニーズを吸収しやすい)

健康増進や介護予防に向けた空間・施設の充実

- ・ウォーキングコース等をはじめ日常的な軽い運動やトレーニング空間・施設(球技のできる広場、遊具やアスレチックを含む)の充実
- ・これらと一体で、参加型の多様なイベントや教室等を多く開催し、それらにかかる情報をしっかり提供

陸上競技場を核とした多様なネットワークとの連携

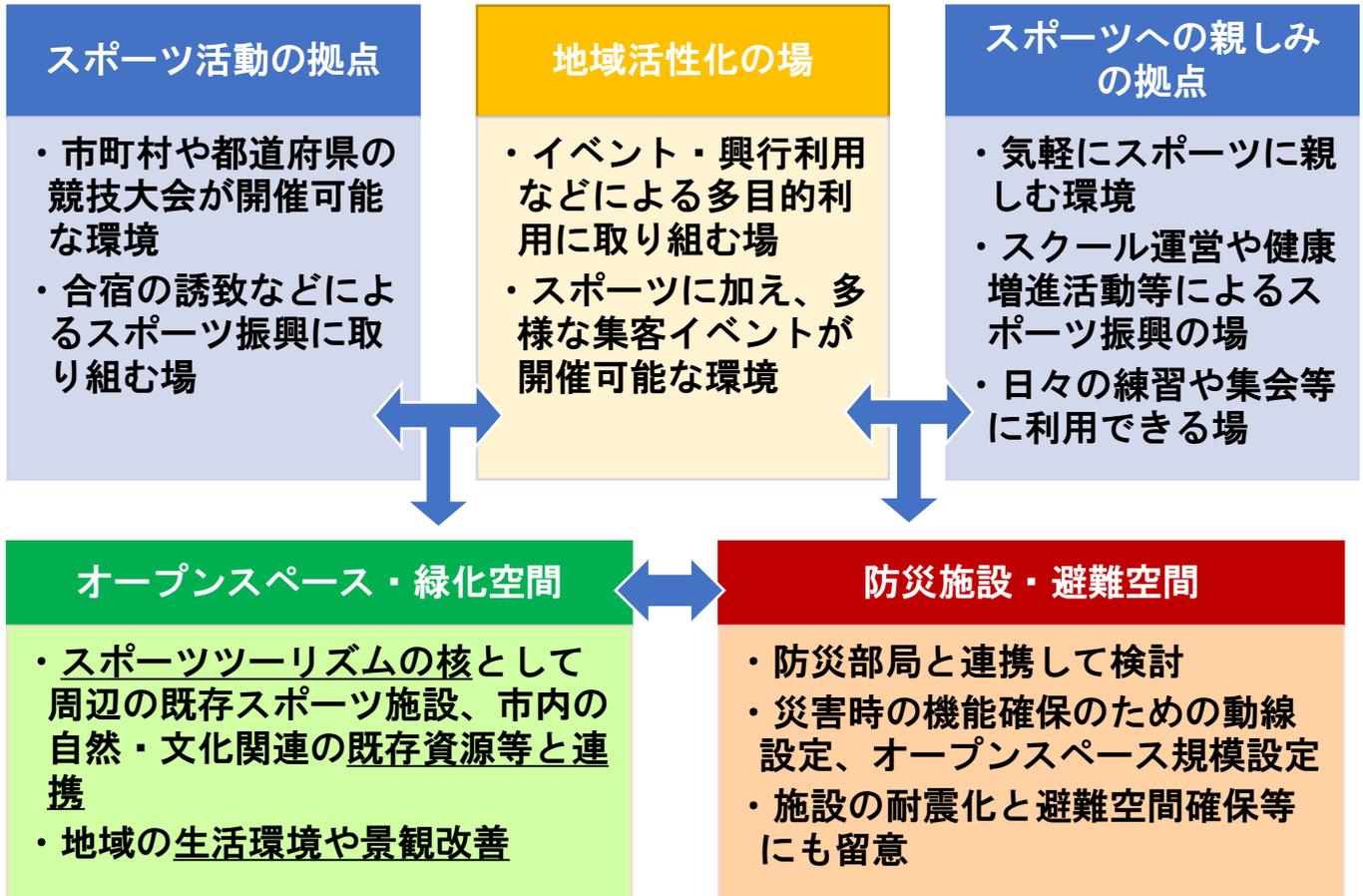
- ・【快適な線的アクティビティ空間】の拡大・充実:周辺の緑の骨格形成等と合わせて、散策して楽しい道路空間・サイクリングルート等を一体化
- ・上記に対応した施設内外の案内サイン等の充実

② 今後の展開として以下の検討を継続する

- ・医療機関等との連携や利用指導の充実(筑波大学との連携や共同研究が想定される)
- ・住民交流の場として地域コミュニティの活性化:祭り、風習等の継承に寄与するイベントやプログラムの実施
- ・上記と合わせて、敷地への民間・収益施設(カフェ・レストラン)の配置や、民間企業による運営(後掲)

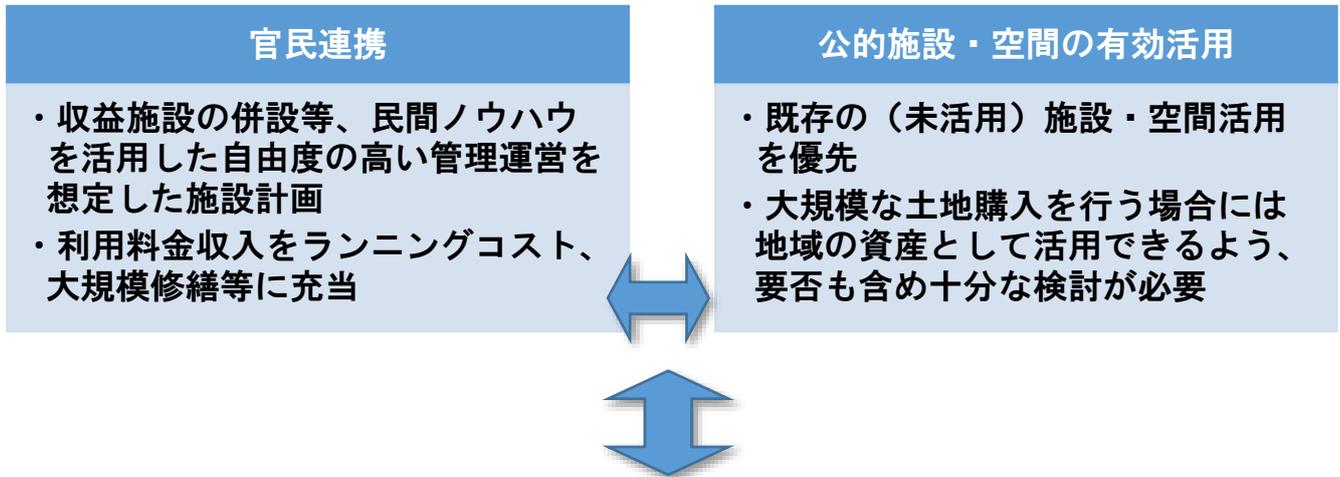
3.2 論点2：提供する公共サービスの重点と留意点

- ・ 既存施設の活用や周辺との連携などによって、地域の持続的成長に貢献する資産となる施設を目指す。
- ・ スポーツチームや様々な民間事業者などの幅広い意見や提案を今後受け入れ、施設固有の付加価値創出を意識し、検討する。



3.3 論点3：運営管理を含めた事業イメージ

- 今後想定される**財政状況悪化への対応**：適切なスポーツ環境を継続的に維持するために、整備・管理コスト低減と収益性の確保に向けた考え方
 - ・・・論点2の【サービス重点】と呼応



成功のポイント
：既存の未活用施設と、豊かな地域資源の有効活用

- ・ 「未活用不動産を生かし、地域とともに新しい人の流れを作る」ことを目指し、宿泊事業（合宿・バジェットトラベル・教育）に取組み。
- ・ スポーツだけではなく、豊かな自然環境を生かした、キャンプやトレッキングなどスポーツ/アウトドアアクティビティを充実させることで、施設とともにエリアのリブランディングを図る。
- ・ 人口減少と高齢化による利用者の減少に対応し、維持管理費の負担軽減が課題。一方つくば市は都心から1時間圏内で、多様な観光資源等を生かした事業の可能性。
- ・ 筑波山が目の前にあり、エリアの自然環境を生かしたアウトドアアクティビティでの活性化も。

- ・ バジェットトラベルとは、「低予算の旅行、格安旅行」といった意味。安価な宿泊先や格安航空会社(LCC)を活用して、可能な限り費用を抑えながら旅行するスタイル。ただの節約旅行ではなく、締めるところは締めつつも価値のある賢いお金の使い方をするという意味合いを含むこともある。
- ・ リブランディングとは、今までのブランドを再構築して、より効果的なブランドを立ち上げること。時代やトレンドの変化、顧客やターゲット層の趣味嗜好の変化に合わせて製品・サービスの魅せ方を最適化していくこと。そのために、「競合」「強みと弱み」「差別化の方向性」など多岐にわたり吟味・検証を重ねていく必要がある。

4. 参考資料

4.1 陸上競技場の公認レベルについて

- ・ 公益財団法人日本陸上競技連盟公認の陸上競技場には、公式大会の開催カテゴリと対応して **5種類の区分**がある。それぞれに求められる施設の仕様・規模等と公認に係る費用は以下の表に示した通りである。

- 2018年4月時点の規定では**第1種～第4種の4種類**で、【競技場にて開催できる競技会の種類の標準】が**第4種では「加盟団体等の競技会・記録会」**であった。しかし2020年4月1日改正の最新規定ではこの標準が「**加盟団体等が主催する競技会・記録会**」との表現に改められている。
- 本業務で行ったヒアリングにおいて、市の競技団体（つくば市陸上競技協会）は**県大会カテゴリの開催を希望**をしているが、加盟団体である一般財団法人茨城陸上競技協会主催の大会すなわち**県大会**を開催するためには、**第4種以上の公認**を受ければよいと読み取れる。**※**
- またインフィールド部は、第1種から第4種まで**共通で「天然芝・投てき実施可能な人工芝」**であることが条件となっている。（2020年4月現在）

※日本陸上競技連盟に電話で確認したところ、県大会に必要な競技スペースと備品等が確保できていれば4種でも開催可能とのこと。

4.1.1 公認陸上競技場および長距離競走路ならびに競歩路規程 2020年4月1日改正

(1) 公認陸上競技場規定

		第1種	第2種	第3種	第4種	第4種L(ライト)
1周の距離		400m	400m	400m	400m	200m,250m, 300m,400m
距離の公差		+1/10,000 以内	+1/10,000 以内	+1/10,000 以内	+各 40mm以内	+各 40mm以内
走路	直走路	1レーンの幅は1m220で8レーン又は9レーンとする 長さ115m以上	1レーンの幅は1m220で8レーン又は9レーンとする 長さ115m以上	1レーンの幅は1m220で8レーンとする 長さ114m以上	1レーンの幅は1m220で6レーン以上とする 長さ114m以上	1レーンの幅は1m220で6レーン以上とする 長さ114m以上
	曲走路	1レーンの幅は1m220で8レーン又は9レーンとする	1レーンの幅は1m220で8レーン又は9レーンとする	1レーンの幅は1m220で6レーン以上とする	1レーンの幅は1m220で4レーン以上とする	1レーンの幅は1m220で4レーン以上とする
障害物競走設備		必要	必要	無くても可	無くても可	無くても可
補助競技場		全天候舗装 400m 第3種公認陸上競技場	全天候舗装の 競技場があることが望ましい	無くても可	無くても可	無くても可
跳躍場		仕様・細則に示す数	仕様・細則に示す数	細則に示す数	細則に示す数	細則に示す数
投てき場		仕様・細則に示す数	仕様・細則に示す数	細則に示す数	細則に示す数	細則に示す数
ただし、円盤投とハンマー投サークルは兼用してもよい						
収容人員		15,000人以上 (芝生席を含む)	5,000人以上 (芝生席を含む)	相当数	相当数	相当数
更衣室		300人以上収容し得ること	100人以上収容し得ること	利用できる設備があることが望ましい	無くても可	無くても可
トレーニング場		第1種公認競技場ではウエイト・トレーニング場を必要とする				

	第1種	第2種	第3種	第4種	第4種L(ライト)
雨天走路	メインカボックス スタンド側にあるこ とが必要。 舗装材は競技場 と同一にする	設備することが 望ましい	無くても可	無くても可	無くても可
トラックとフィールド の舗装材	全天候舗装の 施設を要する	全天候舗装の 施設を要する	全天候舗装の 施設を要する	土質でも可	土質でも可
インフィールド	天然芝・投てき 実施可能な人 工芝とする	天然芝・投てき 実施可能な人 工芝とする	天然芝・投てき 実施可能な人 工芝とする	天然芝・投てき 実施可能な人 工芝とする	人工芝でもよい
電気機器等 の配管	設備を要する	設備を要する	設備があること が望ましい	無くても可	無くても可
用器具庫	2カ所以上で、 合計500㎡以 上必要	第2種～第4種Lではそれぞれの種別に示す用器具を 収納できるようにする			
浴場または シャワー室	男女各2カ所 以上	男女各2カ所 以上	利用できる設備 があることが望 ましい	無くても可	無くても可
競技場の撒排水 設備	降雨直後の使用 が可能なこと 砂場、芝生等 の管理に必要な 数	降雨直後の使用 が可能なこと 砂場、芝生等 の管理に必要な 数	降雨直後の使用 が可能なこと 砂場、芝生等 の管理に必要な 数	無くても可	無くても可
競技場と場外 との境界	競技場の荒廃 毀損を防ぎ競技 会の際の混雑を 防止し得る程度 の堅牢な境界が 必要	競技場の荒廃 毀損を防ぎ競技 会の際の混雑を 防止し得る程度 の堅牢な境界が 必要	無くても可	無くても可	無くても可
観覧席とトラック との間の境界	観覧席からみだ りに競技場内 に出入りでき ないように設 備する	観覧席からみだ りに競技場内 に出入りでき ないように設 備する	無くても可	無くても可	無くても可
競技場にて開催 できる競技会の 種別の標準	本連盟が主催す る日本陸上競技 選手権大会、国 民体育大会等 の全国規模競 技会及び国際 的な競技会	加盟団体等が 主催する選手 権大会及び主 要な競技会並 びに本連盟が 承認し主催す る競技会	加盟団体等が 主催する競技 会	加盟団体等が 主催する競技 会・記録会	加盟団体が主 催する記録会、 加入団体等 の競技会・記 録会

(2) 公認料

公 認 料				
種 別	新 設		継 続	
第 1 種		800,000 円		400,000 円
第 2 種		450,000 円		225,000 円
第 3 種		150,000 円		75,000 円
第 4 種		50,000 円		25,000 円
第 4 種 L		50,000 円		25,000 円
付 帯 投 て き 場	50,000 円			
長距離競走路ならびに競歩路		200,000 円		100,000 円
同 上 ハーフマラソン以下		100,000 円		50,000 円
室内競技場 (恒久的な施設)	50,000 円			
室内競技場 (暫定的な施設)	10,000 円			
屋外種目別施設 (施設毎)	10,000 円			

- 第 10 条
 2. **公認の有効期間は5カ年**とする。ただし、期間中に改造または改修したときおよび公認競走路または公認競歩路で一部変更したときは、その都度認定申請をしなければならない。

4.1.2 陸上競技場公認に関する細則 2020年4月1日改正

- 第 14 条 走高跳の施設は、つぎのとおりとする。

	施設数	助 走 路		マ ッ ト			支 柱 台 計測基準台
		長さ (m)	幅 (m)	幅 (m)	奥行(m)	高さ (m)	
第 1・2 種	3 以上 いずれかの ゾーンに 2	半円部分は 全面全天候 舗装としA、 Bゾーンの いずれかを 25m 以上	16 m 以上	6 以上	3 以上	0.7 以上	支柱の間隔が許容される範囲内で移動可能となるよう支柱台を定める。 計測基準台は支柱台の間の中央に着地場所の縁の外側に接して設ける。
第 3・4 種	1 以上	計測基準台 に向かって 15m 以上	16 m 以上	6 以上	3 以上	0.7 以上	

- 第 15 条 棒高跳の施設は、つぎのとおりとする。

	施設数	助走路		マット			支柱台
		長さ (m)	幅 (m)	幅 (m)	奥行 (m)	高さ (m)	
第 1 種	6 以上	45 以上	1.22	6 以上	7.3 以上	0.8 以上	バー止の間隔が許容される範囲内で移動可能となるように定め (第 183 条参照) 別に示した規格によりボックス先端のストップボード内側上縁から着地場所に向って 800mm まで移動ができるように設備する
第 2 種	4 以上						
第 3 種	1 以上	40 以上	1.22	5 以上	6.3 以上	0.8 以上	
第 4 種	1 以上	40 以上	1.22	5 以上	6.3 以上	0.8 以上	

- 第16条 走幅跳・三段跳の施設はつぎのとおりとする。()内は女子。

	施設数	助走路		砂場			踏切板から砂場までの距離	
		6以上	幅(m)	幅(m)	長さ(m)	深さ(m)	走幅(m)	三段(m)
第1・2種	6以上	45以上	1.22	2.75～3.00	8以上	0.50以上	2	13(10)
第3種	1以上	40以上	1.22	2.75～3.00	8以上	0.50以上	2	11(7)
第4種	1以上	40以上	1.22	2.75～3.00	7以上	0.50以上	2	11(7)

- 第17条 砲丸投、円盤投、ハンマー投の施設は、つぎのとおりとする。

	施設数	サークル			サークル内の材質	投てき角度	計測基準点
		材質	厚さ×幅(mm)	内側の直径(m)			
砲丸	第1種	2以上	帯状の鉄又は鋼又は他の適当な材質	6×70以上	2.135	34.92度	サークル内の中心に鉄を埋める
	第2種	1以上					
	第3・4種	1以上					
円盤	第1・2種	2	同上	6×70以上	2.500	同上	
	第3・4種	1以上					
ハンマー	第1・2種	2	同上	6×70以上	2.135	同上	
	第3・4種	1以上					

- 第18条 やり投の施設は、つぎのとおりとする。

	施設数	助走路		投てき角度	スターティングラインならびに計測求心点
		長さ(m)	幅(m)		
第1・2種	2	33.5以上 36.5以上 が望ましい	4	約28.96度	スターティングラインは規定された規格を正確に設置する。スターティングラインの円弧計測の中心点に標識を設ける。
第3・4種	1以上	30以上	4		

4.1.3 公認競技会規程 2020年4月1日改正

(公認競技会の主催)

- 第3条 公認競技会の主催は、国内において本連盟のみがその権利を有する。
2. 本連盟は、加盟団体に、管轄する都道府県の陸上競技選手権大会及びその地域内で種々の公認競技会を主催する権利を委譲する。なお、本連盟の承認のもと全国規模の大会を主催することもできる。

4.2 高齢化進行に伴う健康づくり及びスポーツレクリエーション需要の変化

- ・ 長期的には、つくば市の人口は今後減少に転じ、高齢化も進行する。そうした状況に即した運動・スポーツ施設の需要（全体量と活動種目別の嗜好等）について、以下に整理する。

● 【政府世論調査等の活用】 スポーツ庁が発表している「スポーツの実施状況等に関する世論調査」／笹川スポーツ財団の自主研究報告等を活用し、スポーツ実施率、この1年間に実施した種目、運動・スポーツを実施した理由、年代・種目ごとのスポーツ実施状況と実施意向、今後行ってみたいと思う運動やスポーツ、茨城県の地域的傾向・特徴等を把握する。

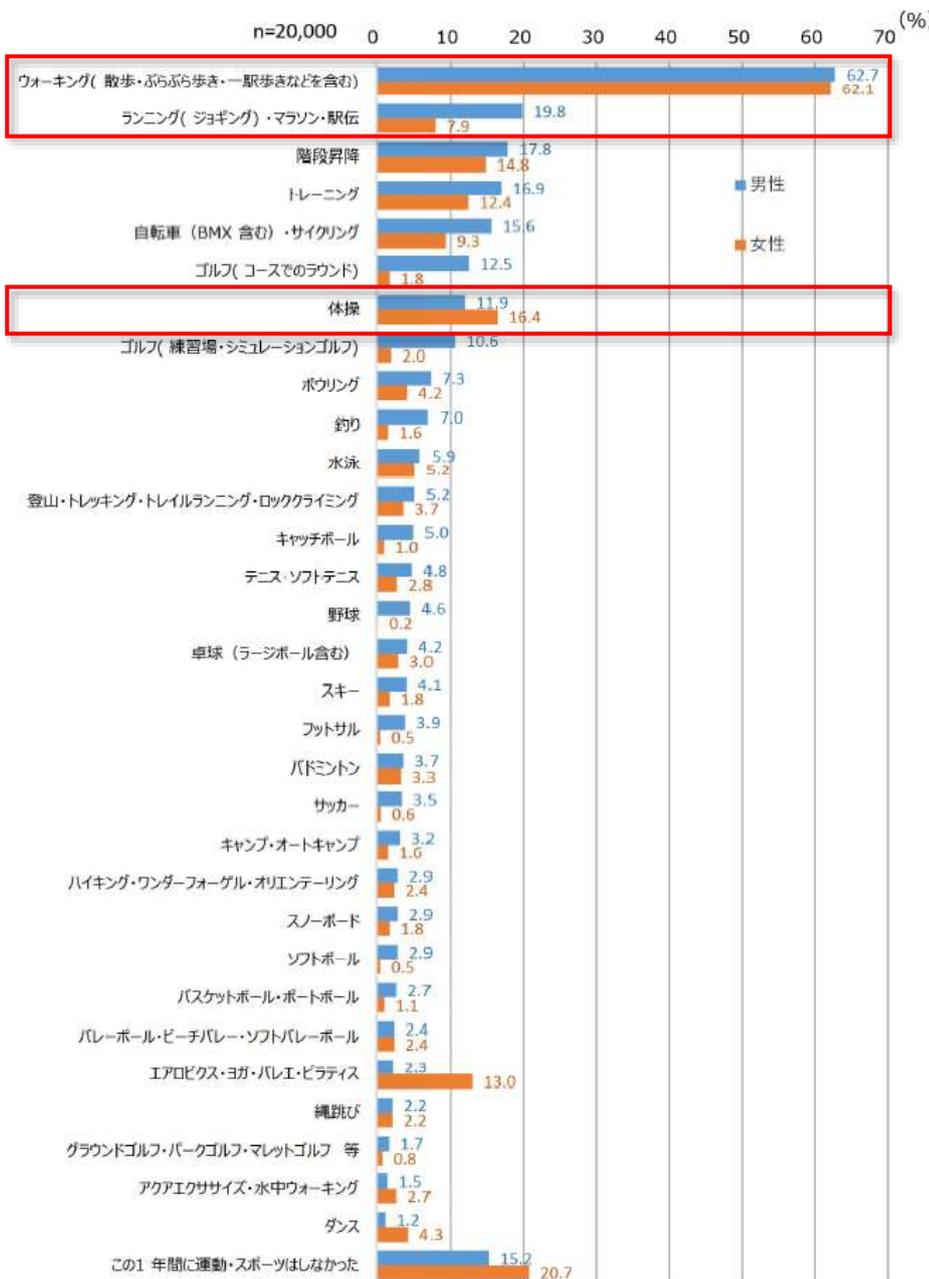
4.2.1 スポーツの実施状況等に関する世論調査

以下の出典：令和元年度「スポーツの実施状況等に関する世論調査」スポーツ庁

(1) この1年間に行った運動・スポーツについて

① 実施種目の分布

- ・ 1年間に行った運動・スポーツの種目については、「ウォーキング」と回答した者の割合が**62.4%**と最も高く、次いで「階段昇降」（16.3%）、「トレーニング」（14.6%）、「体操」（14.2%）の順となっている。



- 【性別】に見ると、「ランニング・マラソン・駅伝」は男性の割合が高く、「エアロビクス・ヨガ」は女性の割合が高くなっている。
- 【年代別】に見ると、「ウォーキング」は70代で、「階段昇降」は10代で、それぞれ最も高くなっている。
- 【運動頻度別】に見ると、「ウォーキング」は週に3日以上実施者で高く、「ランニング・マラソン・駅伝」は週1日～2日実施者で高くなっている。

② 平成30年との比較（種目別参加率の変化）

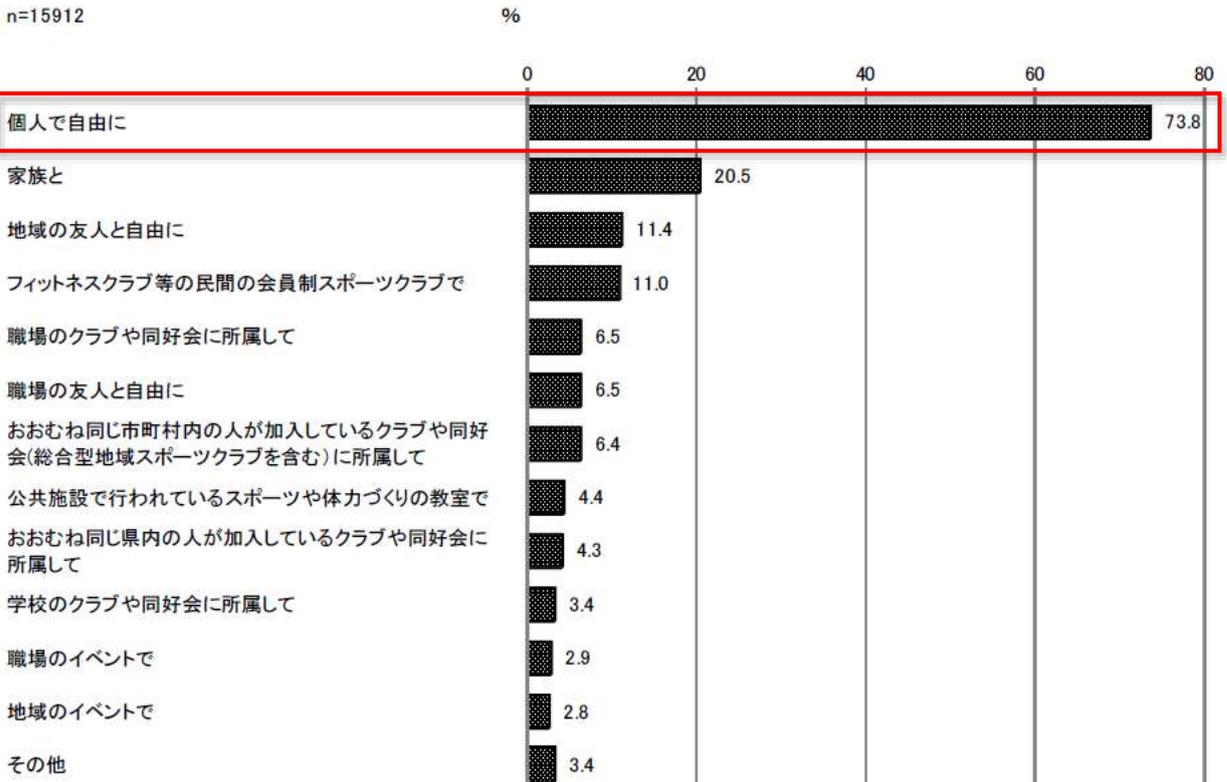
- ・ 上位の各種目について、前年度と比べ実施率に大きな変化は見られない

	全体		男性		女性	
	令和元年度	平成30年度	令和元年度	平成30年度	令和元年度	平成30年度
1 ウォーキング(散歩・ぶらぶら歩き・一駅歩きなどを含む)	62.4	62.1	62.7	62.0	62.1	62.1
2 階段昇降	16.3	16.0	17.8	17.5	14.8	14.5
3 トレーニング	14.6	15.4	16.9	17.9	12.4	12.9
4 体操	14.2	15.3	11.9	12.1	16.4	18.6
5 ランニング(ジョギング)・マラソン・駅伝	13.9	14.0	19.8	20.5	7.9	7.6
6 自転車(BMX含む)・サイクリング	12.5	13.2	15.6	15.7	9.3	10.6
7 エアロビクス・ヨガ・バレエ・ピラティス	7.7	7.4	2.3	2.2	13.0	12.6
8 ゴルフ(コースでのラウンド)	7.1	7.4	12.5	12.7	1.8	2.1
9 ゴルフ(練習場・シミュレーションゴルフ)	6.2	6.3	10.6	10.5	2.0	2.1
10 ボウリング	5.7	6.3	7.3	8.0	4.2	4.5
11 水泳	5.5	6.2	5.9	6.9	5.2	5.4
12 登山・トレッキング・トレイルランニング・ロッククライミング	4.4	4.9	5.2	6.3	3.7	3.6
13 釣り	4.3	4.4	7.0	7.0	1.6	1.7
14 テニス・ソフトテニス	3.8	3.7	4.8	4.5	2.8	2.9
15 卓球(ラージボール含む)	3.6	3.5	4.2	3.9	3.0	3.1
16 バドミントン	3.5	3.4	3.7	3.5	3.3	3.4
17 キャッチボール	3.0	2.8	5.0	4.4	1.0	1.2
18 スキー	3.0	2.9	4.1	3.9	1.8	1.8
19 ダンス	2.7	2.7	1.2	1.1	4.3	4.4
20 ハイキング・ワンダーフォーゲル・オリエンテーリング	2.6	2.8	2.9	3.0	2.4	2.6

(2) この1年間に行った運動・スポーツの実施形態

- ・ この1年間にどのような形で運動・スポーツを行ったかを聞いたところ、「**個人で自由に**」と回答した者の割合が**73.8%**と最も高く、次いで「家族と」（20.5%）、「地域の友人と自由に」（11.4%）、「フィットネスクラブ等の民間の会員制スポーツクラブで」（11.0%）の順となっている。

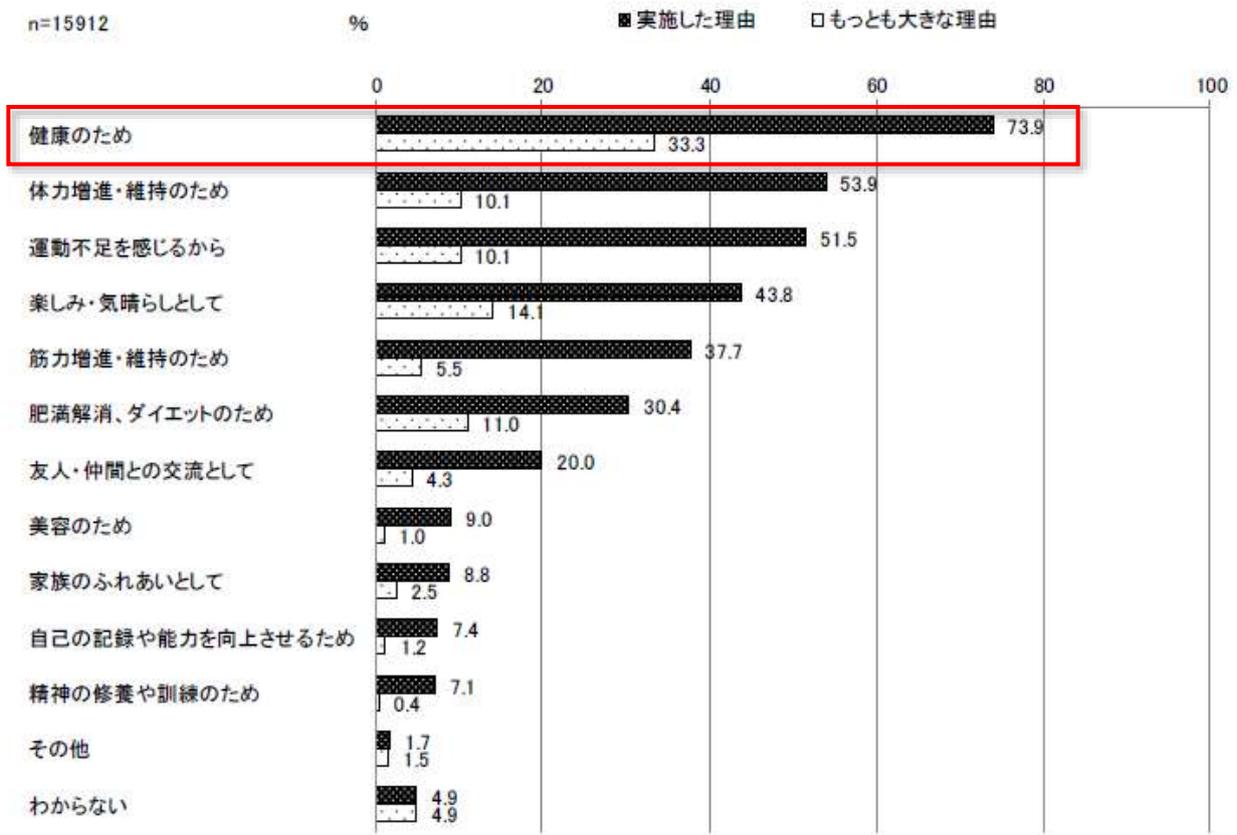
- 【性別】に見ると、女性は「家族と」と「フィットネスクラブ等の民間の会員制スポーツクラブで」の割合が高くなっている。
- 【年代別】に見ると、年代が高くなるほど「個人で自由に」の割合が高くなっている。
- 【運動頻度別】に見ると、「**個人で自由に**」は週に3日以上実施者で割合が高く、「家族と」は週に1日未満実施者で割合が高くなっている。



(3) この1年間に運動・スポーツを行った理由

- ・ 「健康のため」と回答した者の割合が73.9%で最も高く、次いで「体力増進・維持のため」(53.9%)、「運動不足を感じるから」(51.5%)、「楽しみ、気晴らしとして」(43.8%)、「筋力増進・維持のため」(37.7%)の順となっている。
- ・ 最も大きな理由<単一回答>でも、「健康のため」(33.3%)が最も高くなっている。

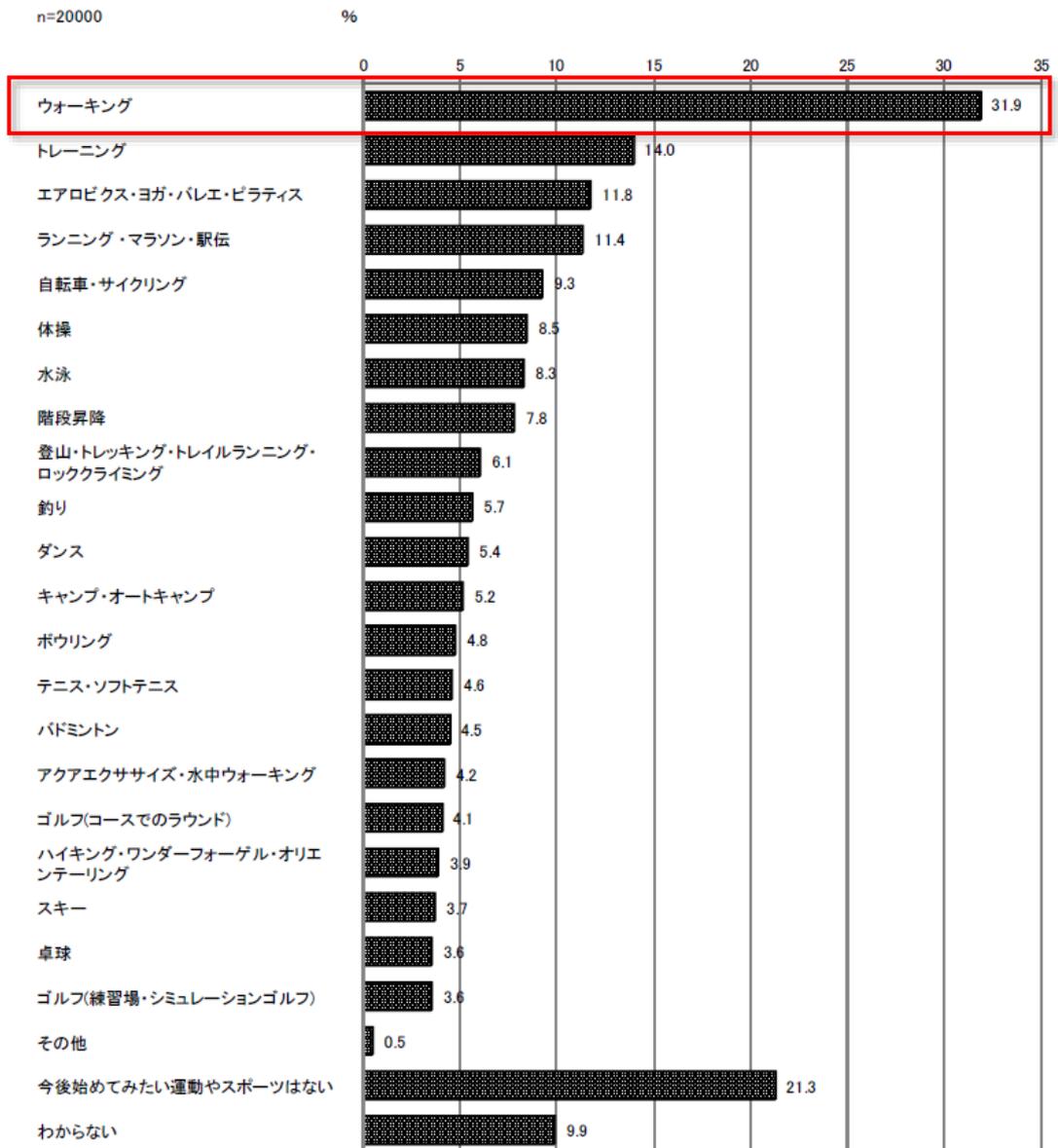
- 【性別】に見ると、「運動不足を感じるから」、「肥満解消、ダイエットのため」、「美容のため」は女性の割合が高くなっている。
- 【年代別】に見ると、「健康のため」、「体力増進・維持のため」は高年代ほど割合が高い傾向がある。また、「楽しみ気晴らしとして」は10代、「友人・仲間との交流として」は10代と70代で割合が高くなっている。
- 【運動頻度別】に見ると、「健康のため」、「体力増進・維持のため」、「筋力増進・維持のため」は運動頻度が高いほど割合が高くなっている。



(4) 今後行ってみたい運動・スポーツの種目

- ・ 今後行ってみたい運動やスポーツを聞いたところ、何らかの運動・スポーツを始めてみたい割合は68.8%
- ・ 今後行ってみたい運動・スポーツの種目は、「ウォーキング」を挙げた者の割合が31.9%と最も高くなっている。

- 【性別】に見ると、「ウォーキング」、「エアロビクス・ヨガ・バレエ・ピラティス」、「体操」は女性の割合が高く、男性は「ランニング・マラソン・駅伝」、「自転車・サイクリング」で割合が高くなっている。
- 【年代別】に見ると、「ランニング・マラソン・駅伝」は10代~30代で割合が高く、「バドミントン」は10代で割合が高くなっている。
- 【運動頻度別】に見ると、「トレーニング」は週に1日~2日実施者で割合が高くなっている。



(5) 全体的傾向と意識の概要

- 世代別傾向：若年層・高齢者のスポーツ実施率は高いが、30~50代が低い。
- 実施種目：「ウォーキング」が圧倒的に多く、「階段昇降」「トレーニング」「体操」が続く
- 実施形態：「個人で自由に」を挙げた者の割合が最も高く8割近くを占め、「家族と」が続く
- 実施理由：「健康のため」が最も多く、「体力増進・維持のため」が続く
「楽しみ、気晴らしとして」も多い

4.2.2 種目別にみた運動・スポーツ実施状況

以下の出典：笹川スポーツ財団スポーツライフ・データ スポーツ活動に関する全国調査

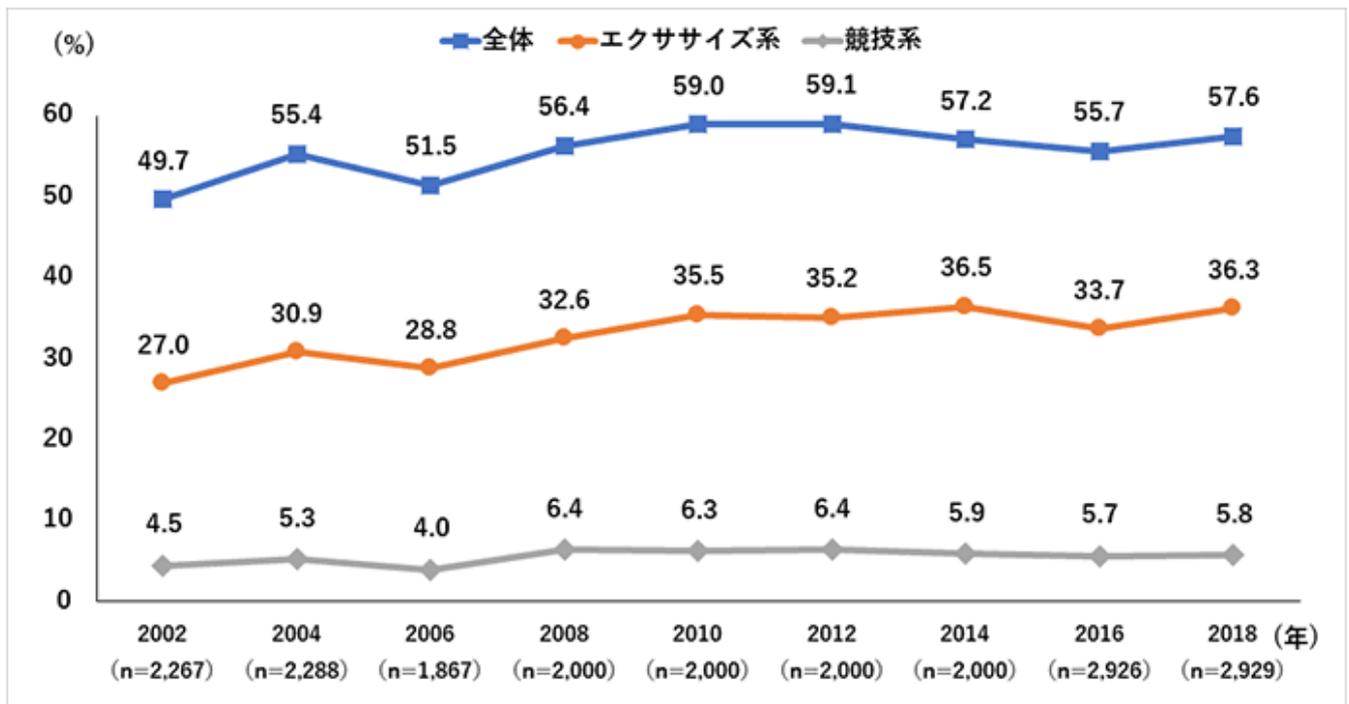
スポーツライフ・データ コラム「種目別にみた運動・スポーツ実施状況 その2- 週1回以上実施者の傾向」2019

<https://www.ssf.or.jp/research/sldata/tabid/1739/Default.aspx>

(1) エクササイズ系種目と競技系種目の実施率の推移（2002年～2018年）

① 全体的傾向

- さまざまな種目を含めた全体の週1回以上の運動・スポーツ実施率は2002年の49.7%から2018年の57.6%と過去16年間で増加傾向にある。その中でエクササイズ系種目の実施率は、2002年の27.0%から2018年の36.3%と増加しているが、競技系種目の実施率は、2002年は4.5%、2018年は5.8%と横ばいで推移をしている。



注1) 全体：週1回以上何らかの運動・スポーツを実施した人の割合

注2) 2018年調査の年1回以上の実施率上位6種目（下記参照）のいずれか1種目以上を週1回以上実施した人の割合

※1 エクササイズ系種目：ウォーキング、筋力トレーニング、サイクリング、ジョギング・ランニング、水泳、体操（軽い体操、ラジオ体操など）を含む

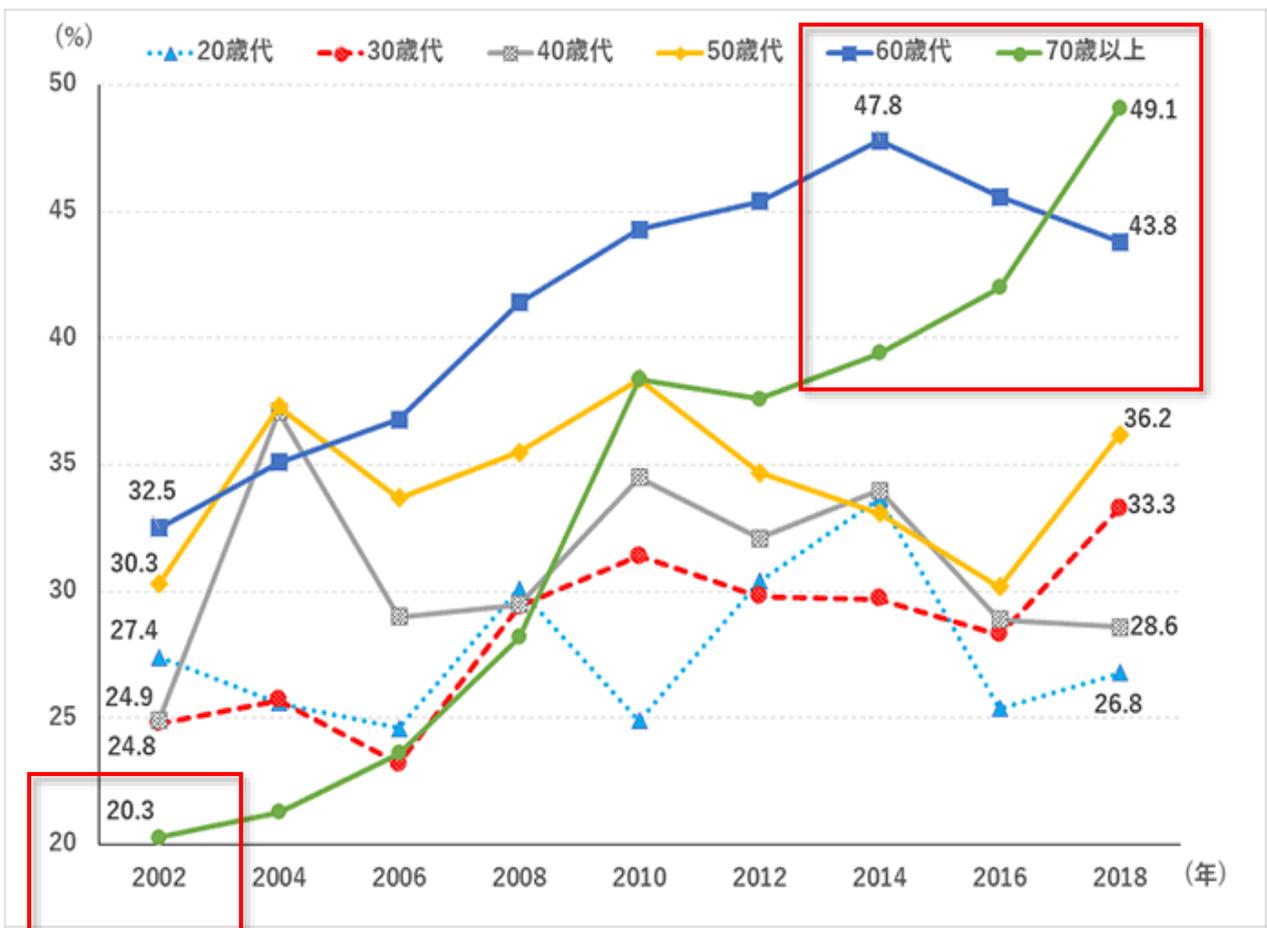
※2 競技系種目：サッカー、卓球、テニス（硬式テニス）、バドミントン、バレーボール、野球を含む

② 年代別にみたエクササイズ系種目の実施率の年次推移

● 中高齢者のエクササイズ系種目※の実施率は増加傾向、特に70歳以上の実施率は過去16年で2倍以上に！

- 年代別にエクササイズ系種目の実施率をみると、年による増減はあるものの20歳代は27.4%（2002年）から26.8%（2018年）、40歳代は24.9%（2002年）から28.6%（2018年）、50歳代は30.3%（2002年）から36.2%（2018年）とほぼ横ばいで推移している（図2）。30歳代は24.8%（2002年）から33.3%（2018年）に増加している。
- 特徴的な点は60歳代、70歳以上の実施率の増加である。60歳代の実施率は32.5%（2002年）から43.8%（2018年）へ大きく増加した。しかし、2014年の47.8%をピークに減少傾向にある。70歳以上の実施率は20.3%（2002年）から49.1%（2018年）へ2倍以上増加した。2002年では全年代の中で最も低い実施率であったが、2018年には最も高い実施率となった。エクササイズ系種目は、特に中高齢者の実施率が高く、運動・スポーツを行うことが日々の習慣になっていると考えられる。

※エクササイズ系種目：ウォーキング、筋力トレーニング、サイクリング、ジョギング・ランニング、水泳、体操（軽い体操、ラジオ体操など）を含む



4.2.3 種目ごとの実施率の推移：年代別

以下の出典：笹川スポーツ財団の調査・解説

1992年から2年ごとに実施している全国調査で過去26年分のわが国成人のスポーツライフの動向を把握

(1) 「散歩・ウォーキング」実施率の推移（1996～2018年）：年代別

<https://www.ssf.or.jp/report/sldata/tabid/1404/Default.aspx>

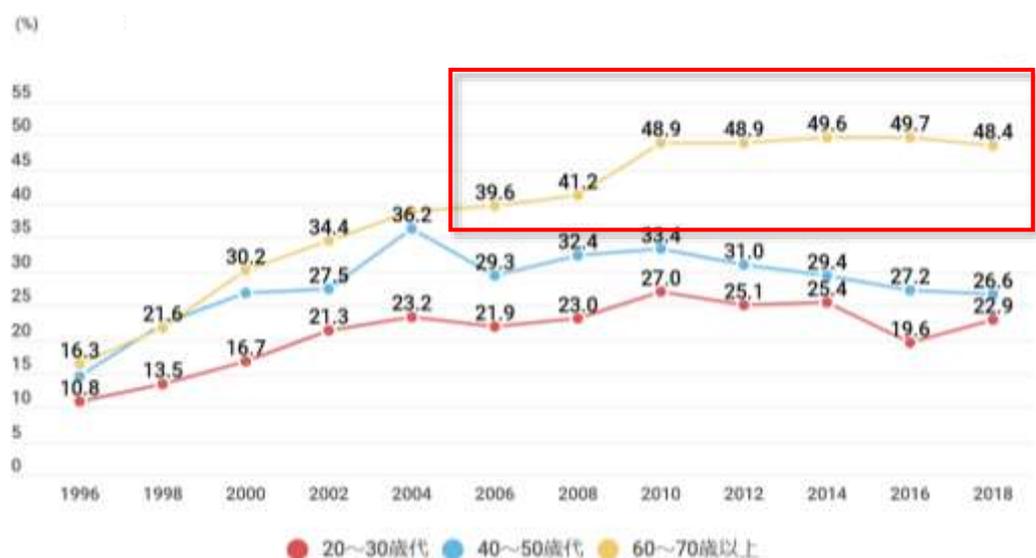
① 年1回以上の「散歩・ウォーキング」実施率の推移（1996～2018年）：年代別

- 1996年当時、年代別の実施率に大きな差はみられず、その後、2004年までは全年代で上昇が続いた。2006年以降、20～30歳代と40～50歳代は30～40%台で横ばいまたは微減となっているが、**60～70歳以上は50%台まで上昇**している。
- 2000年代後半からは高齢者層が散歩・ウォーキング実施率をけん引**している。



② 週1回以上の「散歩・ウォーキング」実施率の推移（1996～2018年）：年代別

- 2004年までは全年代で上昇し、その後は20～30歳代と40～50歳代が横ばいの状況から直近では減少傾向となっている。一方、**60～70歳以上は上昇が続き、2010年以降は40%台後半の実施率を維持**し、他の年代よりも顕著に高い割合を示し、**1996年の16.3%から約3倍**となっている。
- 高齢者層は、**年1回実施率と週1回実施率の差も小さい**ことから、**日常生活の中に散歩・ウォーキングを取り入れ、習慣化**している様子が伺える。

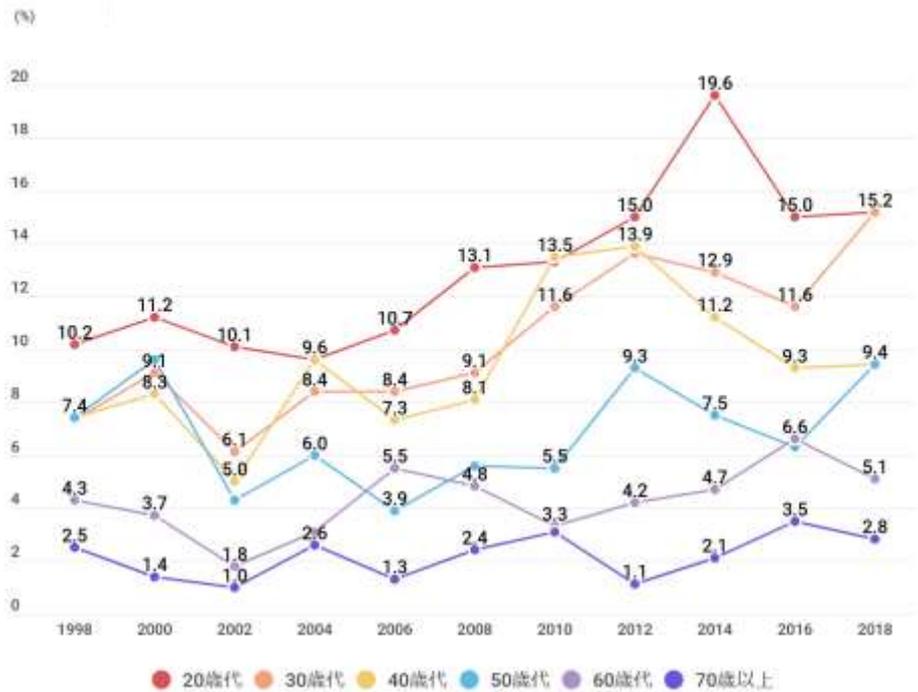


(2) 年1回以上の「ジョギング・ランニング」実施率の推移

<https://www.ssf.or.jp/research/sldata/tabid/381/Default.aspx>

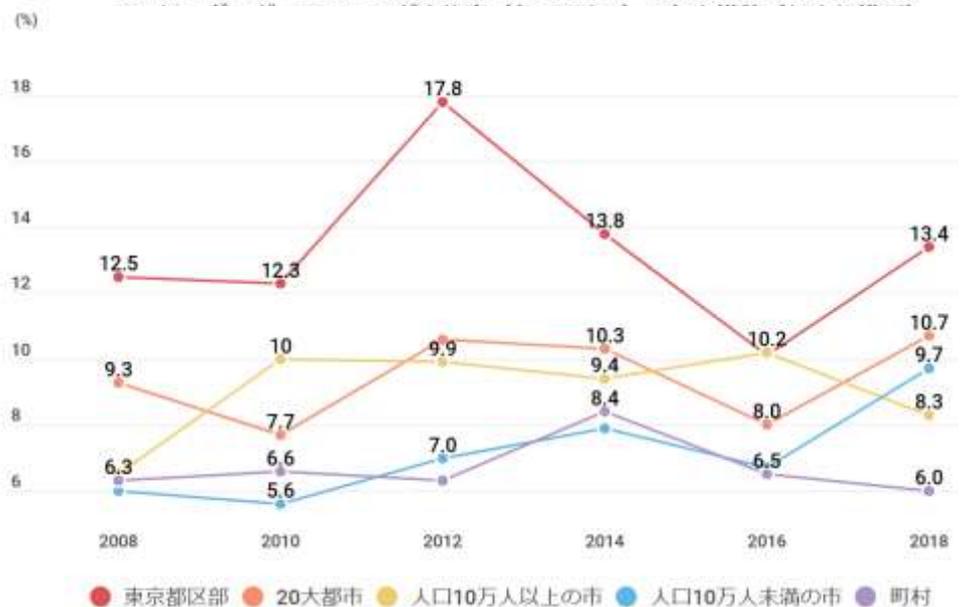
① 年1回以上の「ジョギング・ランニング」実施率の推移：年代別

- 年1回以上ジョギング・ランニング実施率は20歳代と30歳代が最も高く、15.2%であった。次いで40歳代と50歳代が9.4%、60歳代5.1%、70歳以上2.8%であった。20歳代は2004年以降増加を続け2014年に19.6%に達した後に減少したが、過去20年間の傾向として増加している。同様に、30歳代も2002年以降増加し2018年は過去最高の15.2%となり、20歳代に追いつく高い実施率である。



② 年1回以上の「ジョギング・ランニング」実施率の推移：都市規模別

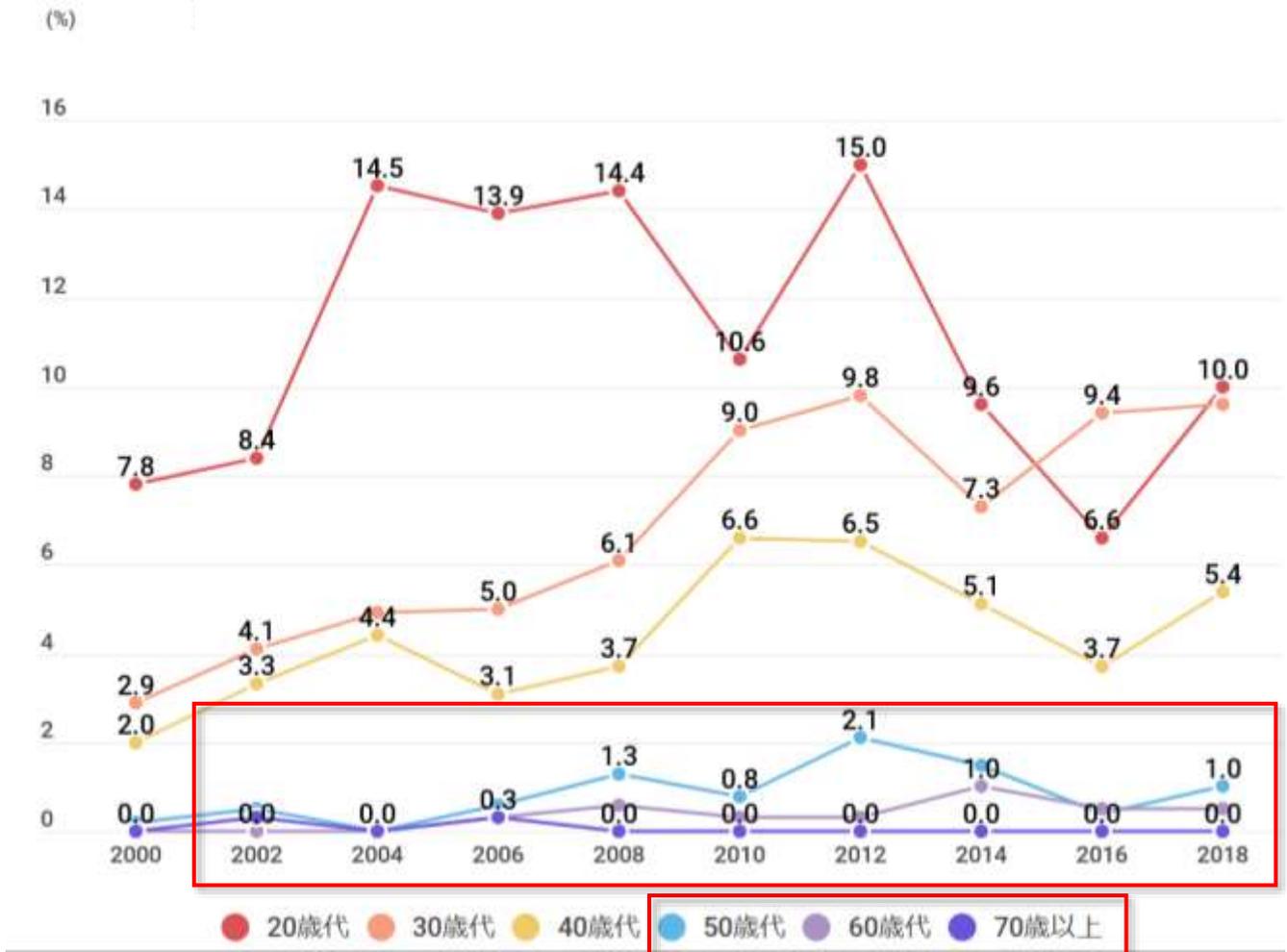
- 2018年は東京都区部が13.4%と最も高く、人口規模が大きいほど実施率が高い傾向がある。
- 経年変化をみると、東京都区部は2010年12.3%から2012年17.8%へ5.5ポイント増加した後には減少し、近年は2008年の実施率と大きく変わらない。また、他の都市規模も2008年以降、実施率の大きな増減はみられない。



(3) 年1回以上の「サッカー」実施率の推移（2000～2018年）：年代別

<https://www.ssf.or.jp/report/slldata/tabid/1779/Default.aspx>

- 年代別にみる年1回以上の実施率は、20歳代、30歳代、40歳代の順に高く、若い年代ほど実施率が高い傾向にある。特に30歳代と40歳代の実施率は、多少の増減はみられるものの、2000年以降継続して増加している。
- 一方で、50歳代以上の実施率は極端に低い。



- 【年齢階層別人口構成とスポーツ実施種目の対応把握】上記データと今後のつくば市の人口推移と高齢化進行の想定等を照らして、市民にとって効果的な施設整備内容の方向付けを整理する。

4.2.4 茨城県の運動・スポーツ実施状況の特徴（全国的傾向との比較 2010～2016）

以下の出典：「種目別にみた運動・スポーツ実施状況 その2- 週1回以上実施者の傾向」

笹川スポーツ財団 2019

<https://www.ssf.or.jp/research/sldata/tabid/1739/Default.aspx>

(1) 運動・スポーツ実施率

- 実施率には全国平均とほぼ同程度であるが、アクティブ・スポーツ人口（週2回以上、1回30分以上、主観的運動強度「ややきつい」以上）の割合がやや低い。

	茨城県	全国平均
過去1年間に全く行っていない	25.71%	26.07%
年1回以上の実施	74.29%	73.92%
週1回以上の実施	58.10%	57.62%
アクティブ・スポーツ人口※	17.14%	18.54%

※アクティブ・スポーツ人口：週2回以上、1回30分以上、主観的運動強度「ややきつい」以上

(2) 過去1年間に1回以上実施した運動・スポーツ種目

- 上位2種目は、全国平均と同順位であるが、ウォーキングの実施割合がやや高い。
- 全国平均に比べて、ゴルフの順位と実施割合が高く、大きく差がついているのが特徴的

順位	茨城県		順位	全国平均	
1位	散歩（ぶらぶら歩き）	31.90%	1位	散歩（ぶらぶら歩き）	33.38%
2位	ウォーキング	27.62%	2位	ウォーキング	24.53%
3位	体操（軽い体操、ラジオ体操など）	15.71%	3位	体操（軽い体操、ラジオ体操など）	18.43%
4位	ゴルフ（練習場）	11.90%	4位	筋力トレーニング	12.70%
5位	ゴルフ（コース）	10.00%	5位	ボウリング	11.24%
6位	筋力トレーニング	9.52%	6位	ジョギング・ランニング	9.09%
7位	ジョギング・ランニング	7.62%	7位	ゴルフ（コース）	7.84%
8位	キャッチボール	7.14%	8位	釣り	7.51%
	水泳	7.14%	9位	ゴルフ（練習場）	7.28%
10位	釣り	6.19%	10位	水泳	7.23%
	ボウリング	6.19%			

(3) 今後行いたい運動・スポーツ種目

- ・ 全国平均に比べて、ウォーキングの順位・割合が高く、ゴルフが上位に挙げられているのが特徴的

茨城県			全国平均		
1位	ウォーキング	23.81%	1位	散歩（ぶらぶら歩き）	26.49%
2位	散歩（ぶらぶら歩き）	23.33%	2位	ウォーキング	25.14%
3位	ゴルフ（コース）	14.76%	3位	筋力トレーニング	16.33%
4位	筋力トレーニング	13.81%	4位	体操（軽い体操、ラジオ体操など）	14.29%
5位	ゴルフ（練習場）	11.43%	5位	水泳	12.48%
	水泳	11.43%	6位	ヨガ	12.47%
7位	体操（軽い体操、ラジオ体操など）	9.52%	7位	釣り	11.42%

(4) 過去1年間に体育館・スタジアム等へ足を運んで直接観戦したスポーツ種目

- ・ 全体の割合としては、全国平均よりやや低い。
- ・ Jリーグの順位が高く、観戦割合も高く大きく差がついているのが特徴的。
（茨城県内にホームスタジアムを持つJ1鹿島アントラーズの存在が影響していると思われる。）

茨城県		全国平均	
全体	30.48%	全体	32.44%

種目別					
1位	プロ野球：NPB	9.57%	1位	プロ野球：NPB	15.81%
2位	Jリーグ	7.66%	2位	高校野球	5.69%
3位	高校野球	5.00%	3位	Jリーグ	5.11%
4位	プロゴルフ	3.35%	4位	マラソン・駅伝	4.32%
5位	大相撲	2.87%	5位	プロゴルフ	1.71%

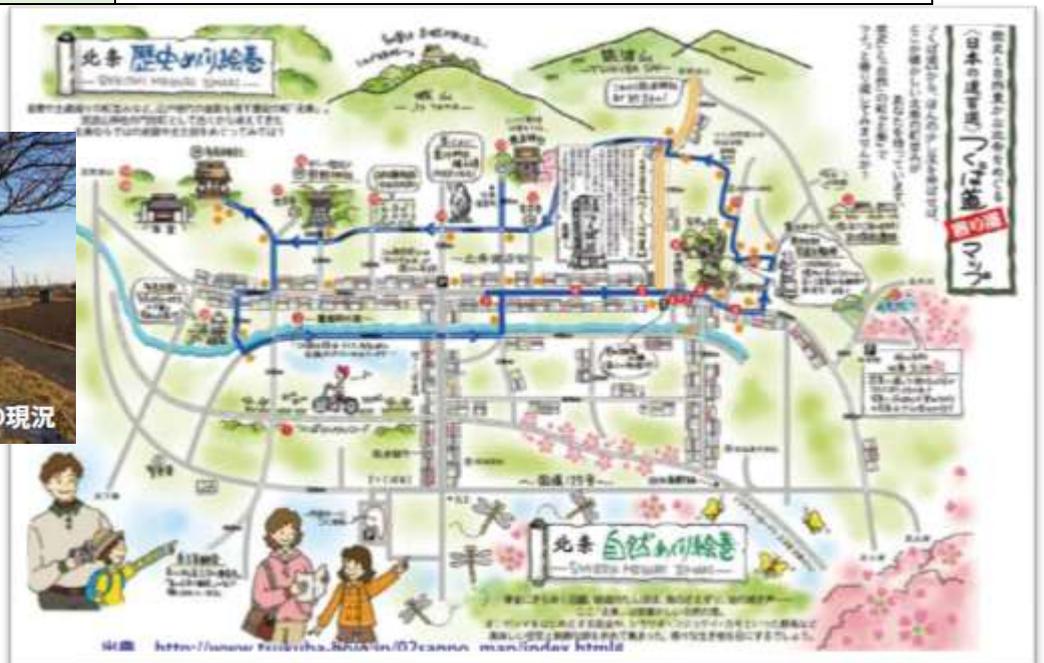
※「高校野球」は2012年～2016年調査のデータ

4.3 スポーツツーリズムにつながる資源等

4.3.1 環境・景観条件：各種周辺資源とのネットワーク等

※ 「陸上競技場整備に関する学校跡地調査」より 連携が想定される資源等を抜粋

		連携が想定される資源の例
①想定される連携資源とのネットワーク・回遊性	・ 周辺関連施設・連携活動資源の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川口公園（小貝川の恵まれた自然環境を生かした水辺公園）、野球場のある大崎公園、テニスコートのある台山公園等と併せてジョギング・ウォーキング・サイクリング等を介した多様な活動のネットワークが想定される。 「つくばウェルネスパーク」「筑波交流センター」との連携が想定され、これらをつなぐルートはジョギング・ウォーキング・サイクリングコースとして活用することも考えられる。 筑波総合体育館が立地する大池公園がと連携して多様な活動展開が考えられる。
	<ul style="list-style-type: none"> 計画対象地及びその周辺地域の植生等 自然環境ネットワーク等との連携／都市観光拠点としての可能性等 	<ul style="list-style-type: none"> 小貝川、西谷田川に挟まれる位置は、周辺の平地林、畑地あるいは水田等と一体となって落ち着いた田園風景を形成している。樹林地に囲まれ、潤いある緑の景観 こうした風景と一体となり、近郊の既存林と連係した生態的なネットワークの拠点としての役割も期待される。 多気山城をはじめ歴史的・文化的資源が数多く残されており、筑波鉄道の廃線跡のサイクリングロード「つくばりんりんロード」も近接していることから、筑波山周辺をめぐる都市観光の立ち寄り拠点の一つとして機能することも期待される。 多気山城、桜川沿いの河畔林等の近郊の既存林と連係した生態的なネットワークの拠点の役割も期待される。
②敷地及び周辺の環境資源	・ シンボル性のある景観資源の存在	<ul style="list-style-type: none"> 田園景観が広がり、視界を遮るものがほとんどない開放感。 イチヨウ、ソメイヨシノなど、シンボルとなる大木。 筑波山が見渡せる。樹林地が山裾の雑然とした人工景観を隠す前景となり、競技場の良好な背景となる景観。
	・ 環境資源（良好な既存樹林等）の存在	<ul style="list-style-type: none"> 大木の列植が景観ポイント 入口のランドマークとして機能し、施設シンボルとして期待される大木



4.4 社会環境の変化／スポーツにかかる新たな政策等の動向

4.4.1 地域スポーツを支える新たなプラットフォーム形成：

スポーツ庁 地方スポーツ振興費補助金「スポーツによる地域活性化推進事業」

(1) 概要

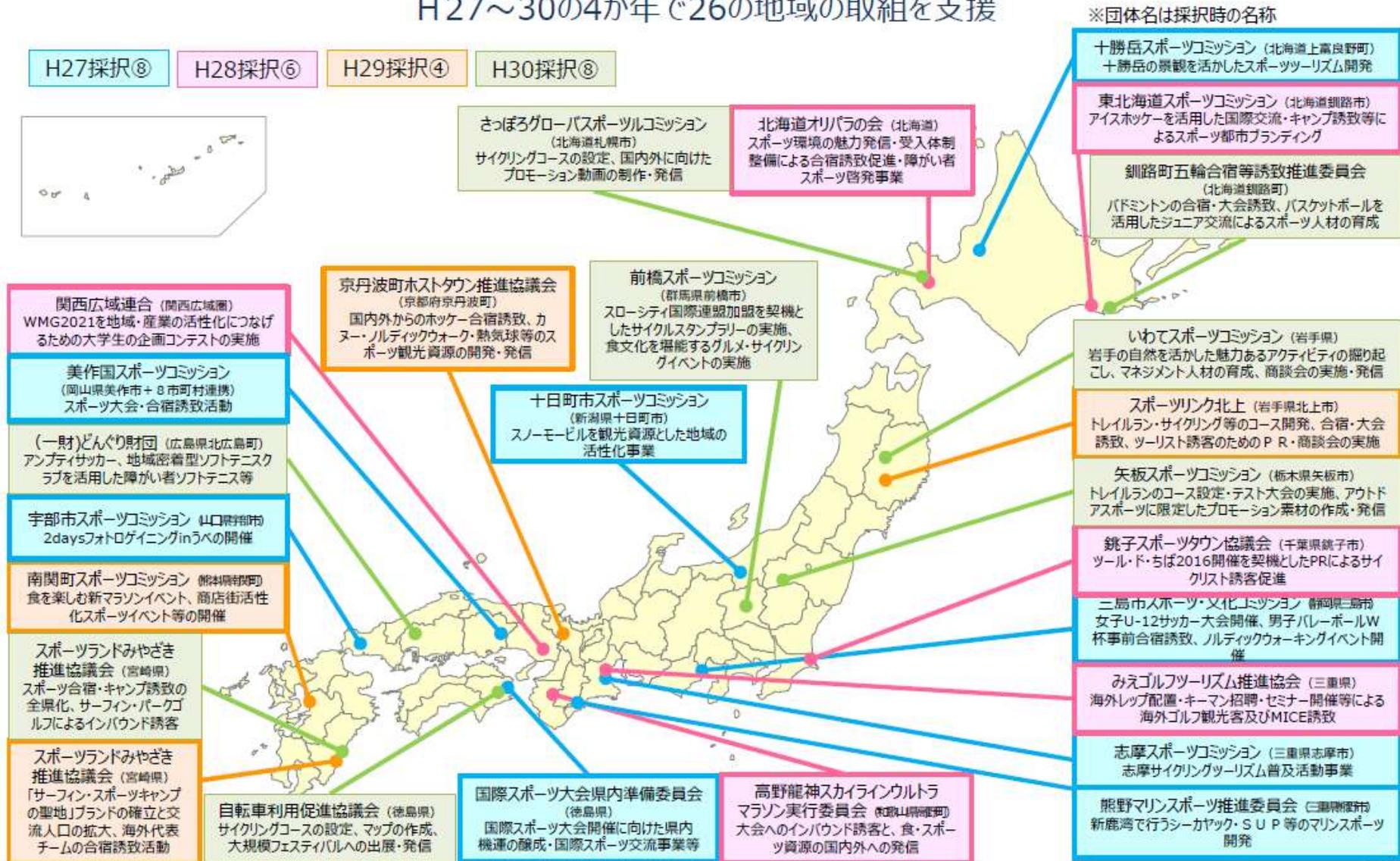
- 地方公共団体、スポーツ団体、民間企業（観光産業、スポーツ産業）等が一体となり、地域活性化に取り組む組織である「地域スポーツコミッション」等が行う、「長期継続的な人的交流を図るスポーツ合宿・キャンプ誘致」・「通期・通年型のスポーツアクティビティ創出」等の活動に対し引き続き支援を行い、「スポーツによる持続的なまちづくり・地域活性化」の促進を図る。



(2) 事例（全国の展開状況）

- ・ トレイルラン・サイクリング等のコース開発、合宿・大会誘致、ツーリスト誘客のためのPR・商談会の実施（栃木県矢板市）／スポーツ環境の魅力発信・受入体制整備による合宿誘致促進・障がい者スポーツ啓発事業（北海道）等

「地域スポーツコミッション」の活動を支援する事業をH27年度より実施中。
H27～30の4か年で26の地域の取組を支援



(3) 「地域スポーツコミッション」の主な活動カテゴリー定義および活動事例

出典：「新たな地域スポーツプラットフォーム形成に向けた実践研究」～スポーツコミッションの分類と地域スポーツ運営組織の形成に向けた検討～ 笹川スポーツ財団 2018 より抜粋

<http://www.ssf.or.jp/report/category2/tabid/1818/Default.aspx>

カテゴリー	定義	具体的な活動事例
誘致	・ スポーツに限らず、既存の大会やイベント、合宿、キャンプの誘致	・ 国際会議の誘致 ・ スポーツ大会・スポーツ合宿の誘致 ・ 東京オリ・パラ事前キャンプの誘致
ツーリズム	・ スポーツツーリズムやヘルスツーリズムなど観光事業の推進や展開	・ スポーツ・ヘルスツーリズムの企画 ・ スポーツを活用した旅行商品の普及及び企画・立案の支援 ・ 自然環境を活かした観光を推進するための計画、立案
誘客イベント	・ 新規イベントの開催による参加者、観戦者の増加	・ 国際的な競技会の開催 ・ シンポジウム開催 ・ 地域資源を活かしたスポーツイベントの検討
開催支援	・ 地域で開催される大会やイベント、合宿への支援	・ ワンストップサービス(施設、宿泊、交通移動などのコーディネート) ・ 合宿補助金制度 ・ 広報活動への協力
地域産業の活性化	・ 地域産業の活性化に資する事業	・ スポーツ産業振興に資する企画 ・ スポーツ交流を活かした居住促進 ・ 飲食や宿泊による経済効果
住民向け事業	・ 住民の健康増進や住民同士の交流の促進、さまざまな活動の体験	・ 地域住民の健康促進事業 ・ スポーツイベントを通じた市民交流の促進 ・ パラスポーツ体験会の開催
人材育成・派遣	・ 青少年や指導者、ボランティアなどスポーツに関わる人材の育成と派遣	・ スポーツ指導者の派遣 ・ 青少年スポーツの育成強化 ・ スポーツに関する功労者などの表彰
施設管理	・ スポーツ施設や運動公園の管理運営	・ 地域体育施設、観光施設連携活用 ・ 運動公園の維持管理の受託 ・ スポーツ施設の管理運営
セミナー・研修	・ 各種セミナーや研修の実施	・ スポーツツーリズムコンベンションの開催 ・ ジュニアアスリートのためのスポーツ障害予防セミナーの実施 ・ 異業種交流を拡大するためのセミナー開催
調査・研究	・ 事業を行うにあたり必要な調査・研究	・ スポーツビジネス創出事業に係る調査・研究 ・ スポーツツーリズム推進事業の調査・研究 ・ スポーツに関する調査・研究
物販事業	・ スポーツに限らないさまざまな商品の企画や販売、レンタル事業	・ 地場特産品の開発、販売 ・ スポーツ関連機器や商品、書籍等の販売 ・ 飲食物の製造、提供
その他事業	・ 運営に必要なその他の事業	・ 老人デイサービス ・ 緑化推進(芝生化) ・ SCの設立、運営の支援(JSTA、スポーツ庁への橋渡し、調整やコンサルティング) ・ 総合型地域スポーツクラブの運営及び育成 ・ スポーツビジネスに関する相談

4.4.2 ストック適正化ガイドラインに沿った参考事例

(1) 参考事例：取り壊しの決まっていた公営施設を耐震補強等改修をして再活用
【本栖湖スポーツセンター】

① 概要：公営不動産の頑丈な建物と、豊かな自然環境を生かした施設

- 株式会社 R.project では、「日本各地の未活用不動産を生かし、地域とともに新しい人の流れを作る」ことを目指し、**宿泊事業（合宿・バジェットトラベル・教育）**に取り組んでいる。
- 本施設は、取り壊しが決まっていた本栖湖スポーツセンターを河口湖町から借り受け、人工芝と天然芝のサッカーグラウンド、全天候型の運動場を新たに整備。
- スポーツだけではなく、**透明度が高く穏やかな湖、豊かな自然環境を生かした、キャンプやトレッキングなどスポーツ／アウトドアアクティビティを充実させることで、施設とともに本栖湖エリアのリブランディング**を図るプロジェクト。



② 事業スキーム・プロセス



施設名	本栖湖スポーツセンター		
運営者	株式会社 R.project	所在地	山梨県南都留郡 富士河口湖町
竣工	不明	事業開始	2016年7月
構造・階数	不明	延床面積	3,265.49㎡
施設構成	<ul style="list-style-type: none"> ● サッカーフルピッチA（天然芝）1面、B（人工芝）1面 ● 全天候型400mトラック（6レーン） ● 体育館（バスケットボール1面） ● 宿泊施設（定員230名） ● 会議室、食堂、BBQ施設など 		

※出所：株式会社R.projectホームページ、本栖湖スポーツセンターホームページ

③ 成功のポイント：公共未活用不動産の有効活用

- 地方部の急激な人口減少と高齢化による利用者の減少、老朽化に伴う維持管理費が行政の重荷になっている。一方、地方部は都市部からのアクセスが世界的に見ても恵まれており、**大都市圏から1～2時間圏内で、海・山・雪・温泉・豊かな食材など観光資源があふれた地域であることを生かした事業を行っている。**
- 本栖湖スポーツセンターは、東京から2時間以内にあり、東京に比べ、夏の気温は5° C～10° C低く、熱中症リスクが少なく、菅平に比べ、春の気温は5° C～10° C高く、春合宿も呼び込めるため、『**都心からもっとも近い高原合宿**』と言える。
- 富士山が目の前にありながら、あまり開発が進んでいない**本栖湖エリアの自然環境を生かしたアウトドアアクティビティでの活性化も同時に行われている。**

4.4.3 公共サービス機能ごとの【事例】

(1) スポーツ活動の拠点となる機能【事例】

① 沖縄県沖縄市・北中城村 沖縄県総合運動公園

- ・ 園内に様々なスポーツ施設を整備し、多様なスポーツ団体の合宿や大会を誘致している。
- 関係機関と連携し、県全体でスポーツコンベンション誘致に取り組んでいる
 - 競技施設や宿泊施設、サービス等を充実させ、国内外から合宿や大会を誘致している



園内には、スポーツ施設やレジャー施設を含む多数の施設が整備されている



多様なスポーツ団体の合宿地として利用されている

出所：スポーツコミッション沖縄情報サイトホームページ

(2) 地域活性化の場となる機能【事例】

① 和歌山県和歌山市 秋葉山県民水泳場

- ・ 旧秋葉山プールは昭和41年に整備され、前回国体でも使用されたが、老朽化が激しく、国際公認プールがなかったことなどから、現地での再開発を行った。
- 旧秋葉山プールは、レジャープールとして長年県民に親しまれてきたことから、リニューアルの際にも、屋外（7・8月のみ営業）にウォータースライダーや流水式プールなどを備えて整備され、夏季には子供から大人まで人気のプールとなっている



屋外にはウォータースライダー付展望プール、流水式の遊泳プール、幼児プール、屋内には幼児プール、マッサージプールがある



近畿圏唯一の通年利用可能な国際公認プール

② 岩手県紫波町 オガールアリーナ

- ・ 国内初のバレーボール専用アリーナとして品質の高い施設を民間事業者が整備し、合宿を誘致している。
- ・ 施設整備にあわせてバレーボールアカデミーを実施し、100人を超える子供たちが通っている。

➤ スポーツ施設や商業施設、公共サービスなどを集約して PPP 事業による複合整備を行った宿泊施設「オガールイン」を併設し、合宿等の受け入れに対応している



国内初のバレーボール専用アリーナ



オガールエリアには「暮らす、働く、学ぶ、集う、憩う、楽しむ」といった様々な用途を集約し、地域の活性化につなげている

(3) スポーツへの親しみの拠点となる機能【事例】

① 特定非営利活動法人 出雲スポーツ振興 2 1

- ・ 「島根県内最大のスポーツ施設を有する都市公園等、大規模公共施設の管理運営（指定管理者）のみならず、スポーツによる振興を図る諸事業や収益事業を多数展開し、地域の健康増進に貢献している。

➤ ソフト・ハードの一体化によるサービス向上、自主財源確保による新たな事業への再投資等を行うことで、地域課題解決やスポーツを通じた地域活性化を進めている



多様な事業実施によるスポーツの日常化を図っている



施設を利用した多世代に対するスポーツプログラムを提供している

4.4.4 【施設種別ごとの主要な検討項目と各機能に対応した工夫例】

(1) 屋外施設（陸上競技場、球技場、野球場）

	大規模大会機能に対応する主要な検討項目	スポーツ拠点機能／地域活性化機能に対応する主要な検討項目
芝	<ul style="list-style-type: none"> ・ トッププレイヤーが競技するのに適した芝種、芝面積を競技に応じて選択する ・ 稼働可能日数、芝の養生に要する日数を把握する ・ プロの試合などで求められる高い仕様と品質を維持・確保できる専門的な技術スタッフを配置する ・ 園内の他施設と一体的に管理できる体制を構築し、張り替え等含めた中長期的な計画を検討し維持管理費用を把握する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者ヒアリング等によるニーズから芝面積を設定する ・ 多様な利用を想定し、メンテナンスコストの圧縮が可能な人工芝仕様の採用を検討する ・ 施設内や自治体内の他施設と芝仕様や管理者を統一し、管理コストを圧縮する ・ 多様な利用者に応じて芝だけでなくサーフェス仕様についても検討し、アプローチや屋根付き待機場所についても検討する
観客席	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誘致する大会や興行の基準を目安とした観客席数とする ・ 多様な観客の観る権利が担保されるよう、座席仕様・視線計画・動線を含めたユニバーサルデザインを取り入れる ・ 観戦環境を充実化し、体験価値向上による収益性の向上を検討する（VIP、スポンサー、シーズンシート、団体、家族、友人等） ・ アクセス動線を含め屋根の設置を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ メインスタンド以外は芝生整備とし、柔軟な利活用を促す ・ 大会等開催時には適切な席数を仮設設置する ・ 誰もが利用できることを基本とし、座席仕様・視線計画・動線を含めたユニバーサルデザインを取り入れる
照明設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大会や興行のニーズに応じた設備のスペックを検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夜間帯の利用ニーズを把握し、常設／仮設を検討する ・ イベント時等に設備の持ち込みに受入可能な整備を検討する ・ LEDの採用などメンテナンスコストの低減に配慮する
モニター・音響等の大会設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大会や興行のニーズに応じた設備のスペックを把握し、常設／仮設を検討する ・ 放送設備、ビデオ判定設備等の常設／仮設を検討する ・ 標示などの多言語対応、音声誘導等の情報アクセシビリティ関連については常設設置を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要時のみ仮設設置する ・ イベント時等に設備の持ち込みに受入可能な整備を検討する ・ 標示などの多言語対応、音声誘導等の情報アクセシビリティ関連については常設設置を検討する

	大規模大会機能に対応する主要な検討項目	スポーツ拠点機能／地域活性化機能に対応する主要な検討項目
特別室等の諸室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別室は、誘致する大会や興行のVIP対応の必要性、ホスピタリティ事業の可能性等を整理し、面積や仕様を検討する ・ テナント店舗、ビジネスラウンジ、ホスピタリティ空間等の民間事業の導入を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別室等は、必要時のみ仮設設置する ・ 既存施設を活用する場合の改修は最小限に留め、多機能化を検討する
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大会関連商品、ケータリング等物販スペースを設置する ・ スタンド下の空間活用を検討する ・ アクセシビリティ対応として、カメラ用レールなどグラウンドに突出するものはあらかじめトレンチを設けるなどグラウンド内移動に配慮する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広域連携、地域の利用ニーズに即した公認レベルを検討する ・ 多目的トイレの位置について、グラウンド近くに設置するなど配慮する

会 議 録

会議の名称		第2回つくば市陸上競技場整備基本構想策定検討会議		
開催日時		令和2年(2020年)9月24日 開会 18:00 閉会 20:00		
開催場所		つくば市役所 防災会議室2・3		
事務局(担当課)		スポーツ振興課		
出席者	委員	大澤 義明、大山卞 圭悟、齊藤 まゆみ、岩井 浩一 宮本 恒男、浅野 祐一、石渡 琢磨、萩原 武久		
	その他			
	事務局	【市民部】 飯村部長、星野次長 【スポーツ振興課】 伊藤課長、宮下補佐、飯村係長、宮本主任、井上主事		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	4人
非公開の場合はその理由				
議題		つくば市陸上競技場整備基本構想について		
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 議事 (1) 計画目標の調整 (2) 重点導入機能と整備水準設定 3 閉会			

<審議内容>

3 議事

座 長： それでは次第に基づき議事を進めてまいりたいと思います。

本日は、二つの議題で進行させていただきたいなと思います。1点が計画目標の調整、2点目が重点導入機能と整備水準設定についてということで。それでは議事の1番目、計画目標の調整について事務局から説明をお願いします。

(事務局から、計画目標の調整について説明があった。)

座 長： ありがとうございます。7月30日に行いました第1回の本委員会で各委員の皆さんからいただいたご意見等を踏まえて、事務局としては、このようなたたき台を作りました。たたき台の検討に入っていたきたいと思いますが、まずは、第1回に出していただいたご意見について何か違っているぞというようなご質問等があれば承りたいと思います。

座 長： ご質問等よろしいですか。よろしければ、ぜひご助言、ご意見等があれば承っていきたく思いますので、どうぞ挙手をしていただいております。話しいただければと思います。

座 長： ぜひ障害者スポーツの観点からも、抜けているぞ、不足しているぞという部分があれば、またご指摘をいただければと思います。どうぞお気付きのところ、ご質問、ご意見をどうぞ。

委 員： 私の情報不足というか、アンテナが低いのかもしれませんが、陸上競技場を予定している場所について、もう一回確認をしたいなと思っています。まだ、未定かと思いますが、先ほど、土地開発公社が所有している土地については70億かかるというようなお話がございました。

今、市のほうで恐らく進めようとしているのではないかと思います、上郷高校の跡地について、それを取得するとか利用するにあたっては、どれくらいの費用がかかるのでしょうか。

事務局： 上郷高校の跡地については、それはもう既につくば市所有の土地となっておりまして、土地購入に係る費用はかかりません。

委員： 分かりました。

委員： ご案内いただいた資料の8ページで、4の4の2、客席の稼働率の所なのですけれども。

私の周りでJリーグに携わっているリハビリの職員がおりまして、聞いたところ、Jリーグといっても、J1、J2、J3と色々なカテゴリーがあって、その職員は、1番下のJ3、あるいはその下のJFLというカテゴリーに携わっているのですが、J3ですと十何チームあるうち、その半分以上が1試合の来場者数が2,000人程度。JFLになってしまいますと、所属チームの半分以上が1試合で1,000人程度の来客です。上位チームですと4,000人、5,000人となるケースもあるんですけれども、そういった実情だそうです。

それから私、障害者スポーツに関わってまして、大会規模にもよりますが、やっぱり市レベルのイベントですと、来客数が100人程度のことかなりあります。

主なターゲットとして考えている中高生のイベントの来客見込みは保護者なども含めて前回計算をされていましたがけれども、1回当たりのイベントで、客席数であったり、回数っていうところの計算よりも、実際に今、例えば石岡とか、近くの競技場を使ったときにどのぐらいの客が来るのかという実績があると、より具体的、かつ現実的な見込みの稼働率が出てくるのかなというふうには考えています。

委員： この基本コンセプトの所に記載された「公式陸上競技会等」のその

「等」っていうところに、恐らく障害のある方々も使うということが含まれているのだろうと解釈するんですけども、その場合に、障害のある人もない人も一緒に参加する競技会の開催とか、そういうものができる形で、塀をつくらずにオープンスペースでもっと出入りの自由な形の競技場のコンセプト、そういうものがあるともっと混ざって見える、そういうコンセプトのものがこの中にもう少し出てくるといいんじゃないかなと。

あと、対象が小中学生の大会とありますが、小学生の中に障害のある小学生も一緒になってできる大会とか、例えば陸上競技でも障害のある人も一緒になって投てきなら投てきもしていいとか。このコンセプトからは、なにか縦割りになってしまっていてそこが隠れてしまうようなイメージがあるのですけれども、その辺りいかがでしょうか。

事務局： 今後、コンセプトを詰めていく上で前向きに検討していきたいと考えております。ありがとうございました。

座長： 他に何かございますか。基本的には7月30日に各委員の皆さまからいただいたご意見を基に、委員の皆さま方の考えをさらに示して、そして事務局がそれに回答という形で示したものです。これに対して何かこうしたほうが良いというようなご意見があれば承りたいと思いますけど。

委員： 念のための確認なのですが、現在の小学校、中学校の大会とか、よその市まで行ってやるのもありますが、よその市まで行くとなると車で移動ですよね。それは自家用車を使っているのでしょうか。バスを借りて行っているのでしょうか。候補地というのは、交通の便を視野に入れておかないと、ちょっとその辺、検討まではいかないとは思いますが、必要かなとは思いますが。

委員： 中学校の大会などは、間違いなくと言ってもいいぐらいバスなんじゃ

ないかなと思います。で、今回資料を見ていて、駐車場の台数が増えたのは、ここはすごくポイントが高いなと思ったんです。小中学校の大会をやることに関して、駐車場が最初は200~300台かなというのはあったんですが、それから400~500台になって、バスが結構置けるのかなと。そういう意味でこの駐車場が大きくなったっていうのはすごく評価が高い感じがするんですけど、それに併せて上郷高校の跡地で、400~500台の駐車場が取れるのかどうか、そこを教えてください。

事務局： 次の議事になると思うんですけども、今回、駐車場については、普通車が400台から500台程度という形でたたき台を作成いたしました。

上郷高校跡地においては、学校跡地調査で、190台とか200台以下の設定だったんですけども、現在は調査時とは状況が変わりまして、当時は敷地の北側部分のみ活用だったところを、南側の敷地についても活用可能であるという確認がとれましたので400台から500台可能という想定をしております。

委員： ありがとうございます。

委員： 先ほど、バスを利用しているのかというお話がありましたけども、石岡で開かれている中学生の大会は、ほとんど選手輸送は貸し切りバスでの送迎です。学校のほうからですね。

私どもが開催しているつくばの陸上選手権、これは筑波大学をお借りして、スタンドがいっぱいになるぐらいの参加者が集まるんですが、駐車場はクラブハウスの所の駐車場だけの利用なんですね。ですからいつも駐車では悩まされております。特につくば市の子どもたちは大体保護者の送迎で来ています、つくば市の場合。ただ、つくば選手権の場合には、広くから参加を募っているものですから、遠くは古河とか、結城とか、そちらからも来るんですね。そちらはほとんどバスで来る。そのバスを止められるスペースがほとんどありません。で、毎回毎回、

様式第1号

筑波大学のほうからお叱りをいただいております。すぐに駐車場がパンクしてしまうものですから。そうすると、一般の保護者の車は、今度は駐車場以外の所に、違法駐車ですけど、そういった苦勞がありました。そういう意味で駐車場については、他の委員の方からも話が出ましたけれども、やっぱり400台500台あるとありがたいなと思います。

座長： 付帯施設につきましては、またこの次にご提言いただきたいと思っていますので、ここでは陸上競技場本体に限定していただいて、要するに小中学生の記録が取れるような陸上競技場で大丈夫ですかと。もちろんいろんな制約がありますから、その中で検討していかなくてはいけないと思いますが、この委員会としてどういう提言をしていくか、つくば市の陸上競技場としてこれがふさわしいぞというご提案、あるいはお考え等を述べていただければありがたいなと思います。

委員： 私も陸上競技だとか、そういう活動を広げる仕事をしておりますので、陸上競技場単体で絞ると、県大会以上のレベルになってくると、県内でも、笠松とか、水戸のケースタとか、それなりの規模も設備も整った所がありますので、大きい大会はそっちでいいのかなと思う部分もあります。

どのぐらいの規模の競技場があったらいいかなっていうのは、まず私の場合は、日常の活動、陸上競技という活動ができる場が欲しいというのはあって、数字的にも市民活動として広がりを見せているというその現実を踏まえて、その場が欲しいということと、あと、私も見てきて、つくば陸上競技選手権大会は、小学生からシニアまで参加されていてすごくいい大会なんです。県大会ぐらい大きな大会は、もう既にあるんだからそっちを使ってもいいのかなと思うんですけど、私は、つくば陸上競技選手権大会をベースに考えて、それが実施できるぐらいの陸上競技場があればいいのかなと思うんですけどね。あくまで私の意見

様式第1号

です。

座長： 1点質問しますけれども、小学生のときに陸上競技をやっていたお子さんが中学生になったときに、相当数が中学校でもそれを続けてらっしゃるんですか。

委員： はい。今の、現状ですよ？ 私がやっている活動の中では、陸上競技部がある所だと続くんですよ。で、陸上部がない所だと、そのまま私たちの活動の中で続けているか、または他の部に行ったりします。小学生も続けたいことは続けたいんですけど、どうしても中学校って部活動がそれだけ優秀な仕組みというか、保護者にとっても子どもたちにとってもウエートが大きく、やっぱり大事なものなんでしょう。

結局、陸上部がなければクラブだとかそういう所で続けるか、他の部活をやるかっていうような選択肢になっているかと思います。

座長： そうしますと、今回の議論になっているように、陸上競技場ができればそういうお子さんたちも多分、中学校に行っても相当数のお子さんがこういう所でやるということは考えられるんですか。

委員： はい。これに関しては小学生も含めて同じことが言えるんですけど、陸上競技場がある市町村で小学生のプログラムがある所はやっぱり人数も多いですし、中学校に行っても続けている率も高ければ、続けている分、実績もあつたりします。

座長： 他にいかがでしょうか。つくば市だけではなくて県南の大会くらいができるよというご提言もあったと思いますけれども、それについては、つくば市の小中学生が参加するものと、県南の大会が開かれるようなものとは、何か差があるのですか。

事務局： 中学校の公式記録が取れる競技場としては、基本的には4種ライトというのがあります。それでも実際は可能です。ただ、やっぱり県南地区ということになると、投てきがございますので、投てきができるよ

様式第1号

うに、天然芝か投てき可能な人工芝ということになりますと、今は4種以上であれば実際にはできるというふうに、日本陸連への問合せで確認はしております。

委員： 2020年のルール改正で4種でも可能となりましたよね。ただ、実際のところ、資料にありますけども、茨城県内、4種の陸上競技場は一つもございません。みんな3種以上です。4種となると確かに陸連が認めれば公認大会にはなるんですが、やっぱり4種だとちょっと引っ込んじゃいますね。多分、高体連も、中体連も引っ込んじゃうんじゃないかなって気がするんですね。われわれ陸協のほうもそうですね。やれば公認にはなるのでしょくけども。

それでも公認の大会になれば、どこも競技場が取れなければその競技場でやるしかないのかなとは思いますが、私としては、前回も申し上げましたように、広く参加者を募って、参加者が出てみようという、そういう競技場をやっぱり希望したいですね。いろいろな予算的なものもあるから難しいのでしょくけども、造ったはいいけども結局競技会が開けないとか、あるいは参加者を募れない。募れないっておかしいんですが、中学校の大会なり、あるいは高校の大会なり、一般の大会がちょっと開けないんじゃないかなという気はするんですね。

座長： 陸上競技場のあるべき姿として、他の委員の方、何かいかがでしょうか。

委員： 理想はいろいろ言えるんですけども、予算や場所との関係があるので、どこまで申し上げていいか分かりませんが、例えば、今日頂いた資料の中でも、8ページには見るスポーツに対するニーズというのがありますね。超一流のアスリートの高いレベルのプレーを間近で見たい、これ、中高生のニーズは高いということで、こういうところもとても大事だと思うんですけども。

今日は競技場以外のスペースの整備のことも少し整理して出していたのですが、その中で、補助競技場というかサブトラックですね。必ずしも整備されたものでなくても、サブトラックがちゃんとあるかどうかというのは、比較的用途の広い範囲で施設が活用されるか、あるいは大きい規模の競技会が誘致できるかというところに関しては非常に重要な問題になるんです。それは特に陸上競技場を二つ造りましょうという話ではなくて、片方は多目的でもいいと思うんですけども、サブトラックがちゃんと整備されたような規模の競技場になると大きい競技会が誘致しやすい。

それと競技場ができた後の利便が非常に高いと思うんですね。例えば笠松の競技場、ものすごい規模が大きいので、なかなか笠松をお手本にして今回の議論はできないと思うんですけども、笠松はとにかく競技場以外のスペースが広くて、町の人がたくさん犬を連れて散歩に来ているような状況。それで、見ているとやっぱり市民の方のコミュニケーションが、そこかしこで起こっているというような。われわれ、自粛期間、大学が使えないときに笠松に行って練習したりしたのですが、そのときに見た状況です。

やはり、競技場の利用も重要ですけども、周辺のスペースの利用というのは非常に大事で、そういう意味では、種別と直接関わる部分はあるんですけども、サブトラックというか補助競技場、あるいは補助になる多目的の広場を具備したような競技場というのは、最終的にはユーティリティーの面でも、それから、もちろん大きい競技会を誘致して中高生のニーズに応えるような面でも非常に意味があるのではないかなというふうに考えます。

今、この場にふさわしい発言だったかどうかいささか不安なのですが、競技場に求める機能というのは、一緒にその周辺のところも考える

という意味では、それだけの規模を持った、サブトラックも備えたようなものが多い面は多いなと思います。これはもちろん土地のこと、お金のことがありますので、いいから何が何でもそれでという話ではないんですけども、でも、それがあつて非常に利用の範囲というか、価値というか、そんなものも高まると考えています。

委員： 私は、陸上競技というよりは先ほどご説明があつた未来創生のほうの話と思っているのですが、そういう面から言うと、多少、コストの面から言いますと、多分もう日本全体は少子化になっていて小学生もどんどん減ってきている、時代が大きく変わっているわけですね。その中で陸上競技場も、まあ、つくばでは足りないかもしれないですけど、広域的に見ると多分過剰なんじゃないのかなって思ったりします。その中でやっぱり決断っていうのは必要かと思っています。

それから、施設に関しても、先ほど駐車場の話がありましたけど、駐車場をマックスに合わせるというのはやっぱり良なくて、ハードで全部台数を用意するんじゃなくて、ソフト面を変えていくとか、そういう仕掛けで工夫しながらコストの縮減を進めていくというか。その中で例えばサブトラックだとか、そういうところに充当するとか、何かしら詰めるところは工夫して、空いたところにはお金を投入するっていうのは必要かなと思います。

それともう一つ、多少スケールは違いますが、鹿島アントラーズさん、顔認証を今回入れようとしています。その狙いは入退出を自由にしようっていうことなんですよ。要するにサッカーの試合だけ見に来るんじゃなくて、途中飽きたら外で買い物する、あるいは散歩をするとか、スタジアムでスポーツを見るだけじゃなくて、その周辺も含めて楽しませようっていうふうに考え方をシフトさせていったわけです。

そうすることによって、地域に少しお金が落ちるかもしれないし、先

様式第1号

ほどご意見があったような多様性っていうんですかね、いろんな人がスタジアムに行ける。あんな急勾配な所に身障者は行きませんが、一緒にちょっと行って少しだけ見て退出するだとか、そういうことも可能ですし。あと、交通渋滞の緩和、楽しければ3時間も4時間もいる、そういう意味でスタジアムっていうのが大きく変わってきていると思うんですよね。

そういう意味から言うと、今回の陸上競技場も、陸上競技だけじゃなくて、前回も申しあげましたが、いろんな人が楽しめるような形がいいのかなって思っています。簡単に言いますと、どれだけ他の分野に波及効果をもたらすのかっていうのがポイントかなと個人的には思っています。

座長： 一つ質問ですけれども、前回の会議でスーパーシティーだとかスマートシティー、この関連をどうするのだという話が出ました。スーパーシティーとかスマートシティーといわれる都市の中でこういったスポーツ施設ってどういうふうに捉えてらっしゃるのですか。

委員： なかなか難しいご質問だと思います。私が申し上げたかったのは、つくば市は、今、市長をはじめ、スーパーシティーだとかスマートシティーを周りに取りにいつているというか、端的に言いますと。その中でやっぱり連動するかなというふうに思っておりまして、そういう意味でリアルな現場で見るというところも非常に大切ですし、一方で、バーチャルで見るというのもあるのかなと思っています。そのメリハリっていうんですかね、両方を使うような感じがいいのかなっていうふうにはちょっと思ったんですが。すみません、答えになってないと思いますが。

座長： 他に何かございますか。どうぞ。

委員： 私は陸上競技場メインで考えているんですが、それ以外にも広くいろ

んなスポーツに利用されるような、そういう施設であってほしいなと思うんですね。今回、陸上競技場の基本構想策定ですけれども、そこに行けばいろんなスポーツに挑戦できるとか、高齢者であればゲートボールやグラウンドゴルフ、あるいは今はやりの若者が登る競技ありますね（ボルダリング）、そういったものがあるとすごく広く利用されるかなと思うんですね。

前回も市民がそこ行けばランニングを楽しめるとか、ジョギングコースがあったらいいなとか申しあげましたけども、あくまで陸上競技場ですけども、付随したそういう施設ができるといういろんな人が活用できるんじゃないかなと思うんですね。ちょっと欲張って申し訳ありませんが。

座長： 陸上競技場本体については、今日事務局がたたき台で示させていただいたように、基本的な役割としては、2ページにありますけれども、市内の小中学生の公式陸上競技会等の開催に使われる施設という、その『等』をどこまで含むんですかというご質問もありましたけども、そういったことを勘案しながら、基本的にはこういう方向でよろしいんでしょうか。分かりました。それでは基本的にはこういう方向にすることです。

それでは、付随的な役割をどんな形にしていくのかということをこれから議論していただければと思います。ご意見承りたいと思いますのでどうぞ。

委員： 付随的な役割に関していくつか視点がありまして、一つが災害に備えた対応として避難所というところも挙がってるかと思っています。前回の話し合いの中でも、地域の方、一般の方も含め、高齢者、障害者、いろんな方が使える所ができるといいなとお伝えしたと思うんですけども、場所に関してというのもすごく大きくて、まだ場所に関しては未定

と言いつつも、上郷高校の跡地という所が一つ挙がってしまして、川沿いなんですね、小貝川沿いの所だということを考えると、一般的に広域の避難は川沿いからそうでない所に離れていくのが一般的。と同時に、川沿いには、人が集まれる一定の広いスペースが欲しいというところもあると思うので、ここら辺に関しては災害に対しての、つくば市も入っているかな、広域避難協議会。確か広域避難協議会っていうのがあると思うので、そういった所で意見を聞いてみるとか、そういった役割も担っていけるのかどうかというところは、専門の方のご意見も伺いたいなと考えています。

もう一つ、付帯的な役割の中で、例えばジョギングのコース、ウォーキングのコースも挙がっていると思うんですが、私、高齢者施設でリハビリを担当してしまして、リハビリを行う目標として、おうちの中での生活を安全に行えるようにという目標はよく挙がるんですけども、じゃあその先、おうちから出て何ができるかってなったときに、車を運転される方に関しては、買い物や趣味活動の場に出向いて行けるんですけども、そうでない方、車がない方は外でのリハビリの目標、生活の目標がなかなか見いだせない方が非常に多くて、つくば市のほうでも公民館などにいろんな職種の方が出向いて出前教室などという企画もしてくださっているんですけども、それは、自分で作り上げる趣味とはまた違ってきますので、先ほどもお話があったように、やっぱり行きたい、そこに行ってこれをやりたいっていうような施設を造るには何かしらのアクセスしやすさっていうところも必要かと思うんです。

先ほどもお話があった笠松の陸上競技場なんかは規模が違うということもありますが、線路が二つ三つあって、国道があって、特別都会ってわけではないけれども、やはり環境に、立地にかなり配慮した上で造られている場所だなと思ひまして、歩いて行ける範囲の人口というと

様式第1号

ころは全然違うなと考えています。

特に上郷高校の跡地なんかだとエリアの半分が川で占められてしま
いますので、歩いてこられる範囲が非常に限られて、実際どのぐらいの
方がウォーキングコースとして使えるのかというところちょっと慎重な対
策が必要になってくるかなと考えました。

座 長： 大事な提案だと思いますね、これは。だからそういうことができるよ
うに将来的には考えながらいくんだらうなと思いますけれども。あり
がとうございます。他に何かありませんか。

座 長： 防災機能を備えたという表現を使っていますけれども、これも極めて
範囲が広いと思います。具体的にこれからどういうふうにするのかと
いうこともまた各委員の皆さまからご提言をいただいて進めればいい
なと思いますけれども。

座 長： よろしいですか。それでは議事の2番目に入りたいと思います。重点
導入機能と整備水準設定について。事務局から説明をお願いします。

(事務局から、重点導入機能と整備水準設定について説明があった。)

座 長： ありがとうございます。ただ今、重点導入機能と整備水準の設定に
ついて説明いただきました。ただ今のところでご質問、ご助言、ご意見
等ありましたら挙手をしてお願いします。

委 員： 想定の中に雨天走路が入っていることは非常に重要だと思います。

この3レーンで70メートルという規模がどうかという議論ではなく
て、今回は陸上競技場ということなんですけども、この中に雨を避けら
れるスペースが広くあるというのは、例えば避難所としての機能も高
めますし、それからイベントですね、例えば暑い時期に逃げる場所があ
るか、あるいは体の不自由な方が長い時間とどまることができるかと

というような視点で考えても、雨が避けられる、まあ日が避けられるですね、すなわち。そういう所が整備されているというのは大事なことだと思います。

ですので、雨天走路として、今、東洋大学の例が出て、大変きれいで便利なんですけれども、あまりそういうきれいに狭い雨天走路を想定されずに、走路は必ずしも広くなくても、下が例えば土でもいいので、雨が避けられる大きな屋根が所々にあるとか、あるいは、これはコストの問題あると思いますが、広い範囲で屋根が架かっているというのは、実はあまりそういう施設はないんですよ。国内、とても少ないです。

屋根が架かっている施設というのは、寒い時期にも霜が降りにくく、そういう面でもとても利便が高いんですよ。

ですから、例えば規模は大きくないけれども、つくばの競技場は屋根があるのがいいよねっていうのは一つ売りにできるところで、避難所の機能を考えても、障害者の方のインクルーシブな活動を考えた上でも非常に重要な点になると思いますので、ここはできれば膨らませて考えられたらいいなと思います。

これは理想ですけれども、今は理想を述べていい役割で出させていただけだと思いますので、その点は、単に雨天走路があるというだけではなくて、雨が避けられるスペースが広くあるというような状況がつくれたらとてもいいと思いますし、あそこ雨降っても練習できるから、あるいは、雨降ったときにもいろいろやれることがあるからということで利用が高まるということが、競技場の付加価値を非常に高めることだと思いますので、雨天走路にとどまらずに少し雨が避けられるスペースを、スタンドの形状を利用したりしながら広い範囲で雨が避けられる場所があるというのは大事なんじゃないかなと思います。

例えば笠松の競技場は、サブトラックに競技場のストレートの部分

を、5レーンぐらいですかね、丸々覆うような屋根があって、横は吹きさらしで壁があるわけではないんですけど、これは非常に利便がいいです。

他は規模が大きいのですが、例えば横浜なんかは駐車場と一緒にスタンドの所を広く棟を上げて中にそういう場所を造ったりしています。まあそれはあんまり現実的ではないと思いますが、とにかく雨が避けられるスペースを広く造るとするのは競技場の付加価値を高める、それから利用の頻度を高める重要な点ではないかなと思います。

座長： ありがとうございます。どうぞ。

委員： 選手のトレーナー活動というのはどういう所でやるんでしょうか。

委員： 通常、トレーナー活動、いわゆるコンディショニングの活動というのは、例えば大きい試合でしたら競技場のスタンド裏のコンコースの部分でやったり、競技場の外壁の外側で雨が避けられる所でやったり、そういうことが多くなります。かなり規模の大きい競技場でないとダッグアウトの部分でまとまって使わせていただくということは難しいことが多いように思います。ただ、そういう一見無駄なようなスペースがあることでそういう活動が非常にやりやすくなるという。大会の安全を守ったり、選手のコンディションを整えたりする上でも非常に大事になるんじゃないかと思います。

委員： 今のお話の続きなんですけれども、昨年、中止にはなってしまいましたが、茨城の障害者国体に携わりました。全国から来る参加者の中で身体障害がある方のトレーニング、あるいはコンディショニングに携わる予定だったんですけれども、やはり需要としましては、今おっしゃったような、競技場の中、特に屋内で一定のコンディショニングをするスペースがある、特にベッドや広いベンチがあって、腰掛けたり、多少横になったりしながらコンディショニングをできる所がアスリートにと

っては非常に重要だという意見を頂戴いたしました。

県内の障害者国体の競技場で、場所によっては用意できる所もあるんですけども、無い所ではパーティションで区切ってベッドを用意してという形でやるしかなかったんです。今回の競技場は障害者スポーツがメインではないとは思いますが、そういった需要もあるというところをお伝えしようと思いました。

座長： ただ今いただいたようなご意見を基に、陸上競技場として第3種、または第4種の公認、どちらを目指すのかという、その議論もちょっとしていただきたいなと思いますけれども、その辺はいかがでしょうか。

委員： 先ほども申し上げましたけども、できれば、3種を希望するんですが、他の委員の方からもお話があったように、非常に、付随の施設に魅力があれば、4種であってもつくばの競技場はいいよと。例えばサブグラウンドにしても、茨城県の競技場でサブグラウンドもしっかりしているのは笠松だけです。石岡は、周りはコンクリートですから、アスファルトの上で準備運動をしている。龍ヶ崎も同じです、サブグラウンドがありません。そういう意味で、サブトラックなり、あるいはこの雨天走路などが整備されれば、4種であってもつくばの競技場はいいよというような、こう、なるのかなとは思いますが。

座長： サブトラックまでの話になるとあれですよ、国立競技場もサブトラックないんですよ。だから結局、日本でやる国際大会、陸上競技大会は国立競技場ではできないんですもんね。そういう意味では、サブトラックを設けて付帯設備、付随施設をどうしていくかというのは大変大きな問題だと思いますね。まああったらいいなと思いますけれども。

委員： そうですね、魅力ある施設になると思います。準備運動ができますから、外で。先ほど言ったように、県内では準備運動ができません。雨降ってもそうですね。周りがもうアスファルトで、その中で子どもたち

様式第1号

は準備運動をしているわけですから。

座長： 他はいかがでしょうか。

委員： 筑波大学にサブは無いんですよね？

委員： 無いです。

委員： もう一つよろしいですか。陸上競技場、競技会が中心になるんですが、やはりそれだけでは閑古鳥なんですね。やっぱり陸上競技場だけでなく、その周りの施設が多くの人に利用されたらいいなと思う。例えば、競技場の中は使えなくても、外のサブグラウンドなり、そこでトレーニングができる団体もあるんですね。

いつも競技場を開放されるとは限らないですよ、維持管理がありますから。陸上競技はどうしても競技会を中心に考えてしまうんですが、それ以外にも活用されるように、競技場の中には入れなくても外でトレーニングできる、あるいは運動できるような場所であってほしいと思います。

座長： 他にいかがですか。この会議は議論をしていただいてつくば市に提言をする場所ですので、その提言が具現されるかどうかはまた次元が違う話ですけども、取りあえずは今、委員の皆さま方がお考えになっているような、つくば市の陸上競技場の在り方について、そしてまた具体的には、3種だとか、4種だとか、そしてまた付随施設としてどんなものが必要なのか、つくば市にあったらいいなというようなことをご提言いただければと思います。

委員： 競技場が3種か4種かというのは私もよく分からないので、それはどちらでもいいと思っています。使い勝手が良ければどちらでもよくて、それよりもそこへのアクセスというところで、例えばペデと一筆書きでつながるようなものとか、最寄りの駅とか、移動ですかね。

つくばってすごくいろんなルートがあるんだけど、どこに行っ

でも同じ所を帰ってくるしかなくて、それじゃとてもつまらないので、この競技場を通過して、別のいろんなルートを使ってセンターに帰ってくる、そういう一筆書きでいろんな所を通過してわくわくするような、そういう競技場であるといいなと思っています。

それが、いろんな人との出会ってというものにもつながってくるんじゃないかなと思っているので。

この辺の、大学もそうなんですけど、旧谷田部の所でふつっとペデがなくなるとか、そういう、つながっていればすごく楽しいのになっという場面がたくさんあります。そういうものを全部取っ払って、つくばが一つにつながれるような仕掛けが、他の課とも連携して、縦割りを切り開いてやっていけるといいんじゃないかなというふうに理想を述べさせていただきました。

座長： できたらいいなと思いますね。

委員： 今の委員のご意見、私もそのとおりだと思います。やっぱり 1+1 は 3 にもなるし、4 にもなるんで、そういうふうにお願ひしたいと思います。

私もサッカーとか陸上は嫌いじゃないんで見には行くんですけど、観客席については若干気になって。つくばって芝の町だから、天然芝はいいし、観客席も全部芝にしたらいんじゃないかなって思ったりするんですよ。やはりちょっと古臭さを感じて、すみません、正直に言いますと、写真のスタジアム載ってましたけど、そういうスタジアムを今後追求するというのではなくて、24 ページの京都の競技場かっこいいなとは思いますが、別に芝生で、それこそ屋根が付いてたほうがよっぽど使い勝手がいいんじゃないかなって。自由度も高まりますし。つくばって芝の確か生産量が前は日本一だったし、そういう発見の場にもなるしと思った次第です。

座長： 他いかがですか、今までのところで。

様式第1号

事務局： すみません。いろいろご意見をいただいておりますが、できればこのたき台の、3種とか、3種相当の4種というところに対してのご意見を少し委員の皆さまからいただきたいと思っています。というのは、次回にも関係してくるのですが、やはり公認種別によって規模の想定が多少変わってきますので、この辺もう少し、種別についてご意見いただければ事務局としてありがたいと思っています。

委員： 結構悩ましい話だと思うんですけど、この3種と4種っていう話。例えば大会でも何でも、3種でも4種でも同じことがやれるのであれば、造る原資は税金だってことを考えるとところになるんですけども、つくばらしさっていう部分を出すことも大事。

じゃあ、つくばらしさって何かと考えたんですけど、例えば陸上競技場だけじゃなくて、その周りの設備も考えた場合、ウォーキングとかジョギングをやる人って、車での移動が必要な立地だと思うんですけど、その人たちがどういう観点で選ぶかっていったら、この辺だと洞峰公園のように、要は暑さをしのげる、景色もいい、緑がたくさんあって走っていて景観がいい、そんなことも一つポイントだと思うので、そこにも予算がかかってくるのかなんていろいろ考えながらですね。

あとはやっぱり競技場周り、夏場の暑いときに、周辺に緑が少なければ日中にわざわざそこを利用する人は、ほぼいないと思うんですよ。

だから、やれることが同じであれば4種でもいいのかなと思ったり。そのところ、多分、皆さんご意見あると思うんですけど。4種で予算が少し余れば周りに木を植えたり、ベンチ置いたりして、陸上に関係ない人が公園として利用する、そういう形も、そこでお金使ってもいいのかなとか、ちょっと個人的にそう思ったんです。

委員： 先ほども申しあげましたけども、付随した施設があるのであれば4種でもいいかなとは思ったんですが、やっぱり自分は、陸上競技の大会を

様式第1号

主催する側としてはどうしても3種を希望したいと思います。これはまた同じことの繰り返しになってしまいますが、3種でということで申し上げてまいりました。県のほうにも何とか3種を実現するからというので大見えを切ったんですが、まあそれはちょっと難しいとは思いますが、人口二十数万を抱えているつくば、やっぱり3種は欲しいなっているような気持ちです。

委員： 今、私が言ったのは、あくまで広い意味で捉えた場合で、さっきも悩ましいと言いましたが、やっぱり陸上競技場として使用する、利用することを考えた場合、そこはやっぱり3種になってしまうんですね。見方の問題だと思うんですけども、あくまで陸上競技場っていうことを考えるのであれば私も3種だと思います、個人的に。

委員： 競技をなさるときに3種が必要であるというのは、3種相当の整備の公認で4種というのは陸上的には考えられないんですか。

プールなんかはよくあるんですけど。公認を取るときに相当の整備はするけど、お金が高いから1段下げてっていうのは意外とよくある。陸上でもそれができるのであれば、3種相当の4種っていうのもありなのかなと。素人考えですが、そう思います。

委員： 悩ましい。

委員： 悩ましいところだと思います。

座長： 他の皆さんいかがですか、今、3種というご意見が出てきましたけど。

委員： 私は正直、この会議に来るまでこんな1種、2種、3種って知らなかったものですから、この表を見て知った次第でして、多くの市民は多分あんまりこの辺は分かってもないし、どちらでもいいというのが多分、多くの意見だと思うんですよ。

私はやっぱり名前よりは実を取るべきだというふうに思っています。やはり貴重な税金から造るものですので、それから言うと、4種で

も技術的にいいやつを造っていく、要するにこういうマトリクスにこだわることなく、つくばらしい、いい競技場を造っていくというほうが自分としては上位にあると思うので、4種でも技術的には2種に近いというようなところに持っていったほうがいいのかと思います。

すみません、素人なので。

委員： これも確認なんですけれども、3種と4種のお金の問題っていうのは、20ページに公認料はありますけれども、新設のときで10万円しか変わらないし、継続だと5万円しか変わらない。これ5年間ですよ。いくらでもない気はするんですよ。どうしてそんなにこだわっているのかなって逆に思うというか。で、基本的なこの4ページの構想を考えると、もう3種に相当してくるんじゃないかなという気はするんですけれども、そうするとそんなに違ってないんじゃないかなというのが一番の感想です。ちょっと意見になってしまいましたけど。

座長： 事務局、何かないですか。

事務局： 公認料につきましては、資料の20ページの額なんですけれども、3種と4種のコストの違いは、もう一つ、備品の違いというのが25ページにありまして、用器具の違いですね。3種の場合は1億7620万、4種の場合は1億5320万円ということで、約2300万ぐらい違いがあります。

委員： この場では何でも自由に申し上げていいということですので。私はやっぱり5年後、10年後、15年後に、つくばにしっかりとした多くの人を集められる競技場があってほしいというのが大きな希望です。コストとかいろんな流れがありますので難しいことなんでしょうけども、やはり今じゃなくて、5年後、10年後に、つくばは4種なのかとちょっと残念な気持ちになるんですよ。これはあくまで私の希望ですが、陸上競技に限らず、大きなサッカーの試合、JリーグのJ1は無理としても、J2、J3、その辺りの試合を誘致できるような。

様式第 1 号

とにかくつくばは今、大きな競技会というか大会を誘致できる施設が全くございません。ですから、昨年の国体でも、つくばは、そういう意味で屋内、屋外、まあ自転車のロードはありましたけども、全く施設がない状況なんですね。ちょっと私としては残念な思いをしているので、いろいろ予算的なものもあるんでしょうけども、やっぱり今、実現しないと後々実現しないでしまうのではないかという危惧もあるものですから。そういう種別の改定はまた後でできるんだと思いますけどね。5年後の改定、あるいは10年後の改定にできるんだと思いますから、私としてはやはりこのつくばで、そういう競技場を回したらいいなっていうのが正直な気持ちです。

座 長： 3種、4種の種別のところで、他にご意見は。

委 員： 私もちよっとこの種別に関しては知識がなくて、ここで勉強させていただいたのですが、一市民としましては特別3種である必要はないのかなと感じています。ただ、先ほどからお話に挙がっているように、たとえ4種であっても、もともとかなえたい競技の誘致ができる設備であること、それから付帯施設がどれだけ充実したものになるかというところをここで話し合えればいいのかと思いました。

座 長： 種別のところはよろしいですか。皆さんの意見は大体、3種、4種、そんなに変わらないんだったら3種でもいいんじゃないのというご意向であろうと思いますし、どちらでもいいという話もあるんですけども、どういうふうにいたしましょう、決を採る問題でもないと思いますけれども。

事務局： 事務局から1点だけ補足なのですが、このたたき台の4種の3種相当というのは、先ほど何度も言ったように限りなく3種に近いんですね。例えば18ページの表で見ただくと、4種の走路、直走路のところだけで比べると、4種は6レーンでもいいとなっています。ただ、

様式第1号

やはり先ほど委員の皆さまからもご意見があったように、そこは陸上選手権であったり、その他の大会について前回からもお話あったことから、今回、たたき台としては3種、または限りなく3種相当の4種という形を取らせていただいているということを共有化させていただきたいと思います。じゃあ何が違うのかというと、先ほど担当者からも説明がありましたように、備品の所ですね。ここは大きく違うというところが一つポイントかなとは思っております。

委員： ありがとうございます。今のお話を伺って、ハード的には3種相当のものを造っておいて、公認は4種。使用状況、需要を見た上で2期案として3種へのアップを考えるっていうところはいかがでしょうか。

事務局： 無理ではないと思いますけれども、どちらかだと思っんですね。3種を取って。後に下げることは、すぐできやすいですね、普通に考えると。ただ、上に上げるとなると、当然、先ほど申し上げたように少し費用がかかるので、その辺をどう見るかというところは一つポイントとしてあるのかなと事務局としては思っています。

座長： 他にも何かいいですか。3種、これでなけりゃ駄目だとか、いや、4種、これでないと駄目だとかいう、何か別なご意見は。

委員： なかなか委員の先生方に3種、4種っていう決断を迫るのは難しいかなと思います。今のこの話し合いの内容をまとめていただいて、事務局のほうで判断してもいいのかなと。まあ事務局にいつちゃうのもちよっと無責任なんですけど。どうでしょうかね。私たち委員で3種か4種を決めてほしいということでしょうか。今、各委員が意見を申し上げた状況を見て事務局のほうである程度の方向付けをしてもいいんじゃないかなと思います。

事務局： そうですね、委員の皆様のご意見を踏まえて、ここで決定ということではなくて、こちらでその辺は検討していきたいと思います。

委員： 今、他の委員の方もおっしゃったように、なかなかこれ、今決めるのは難しいと思うんですけど、一つ大事なことは、先ほど事務局のほうからもありましたけども、最初に4種で造って、後から3種に上げるというのはなかなか難しいところだと思うんですね。ただ、3種で最もコストを下げたときにどれくらいかというようなところは検討の余地があると思います。

25 ページで、常備を希望する用器具として、例えばハンマー検定器とか、やり検定器とか、あったほうがいいけどなくてもいいというようなものがあって、そういうものに関して、例えばこれを最もスリムにした場合に、この25ページの表がどれぐらいの差になるのかということですよ。もちろん4種のほうも削れることになりますから、どちらも下がって差は一緒だということになるかもしれないんですけど、例えば4種のほうはこれぐらいとしておいて、3種のほうで最もスリム化したときにどれくらいかというのは一度検討していただいて。

先ほどご意見もありましたが、稼働、利用の実態を見て、最終的にはふさわしいものにしていくということが適当だと思うんですけども、まず4種で公認を取って後から3種に上げるというのはほぼこれは難しいだろうと思いますので。

3種でやると何がいいかというのと、その時点で3種にふさわしい予算確保がされて備品は充実するということになる。そうすると、規模の大きい競技会も必要に応じて開きやすいということになると思います。それはやはり初回の整備、最初に造るときしかチャンスがないのではないかなというのが正直なところですよ。ですので、3種で公認を取る場合に、最小限にした場合にどれぐらいになるかというところは、ちょっとお手間なんですけども算出いただけると。

これも何というか、血税が注がれるわけですから、同じ機能であれば

様式第1号

安いほうがいいことは間違いないんですけども、少なくとも今、4種にしてグラウンドを土にしますよとか、レーンを6レーンに減らしますよとか、そういう話ではないことはもう私も承知しておりますので、3種にしたときに最低のコストだとどれくらいが考えられるのかというところは示していただけたらありがたいなと思います。

座長：事務局、大丈夫ですか。回答できますか？

事務局：はい。25ページに常備を希望する用器具がありますが、ハンマー検定器などは4種には入っていないと思います。3種は(1)ということなので入れていると思うんですが。ビーチパラソルとかもあるんですね。では、整理してから出したいと思います。

委員：すみません、お手間お掛けします。よろしくお願いします。

事務局：1点だけ委員に確認させていただいてもいいですか。

最初、4種で整備した場合、3種に格上げするのは難しいというのは、4ページのたたき台を見ると、備品倉庫の面積なども3種相当を用意するようになっているんですが、要は市のほうで予算を確保するのが難しいから3種に上げにくいのか、それとも日本陸連のほうで4種から3種に上げる例というのがあまりないので難しいのか、もし分かれば教えていただければと。

委員：この点に関しましては、全く私の印象で、それなりに機能しているものを一つ種別を上げるために追加の予算を確保するというのは市民の同意を得られないのではないかというところが一番大きいかなと思います。実際はその余分にかかるお金は、最初も同じなんですけども、最初、全体像として整備がされるときには、できれば考えられる最大の利便を考えて整備した上で、必要ないところは省いていくというような形がいいのではないかと思うんですね。最初の規模が小さくなるとどうしても活用の発想自体も小さくなっていくんじゃないかというの

様式第1号

が。ですから最初はごまかしやすいとかそういう話ではなくて、最初の規模が大きいことで、例えば事業の規模も大きくできるというようなところは重要な点だと思うんですね。それを後から、拡大するのでちょっと格上げしますっていうのはなかなか納得していただけないとか、分かりにくいのではないかなというのが私の印象です。特にこれまでにそういう事例がなかったとか、逆に困難な事例があったというような、そういう事実に基づいた見解ではないです。

事務局： ありがとうございます。

委員： 9 ページの真ん中辺、(3)の②で例として栃木県さくら市総合公園、さくらスタジアムの例が記載されていますよね。で、今は非公認だけど、3種を目指している競技場もあるということなので、可能ではあるということでもいいのでしょうか。

事務局： そうですね、さくらスタジアムにつきましては、インフィールドも天然芝で3種相当の整備をしているんですけども、今現在は公認を取っていないと伺っています。

座長： 時間も迫ってきましたので、どなたか最後、何かございましたら。

委員： 私も、4種から3種への格上げというのは現実的に難しいという印象です。要するにそれだけのコストもかかるでしょうし、十分な理解が得られなくなってしまうんじゃないかなと。逆に3種から4種に下げるのは、利用率も稼働率も悪いとか、維持管理には4種のほうが安くなるとか、格下げのほうは比較的できるのかなと思います。格上げというのはやっぱり市民にとってもちょっと理解できないんじゃないかなというのが正直なところです。

座長： ありがとうございます。この3種、4種の問題も判断が大変難しいところは、つくば市としてふさわしい陸上競技場が、3種なのか、4種なのか、そしてまた小中学生の公認記録を取る競技場としてどちらが

様式第1号

ふさわしいのかというような観点に立って判断できると思います。

徐々に大変厳しい判断をしていただかなきゃいけない議題に踏み込んでこななければいけないと思います。取りあえず今日は、計画目標の調整、重点導入機能、整備水準設定についてご意見、ご提言をいただきました。あらためてまた次回の会議までにまとめさせていただいて方向性を見いだしていきたいなと思います。おおよそ方向性が導き出されてきているなとは思いますが、次回にまた事務局としての提言をさせていただきたいと思います。本日は長い間議論をいただきましてありがとうございました。事務局に返します。

事務局： 座長、ありがとうございました。長時間にわたり、さまざまなご意見、ご助言等ありがとうございました。以上をもちまして第二回検討会議を閉会いたします。

第2回 陸上競技場整備基本構想策定検討会議

配布資料

目次

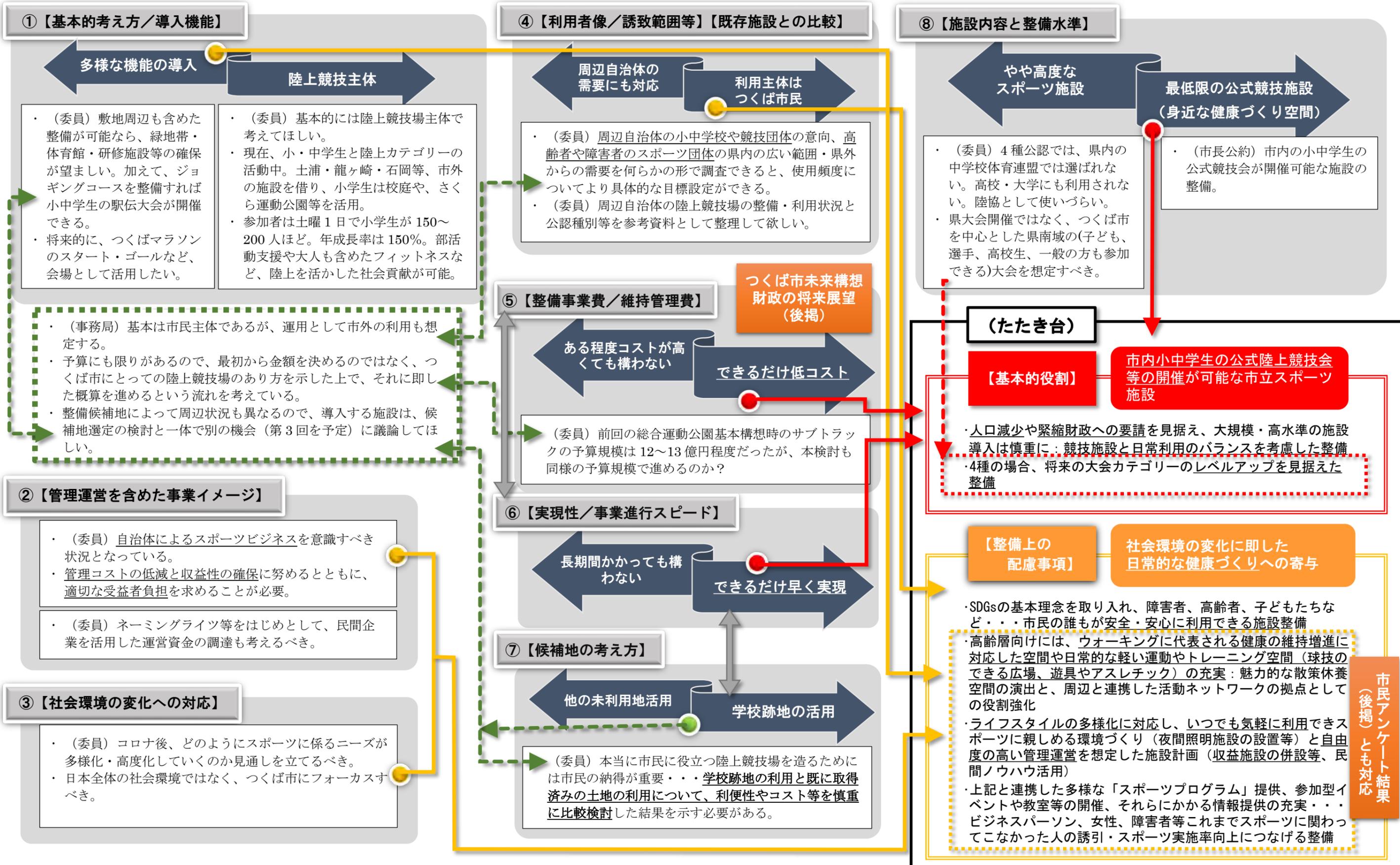
1. 全体のスケジュール.....	1
2. 計画目標の調整（管理運営イメージ等を含む目標イメージ）・・・第1回検討会で提示された意見の概要との対応.....	2
2.1 基本的な役割と整備上の配慮事項（たたき台）.....	2
2.2 付随的な役割（たたき台）.....	3
3. 重点導入機能と整備水準設定.....	4
3.1 想定する施設内容と整備水準.....	4
4. 参考資料.....	5
4.1 財政の将来展望「つくば市未来構想 2020□2050」.....	5
4.2 【民意】の把握：市民のニーズの再確認.....	6
4.2.1 アンケート調査結果：陸上競技場整備にかかる市民の直接的な要請の状況.....	6
4.3 多様化・高度化が進むスポーツニーズの概況.....	7
4.3.1 多様化の概況.....	7
4.3.2 高度化の概況.....	8
4.4 稼働率の考え方.....	8
4.4.1 プレーヤーの視点から見た稼働率.....	8
4.4.2 観客席（大会・イベント等）の稼働率.....	8
4.5 他自治体の類似施設の事例調査.....	9
4.5.1 他自治体の類似施設の事例調査のまとめ.....	9
4.5.2 事例調査結果一覧表.....	11
4.6 近隣の陸上競技場の公認取得状況.....	14
4.6.1 都道府県別公認陸上競技場一覧表（2020年2月19日現在）.....	14
4.6.2 茨城近隣の陸上競技場の公認状況.....	14
4.7 陸上競技場の公認レベルについて.....	18
4.7.1 公認陸上競技場および長距離競走路ならびに競歩路規程 2020年4月1日改正.....	18
4.7.2 陸上競技場公認に関する細則 2020年4月1日改正.....	20
4.7.3 公認競技会規程 2020年4月1日改正.....	21
4.8 コスト比較.....	22
4.8.1 インフィールドの天然芝と人工芝のライフサイクルコスト比較.....	22
4.8.2 陸上競技場メインスタンドのコスト比較.....	24
4.8.3 第3種と第4種の備品コスト比較.....	25
4.9 多様な利用の促進及びコスト低減等に向けた参考資料.....	26
4.9.1 施設種別ごとの主要な検討項目と各機能に対応した工夫例.....	26
4.10 駐車場の規模想定.....	27
4.10.1 同時在園者数の考え方.....	27
4.10.2 必要となる駐車区画数の想定.....	28

1. 全体のスケジュール

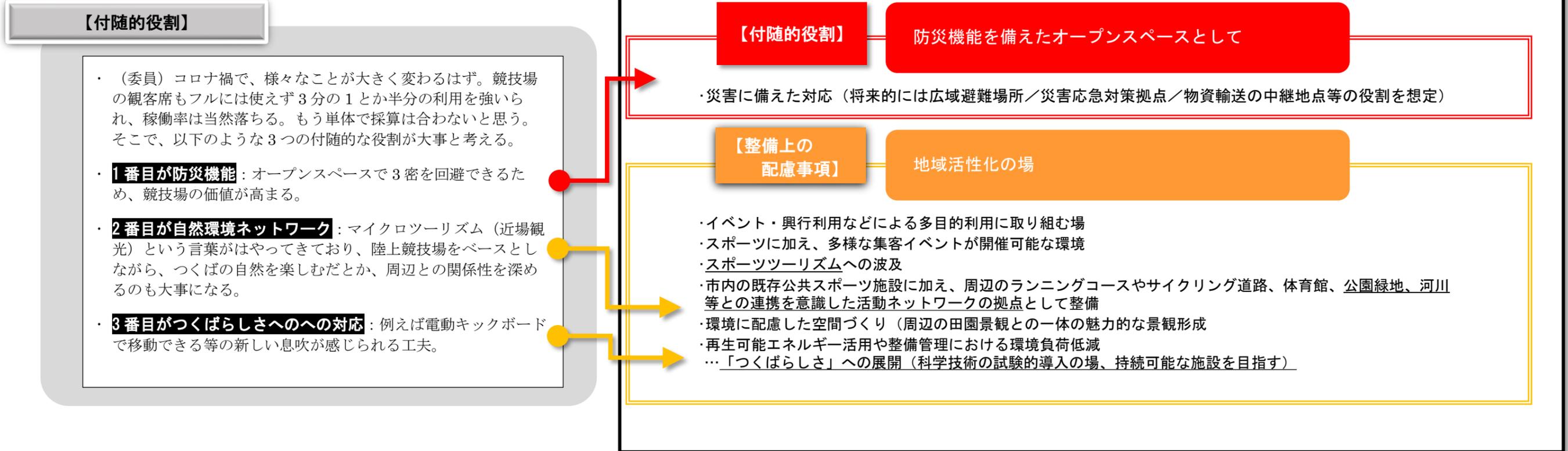
回数	予定時期	主な協議内容	提示予定資料
第1回	2020年 7月30日	<ul style="list-style-type: none"> 委員会の主旨、スケジュール、これまでの検討状況等の確認 計画条件の確認（社会状況の変化、上位計画と周辺施設との連携、市民ニーズと団体等の意向等）／課題と対応の考え方について意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> 計画条件のまとめ
第2回	9月24日	<ul style="list-style-type: none"> 計画目標の調整（管理運営イメージ等を含む目標イメージ、重点導入機能と整備水準設定：誘致する大会カテゴリーの考え方等） 	<ul style="list-style-type: none"> 目標像・整備理念案 近隣自治体の整備事例（整備水準と運営管理面の課題と工夫等） 整備レベルごとのコストの比較
第3回	11月上旬	<ul style="list-style-type: none"> 平常時と大会時の利用形態想定とこれに伴う付帯施設の内容と規模の想定 具体的な整備内容案（敷地に即した施設内容と規模の設定） 	<ul style="list-style-type: none"> 整備内容（導入施設内容と規模・整備水準）
第4回	12月上旬	<ul style="list-style-type: none"> 基本構想案のまとめ 事業形態と資金計画（公園としての都市計画決定等）を含む管理運営イメージの調整 概算を含む段階整備イメージの調整 	<ul style="list-style-type: none"> 基本構想案 管理運営イメージ（案） 概算を含む段階整備イメージ（案）
2021年1月		<ul style="list-style-type: none"> パブリックコメント実施（広報つくば1月号掲載） 	
第5回	2021年 2月上旬	<ul style="list-style-type: none"> パブリックコメントの反映の考え方確認 基本構想の最終まとめ案の調整 	<ul style="list-style-type: none"> パブリックコメントの速報結果と対応の考え方 基本構想の最終まとめ案

2. 計画目標の調整（管理運営イメージ等を含む目標イメージ）・・・第1回検討会で提示された意見の概要との対応

2.1 基本的な役割と整備上の配慮事項（たたき台）



2.2 付随的な役割（たたき台）



3. 重点導入機能と整備水準設定

3.1 想定する施設内容と整備水準

整備施設の想定-1【検討たたき台】		
運動施設	陸上競技場	第3種公認または第4種公認（第3種相当整備） <ul style="list-style-type: none"> ・ 400mトラック1面（全天候舗装8レーン／直線9レーン） ・ 練習用直走路 ・ インフィールド部は天然芝（サッカー等の多目的な球技の利用を想定）
	用器具・備品等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第3種公認に必要な用器具～ ・ 第4種公認に必要な用器具～
	観客席	観客席 2,000 席・芝生スタンド 2,000 席
	管理棟	<ul style="list-style-type: none"> ・ 管理事務スペース（受付・医務室等を含む） ・ 本部室、放送記録室、審判控室、多目的室、会議室、控室 ・ トイレ（男・女・多機能）／更衣室・シャワー室
	運動器具倉庫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3種相当の用器具・備品の格納スペース・・・将来的に県大会相当のカテゴリーも開催可能とするための余裕を確保
	雨天走路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3レーン（5.5m×70.0m）テント掛け
園地	園路広場 ・ 休憩空間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 修景・休養・緑陰空間／遊戯空間／多目的広場（ウォームアップ広場） ・ 入口・拠点広場／外周散策路、ジョギングコース
便益・管理施設	防災機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災セクションと調整して規模・内容を検討（避難場所・防災備蓄倉庫）
	屋外トイレ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害対応も考慮した男・女・多機能の各施設
	夜間照明施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ いつでも気軽に利用できスポーツに親しめる施設として、最低限の照度（200lx程度のLED投光器）を確保
	駐車場・駐輪場	普通車用 400～500 台程度 （バス 33 台分に転用できる 83 区画を含む） <ul style="list-style-type: none"> ・ 身体障害者用 10 台／駐輪場 100 台 ・ 自動車利用率・最大時同時在園者数から想定した必要数の 70%を提供。大会・イベント時等はシャトルバスを活用
整備施設の想定-2【検討たたき台】		
附帯施設	セミナーハウス等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議室・研修室等・・・地元企業との連携による物販施設も検討

※バリアフリー対応：「茨城県ひとにやさしいまちづくり条例」に配慮した整備

4. 参考資料

4.1 財政の将来展望「つくば市未来構想 2020▶2050」

財政の将来を見通すにあたって、市で公表済みの決算統計資料（決算カード）を用いて、①人口により推計値が増減する項目、②政策効果が発現して増減する項目、③現在程度の額で推移する項目に分けて行い、各費目で積み上げて推計しています。

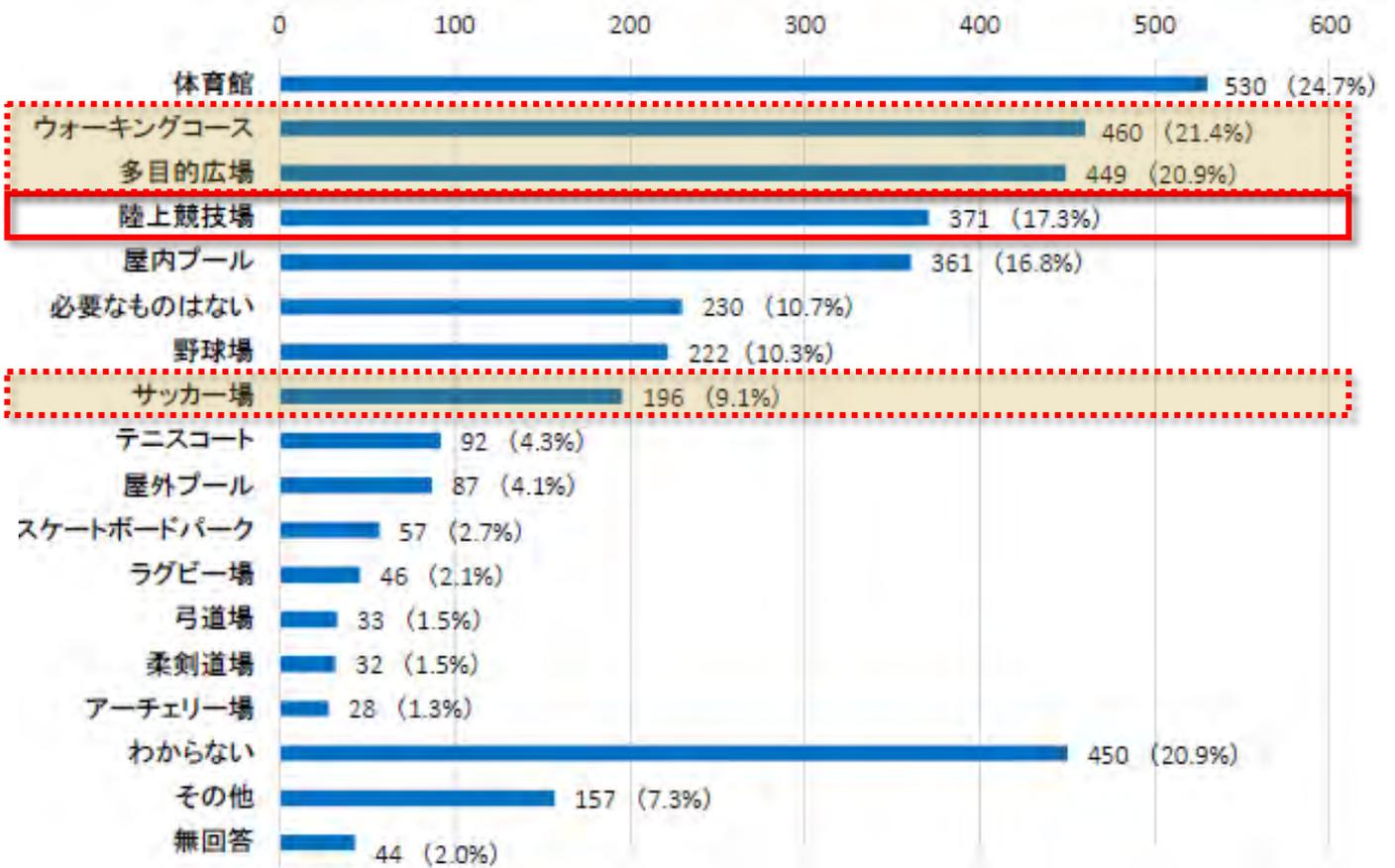
つくば市においても高齢化の進展等により扶助費が増加し歳出が増加の一途をたどる一方、歳出が歳入を上回る状況が推測されることから、行財政改革に関わる不断の努力が必要です。

4.2 【民意】の把握：市民のニーズの再確認

4.2.1 アンケート調査結果：陸上競技場整備にかかる市民の直接的な要請の状況

(1) 今後どの公共スポーツ施設を新たにつくっていくことが必要か（主なものを3つまで選択可）

・ **陸上競技場単体では約17%**であるが、
 「ウォーキング・ランニングコース」の21.4%、
 「多目的広場」の20.9%、
 「サッカー場」の9.1%
 を含めた **多目的な施設と考えればニーズは高い**といえる。



4.3 多様化・高度化が進むスポーツニーズの概況

4.3.1 多様化の概況

(1) 活動する人の多様化

- ・ 高齢化の進行に伴い、今までスポーツに親しんでこなかった人たちが、フレイル予防※を含めた「健康づくり」のために、競技系のスポーツでは無くウォーキング等のエクササイズ系の種目に取り組むようになってきている。
- ・ これまで対応する施設が少なく活動機会に恵まれなかった身障者等が様々な活動を行える施設へのニーズも高まってきた。

※フレイル予防：人は年を取ると段々と体の力が弱くなり、外出する機会が減り、病気にならないまでも手助けや介護が必要となる。このように心と体の働きが弱くなってきた状態をフレイル（虚弱）と呼ぶ。市民が健康で長寿を目指すため、行政は医師会や関係団体と連携してフレイル対策に取り組む必要がある。（公財）東京都医師会による説明文を引用・一部修正

(2) 活動時間・活動スタイルの多様化

- ・ 生活スタイルの多様化に伴って、スポーツする曜日・時間帯や活動シーンが自由になってきている。上記の高齢化進行とも呼応し、日常生活の中で身近な空間を利用した活動に対するニーズが高くなってきている。

- 点的なスポーツ施設だけでなく、緑道・散策路や自転車道の活用も増えており、これらとの連携が重要となっている。
- 都市のスポーツジムでは24時間営業とする事業者が多い一方で、女性に限定して短時間で簡単なエクササイズを行うタイプも多くなっている

(3) 活動種目の多様化（近年の特徴的な事例等）

- ・ 令和元年11月、琵琶湖を一周する「ピワイチ」、「しまなみ海道サイクリングルート」と並び、「つくば霞ヶ浦りんりんロード」が、ナショナルサイクルルート第一弾の指定ルートに選出された。こうした状況を受け、つくば市では、自転車を利用した活動および市内の種々のスポーツ施設のネットワーク型利用の強化が望まれる。陸上競技場は、こうしたネットワークの拠点の一つとなる。

4.3.2 高度化の概況

(1) 活動の高度化

- ・ 前掲した「多様化」の一方で、より高い競技レベルに取り組むアスリートのニーズも根強い。これらへの対応も考慮する必要がある。
- ・ また、ジュニアの育成についても、より高いレベルのアスリートに育てるニーズは一定数存在すると思われる。（地域特性としてのサッカー人気や、近年盛り上がりを見せるテニス等は特に注目すべき）

- 特に筑波大学を抱えるつくば市では、現役・OB・OGを合わせると全日本クラスで戦う一流のアスリートが相当数いる。ジュニア育成のインストラクターとしての人材も多いはずである。
- また身障者についても同様に、より高いレベルに取り組むアスリートがふえている。東京パラリンピックの開催がこれを後押しする流れとなっている。

(2) 大会カテゴリー等の高度化

- ・ 上記の高度な活動に対応し、より高いレベルの大会への参加ニーズ
- ・ つくば市周辺の自治体の利用や、共同で開催する大会へのニーズ

(3) 「見る」スポーツに対するニーズ

- ・ 「する」スポーツの一方で、超一流のアスリートの高いレベルプレーを間近で見たい、というニーズもある。（つくば市のアンケート結果において、中高生のニーズは多い）

4.4 稼働率の考え方

4.4.1 プレーヤーの視点から見た稼働率

- ・ サッカーに置き換えれば、1日を6つの時間帯に分割して専有使用させる場合なら、1枠2～3チームで30～40人、1日200人程度の利用があれば「フル稼働」と考えられる。
- ・ 陸上競技場の快適な利用密度（同時利用者数として、フィールドで何人、トラックで何人程度？）・・・については、日本陸連に問い合わせたが、「特に基準のようなものは想定していない」との回答を得た。

4.4.2 観客席（大会・イベント等）の稼働率

- ・ 整備する観客席数に対する来場者数の割合として算出
 - 年間の大会・イベント開催を、全ての週末（土曜・日曜）にセットできれば年間最大で100回程度。
 - これに想定規模の4000席をかけて、年間40万人の観客を集めれば100%稼働と考えられるが、現実的とは言えない。…月2回、年24回のイベントとして、年間約10万人の集客が最大限の目標と考えられる。

4.5 他自治体の類似施設の事例調査

4.5.1 他自治体の類似施設の事例調査のまとめ

- 適正な施設内容・規模・整備水準・管理形態と維持管理水準、ランニングコスト、需要予測等の参考として以下を整理した。

(1) つくば市と同程度の人口規模を持つ近隣自治体の抽出

- 関東近県(茨城・千葉・埼玉・栃木県)内で、つくば市と同等の人口規模(人口15~25万人程度)の都市を中心に、陸上競技場を整備状況を整理した。(一覧表を後掲)

(2) 日本陸連の公認施設として「陸上競技場」の有無を整理

- 人口規模との相関で陸上競技場の整備状況・整備水準を確認した。
- つくば市と同程度以上の規模の都市で、陸上競技場を整備している例が多いが、人口が少なくても公認陸上競技場を保有している例がある。
例：石岡市は7.6万人でも3種公認陸上競技場を運動公園内に保有している。

(3) 施設内容と利用実態等の整理

① 調査対象

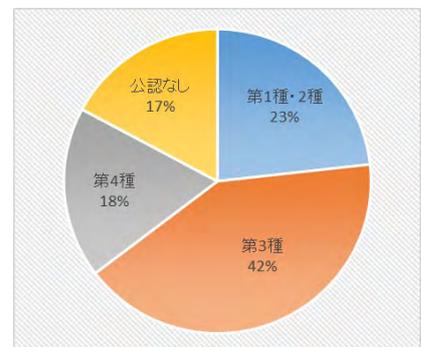
- 茨城県：水戸市、つくば市、日立市、ひたちなか市、土浦市、古河市、竜ヶ崎市、石岡市、阿見町・・・→9箇所
- 千葉県：市原市、八千代市、佐倉市、浦安市、野田市・・・→5箇所
- 埼玉県：春日部市、上尾市、熊谷市、新座市、三郷市・・・→5箇所
- 栃木県：栃木市、さくら市、真岡市・・・→3箇所
- 計 22箇所

② 公認レベル、施設内容と規模、整備水準等

- 現状は非公認だが、施設整備が揃えば3種公認レベルの陸上競技場を目指している競技場もある(例：栃木県さくら市総合公園さくらスタジアム)

日本陸連公認レベルの整備状況

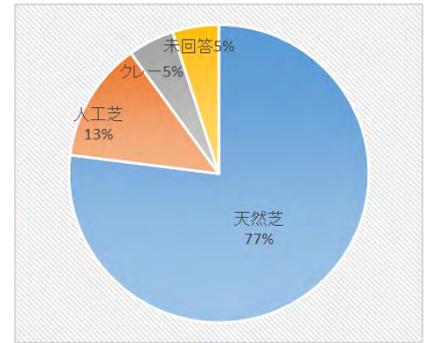
- 第1種・第2種 5箇所 (23%)
- 第3種 9箇所 (41%)
- 第4種 4箇所 (18%)
- 非公認 4箇所 (18%)



③ インフィールドの芝の状況（天然芝 OR 人工芝）

- ・ 利用状況・・・陸上競技、サッカー、ラグビー、その他
- ・ 天然芝の場合、養生期間を設けている。

- 年間の使用限度、天然芝は約 100 日、人工芝生は 365 日。
- 天然芝は維持管理、水撒き、草刈りなど日常的な手入れが必要。
- 人工芝は約 10 年使用でき、日常的な手入れは必要なし。
- 天然芝はサッカーは主に大会のみ利用可能、個人や教室で使用する場合は「週 2 回」までなどの利用制限あり。



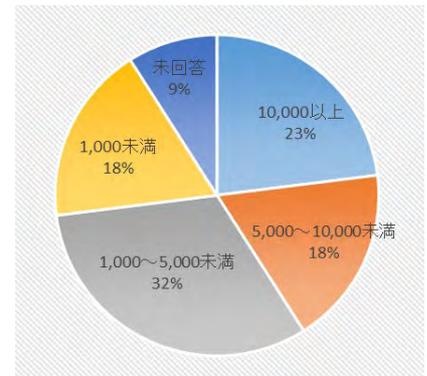
インフィールドの状況

- ・ 天然芝 17 箇所 (77%)
- ・ 人工芝 3 箇所 (13%)

④ 収容人員とスタンド外収容人員

メインスタンドの規模

- ・ 10,000 人以上 5 箇所 (23%)
- ・ 5,000 人以上 10,000 人未満 4 箇所 (18%)
- ・ 1,000 人以上 5,000 人未満 7 箇所 (32%)
- ・ 1,000 人未満 4 箇所 (18%)
- ・ 未回答 2 箇所 (9%)
- ・ 芝生スタンド席を採用しているのは 13 箇所 (59%)



⑤ 陸上競技場概要

トラックの状況

- ・ 400mトラック 9 レーン 2 箇所 (10%)
- ・ 400mトラック 8 レーン 20 箇所 (90%)

⑥ 照明設備

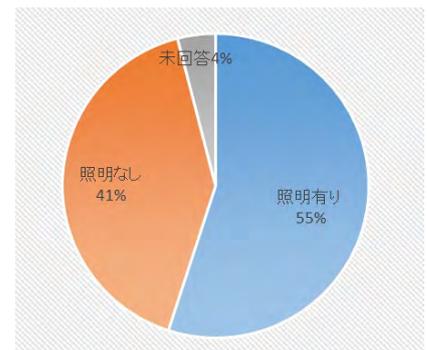
- ・ TV 放映に対応できる照度(1500Lx)を備えているのは 4 箇所、多くはレクリエーション利用の 200Lx 程度の照度を整えているは 8 箇所。

- ・ 照明あり 12 箇所 (55%)

- 1500Lx 対応 …… 4 箇所
- 100～200Lx …… 8 箇所

- ・ 照明なし 10 箇所 (45%)

- ・ 未回答 1 箇所



⑦ 開設年次

- ・ 昭和 37 年～平成 30 年に開設
- ・ 昭和に竣工した陸上競技場の多くは改修工事済みだが、予算の関係で整備・改修が進んでいない競技場もある。

⑧ 建設費用

- ・ 国庫補助金、市の一般会計、スポーツ振興くじ助成金、その他単独、複数を組み合わせて費用に充てている。

4.5.2 事例調査結果一覧表

■ 他自治体の陸上競技場の事例調査(人口25~15万人)

①公認レベル、施設内容と規模・整備水準										
市町村名	名称	・日本陸連公認レベル	・メインスタンドの構造・材質	・収容人員とスタンド外収容人員	駐車場台数	陸上競技場概要	・主な付帯施設 ・倉庫・放送室・ロッカー更衣室・シャワー・浴室・トイレ・会議室・カフェ ・バリアフリー対応状況 ・その他	・審判 ・夜間照明の有無・照度レベル	・人工芝or天然芝(インフィールド)	
■ 茨城県										
1	水戸市 (269,340人 R2.8月1日現在)	ケーズデンキスタジアム水戸	第2種公認	鉄筋コンクリート造	約12,000人 メインスタンド席7,000人、特別席/来賓席108人、記者席120人、車いす席28人、バックスタンド席3,000人、サイドスタンド芝生席約2,000人	2,020台(常設3カ所1400台、臨時駐車場620台、その他、関係者用3カ所、駐輪場あり)	トラック400m9レーン(幅1.22mブルータータン)(全天候ポリウレタン舗装)	事務室、多目的室、ウォーミングアップ室、更衣室、ロッカー室、医務室、ドーピング検査室、審判員室、記録室、用具庫、シャワー室、トイレ(多目的トイレあり)、ラウンジ、場内放送室、判定記録室、放送ブース、警備監視室、放送機器室、エレベーター2基、バックスタンド雨天走路(80m, 3レーン)、大型映像装置(高輝度LED(画寸法6.5m×11.5m)、補助競技場/天然芝フィールド22,020㎡(バミューダグラス×OS・PR)	メインスタンド屋根及び照明塔4基、照度1,500LX	天然芝フィールド7,723㎡(106m×69m)(ティフトン芝×OS・PR)
2	つくば市 (239,785人 R2.8月現在)	筑波大学陸上競技場	第3種公認			7,995台(63カ所) ※病院来客用、患者用、身障者用含む	・400mアンツーカーのトラック8コース(走路・助走路等をポリウレタン系全天候舗装材「トップエースCL」のローラーエンボスによる切削オーバーレイ工法仕上げ)			
3	日立市 (174,047人 R2.8月1日現在)	日立市市民運動公園陸上競技場	第3種公認	RC、2階建	8464人(メインスタンド1,464人、バックスタンド7,000人) スタンドは延長98m、収容数965席(車いす利用者7席を含む)	1,547台(常設3カ所417台、臨時1,130台)	・400メートルトラック8コース ・サッカー・ラグビー併用	管理棟(事務室、トイレ(管理棟内3カ所)、放送室、更衣室、シャワー室、本部室、トレーニングスペース)器具庫、写真判定装置、放送設備、トイレ2カ所、バリアフリー対応無し	無し	天然芝
4	ひたちなか市 (154,714人 R2.7月末現在)	ひたちなか市総合運動公園陸上競技場	第3種公認	2階建鉄筋コンクリート造	総収容人員15,000人 ・メインスタンド3,400席(固定席3,012席、身障者席12席、貴賓席40席、立見336人 ・バックスタンド、芝生スタンド11,600人	3,032台(常設3カ所592台、臨時2,440台)	・1週400m・9コース 礎石間距離80mの単心円形全天候型ウレタン舗装 ・サッカー場:1箇所 ・ハンマー/円盤投げ:2箇所 ・砲丸投げ:2箇所 ・槍投げ:2箇所 ・走高跳:2箇所 ・棒高跳:6箇所 ・走幅跳:6箇所 ・三段跳:6箇所 ・3,000m障害池:1箇所 ・ジョギング走路:1箇所 ・国旗掲揚台:1箇所	本部室・会議室・放送室・医務室・審判員控室・トレーニング室・写真判定室・更衣室・シャワー室・身障者トイレ	夜間照明4基(全灯照度500LX、1/2灯照度250LX、1/3灯照度150LX)	天然芝(高麗芝)
5	土浦市 (138,099人 R2.8月1日)	川口運動公園陸上競技場(J:COMフィールド)	公認なし	鉄筋コンクリート2階建・スタンド鉄骨造	約6,400人	368台(常設4カ所188台、臨時180台)	・全天候型1周400m、8コース(直線9コース) ・走幅跳 ・三段跳砂場 ・砲丸投 ・円盤投 ・ハンマー投 ・やり投 ・サッカー場	事務室、医務室、更衣室、倉庫、便所、会議室、放送室	薄暮時、トラックの補助灯レベルの照明(水銀灯3灯)	天然芝
6	古河市 (142,414人 R2.7月1日現在)	古河市中心運動公園陸上競技場	第2種公認	鉄筋コンクリート造2階建	メインスタンド1,650人 芝生席1,650人	1,190台(常設540台、臨時650台)	全天候舗装(ウレタン塗装、トップピング仕上げ) 8レーン	審判員室、備品倉庫、放送室、ロッカー更衣室、水シャワー、トイレ、屋内練習所、管理事務所、バリアフリー対応)、多目的観覧室、計測室	無し	天然芝

7	龍ヶ崎市 (76,810人 R2.8月1日 現在)	流通経済大学龍ヶ崎 フィールド 正式名称: 龍ヶ崎市陸 上競技場 (たつのこ フィールド)	第3種公認	3階建て 鉄筋コンク リート造・ 鉄骨造(耐 火建築物)	メイン523席、バック512 席、芝生約1600人、車い す使用者観覧スペース7席	174台	全天候型舗装400mトラック8 レーン、跳躍場(幅跳び、三段 跳び)、砲丸投サークル、ハン マー投げサークル	本部役員室、放送スペース、記録ス ペース、医務スペース、身障者観覧ス ペース、事務室、観覧室、男子更衣 室、男子シャワー室、女子更衣室、女 子シャワー室、メインスタンド倉庫、 男女トイレ、多目的トイレ、屋外倉庫 バリアフリー対応状況:選手出入口、 車いす使用者観覧スペースにスロープ	照明塔4基(鉄 骨造、最高高さ 31.90m、最大 照度1000LX)	天然芝(ティフ トン、ペレニア ルライグラス)
8	石岡市 (74,019人 R2.8月1日 現在)	石岡運動公園 陸上競技場	第3種公認	コンクリー ト造	メインスタンド500席、 メインスタンド以外(芝 生)の収容人員2,000人	650台	・一周400m(半径36.306m・直 線85.000m)8レーン ・水濠、砂場ピットあり ・全天候型	外周に1kmのランニングコース、審判 員席、給湯室、放1送室、倉庫、男女 更衣室、シャワー室(各4)、男女ト イレ	無し	天然芝
9	阿見町 (47,865人 R2.8月1日 現在)	阿見町総合 運動公園陸 上競技場	公認なし	鉄筋コンク リート造 地上2階建 て260㎡	240人	310台(4カ所)	400mトラック8コース	器具庫、事務室、放送室、更衣室、 シャワー、トイレ、会議室	無し	天然芝
■ 千葉県										
1	市原市 (274,521人 R2.8月1日 現在)	ゼットエーオ リプリスタジ アム(正式 名称:臨海 競技場)	第3種公認	鉄筋コンク リートプレ キャスト4 階建て	総数14,051人、メインス タンド5,816人、バックス タンド2,699人、サイドス タンド(芝生)2,056人、 立ち見3,480人	457台(6カ所)	面積34,601㎡、全天候ウレタン 舗装1周400m×8コース 陸上競技、サッカー、ラグビー	医務室、更衣室、放送室、記者室、ト イレ(バリアフリー2カ所)、トレー ニングルーム、電光表示板1基など	4基 980キロ ワット、水平面 照度1,500LX	ディフイトン芝 (105m×72 m)
2	八千代市 (201,341人 R2.7月末現 在)	八千代市総 合グラウン ド	第4種公認	鉄筋コンク リート造1 階建	総収容人員 約4,200人 (メインスタンド1,701 人、車いすスペース3台、 芝生スタンド 収容人員 約2,500人)	261台(常設141台、 臨時120台)	トラック全天候ポリウレタン舗 装1周400m 8コース (トラック:陸上競技等 フィールド:サッカー、ラグ ビー、ターゲットバードゴルフ 等)	・管理棟(事務室、トイレ、倉庫、本 部室・記録室、放送室、役員控室、審 判控室、記者控室) ・別棟(更衣室、シャワー室、トイ レ、多目的トイレ(2室)、救護室、 会議室)	有り(4基)	105m×68m ロングパイル人 工芝
3	佐倉市 (174,237人 R2.7月末現 在)	小出義男記 念陸上競技 場(旧岩名 運動公園陸 上競技場)	第3種公認	鉄筋コンク リート造 地上3階建	メインスタンド1,022人、 芝生スタンド4,100人	409台	面積21,486㎡全天候型、400m トラック8レーン、投てき3カ 所、跳躍ピット3カ所	倉庫、器具庫、写真判定室、男女別 ロッカー更衣室(シャワー室)、トイ レ(トイレはバリアフリー対応)、応接 室、会議室	夜間照明有り 照度レベル:平 均100LX(JIS Z9127-2011 III の基準に準拠)	天然芝
4	浦安市 (171,116人 R2.7月末現 在)	プリオベッカ 浦安競技場	第4種公認	スタン ド式、コンク リート造	スタンド1000人(車椅子 スペース有)、芝生スタン ド1500人程度収容可	633台	全天候型合成ゴム系舗装、 400m 8レーン(直送路9レー ン)、直線80m、半径 37.898m、レーン幅1.22m、障 害物競走設備(水濠)走幅跳、 算段跳、走高跳、棒高跳、砲丸 投	管理事務室(受付・医務室含む)・本 部室・放送記録室・審判控室・多目的 室・会議室・控室・倉庫1~3・更衣室 (トイレ・シャワー室・冷水器完備) 1~2・男子トイレ・女子トイレ・多機 能トイレ・エレベーター(車椅子対 応)・掲揚ポール(H=10m×4基)・ 男子トイレ(スタンド棟屋外出口)2 カ所・女子トイレ(スタンド棟屋外出 口)2カ所・多機能トイレ(スタンド 棟屋外出口)・写真判定棟・足洗い場	8基 LED灯光 器 設計照度 200LX(スタン ド棟の屋根の太 陽光発電設備を 導入)	ロングパイルの 人工芝(107m ×72m)
5	野田市 (154,299人 R2.8月1日 現在)	野田市総合 公園陸上競 技場	第3種公認		998席の固定観客席と車 イス6席、芝生席	270台(駐輪場あ り)	面積25,646㎡ 400メートル全天候型ウレタン8 レーン(110メートル直線走路9 レーン)、3,000メートル障が い物競走を含む各種トラック競 技。 フィールドでは、走幅跳・三段 跳・走高跳・棒高跳・砲丸投等 各種投擲競技。	雨天練習走路4レーン、本部室・多目 的室・更衣室・シャワー室等		天然芝生105m ×62m

■ 埼玉県										
1	春日部市 (233,801人 R2.8月1日 現在)	大沼陸上競 技場兼サッ カー場兼ラ グビー場	公認なし	スタンドな し		—	陸上陸上競技場(トラック1周 400m×8コース)、ラグ ビー、サッカー、グラウンドゴ ルフ、 ターゲットバードゴルフ、ゲー トボールほか	なし(同敷地内体育館にロッカー、更 衣室、シャワー、トイレ、会議室等あ り)	無し	クレー
2	上尾市 (229,264人 R2.8月1日 現在)	上尾運動公 園陸上競技 場	第2種公認	鉄筋コンク リート	40,200人(メインスタン ド:8,200人、芝生スタン ド 32,000人)	315台(2カ所)	敷地面積:34,800㎡ 建物面積:6,809㎡ トラック:1周400m8コース、 全天候型舗装 フィールド:内面芝張	貴賓室、倉庫、集会室、放送室、選手 控室、シャワー室、更衣室、トイレ、 多目的トイレ、管理室、判定室、記録 室、その他	無し	天然芝
3	熊谷市 (196,160人 R2.8月1日 現在)	熊谷スポー ツ文化公園 メイン陸上 競技場	第1種公認	鉄筋コンク リート造一 部鉄骨造 屋根:鋼管 立体トラス 構造折板葺 き 延床 22,518.25㎡ 地上4階 (最高高さ 28.586m)	15,392人	2,800台(常設1,400 台、臨時1,400台)	400㎡トラック8コース、メイ ン競技場、補助競技場、投てき 場	大会関係諸室、更衣室、トレーニン グルーム、会議室、VIP室、ディレク ター室、オペレーション室、写真判定 室等	有り(1,500Lx 以上)	天然芝
4	新座市 (166,279人 R2.8月1日 現在)	新座市総合 運動公園陸 上競技場	第3種公認	不明	4,000人収容(芝スタン ド) ※スタンド外収容人員不 明	123台	面積約20,300㎡ トラック:1周400m 8コース (全天候舗装) フィールド:サッカー場105m ×64m	競技場内には記録室、倉庫(第1・2) のみ	無し	天然芝(野芝)
5	三郷市 (142,877人 R2.8月1日 現在)	三郷市陸上 競技場(愛 称:セナリオ ハウス フィールド三 郷)	第4種公認	階段構造(5 段、186 m)、鉄筋 コンクリー ト	メインスタンド約1,500 人、その他スタンド約 2,000人	400台(常設100 台、臨時300台)	400mフルウレタン8レーン走 路、3,000m障害レーン、水 濠、跳躍場、投てきサークルな ど	管理棟兼用器具倉庫(事務室、更衣 シャワー室、トイレ、会議室、記録放 送室、倉庫)、選手控室棟(選手控 室、救護室)、大型映像装置	高さ20m3灯、 高さ25m3灯 平均照度100ル クス	投てき対応人工 芝
■ 栃木県										
1	栃木市 (159,056人 R2.7月末)	栃木市総合 運動公園陸 上競技場	第2種公認	鉄筋コンク リート造 2階建	収容人数:5500席(メイ ンスタンド席:1,500席、 芝生スタンド席:4,000 席)	1,138台	トラック全天候型、フィールド 芝生、400mトラック8コース	事務室、会議室・記録室、予備室・控 室、医務室、男子トイレ3カ所、女子 トイレカ所、身障者用トイレ、管理者 用トイレ、更衣室(男子・女子)、湯 沸室、倉庫、機械室、電気室、器具庫 3カ所	無し	天然芝
2	さくら市 (44,751人 R2.8月1日 現在)	さくら市総合 公園さくらス タジアム	公認なし		観客席 312 席	—	トラック 全天候型 1 周 400m トラック(8レーン)、直線 100m(9レーン)、全天候型 1 周 600mの外周コース ※やり投げ、円盤投げ、ハン マー投げ、棒高跳びでの利用不 可	事務室、器具室、会議室、男女トイ レ、多目的トイレ(オムツ交換台 有)、男女更衣室	有り	天然芝(ティフ トン芝)
3	真岡市 (78,720人 R2.8月1日 現在)	真岡市総合 運動公園陸 上競技場	第4種公認	鉄筋コンク リート造	500人(観客席)	—	全天候型ウレタン舗装、100m9 レーン、400m8レーン	事務室、本部室、医務室、更衣室、 シャワー室、トイレ、湯沸室、器具庫	無し	天然芝

4.6 近県の陸上競技場の公認取得状況

- ・ 別途資料として一覧表を整理

4.6.1 都道府県別公認陸上競技場一覧表（2020年2月19日現在）

茨城近県を抜粋 出典：日本陸連資料

<https://www.jaaf.or.jp/about/rule/>

- ・ 茨城県内には4種公認施設は無いが、**首都圏の4都県では3種公認施設が多くの割合**を占めている。

No.	都道府県名	第1種	第2種	第3種	第4種			計			合計
					全天候	一部全天候	土質	全天候	一部全天候	土質	
8	茨城	1	2	6				9			9
9	栃木		2	3	3	1		8	1		9
10	群馬	1	2	4	2			9			9
11	埼玉	1	2	7	6			16			16
12	千葉	1	3	12	6			22			22
13	東京	1	3	13	12	1		29	1		30
14	神奈川	1	6	7	4			18			18

4.6.2 茨城近県の陸上競技場の公認状況

【下表の略号】(陸) …陸上競技場 / ◎…全天候型 / ○…一部全天候型 / -延…検定延期中

(1) 茨城県

区分	名称	所在地	電話番号	公認番号	コード番号	種別	距離	区別	公認期間
	【茨城県】								
◎	笠松(運)	(陸) ひたちなか市佐和2197の28	029-202-0808	9170	081010	1	400	継	2016.03.21～2021.03.20
						WA	クラス2		2016.04.12～2023.12.31
◎	ケースデンキスタジアム水戸	(競) 水戸市小吹町2058の1	029-241-8484	9172	082020	2	400	継	2016.04.01～2021.03.31
◎	古河市中央(運)	(陸) 古河市下大野2528	0280-92-5555	9446	082060	2	400	継	2018.04.01～2023.03.31
◎	石岡市(運)	(陸) 石岡市南台3の34の1	0299-26-7210	9568	083070	3	400	継	2018.10.01～2023.09.30
◎	笠松(運)補助	(陸) 那珂市向山1274の9	029-202-0808	9769	083080	3	400	継	2020.03.27～2025.03.26
◎	日立市市民(運)	(陸) 日立市東成沢町2の15の1	0294-36-6661	9471	083090	3	400	継	2018.01.01～2022.12.31
◎	龍ヶ崎市	(陸) 龍ヶ崎市中里2の1の7	0297-64-8674	9327	083100	3	400	継	2017.03.05～2022.03.04
◎	筑波大学	(陸) つくば市天王台1の1の1	029-853-2870	9472	083110	3	400	継	2018.04.01～2023.03.31
◎	ひたちなか市	(陸) ひたちなか市新光町49	029-273-9370	9320	083120	3	400	継	2017.04.01～2022.03.31

(2) 栃木県（人口数値は令和2年7月1日現在 出典：栃木県HP）

区分	名称	所在地	電話番号	公認番号	コード番号	種別	距離	区別	公認期間
	【栃木県】								
◎	栃木市総合(運)	(陸) 栃木市川原田町760	0282-23-2523	9569	092020	2	400	継	2018.09.03～2023.09.02
◎	佐野市(運)	(陸) 佐野市赤見町2130の2	0283-25-0403	9650	092030	2	400	継	2019.03.30～2024.03.29
◎	美原公園	(陸) 大田原市美原1の15の25	0287-22-6460	9475	093060	3	400 -条件付-	継	2017.10.17～2022.10.16
◎	小山(運)	(陸) 小山市大字向野187	0285-49-3523	9186	093070	3	400	継	2016.03.26～2021.03.25
◎	栃木県総合(運)第2	(陸) 宇都宮市西川田4の1の1	028-658-0128	9649	093080	3	400	新	2019.04.01～2024.03.31
◎	鹿沼(運)	(陸) 鹿沼市旭が丘3146の1	0289-77-2898	9187	094040	4	400	継	2016.04.15～2021.04.14
◎	真岡市総合(運)	(陸) 真岡市小林1900		9651	094050	4	400	継	2019.03.31～2024.03.30
◎	足利市総合(運)	(陸)-延- 足利市田所町1123	0284-41-3963	8825	094060	4	400	継	2014.04.01～2019.03.31
◎	下野市大松山(運)	(陸) 下野市大松山1の7の1	0285-32-8920	9637	094070	4	400	新	2019.01.01～2023.12.31



(3) 埼玉県

区分	名称	所在地	電話番号	公認番号	コード番号	種別	距離	区別	公認期間
	【埼玉県】								
◎	熊谷スポーツ文化公園	(陸) 熊谷市上川上300	048-526-2004	9476	111020	1 WA-クラス2	400	継	2018.05.01～2023.04.30 2017.04.12～2023.12.31
◎	川越(運)	(陸) 川越市大字下老袋388の1	0492-24-8881	9318	112030	2	400	継	2017.04.15～2022.04.14
◎	上尾(運)	(陸) 上尾市愛宕3の28の30	048-771-4245	9188	112040	2	400	継	2016.04.21～2021.04.20
◎	鴻巣市立	(陸) 鴻巣市鴻巣634の2	048-541-7700	9435	113070	3	400 -条件付-	継	2018.02.10～2023.02.09
◎	新座市総合(運)	(陸) 新座市本多2の8の16	048-479-5515	9262	113080	3	400	継	2016.09.01～2021.08.31
◎	東松山	(陸) 東松山市大字松山1481	0493-24-0160	9624	113090	3	400	継	2019.03.31～2024.03.30
◎	越谷市立しらこぼと(運)	(競) 越谷市大字小曾川729の1	048-971-3230	9447	113120	3	400	継	2017.10.20～2022.10.19
◎	熊谷スポーツ文化公園補助	(陸) 熊谷市上川上300	048-526-2004	9477	113130	3	400	継	2018.05.01～2023.04.30
◎	さいたま市駒場(運)	(競) さいたま市浦和区駒場2の1の1	048-882-8149	9322	113140	3	400	継	2017.04.01～2022.03.31
◎	川口市青木町公園(総)	(陸) 川口市西青木4の8の1	048-251-6893	9388	113150	3	400	新	2017.10.01～2022.09.30
◎	城西大学総合	(大) 坂戸市けやき台1の1	049-286-2233	9370	114030	4-人芝-	400	継	2017.06.01～2022.05.31
◎	大東文化大学東松山キャンパス総合	(大) 東松山市岩殿560	0493-31-1560	9549	114040	4-人芝-	400	継	2018.08.13～2023.08.12
◎	自衛隊体育学校	(陸) 朝霞市溝沼	048-460-1711	9095	114060	4	400 -条件付-	継	2015.09.01～2020.08.31
◎	セントポールズフィールド	(陸) 新座市北野1の2の25	048-471-2323	9760	114070	4-人芝-	400	継	2019.07.23～2024.07.22
◎	早稲田大学織田幹雄記念	(陸) 所沢市三ヶ島2の579の15	042-947-6849	9743	114080	4	400	継	2019.11.11～2024.11.10



(4) 千葉県 (人口数値は令和2年7月1日現在 出典：千葉県HP)

区分	名称	所在地	電話番号	公認番号	コード番号	種別	距離	区別	公認期間
	【千葉県】								
◎	千葉県総合スポーツセンター	(陸)-延- 千葉市稲毛区天台町323	043-251-1281	9023	121010	1	400	継	2015.06.08～2020.06.07
◎	船橋市(運)	(陸) 船橋市夏見台6の4の1	047-438-4461	8991	122010	2	400	継	2015.04.01～2020.03.31
◎	千葉県立柏の葉公園総合	(競) 柏市柏の葉4の1	047-134-5012	9663	122060	2	400	継	2019.04.20～2024.04.19
◎	千葉県総合スポーツセンター東総運動場	(陸) 旭市清和乙621	0479-68-1061	9175	122070	2	400	継	2016.04.01～2021.03.31
◎	松戸市(運)	(陸)-延- 松戸市上本郷4434	047-363-9241	8928	123040	3	400	継	2014.10.01～2019.09.30
◎	国際武道大学	(陸) 勝浦市新官字物見塚841	0470-73-4111	9735	123060	3	400	継	2019.09.30～2024.09.29
◎	順天堂大学さくらキャンパス	(陸) 印西市平賀学園台1の1	0476-98-1001	9436	123080	3	400	継	2018.02.01～2023.01.31
◎	千葉県総合スポーツセンター第2	(陸) 千葉市稲毛区天台町323	043-290-8501	9479	123160	3	400	継	2018.04.01～2023.03.31
◎	岩名(運)小出義雄記念	(陸) 佐倉市岩名	043-483-0131	9460	123170	3	400	継	2018.04.30～2023.04.29
◎	野田市総合公園	(陸) 野田市清水501	047-124-8464	8992	123220	3	400	継	2015.04.01～2020.03.31
◎	鴨川市	(陸) 鴨川市太尾字下畠64	047-093-5111	9050	123230	3	400	継	2015.07.15～2020.07.14
◎	東金アリーナ	(陸) 東金市堀上1361の1	0475-50-1715	9398	123240	3	400	継	2017.10.01～2022.09.30
◎	ゼットエーオリプリスタジアム	(陸) 市原市岩崎536	0436-21-4441	9478	123250	3	400	継	2018.05.15～2023.05.14
◎	県立青葉の森公園	(陸) 千葉市中央区青葉町654	043-262-8899	9174	123260	3	400	継	2016.07.01～2021.06.30
◎	成田市中台(運)	(陸) 成田市中台5の2	0476-26-7259	9501	123270	3	400	継	2018.05.20～2023.05.19
◎	木更津市菅江川(総)	(陸) 木更津市江川959の1	0438-41-9641	9686	123280	3	400	新	2019.06.10～2014.06.09
◎	国府台公園	(陸) 市川市国府台1の6の4	047-373-3111	9329	124080	4-人芝-	400	継	2017.06.10～2022.06.09
◎	八千代市総合(グ)	(陸) 八千代市村上2413	047-484-4222	9691	124090	4-人芝-	400-条件付-	継	2019.09.07～2024.09.06
◎	浦安市(運)	(陸) 浦安市舞浜2の27		9010	124100	4-人芝-	400	新	2015.04.01～2020.03.31
◎	印西市松山下公園	(陸) 印西市浦部沖田274の1	0476-42-5111	9176	124110	4	400	継	2016.04.01～2021.03.31
◎	富津市臨海	(陸) 富津市新富146の2	0439-87-4205	9652	124120	4	400-条件付-	継	2018.08.01～2023.07.31
◎	鎌ヶ谷市市営	(陸) 鎌ヶ谷市初富924の283	047-445-8585	9714	124130	4-人芝-	400	新	2019.06.25～2024.06.24

市川市 人口 498,031 人

八千代市 人口 199,201 人

浦安市 人口 171,520 人

印西市 人口 102,538 人

富津市 人口 42,668 人

鎌ヶ谷市 人口 109,384 人

(5) 神奈川県（人口数値は令和2年7月1日現在 出典：神奈川県HP）

区分	名称	所在地	電話番号	公認番号	コード番号	種別	距離	区別	公認期間
【神奈川県】									
◎	日産スタジアム	横浜市港北区小机町3300	045-477-5000	9515	141020	1(多) WA-クラス2	400	継	2017.12.12～2022.12.11 2015.12.02～2023.12.31
◎	神奈川県立体育センター	(陸) 藤沢市善行7の1の2	0466-81-2571	8994	142010	2	400	継	2015.04.01～2020.03.31
◎	城山	(陸) 小田原市城山2の29の1	0465-22-3549	9013	142020	2	400	継	2015.04.01～2020.03.31
◎	Shonan BMW スタジアム平塚	平塚市大原1の1	0463-35-2233	9331	142040	2	400	継	2017.03.15～2022.03.14
◎	厚木市荻野(運)	(競) 厚木市中荻野1500	046-225-2900	9630	142050	2	400	継	2019.04.01～2024.03.31
◎	三ツ沢公園	(陸) 横浜市神奈川区三ツ沢西町3の1	045-311-2016	9163	142070	2	400	継	2015.10.27～2020.10.26
◎	相模原ギオンスタジアム	相模原市南区下溝4169	042-777-6088	9654	142080	2	400	継	2019.04.01～2024.03.31
◎	不入斗公園	(陸) 横須賀市不入斗町1の2	046-822-9360	9639	143030	3	400	継	2019.04.30～2024.04.29
◎	日本体育大学横浜健志台キャンパス	(陸) 横浜市青葉区鴨志田町1221の1	045-963-7900	9113	143050	3	400	継	2015.11.13～2020.11.12

◎	東海大学湘南校舎	(陸) 平塚市北金目4の1の1	0463-58-1211	9413	143060	3	400	継	2017.11.01～2022.10.31
◎	日産フィールド小机	(競) 横浜市港北区小机町3300	045-477-5000	9631	143130	3	400	継	2018.06.15～2023.06.14
◎	秦野市カルチャーパーク	(陸) 秦野市平沢148	0463-82-1324	9461	143170	3	400	継	2018.04.05～2023.04.04
◎	大和市宮大和スポーツセンター	(陸) 大和市上草柳1の1の1	046-261-6200	9157	143180	3	400	継	2015.03.15～2020.03.14
◎	川崎市等々力	(陸) 川崎市中原区等々力1の1	044-722-0303	9502	143190	3 WA-クラス2	400	継	2018.06.01～2023.05.31 2019.04.16～2024.04
◎	慶應義塾大学日吉	(陸) 横浜市港北区日吉4の1の1	045-563-1111	9584	144020	4-投芝-	400	継	2018.09.20～2023.09.19
◎	相模原ギオンフィールド	相模原市南区下溝4169番地内	042-777-6088	9615	144030	4-投芝-	400	継	2018.12.20～2023.12.19
◎	柳島スポーツ公園総合	(競) 茅ヶ崎市柳島1300		9443	144050	4-投芝-	400	新	2018.03.01～2023.02.28
◎	綾瀬市民スポーツセンター 屋外運動場	(陸) 綾瀬市深谷上3の6の1	0467-76-9292	9588	144060	4	400	新	2018.10.01～2023.09.30

茅ヶ崎市 人口 103,868 人

綾瀬市 人口 84,317 人

4.7 陸上競技場の公認レベルについて

- ・公益財団法人日本陸上競技連盟公認の陸上競技場には、公式大会の開催カテゴリと対応して5種類の区分がある。それぞれに求められる施設の仕様・規模等と公認に係る費用は以下の表に示した通りである。

- 2018年4月時点の規定では第1種～第4種の4種類で、【競技場にて開催できる競技会の種別の標準】が第4種では「加盟団体等の競技会・記録会」であった。しかし2020年4月1日改正の最新規定ではこの標準が「加盟団体等が主催する競技会・記録会」との表現に改められている。
- 本業務で行ったヒアリングにおいて、市の競技団体（つくば市陸上競技協会）は県大会カテゴリの開催を希望をしているが、加盟団体である一般財団法人茨城陸上競技協会主催の大会すなわち県大会を開催するためには、第4種以上の公認を受ければよいと読み取れる。※
- またインフィールド部は、第1種から第4種まで共通で「天然芝・投てき実施可能な人工芝」であることが条件となっている。（2020年4月現在）

※日本陸上競技連盟に電話で確認したところ、県大会に必要な競技スペースと備品等が確保できていれば4種でも開催可能とのこと。

4.7.1 公認陸上競技場および長距離競走路ならびに競歩路規程 2020年4月1日改正

(1) 公認陸上競技場規定

	第1種	第2種	第3種	第4種	第4種L(ライト)
1周の距離	400m	400m	400m	400m	200m,250m,300m,400m
距離の公差	+1/10,000 以内	+1/10,000 以内	+1/10,000 以内	+各 40mm以内	+各 40mm以内
走路	直走路	1レーンの幅は1m220で8レーン又は9レーンとする 長さ115m以上	1レーンの幅は1m220で8レーン又は9レーンとする 長さ115m以上	1レーンの幅は1m220で8レーンとする 長さ114m以上	1レーンの幅は1m220で6レーン以上とする 長さ114m以上
	曲走路	1レーンの幅は1m220で8レーン又は9レーンとする	1レーンの幅は1m220で8レーン又は9レーンとする	1レーンの幅は1m220で6レーン以上とする	1レーンの幅は1m220で4レーン以上とする
障害物競走設備	必要	必要	無くても可	無くても可	無くても可
補助競技場	全天候舗装 400m 第3種公認陸上競技場	全天候舗装の競技場があることが望ましい	無くても可	無くても可	無くても可
跳躍場	仕様・細則に示す数	仕様・細則に示す数	細則に示す数	細則に示す数	細則に示す数
投てき場	仕様・細則に示す数	仕様・細則に示す数	細則に示す数	細則に示す数	細則に示す数
	ただし、円盤投とハンマー投サークルは兼用してもよい				
収容人員	15,000人以上 (芝生席を含む)	5,000人以上 (芝生席を含む)	相当数	相当数	相当数
更衣室	300人以上収容し得ること	100人以上収容し得ること	利用できる設備があることが望ましい	無くても可	無くても可
トレーニング場	第1種公認競技場ではウエイト・トレーニング場を必要とする				

	第1種	第2種	第3種	第4種	第4種L(ライト)
雨天走路	メインカボックス スタンド側にあること が必要。 舗装材は競技場 と同一にする	設備することが 望ましい	無くても可	無くても可	無くても可
トラックとフィールド の舗装材	全天候舗装の 施設を要する	全天候舗装の 施設を要する	全天候舗装の 施設を要する	土質でも可	土質でも可
インフィールド	天然芝・投てき 実施可能な人 工芝とする	天然芝・投てき 実施可能な人 工芝とする	天然芝・投てき 実施可能な人 工芝とする	天然芝・投てき 実施可能な人 工芝とする	人工芝でもよい
電気機器等 の配管	設備を要する	設備を要する	設備があること が望ましい	無くても可	無くても可
用器具庫	2カ所以上で、 合計500㎡以上 必要	第2種～第4種Lではそれぞれの種別に示す用器具を 収納できるようにする			
浴場または シャワー室	男女各2カ所 以上	男女各2カ所 以上	利用できる設備 があることが望 ましい	無くても可	無くても可
競技場の撒排水 設備	降雨直後の使用 が可能なこと 砂場、芝生等 の管理に必要な 数	降雨直後の使用 が可能なこと 砂場、芝生等 の管理に必要な 数	降雨直後の使用 が可能なこと 砂場、芝生等 の管理に必要な 数	無くても可	無くても可
競技場と場外 との境界	競技場の荒廃 毀損を防ぎ競技 会の際の混雑を 防止し得る程度 の堅牢な境界が 必要	競技場の荒廃 毀損を防ぎ競技 会の際の混雑を 防止し得る程度 の堅牢な境界が 必要	無くても可	無くても可	無くても可
観覧席とトラック との間の境界	観覧席からみだ りに競技場内 に出入りでき ないように設 備する	観覧席からみだ りに競技場内 に出入りでき ないように設 備する	無くても可	無くても可	無くても可
競技場にて開催 できる競技会の 種別の標準	本連盟が主催す る日本陸上競技 選手権大会、国 民体育大会等 の全国規模競 技会及び国際 的な競技会	加盟団体等が 主催する選手 権大会及び主 要な競技会並 びに本連盟が 承認し主催す る競技会	加盟団体等が 主催する競技 会	加盟団体等が 主催する競技 会・記録会	加盟団体が主 催する記録会、 加入団体等 の競技会・記録 会

(2) 公認料

公 認 料				
種 別	新 設	継 続		
第 1 種	800,000 円	400,000 円		
第 2 種	450,000 円	225,000 円		
第 3 種	150,000 円	75,000 円		
第 4 種	50,000 円	25,000 円		
第 4 種 L	50,000 円	25,000 円		
付 帯 投 て き 場	50,000 円			
長距離競走路ならびに競歩路	200,000 円	100,000 円		
同 上 ハーフマラソン以下	100,000 円	50,000 円		
室内競技場 (恒久的な施設)	50,000 円			
室内競技場 (暫定的な施設)	10,000 円			
屋外種目別施設 (施設毎)	10,000 円			

- 第 10 条
 2. **公認の有効期間は5カ年**とする。ただし、期間中に改造または改修したときおよび公認競走路または公認競歩路で一部変更したときは、その都度認定申請をしなければならない。

4.7.2 陸上競技場公認に関する細則 2020年4月1日改正

- 第 14 条 走高跳の施設は、つぎのとおりとする。

	施設数	助 走 路		マ ッ ト			支 柱 台 計測基準台
		長さ (m)	幅 (m)	幅 (m)	奥行(m)	高さ (m)	
第 1・2 種	3 以上 いずれかの ゾーンに 2	半円部分は 全面全天候 舗装としA、 Bゾーンの いずれかを 25m 以上	16 m 以上	6 以上	3 以上	0.7 以上	支柱の間隔が許容される範囲内で移動可能となるよう支柱台を定める。 計測基準台は支柱台の間の中央に着地場所の縁の外側に接して設ける。
第 3・4 種	1 以上	計測基準台 に向かって 15m 以上	16 m 以上	6 以上	3 以上	0.7 以上	

- 第 15 条 棒高跳の施設は、つぎのとおりとする。

	施設数	助走路		マット			支柱台
		長さ (m)	幅 (m)	幅 (m)	奥行 (m)	高さ (m)	
第 1 種	6 以上	45 以上	1.22	6 以上	7.3 以上	0.8 以上	バー止の間隔が許容される範囲内で移動可能となるように定め (第 183 条参照) 別に示した規格によりボックス先端のストップボード内側上縁から着地場所に向って 800mm まで移動ができるように設備する
第 2 種	4 以上						
第 3 種	1 以上	40 以上	1.22	5 以上	6.3 以上	0.8 以上	
第 4 種	1 以上	40 以上	1.22	5 以上	6.3 以上	0.8 以上	

- 第16条 走幅跳・三段跳の施設はつぎのとおりとする。()内は女子。

	施設数	助走路		砂場			踏切板から砂場までの距離	
		6以上	幅(m)	幅(m)	長さ(m)	深さ(m)	走幅(m)	三段(m)
第1・2種	6以上	45以上	1.22	2.75～3.00	8以上	0.50以上	2	13(10)
第3種	1以上	40以上	1.22	2.75～3.00	8以上	0.50以上	2	11(7)
第4種	1以上	40以上	1.22	2.75～3.00	7以上	0.50以上	2	11(7)

- 第17条 砲丸投、円盤投、ハンマー投の施設は、つぎのとおりとする。

		施設数	サークル			サークル内の材質	投てき角度	計測基準点
			材質	厚さ×幅(mm)	内側の直径(m)			
砲丸	第1種	2以上	帯状の鉄又は鋼又は他の適当な材質	6×70以上	2.135	コンクリート、アスファルト又は他の堅固で滑りにくい材質	34.92度	サークル内の中心に鉄を埋める
	第2種	1以上						
	第3・4種	1以上						
円盤	第1・2種	2	同上	6×70以上	2.500	同上		
	第3・4種	1以上						
ハンマー	第1・2種	2	同上	6×70以上	2.135	同上		
	第3・4種	1以上						

- 第18条 やり投の施設は、つぎのとおりとする。

	施設数	助走路		投てき角度	スターティングラインならびに計測求心点
		長さ(m)	幅(m)		
第1・2種	2	33.5以上 36.5以上 が望ましい	4	約28.96度	スターティングラインは規定された規格を正確に設置する。スターティングラインの円弧計測の中心点に標識を設ける。
第3・4種	1以上	30以上	4		

4.7.3 公認競技会規程 2020年4月1日改正

(公認競技会の主催)

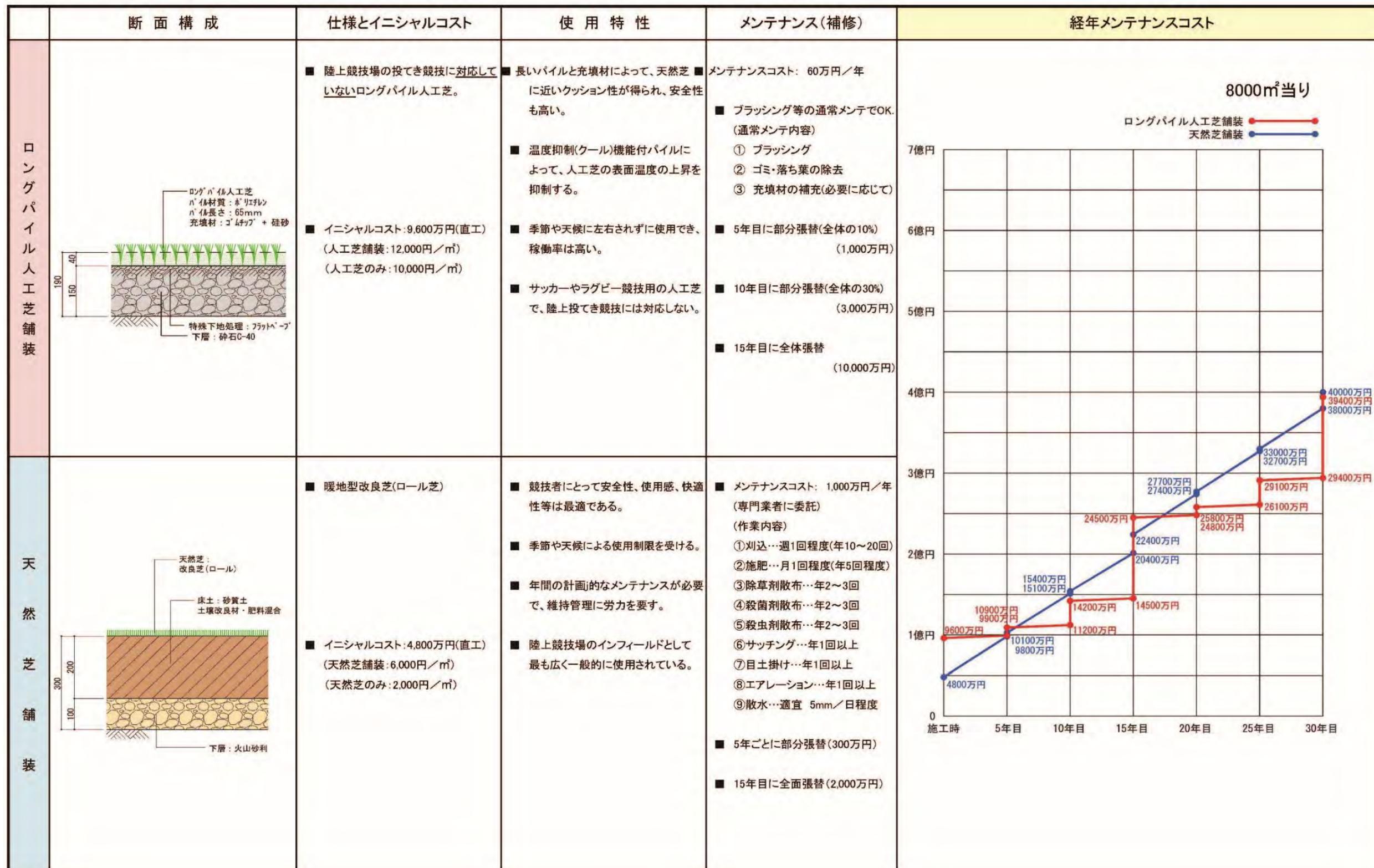
- 第3条 公認競技会の主催は、国内において本連盟のみがその権利を有する。
2. 本連盟は、加盟団体に、管轄する都道府県の陸上競技選手権大会及びその地域内で種々の公認競技会を主催する権利を委譲する。なお、本連盟の承認のもと全国規模の大会を主催することもできる。

4.8 コスト比較

4.8.1 インフィールドの天然芝と人工芝のライフサイクルコスト比較

- ・ 投てき非対応の人工芝と天然芝の比較では、当初整備費は天然芝が安価であるが、維持管理・補修を含めた長期的なコストを比較すると、15年程度を経過した時点で人工芝の方が安価となる。
- ・ 表中の天然芝の維持管理費は、一般的な管理作業でのコストであるが、良好なコンディションを保つためには水撒き費用をさらに見込む必要がある。(井水利用が見込めない状況では水道代が大きく嵩む)
- ・ 4種対応の投てき可能な人工芝は、通常の人工芝と比較してコストが跳ね上がる。

1. インフィールド天然芝と人工芝(投てき非対応)のライフサイクルコスト比較



2. インフィールド天然芝と人工芝(投てき対応)のライフサイクルコスト比較

	断面構成	仕様とイニシャルコスト	使用特性	メンテナンス(補修)	経年メンテナンスコスト																								
ロング パイル 人工芝 舗装	<p>第1層人工芝(ファーストーフ) パイル材質: ポリエチレン パイル長さ: 100mm 充填材: ゴムチップ + 珪砂</p> <p>下層人工芝(セカンドーフ) パイル長さ: 25 充填材: 珪砂</p> <p>特殊下地処理: フラットトップ 下層: 砕石C-40</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 陸上競技場の投てき競技に対応したロングパイル人工芝。 ■ イニシャルコスト: 17,600万円(直工) (人工芝舗装: 22,000円/㎡) (人工芝のみ: 20,000円/㎡) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 長いパイルと充填材によって、天然芝に近いクッション性が得られ、安全性も高い。 ■ 温度抑制(クール)機能付パイルによって、人工芝の表面温度の上昇を抑制する。 ■ 季節や天候に左右されずに使用でき、稼働率が高い。 ■ 投てき対応型の人工芝として、やり投げ、円盤・ハンマー投げなどの各種投てき競技に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ メンテナンスコスト: 60万円/年 ■ ブラッシング等の通常メンテでOK。(通常メンテ内容) ① ブラッシング ② ゴミ・落ち葉の除去 ③ 充填材の補充(必要に応じて) ■ 5年目に部分張替(全体の10%) (1,600万円) ■ 10年目に部分張替(全体の30%) (4,800万円) ■ 15年目に全体張替 (16,000万円) 	<p style="text-align: center;">8000㎡当り</p> <p>ロングパイル人工芝舗装 (Red line)</p> <p>天然芝舗装 (Blue line)</p> <table border="1"> <caption>経年メンテナンスコスト (8000㎡当り)</caption> <thead> <tr> <th>年目</th> <th>人工芝舗装 (万円)</th> <th>天然芝舗装 (万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施工時</td> <td>17600</td> <td>4800</td> </tr> <tr> <td>5年目</td> <td>19500</td> <td>10100</td> </tr> <tr> <td>10年目</td> <td>24600</td> <td>15400</td> </tr> <tr> <td>15年目</td> <td>40900</td> <td>20400</td> </tr> <tr> <td>20年目</td> <td>42800</td> <td>27700</td> </tr> <tr> <td>25年目</td> <td>47900</td> <td>33000</td> </tr> <tr> <td>30年目</td> <td>64200</td> <td>40000</td> </tr> </tbody> </table>	年目	人工芝舗装 (万円)	天然芝舗装 (万円)	施工時	17600	4800	5年目	19500	10100	10年目	24600	15400	15年目	40900	20400	20年目	42800	27700	25年目	47900	33000	30年目	64200	40000
年目	人工芝舗装 (万円)	天然芝舗装 (万円)																											
施工時	17600	4800																											
5年目	19500	10100																											
10年目	24600	15400																											
15年目	40900	20400																											
20年目	42800	27700																											
25年目	47900	33000																											
30年目	64200	40000																											
天然 芝 舗装	<p>天然芝: 改良芝(ロール)</p> <p>床土: 砂質土 土壌改良材・肥料混合</p> <p>下層: 火山砂利</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 暖地型改良芝(ロール芝) ■ イニシャルコスト: 4,800万円(直工) (天然芝舗装: 6,000円/㎡) (天然芝のみ: 2,000円/㎡) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 競技者にとって安全性、使用感、快適性等は最適である。 ■ 季節や天候による使用制限を受ける。 ■ 年間の計画的なメンテナンスが必要で、維持管理に労力を要す。 ■ 陸上競技場のインフィールドとして最も広く一般的に使用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ メンテナンスコスト: 1,000万円/年(専門業者に委託) (作業内容) ①刈込…週1回程度(年10~20回) ②施肥…月1回程度(年5回程度) ③除草剤散布…年2~3回 ④殺菌剤散布…年2~3回 ⑤殺虫剤散布…年2~3回 ⑥サッチング…年1回以上 ⑦目土掛け…年1回以上 ⑧エアレーション…年1回以上 ⑨散水…適宜 5mm/日程度 ■ 5年ごとに部分張替(300万円) ■ 15年目に全面張替(2,000万円) 																									

4.8.2 陸上競技場メインスタンドのコスト比較

□陸上競技場メインスタンド（2000席と1000席）でのコスト比較

（単位：千円）

規模	金額	スタンド面積	備考
2000席	465,564	1,440㎡	0.6m×1.2m×2000席
1000席	290,140	720㎡	0.6m×1.2m×1000席

〈仕様〉

- ・メインスタンドはRC造とする。
- ・屋根はテント構造、スタンド面積の半分程度の面積を想定する。
- ・1階部分に入る設備は以下の通りとする。
管理事務室・医務室、本部室、放送記録室、審判室、多目的室、会議室、控室、更衣室、洗面脱衣室、トイレ(男女別2ヶ所)、倉庫2ヶ所(1000席は別途)。
- ・算出根拠は積算による。

※1階に入る設備は現状で標準タイプを想定している。

〈メインスタンドテント屋根イメージ写真〉 山城総合公園陸上競技場(京都市)



〈雨天走路イメージ写真〉 東洋大学川越キャンパス(川越市)

※室内短距離だが屋外に設置



4.8.3 第3種と第4種の備品コスト比較

■ つくば市陸上競技場 第3種と第4種の陸上競技場公認の備品コスト比較

- ・ 3種公認必備用器具は約1億7620万円、4種公認必備用器具は約1億5320万円。
写真判定装置(カメラ)を含む。
- ・ 格上げは、4種公認と3種公認の差額だけでなく、痛み具合によって交換する備品等も発生する。備品調査が必要になる。
3種への格上げは、追加の電子機器(配線ケーブルやコネクタボックス)が追加になる。
- ・ 常備を希望する用器具、小学生陸上備品、サッカー備品含む。
- ・ 第3種、第4種の備品コストは見積りによる。

■ 第3種陸上競技場公認必備用器具概算 約176,200,000円

・ 必備用具	1	式	11,841,000	
・ 必備器具	1	式	70,750,000	
・ 常備を希望する用器具	1	式	20,127,050	
・ 小学生陸上備品	1	式	4,274,000	
・ サッカー備品	1	式	6,203,400	
・ 荷造・運搬・組立費	1	式	1,200,000	
小計			114,395,450	
諸経費	1	式	45,758,180	40%
備品原価	1	式	160,153,630	
消費税	1	式	16,015,363	10%
合計			176,168,993	

■ 第4種陸上競技場公認必備用器具概算 約153,200,000円

・ 必備用具	1	式	10,276,300	
・ 必備器具	1	式	63,701,460	
・ 常備を希望する用器具	1	式	13,795,250	
・ 小学生陸上備品	1	式	4,274,000	
・ サッカー備品	1	式	6,203,400	
・ 荷造・運搬・組立費	1	式	1,200,000	
小計			99,450,410	
諸経費	1	式	39,780,164	40%
備品原価	1	式	139,230,574	
消費税	1	式	13,923,057	10%
合計			153,153,631	

■ 器具庫の面積

- ・ 3種公認で必要な器具庫の面積：192㎡×2ヵ所=384㎡(参考)
- ・ 4種公認で必要な器具庫の面積：192㎡+100㎡=292㎡(参考)

4.9 多様な利用の促進及びコスト低減等に向けた参考資料

4.9.1 施設種別ごとの主要な検討項目と各機能に対応した工夫例

	大規模大会機能に対応するための 主要な検討項目	スポーツ拠点機能／地域活性化機能に 対応するための主要な検討項目
芝	<ul style="list-style-type: none"> ・ トッププレイヤーが競技するのに適した芝種、芝面積を競技に応じて選択する ・ 稼働可能日数、芝の養生に要する日数を把握する ・ プロの試合などで求められる高い仕様と品質を維持・確保できる専門的な技術スタッフを配置する ・ 園内の他施設と一体的に管理できる体制を構築し、張り替え等含めた中長期的な計画を検討し維持管理費用を把握する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者ヒアリング等によるニーズから芝面積を設定する ・ メンテナンスコストを考慮し、長期的な視点から天然芝仕様の採用を検討する ・ 施設内や自治体内の他施設と芝仕様や管理者を統一し、管理コストを圧縮する ・ 多様な利用者に応じて芝だけでなくサーフェス仕様についても検討し、アプローチや屋根付き待機場所についても検討する
観客席	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誘致する大会や興行の基準を目安とした観客席数とする ・ 多様な観客の観る権利が担保されるよう、座席仕様・視線計画・動線を含めたユニバーサルデザインを取り入れる ・ 観戦環境を充実化し、体験価値向上による収益性の向上を検討する（VIP、スポンサー、シーズンシート、団体、家族、友人等） ・ アクセス動線を含め屋根の設置を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ メインスタンド以外は芝生整備とし、柔軟な利活用を促す ・ 大会等開催時には適切な席数を仮設設置する ・ 誰もが利用できることを基本とし、座席仕様・視線計画・動線を含めたユニバーサルデザインを取り入れる
照明設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大会や興行のニーズに応じた設備のスペックを検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夜間帯の利用ニーズを把握し、常設／仮設を検討する ・ イベント時等に設備の持ち込みに受入可能な整備を検討する ・ LEDの採用などメンテナンスコストの低減に配慮する
モニター・音響等の大会設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大会や興行のニーズに応じた設備のスペックを把握し、常設／仮設を検討する ・ 放送設備、ビデオ判定設備等の常設／仮設を検討する ・ 標示などの多言語対応、音声誘導等の情報アクセシビリティ関連については常設設置を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要時のみ仮設設置する ・ イベント時等に設備の持ち込みに受入可能な整備を検討する ・ 標示などの多言語対応、音声誘導等の情報アクセシビリティ関連については常設設置を検討する
特別室等の諸室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別室は、誘致する大会や興行のVIP対応の必要性、ホスピタリティ事業の可能性等を整理し、面積や仕様を検討する ・ テナント店舗、ビジネスラウンジ、ホスピタリティ空間等の民間事業の導入を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別室等は、必要時のみ仮設設置する ・ 既存施設を活用する場合の改修は最小限に留め、多機能化を検討する
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大会関連商品、ケータリング等物販スペースを設置する ・ スタンド下の空間活用を検討する ・ アクセシビリティ対応として、カメラ用レールなどグラウンドに突出するものはあらかじめトレンチを設けるなどグラウンド内移動に配慮する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広域連携、地域の利用ニーズに即した公認レベルを検討する ・ 多目的トイレの位置について、グラウンド近くに設置するなど配慮する

4.10 駐車場の規模想定

4.10.1 同時在園者数の考え方

(1) 中学校の大会に対応する観客席規模と最大時同時在園者数の想定

- 本検討の主目的の一つとなっている市内の中学の陸上競技大会開催に向けて必要な観客席数を想定する。
- つくば市の公立中学校12校、義務教育学校4校の計16校の生徒総数は平成30年時点で**5,864人**である。
- この4分の1程度の約1,500名が【選手】+【応援】として参加し、さらに【教員・関係者】+【父兄】が合計500名程度参加すると想定すれば、**合計で2,000名程度の観客席スペースの確保**が望まれる。
- 以前は、市内小学生の大会が南部と北部に分けて行われていたが、この参加人数は、6年生1800人と5年生選抜700人、合計2500人程度である。全員は同時滞在せず、(競技進行に伴って順次参加選手と父兄等が入れ替っている利用実態を想定し)8割程度が同時滞在すると考えれば、上記の想定で小学生の大会にも対応可能といえる。
- これらを考え併せて、**大会時の同時在園者数は1,600名程度**と想定される。日常利用において、この数値以上の来園者は想定しにくいため、駐車場規模の最大値を想定する基礎数値としてこの値を採用する。

Y	最大時同時在園者数 $a \times b \times c$	1,600
---	---	--------------

a	観客席計画数(メインスタンド 2,000席を想定)	2,000席
b	平均客席稼働率	100.0%
c	同時滞在率(競技進行に伴う入れ替わりを考慮)	80.0%

大会開催時の最大時同時在園者数

(参加者+観客) : 1,600人

4.10.2 必要となる駐車区画数の想定

(1) 交通手段分担率と駐車場利用者数

- 「つくば市スポーツ環境に関するアンケート調査 H29. 3」では、よく利用しているスポーツ施設までの移動手段として、「バイク・自家用車」と回答された方の割合が最も高く **82.7%** となっている。したがって自家用車の駐車場規模算定に用いる交通手段分担率としてこの値を採用する。

自家用車分担率：82.7%（つくば市のアンケート結果より）

(2) 必要となる普通車駐車区画数

① 一般利用者用

- 普通乗用車の乗車人数（1台への同乗者数）については、**2.5人/台**と設定し、上記の交通手段分担率（**自家用車分担率：82.7%**）を用いて、駐車区画需要を計算すると以下のような幅で想定される。

		最大時同時在園者数 a (人)	必要な駐車区画数 $a/2.5 \times 82.7\%$ (台)	備考
大会時の利用者数	・メインスタンド観客席数 (2,000席) による想定	1600	529	最大値

② 身体障害者用

- 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律施行令、政令第379号第17条、移動等円滑化基準に沿って、駐車台数が200以下の場合には駐車台数の1/50以上、200を超える場合は**駐車台数の1/100に2を加えた数以上**の車いす使用者用駐車施設を設ける。
- 前掲の需要に当てはめると、計画地では**8台以上の確保**が望まれる。

【最大値への対応】 $529 \text{ 台} \times 0.01 + 2 = 7.29 \div 8 \text{ 台}$

2 車いす使用者用駐車施設に関する基準

○ 不特定多数の者、又は主として高齢者や障害者等が利用する駐車場を設置する際には、車いす使用者用駐車施設を1以上設けるなど、移動等円滑化基準に適合させなければならない
— 政令第379号第17条、移動等円滑化基準

- 国(地方)の責務 : 具体的なバリアフリー施策について、高齢者、障害者、地方公共団体、施設管理者など関係者の参加(スパイラルアップ)の下で検証し、その結果に基づいて新たな施策や措置を講ずるよう努める(バリアフリー新法第4・5条)
- 施設管理者の責務 : 障害者等の移動等円滑化のために必要な措置を講ずるよう努める(バリアフリー新法第6条)
- 国民の責務 : 障害者等の円滑な移動及び施設の利用を確保するため協力に努める(バリアフリー新法第7条)

(駐車場の整備例)

安全な通路
120cm以上
310cm以上 330cm以上
250cm程度

(設置台数)

駐車場の規模	必要数
～50台	1台
51～100台	2台
101～150台	3台
151～200台	4台
201～300台	5台

(注) 駐車場の規模が200台以下の場合には当該駐車台数に1/50を乗じて得た数以上、規模が200台を超える場合にあっては当該駐車台数に1/100を乗じて得た数に2を加えた数以上を設置

(案内板の例)

3

(3) 【大会時】バス用駐車場確保の考え方

- バス利用については、大会時の選手の団体のみを想定するものとして、応援団等の観客は、自家用車と公共交通機関での分担を前提と考える。
- サッカーの試合の場合は、1日最大8チームの4試合として、8台/日が必要となる。
 - 陸上競技は、市内の中学の大会を想定すると、各校が全てがバス1台で来場すると想定すると、計16台（市内内の公立中学校12校、義務教育学校4校）が必要となる。
 - 同様に、市内の小学校の大会では、計33台（公立小学校29校、義務教育学校4校）が必要となる。
- サッカーの試合と陸上競技大会の同時使用は無いと考えられるので、上記小学校の大会時に対応して、**必要台数は最大で33台と想定**する。
 - （千葉県立館山運動公園において、普通車30台分をバス12台分として利用しているのに倣って）普通車の駐車区画を大会時にはバス用として開放するものとして、本検討においても、**普通車2.5台分のスペースでバス1台の駐車区画を確保**するものとする。

33台×2.5≒普通自動車83台分のスペース確保

(4) 駐車台数確保の考え方まとめ

- 普通自動車の駐車場区画については、年間数日しかないピーク（大会・イベント等の開催日）に合わせて最大値を満足させるのは、公共施設として適切と言えない。
- また路線バスや大会時のシャトルバス運行など、公共交通機関の活用も考慮して、**サービス率を60～80%程度とするのが妥当と考え、本検討では70%を採用**する。

529台×0.7（サービス率）≒370台

- バス用区画については、前掲の通り大会時用の33台分を普通自動車用区画83台分で転用できるように確保する。

370+83≒453台

- 身体障害者用駐車場については、最大値に合わせる。
- 以上から、**本検討において確保を目指す駐車場区画数を次の通りとする。**

普通車	453台 (バス33台分に転用できる83区画を含む)
身体障害者用	8台以上

会 議 録

会議の名称		第3回つくば市陸上競技場整備基本構想策定検討会議		
開催日時		令和2年(2020年)11月4日 開会 18:00 閉会 20:00		
開催場所		つくば市役所 防災会議室2・3		
事務局(担当課)		スポーツ振興課		
出席者	委員	萩原 武久座長、岩井 浩一座長代理 大澤 義明、大山卞 圭悟、齊藤 まゆみ、 宮本 恒男、浅野 祐一、石渡 琢磨		
	その他			
	事務局	【市民部】 飯村部長、星野次長 【スポーツ振興課】 伊藤課長、宮下課長補佐、飯村係長、宮本主任、井上主事、 白井主事		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	7人
非公開の場合はその理由				
議題		つくば市陸上競技場整備基本構想について		
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 議事 (1) 具体的な整備内容 (2) 候補地の比較検討 4 閉会			
<審議内容>				

3 議事

座長： それでは次第に基づきまして議事を進めてまいりたいと思います。

冒頭申し上げましたように、本日の議題は、具体的な整備内容と候補地の比較検討、この2点でございます。まず1点目の具体的な整備内容については、前回、委員の皆さん方に議論いただきましたけれども、まだはっきりとした結論に至っておりませんので、本日は是非そこに向かって議論をしていただければありがたいと思います。それではまずは議題1について事務局のほうから説明をお願いいたします。

(1) 具体的な整備内容について

(事務局から、具体的な整備内容について説明があった。)

事務局： ただ今の説明の補足をさせていただきます。先ほど申し上げました整備費につきましては、資料にもありますけれども、他市の事例を参考に算出している整備費でございますので、こちらはあくまでも暫定ということでご理解いただければと思います。よろしくをお願いいたします。

座長： ありがとうございます。今、事務局のほうから若干の変更点を含めて説明がありましたけれども、委員の皆さんからご意見、ご質問等、承りたいと思います。

委員： 4ページの陸上競技場のインフィールド部が天然芝とあって、サッカー等の多目的競技への利用を想定と書いてあるんですけど、例えばナイターが付いていても、サッカーの予約が入ってしまっただけで陸上競技場として使えないというのが結構問題というか、テーマになっている市町村があると聞いているので、このサッカー等の使用というのもそこをどれぐらいにしていくかが、テーマになってくるのかと思います。

もう一点、参考資料の費用の部分で、これは、サッカーの備品なども

入っているのでしょうか。

事務局： 必備用器具につきましては、サッカーの備品は入っておりません。

あくまでも3種の最低限、4種の最低限という形になります。あともう一つ、今、利用という面があったかと思うんですけども、この基本構想では基本的にインフィールドをいろいろなスポーツに使えるようにしましょうという考えの下、想定しています。今、委員がおっしゃった使い方というところは、まさにこれから検討していくしかないと思いますが、ただ、整備としては、特に球技等が多くなるかとは思いますが、陸上だけではなくて、様々なスポーツにも対応できる整備が必要ではないかと考えております。

座長： よろしいですか。他、どうぞ。

委員： まず3ページの一番上、基本的な役割という所で、私、つくば陸上競技選手権大会を主催しているものですから、つくば陸上競技選手権大会を取り上げてくださるのは大変ありがたいことなんですが、4ページの、天然芝とした理由という所に、つくば陸上競技選手権大会に投てき種目があるっていうの、何ていいますか、つくばの陸上競技選手権の投てき種目、やり投げ、実施しておりますが、投てきにはご承知のように、円盤投げもありますし、小学生で言えばソフトボール投げとか、ジャベリックスローというのがあるんですね。ですから、つくば陸上でやり投げをやっているから天然芝っていうご判断されるとすると、「ん？」というような感じなんですね。もし環境を整えば、やり投げにこだわらず円盤投げも実施したいと思えますし、いろんな投てきの種目ができるようになるんですね。逆に無くすこともできるんです。わざわざやり投げをやる必要がないというように。ですから、つくば陸上でやり投げがあるからどうのこうのではないなというような感じを持ったものですから。

事務局： ありがとうございます。ただ今の委員のご意見、インフィールドの芝については、基本的にはいずれにしても投てきが可能な仕様になりたいと考えています。先ほどの比較表の中でも、大会での投てき競技が可能というところは、当然検討はさせていただいています。ただ現在、つくば市としては、委員が主催して、お骨折りいただいている陸上競技選手権大会は市も主催になっていますので、当然これを開催できるものになりたいということで今回、このような形に入れさせていただいております。

座長： よろしいですか。他にご意見等ございますか。お願いします。

委員： 7ページの集計の所、言葉の使い方だと思うんですが、最低必要面積と書いてありますけど、ちょっとその話は違うような気がします。

つまり、これまでは、例えば駐車場にしても割と大ざっぱな、多めの数字だったと思います。ですので、こういう書き方っていうのはちょっと話が違うというのが私の意見です。それと、数字から言うと、将来人口を最初の会議で説明したはずですが、それはどこに反映されてるのかが2回目の資料を見ても分からないし、結局、現在の人口を使って、要するにこれから減ることを前提で第1回目で情報共有したはずですが、それがどこに反映されているのかもきっちり説明していただきたいと思います。

それとメインスタンドに関しても、前回、私は、全面的に芝生にすべきだという提案をしましたが、どうしてこういう中途半端な数字になったのかということもご説明いただきたいと思います。

3つですね。まず最低という言葉の使い方ですね。あと、人口が減っている中で、どこでこの計画に反映されているのか。そしてメインスタンドの在り方。特にコロナ禍の中で、今、やっぱりメインスタンドのところっていうのは非常に大事だと思っておりますが、その3点についてお答えいただければと思います。

事務局： 少しお時間いただいてもよろしいですか。ちょっとまとめますので。

委員： 言葉遣いだと思うんですが、ここで最低という言葉を使っているのは、これ以下はない、つまりこれ以上ということですよ、最低っていうのは。ただし、今までの積算は必ずしもそうでないというように自分は理解していて、ここで最低という言葉を使うのは、かなり違和感を覚えるわけですよ。そこをご説明いただきたいと思います。

事務局： すみません、その集計の最低限の所は、委員がおっしゃるように、本来は必要とする敷地規模ということで考えたもので、ちょっと言葉尻がまずかったんだと思うんですけど。

委員： だとすれば、第2回目の議論にもう一回戻してほしいんですよ。そこは正直、消化不良な議論があった感じで、例えばセミナーハウスに関しては全然議論しなかったし、これで1ヘクタールも取るわけですよ。あるいは、管理棟のスペースに関してもこれだけの規模、必要かどうかという議論は全くされてなくて、ここで載っけて必要最低って言われると、やはり議論の進め方としてちょっと間違ってる気がするんですよ。少なくともこの委員会っていうのはそういうところもきっちり出しながらニュートラルな立場で議論すべきだと思っているのですが、全体的な説明も含めて、造る方向、膨らます方向にどうしても1回目、2回目、聞こえていて、今日はもう発言しようと思ったので発言させていただきました。

事務局： 申し訳ございません。委員のおっしゃられたことについてはあらためてこちらで整理して、お答えをさせていただきたいと思います。

座長： よろしいですか。

委員： そこは、これがない以上、前に進めないような気がするんですけど。例えばセミナーハウスにしても、これ、1ヘクタールも取るわけですよ。それで中をどうするかとか。造るのは初期コストでもいいと思いま

すけど、当然、維持管理コストがかかってくる。そういう箱物を造るっていうところの、やはりしっかりと議論が求められているわけですよ。その説明は少なくとも必要だと思います。

事務局： ここは、もう少し事務局のほうで詰めさせていただいて、すみませんが後ほどご説明させていただきます。

座長： 他にご意見、ご質問等、承りたいと思いますが。いずれにいたしましても、3ページに示されましたように、市内の小中学生の公式陸上記録会、競技会、及びつくば陸上競技選手権大会等が開催できる施設であるかどうかというところで、3種かどうかをお決めいただければいいんだろうと思います。個人的に申し上げますと、いろんなことが陸上競技場にこんなにくっついてきて、陸上競技場アラカルトみたいになっていて、本当に大丈夫かとは思っているんですね。もちろんいろんなことを含めて複合的な施設にしていかなければいけないことは当たり前のことだと思いますけれども、それが前面に出ることによって本来の陸上競技場というものの主立った役割が損なわれていく可能性も懸念しなければいけないというくらいいろんなことが盛られていますね。そういったことも含めて、メインはここで陸上記録会ができる、つくば市の陸上競技選手権大会ができる、そしてまた障害者や高齢者等も含めて利用できる、これは今のパターンからいけば、どの施設も当たり前にそのことを勘案して含めていかなければいけない時代なんですね。あるいはエコという、経済的にどんなことをやっていくか。

もう1点、考えなければいけないのは、個人的に意見言わせていただきますと、LCC だと思うんですね、ライフサイクルコストという。要するに造るときだけはみんな立派なものを造って、何十年後かに終わったときに、最終的にはやっぱりこの施設をつぶすのか廃棄するのか分かりませんけれども、そこまでのちゃんと試算をして物を造るべきだと思います。

ます。物を造るときだけは極めて勢いがありますが、本当にそれだけで大丈夫ですか。ましてや今の日本の情勢を見て、人口減の中、後々、本当に後の皆さんに負担を強いるようなことを残していったら駄目でしょ。施設も全て含めて。そのことも勘案して、3種であるか、4種であるか、ご議論いただければありがたいと思います。他に何かございますでしょうか。今日はどちらかで方向性を見いだしていきたいと思しますので。

第2回の会議で、この種別についてのご意見は、ほぼ半々なんですね。3種、4種、どちらでもいいという委員もいらっしゃる。

また、3種に近い4種だということがうたわれていますので、だったら4種でもいいんじゃないかという意見の皆さんもたくさんいらっしゃる。そういう意味ではなかなか決定しづらい場面だと思いますけれども、何か、これだけはやっぱりこのまちだったら3種だろう、つくば市だったら4種でも大丈夫だぞというようなご意見があれば承りたいと思います。どうぞ。

委員： 前回、私は3種でも4種でもちゃんとしたものを造ればと申し上げたんですが、ちょっと意見を変えて4種にすべきではないかと思えます。というのも、やはり3種で縛り条件が入って、つくばらしさを発揮する制約になってしまう。やはり4種でつくばらしさを入れて、中身的にはいいものを造っていくのがやっぱりお金を有効に活用する、あるいはつくばが日本を引っ張っていくまちだというような、型に合わせるんじゃないかと、新しいニュー3種を造っていくとか、2種を造っていくというスタンスのほうがいいと私は思っています。ですので、縛りが少ない4種でいいかと。

座長： ありがとうございます。今、委員からはこういう発言をいただきましたけれども、それに対して何かご意見、ご質問等あれば。

私、実は、前回の会議のときの全ての要件をマックスに合わせるべきではないという委員のご意見、すごいことを言っていたなと思ったんです。これは、自治体の在り方が、物を造るんでも、何を進行するにしても、全て最大値を目的にするのではなくて、もっとやっぱり、らしさを発揮するためにこういう委員会で議論をしましょうよというように受け取ったんですね。たまたま委員の発言は駐車場に対してでしたが、駐車場は一つの例であって、その考え方は全てに及ぼすべきだろうと思っているんですよ、個人的には。そんなことも含めて種別のところは決定をしていただければ、ありがたいと思います。

別に強制をするわけではありませんし、委員の皆さんの総意でどういうふうにするかということをお決めいただければもちろんいいんですけども、私は、個人的には委員のこの発言に対して大変感銘を受けていますし、そのとおりでなと思っているものですから、それが、「あんた間違っているぞ」と言われればそのとおり、またそうですかって話で議論しなければいけないんですけども、私は個人的にはこれからの自治体の在り方も、あるいは全て行政の在り方も、やっぱりそこにフォーカスしていくべきだろうなとは思っているんですね。ということを含めて、どうぞ、3種であるか、4種であるかということを経験いただければと思います。お願いします。

委員： 私は、障害者の利用というところで見たいんですけども、利用のしやすさという視点でいくと4種でもいいと思っています。記録が取れること、8レーンあれば視覚障害の人が伴走で競技してタイムを取るのも可能なこと、その辺の最低限のところをキープされたら、あとはこの表のバツが付いてる所も、4種でもここを丸にしたり、こっちは二重丸にしたりという、もう少し、競技場はこうあるべきというのをちょっと外して、凸凹になってもいいのもっとマイノリティーの方が

使いやすいような、そういう発想で作りに上げてもいいのかなと思います。そのほうがもしかしたら障害者は使いやすいのかもしれない部分が出てくると。既存のものがあるから自分たちはちょっと行きづらい、そういう感情からは外れて使いやすいものにできるかもしれないなというように今、思っています。陸上の専門家じゃないのでこんな発言になりましたが、一意見として。

座長： どうぞ。

委員： さっきのセミナーハウスですが、例えば付随的な役割として、防災機能を備えたところを考えると、やっぱり必需品になってしまうんじゃないかなという側面がありますので、その辺りいかがでしょうか。確認だけしたいと思うのですが。

事務局： もちろん防災機能を備えた、ということなので、セミナーハウスだけではなくて、将来的に避難所的な役割も考えて設定をしております。

委員： ですから、そういうことはちゃんときっちり書いていただかないと、後出しになっても困るんですよ。今日は大事な会議ですので、それはやっぱり情報としていただかないと判断できません。大体どの程度の建屋が建つのか。そもそも建屋が必要なのかなと自分なんかは思うんですね。防災上、仮設でもできますし。だけど、ここも曖昧にしながら、セミナーハウスと言いながら防災機能と言われても、やっぱりそれは資料としてはいかななものかなと正直思います。

事務局： すみません、先ほど最低限の敷地規模という所のご質問なんですけれども、ページで言いますと資料の4ページ、5ページ、あくまでも、こちらの整備水準を考えた場合、本体の面積であったり、スタンドの面積であったり、こちらの整備水準とするにあたっての最低限の敷地規模ということでこちらの面積は出させていただきました。

委員： だとすれば、やっぱり数値を合わせてほしいんですよね。例えば5

ページの駐車場台数は400から500と書いてあり、こちらは500と書いてありますね。かつ、メインスタンドの面積は「2.3～2.4ヘクタール」と言いながらちょっとだけまた面積が膨らんでいるという、整合性がないのはどうなのかなという気がします。やはり資料としてそこをおっしゃるのであれば、そこもきっちり縦横を合わせていただかないと困るし、最低という言葉は、結構厳しい条件なのです。そこをやっぱりきっちり、多分、理解されていると思うんですけど、ここの所は私としてはちゃんと書いていただきたい、数値も整合性を持っていただきたいと思います。

もうちょっと言いますと、少しずつ数値が増えている気がします。それは資料として、2回目、3回目、結局委員としてそこを信頼して、事務局を信頼しなければいけないと思っているんですよ。全てのデータに目を通すって結構大変なことであって、今回確認させていただいて整合していない部分があるので、そこは信頼関係を持つためにもきっちり数字は合わせてほしいし、言葉遣いも留意いただければと思っています。ちょっと言い方がきつかったかもしれないですけど、ただ、今日はすごく大事な議論なので、そこは、私は言わせていただければと。

座長： いいですか。他の委員いかがですか。

委員： 私は前回も申し上げたように、第4種相当で十分というか、ちょっと表現が適切かどうか分からないんですけども、それで使えるのであればそれに越したことはないのかなと。それに本当は3種というところも目指したいけれども、そこにかかるものを使う方々の利便性がいいように充実させてあげるというところでもいいのではないのかなと思います。セミナーハウスに関しましては、ちょっと表現っていうんですかね、建物の名前の問題も多少あるのかなとは思いますが、セミナーハウスという表現で造るとなると、活用方法はまいち伝わりづらいな

と思いますので、もう少し具体性を持った使いみちというところが、ある程度議論できると、より必要性が明確になってくるのではないかなと感じます。

あと、私も障害者スポーツの人たちと話していて、会場から離れた場所にコンディショニングスペース、ウォームアップのスペースがあるという所は非常に使いづらいという話を何回も聞いたことがありまして、やっぱりウォームアップをしてそのまま競技に入れるっていうところを考えると、会場内にウォーミングアップスペース、名前はフリースペースでも何でもいいんですけども、一定の広さのものを用意していただけるということが非常に重要かなと考えております。管理棟なんかの場合によっては、全てじゃなくても、別棟でもいいかなと思うんですけども、選手、あるいは使用される方々が使う屋内のウォーミングアップスペースとして用意していただけると非常にありがたいなと感じています。

あと1点、資料を見させていただいて、天然芝と人工芝の2種類が挙げられているんですけども、全国的に見たときにハイブリッド芝というのもかなり話が挙がっておりまして、天然芝と人工芝の両方のメリットを生かし、けがも少なく、そして稼働率も高いというところで。費用の面に関しては私ちょっと分からないんですけども、ハイブリッド芝というのは検討に挙がるかどうかお伺いしてみたいと感じました。

委員： 前回、特に私はなるべくならば3種の競技場を整備してほしいという要望を出しました。やはり、つくば市でいろんな陸上競技会が開けるような施設が欲しいという思いがあったものですから。ただ、今回の話合い、また、今日の資料を見ますと、やっぱりいろんなコスト的なものもありますし、3種が難しい状況になってきているのかなと思います。

実際に、前回の資料にもありますが、県内、九つの陸上競技場が

ありますが、そのうち4種は一つもございません。1種、2種、3種までで九つです。つくば市で4種の競技場が造られれば県内では初めてになるのかなと思いますけども。ただ、現時点では4種公認だとあまり県内の陸上競技会は開かれていない。まあ開けるのでしょうけども、利用されないのではないかという気がします。つくば市を主体に考えての建設であれば4種でもいいのかなとは思いますが、4種の公認で3種相当の整備をしてもらえたらありがたいと思う次第です、私としては。やはり将来的なことを考えたときに、コスト、位置、また利用率、稼働、そういったことを考えて造っていかなくちゃいけないのかなと思います。すみません、話がまとまりませんけども。

事務局： 先ほどのハイブリッド芝についてですが、非常に魅力的だと思うんですけども、正確な金額は分かりませんが、こちらに示してある天然芝、投てき可能人工芝、これよりも相当コストが高いということでございます。今、国内で採用されているのは、ワールドカップのラグビー会場だった所だけだそうですけれども、いずれにしても、コストがこちらに今回示している資料のものに比べて相当するという事だけは情報がありましたので、正確な金額は、今日の時点では把握しておりませんが、一応その旨、ご報告させていただきます。

座長： 前回の会議で、4種にしておいて3種に格上げというのは難しいぞという意見も承っています。そんなことを含めて次の議題もありますのでそろそろ結論にいきたいと思いますけれども、どういう形を取りましようか。恐らくやっぱり拮抗しているんだろうなと思いますね、これは。決定的にこれがいいぞというところへなかなか行き着かないと思いますので。どういたしましょう。なにか、ご意見あれば。今日、最終的に決めないといけないわけですよね？

事務局： そうですね、決めていただければありがたいです。

座長： となると、いろんな方法あるかと思いますが、多数決ということですが、だから数で決めるしかないのかなという。無謀ですけど。

委員： 私は4種と申し上げましたが、3種だとやっぱり3種の意見をいただかないと、ここで多数決と言われても、そもそもこの人数構成をどうやって選んだか分からないので、それはちょっとやっぱり違うような気がします、申し訳ないですが。ですので、3種である方はやはり3種の意見をきっちり言っていただいて、ここで議論してまとめていくというのが筋だと思うんですよ。

委員： 3種か4種かという話なんですけど、私としては、やろうとしていることができるかどうか。3と4というよりは、やろうとしていることができるかどうかと、あとは、かかるコストの原資は税金だと思うので、やれることが同じであればコストが低いほうがいい。仮に1円でも安いほうがいいと思うんです。なので、3か4という議論よりは、できることが同等なのか、コストはどちらが安いのかという議論で私はまとめてしまうんですけどね。ただ、やっぱり3種は3種なりに恐らくもつといい意見があるのかもしれないので、私もそれを聞いてみたいんですが。

座長： 今、いくつか出てまいりましたけれども、多数決でというご意見もあるし、3種を強く希望する皆さんがその理由を述べていただいて、納得させるようなものを話していただだけませんかというご意見もあるし、4種の皆さんは3種に限りなく近いのであれば4種でもいいんじゃないのという判断とかジャッジをなさっているんだろうということですね。

前回の会議でも拮抗している中で、こうなったらもう事務局で決定したらいいのではないかとというようなご意見もあるんですが、それはちょっと避けたいなと思って、是非せつかく委員の皆さんいらっしやっていますので、委員の皆さんの総意で、こんなことでやっぱり3種になるぞ、4種になるぞというのが多分いいやり方かなと思いますけれど

も、何か決定的な、ありませんか。どうぞ。

委員： 3種を一番強く希望してるのは私なのかなと思いますので、ちょっと意見を述べさせていただきます。先ほども言いましたように、強く何が何でも3種と言い張るものではありません、私は。先ほども申し上げましたけれども、やっぱり将来的なことを考えたときに、コストの面や、あるいは稼働率とか。正確に3種と4種のどちらが稼働するかどうか、はっきりしないところがあるものですから。それからいろんな県内の公式の競技会ですね。つくば市だとつくば選手権だけなんですけど、いろんな競技会、公認の記録会、大学の競技会も含めて、そういった競技会が4種で開かれたというのは聞いたことないですね。みんな3種なんです。ですから、4種公認だとそういう競技会の開催は恐らくほとんどなくなるだろうと考えているわけです。だからつくば市の小中学生の記録会、競技会を対象にするのであれば、それで十分かなというように思います、私は。

ただ、先ほどもちょっと申し上げたんですが、3種相当の、要するに施設全部整備をした4種、あれはまたちょっと話が変わってくるのかなと思うんですね。そういう意味で私は3種っていうのをあくまで言い張るものではないということですね。いろんな競技会として利用されるような競技場を実現したらいいなと思うのです。

事務局： 少々補足させていただきます。前回の会議でも、この種別のところの論議で時間を取ってしまったようですので、我々としても何種っていうのは最終的には決めていただきたい、検討していただきたいんですけど、そうじゃなくて、この別表にあるような仕様、今、3種相当なのか、本当は4種なのかっていうところもちょうと曖昧ですので、仕様の部分に対して、例えばトラック舗装材は全天候がいいのか、そうでなくていいとか、更衣室やシャワー室、雨天走路が必要なのかとか、それを

やっていけば種別は後で付いてくるのかなという気がします。

先ほど委員がおっしゃったように、スタンドに関しては我々事務局のほうでも、他の利用ということも含めて芝ではない客席を想定したところはあるんですけど、そういったところも含めて、この一個一個、トラック舗装材から含めて、多数決じゃなくていいですから、ご議論いただければ明確になっていくのかなという気はします。

座長： あれは意見がもう固まって、フリーズされて、どちらかでいこうとなったときに発言は多分なくなってきますね。大変ファジーな表現もされていましてね。4種でも3種に近い4種ですよという。この辺も大変悩ましいですよ、なかなかすっきりしないところもありますよ、これは。だったらどっちなんだ、はっきりしろよと思う方もいらっしゃると思いますし、そういったことを含めてどちらにするかという。どちらにするかといっても、そのまま、この委員会としてはそれがつくば市の在り方として3種が望ましい、4種が望ましいという意見も検討しておかなければいけませんから、そこにふさわしい理由付けができるかどうかということだと思いますけれども、そんなことを含めて、ちょうど1時間になりますので、次の議題にもいかなければいけませんので、どういたしましょうか。多数決でという提案もされまして、投票なり、挙手なりということも一つの案かなと思いますけど、いや、それはやめたほうがいいぞというのであればやめればいいし、何かそれに対してご意見等ありますか。付帯施設等はいや応なしに3種と4種になったときにはそれなりにももちろん変わってきますので、そこでまた議論はしなければいけないと思いますけれども、取りあえずまずは種別をどうするかということは決定をしないとなかなか先に進めない問題でもありますので、どういたしましょうか。投票にしますか。何か方向付けはしたいなと思いますけど、いや、今日の議論のままで終わるぞという。多分

これ、また次回やっても同じ結論で、結論出ないで終わるんだろうと思いますね、何回やっても。どこかではやっぱりこういうパターンを取らざるを得ないんじゃないかなと、私は個人的にはそう思いますけど。

議長として、私は投票でやらせていただければありがたいと思います。いかがですか。賛成であればそれでやらせていただきたいと思います。よろしいですか。それでは事務局、投票用紙。

委員： すみません、無記名ですか。私は委員としてちゃんと意見は名前を入れるべきだと思います。匿名はやっぱりそれは良くないと思う。委員として任命されていますので、挙手なり何なりで。

座長： 今、投票ではなくてそれぞれの意見を示すという意味では挙手のほうがいいというご意見がありました。私はどちらでも結構ですけれども、挙手でもよろしいですか。それでは挙手で。

事務局： 選択肢としては、3種、4種、3種相当整備の4種、三つあります。

座長： 二つでいいんじゃないでしょうか。4種でも3種に近い4種ですよと言っていますので、そこも含めて4種で。それでよろしいですか。それではすみません、挙手でやらせていただきたいと思います。

(挙手による投票) 3種：2名、

4種：6名

座長： ありがとうございます。ちょっと乱暴なやり方なんですけれども、どこかでやっぱり、ずっと議論をしても恐らくこの議論は結論が出ないと思います。進め方がまずくて申し訳ありません、ちょっと乱暴なやり方で決を採らせていただきましたけれども。事務局、どうぞ。

事務局： ただ今の挙手、ありがとうございます。4種は、あくまでもたたき台にある3種相当整備ということで理解させていただいてよろしいでしょ

うか。ありがとうございます。

座長： ありがとうございます。

ただ今のところまで、種別の決定につきましてはよろしいでしょうか。それでは2番目の議題にまいります。

委員： 今のところ、そうすると、ここのメインスタンドはどれでいくつてことですか。今の議論は結構大切なところだと思うので。最初はやっぱり自由度は欲しいんですよ。全部フィックスされると他のところに予算を使えないので。4種だけ3種相当というところは私は別に否定はしませんけど、この細かいところが縛られちゃうと、今後、いろんなニーズがあったときとか、身障者の方とか、やっぱりそれに対応するような自由度は必要だと思いますので、4種だけいい方向だということだったら私はいいと思いますけど、あまり細かいところまでフィックスするのは、ちょっと賛成できない。

事務局： 1点だけ、観客席についてのご議論があったかと思うんですけども、要はメインスタンドと芝スタンドという、今、こういう形にはなっていますけれども、そこのところは確かに議論が少なかったと思いますので、この辺のところを委員の皆さんにも是非、もう一度ご意見をいただけるとありがたいです。でないと、この後の整備の構想のほうも結構変わってきてしまう可能性がありますので。

もう時間がないところ申し訳ないのですが、よろしくをお願いします。

委員： スタンドのことなのですが、先ほどご意見があったように、芝生の所を多くして自由度を高めるというのもとてもいいアイデアだと思うんですけど、実際、陸上の競技会でいろいろな陸上競技場を使用して見た感覚というか経験なんですけども、やはりこれ、全体をスタンドにするのはコストの面でもとても厳しいと思うんですけど、なかなかこの芝のスタンドというのはですね、斜面になっているんですね。で、斜面

の芝のスタンドというのは、天気が悪いときには非常に使い勝手が悪い
というか、もう泥だらけになるんです。かなり芝を丁寧に整備されてい
る競技場でもその点はやはり問題があるということで、そういう面でも
メインスタンドというのは構成したほうがいいのではないかというのが
一つ私の意見です。

それともう一つは、メインスタンドを構成することで、例えば写真判
定室であるとか、医務室等、競技エリアに隣接しておかないといけない
部屋といいますか、そういうものが確保されるのと、それからスタンド
の陰がそのまま雨を避けられる。先ほど他の委員からもあったような、
例えば雨天走路をメインスタンドの裏に配置するとか。それからメイン
スタンドの中に配置するような方法ですね。そういう方法が取れるとい
うこともあって、やはりメインスタンドはコンクリートのもので構成さ
れているのがいいのではないかと思います。

メインスタンド以外のスタンドが芝なのは、雨のとき、これなかなか
問題ではあるんですけども、例えばそこにテントを立てたりすることも
実際できますし、そのような活用の仕方がされておりまして、汎用性の
面ではいろいろ、後からそのときに応じて何か物を配置したり、そうい
うことがしやすいという点では非常に優れていると思います。ただ、全
部となると、いろいろ、雨の日の問題であるとか、メインスタンドを配
置したときに生じるメリットが減るのではないかなと思います。

座長： ありがとうございます。恐らく種別の問題とか、場所をどこにする
かということが早く決まれば、この内容について議論をしていただくの
がやっぱりつくばらしさだと思っているんです。

スタンドどうするのか、今、お話をいただいたように、要するに電子
記録を取るためには何が必要なのか、建物はちゃんと必要なのか。雨天
走路なんかはすぐ近くではないですから。だからそういう意味ではいろ

んなパターンが考えられると思うんですね。だからそういうことを含めて、そちら側に多分時間を割いていただくのがこの会議の使命なんだろうと思っています。残念ながらなかなかそこへ行き着くまでに時間を割いていますけれども、基本的には、内容について議論させていただいたら、きつつくばらしさ、つくば市にふさわしい、そういわれるものが多分できるんだらうと思うんです。

ただ、つくば産の芝生を張ったらつくばらしさが現れるかという、芝生につくばなんて名前は書いてないのだから、そんな話じゃないと思うんです。その中身の議論をするために、多分、この委員の皆さんにはお集まりいただいていると僕は考えているんですね。そういう意味では次の候補地の問題も悩ましいんですけども、二つ目のほうの議題に移らせていただきます。それでは2番目、候補地の比較検討について説明いただきます。お願いします。

(2) 候補地の比較検討について

(事務局から、候補地の比較検討について説明があった。)

座長： ありがとうございます。候補地の状況等について、現況について説明がありました。ただ今からご意見、ご質問等を承りたいと思います。

委員： 勉強不足で申し訳ない、ちょっと教えてもらいたいんですけど、コストの所の①、土地取得費用、高エネ研南側未利用地には、土地購入支払い費用がある、で、購入代金プラス利子を合わせてとあるんですけど、68億円であることから按分して10億5000万、これはもう払っているものなんですか。それとも今後、払わなくちゃいけないものなんですか。

事務局： まだ支払いはしておりません。今後、支払うべき金額になります。

座長： これは大変厳しい条件を示されているので、二者択一のような格好で

提案をされています。どちらかを選択しなければいけない状況なのかな
と思っています。どうぞ。

委員： 私も市の財政について勉強不足なものですから、お伺いします。この
高エネ研南側未利用地というのは土地開発公社が今現在、持たれている
んですか。

事務局： その通りです。

委員： これを利用する場合には全部で 68 億円かかると。そのうち陸上競技
場だけの整備に必要な土地を取得する場合には 10 億 5000 万円かかる、
そういう意味ですか。

事務局： これはあくまでも按分した場合の計算になりますので、全体的には68
億円かかるんですけども、例えば必要な分を陸上競技場として考えた場
合には、案分として 10 億 5000 万円かかるという計算になります。

委員： この 45.6 ヘクタールの利用については方向性が出ているんですか。

事務局： そこのご質問なんですけど、今現在、市としては検討中です。で、今
回、この陸上競技場の候補地とさせていただいたのは、客観的に、先ほ
どご説明させていただいた 6 ヘクタールというところ、まとまって活用
できる土地、それも公的に活用できる未利用の土地ということで上郷、
高エネというお話でございました。先ほどご説明申し上げたように、議
会のほうでもこの辺、今後、何にしたらいいかというのをご検討いただ
いてますし、それに合わせて市のほうも高エネ研究自体をこれからどう
していこうというのは検討してるところでございます。

事務局： 少々補足します。そもそも論からもう一回補足しますと、この高エネ
研南側未利用地というのは、皆さんもご存じのとおり、過去に総合運動
公園用地として UR から売買契約をした土地で、市が購入しなくちゃい
けない義務は持っているんですけど、その用地を何に使うのかというの
は住民投票等もありましたので白紙になっておりまして、今現在は取得

済みの土地ではないという解釈でいいものです。で、この土地をどうするかというのは当然、市としての大きな課題ですので、議会を含めて今、検討中で、以前ちょっと民間売却という話もありましたけど、今現在はまだ白紙の状態です。

これをここに挙げたのは、活用可能の可能性のある土地という、比較検討して挙げている状況でありまして、ただしこれは市の土地ではないので、今現在、市は買っていないので、もしこれが陸上競技場に使われるのであれば、陸上競技場用地として購入する。端的に言えばこの陸上競技場の整備費用に土地代が乗ってくると解釈していただいて間違いはないかと思います。そういった形で、今現在、取得済みの土地ではないのですが、使える可能性のある土地ということでここに出させていただきましたが、土地代は当然かかってくるというような大きな違いがございます。

委員： 今の内容についてなんですけれども、これは契約をして購入の義務があるということなんですけれども、購入をしないという選択肢はもうないわけですか。もう既に契約しているので、とにかく購入するということなんですか。

事務局： ここでお答えするのはなかなか難しいんですけど、当然これは返還交渉などもしましたが、それは結局は駄目だという形で、市としてこれに関しては何らかの活用方針を探していくというのが今の状況です。

委員： ありがとうございます。もう一つなんですけれども、利子分ってというのは、これは購入の契約をしたけども払っていない間、これは利子というのは何の利子なのですか。

事務局： この土地につきましては、先ほど申していますとおり、つくば市の土地開発公社が一度 UR から購入しまして、そのときに購入した金額が 66 億円で、この 66 億円につきましては、土地開発公社のほうで金融機関

からお金を融資していただいて UR にお支払いした。その金融機関からの利子が今、2億円を少し上回る程度。で、つくば市が購入しなければいけないというのは、土地開発公社とつくば市の間の契約で、もともとつくば市が購入する計画だったのを土地開発公社が買っていただいて、そこから市が買い取るようなスキームになっておりましたので、その期限、令和5年度末に土地開発公社から市が買い取らなければならないという、市と公社での約束だと認識しています。

委員： この高エネ研南側の話なんですけど、令和5年度っていう話で決めなくちゃいけないラインって感じですかね。で、さっき言った陸上競技場を造るのに可能性があるというのは、駄目な場合もあるってことですよ。利用で陸上競技場として使えないっていう可能性もあるのかなのかっていうのもそうですし、その前に、土地のほうがそもそもどういうふうに決まって、どういうふうに使うっていうのが決まってない上で、この陸上競技場の議論をするっていうのが、なんか結構違和感があるんですけど。例えばそこに造れるっていうのが前提であってこの議論をするんだったらあれなんですけど、もしかしたら使えないっていう可能性がある話の上にここの議論をしていくと、どうなんでしょう。高エネ研で実際それが造れるのかどうかっていうのが。私は陸上競技場があったらいろいろな活動ができるんで陸上競技場が欲しいんですけど、でも、令和5年度から、で、そこから先って考えると、結構先な話にもなるのかななんて一瞬不安になってきたんで、ちょっとお聞きしたいんですけど。よろしいですか。

事務局： 先ほども申し上げたように高エネの活用については、今、未定です。ただ、もし仮に高エネが陸上競技場の候補地ということになれば、当然、市としてもそれは検討していく必要は出てくるかと思しますので、可能性という意味では、このように広い敷地はなかなかないですから、

一つ候補地に挙げさせていただいています。確かに全体計画は決まっていますけれども、当然コンテンツの一つとしては検討の余地が出てくる可能性はあるのかなという感じでございます。

委員： 私もちょっと勉強不足なのですが、この高エネ研の南側の未利用地って今、土地開発公社が持たれているということで認識してよろしいですか。それを将来的につくば市が取得する方向でいるのでしょうか。それが今、ちょっと分からないものですから。それとももう取得しないで。この未利用地は今、土地開発公社が持たれている、その土地をつくば市が今、どのようにしようとしているのかがちょっと見えてこないものですから。

事務局： ちょっと所有の所在が、いったん市で買い取った後に、昨年度の特別委員会ができるまでは民間に一括で売却しようという計画がありましたので、いったん市で全部買い取った後に民間に売却するのか、それとも土地開発公社と民間業者との間で取引するのかっていうのは、すみません、この時点ではちょっと答えを持ち合わせてはいないんですけども、このまま何も決まらないままずっと方向性が決まらないと、令和5年度末に市が購入すると認識はしております。

委員： 将来的には、方向として土地はつくば市が取得する方向で考える、まあこれも決定じゃないでしょうけども、ですよね。だから先ほど他の委員さんが言われたように、先が不透明なところに候補を挙げるのはいかなものかなという考えも私は持つんですね。全然先行きが見えないところにグラウンドのそれを造るといふ。確かに候補地としては取りたかったんでしょうけども、そういう先が見えないところに候補地を挙げるのはちょっと、うーんっていうような感じはするんですね。

事務局： 先ほどから、申し上げておりますように、確かに高エネ研、今言ったようにいろいろ課題はありますけれども、この抽出については、あくま

でもこの施設規模を、整備できる可能性がある土地ということで抽出しています。ですから当然、全くできないってことではないと我々も理解していますけれども、ただ、そのような中で、一方の上郷といろんな面で比べた場合に、果たしてどうなのかというところを是非委員の皆さまにはご意見をいただければと思います。当然、取得費、コストのお話等もありましたけれども、その他の部分でもそれぞれの利点、欠点的なところもこちらに載せさせていただいていますので、そちらについては是非ご意見をいただければと思います。

委員： つくば市民としましては、やっぱりこの膨大な土地と金額のことは非常にずっと気になっていた部分ではあるんですけども、一市民としましては、つくば市が数年前に大きな負債を抱えたぐらいの認識でおりまして、市長選にしても、市議選にしても、非常に大きなテーマの一つに挙げられる、つくば市の今、すごく大きな注目を浴びるテーマなのかなと思ってはいます。

また、それぞれの方の立ち位置によって、見方であったりとか、発言できることっていうのも非常に制限される内容で、すごくセンシティブな問題でもあるかなと思うんですけども、つくば市の陸上競技場を造るっていうところで、候補に挙げたところで、先ほどもご意見があったように、実際に実現できない可能性が高いのであれば議論するだけ無駄になってしまいますし、逆にこれをある程度話を進めて、つくば市の、何ていうんですかね、立て替えてもらってるような認識でいるんですけども、土地を使いたいというところを表明したことによって、残りの土地がより一層行き場を失うというか、売り先がなくなるであったりとか、扱いが非常に厄介になる可能性を考えると、一市民としてはもう少し、先ほどもありましたように、この土地の話が進んでからでないところを考えるのはちょっと不安がより大きいなと思います。

委員： 高エネ研のこの土地の利用は、ここのマターじゃなくて、別の所でやっていただいて、本当にここでやるって決まったら比較して議論したらいいかなと思っております。競技場を造りたいっていうのはすごい願いですので、スピード感持って対応したいわけです。いつできるかどうか分からないことを待って、令和5年までいくと、今、子どもたちはもう使う機を逃してしまいます。なるべくスピーディーにできることをできる形でどんどん進めていけるような、そういう建設的なディスカッションができる場でありたいと思うので、私はこの高エネ研の所が比較対象になっている所は見ないぐらいのイメージで進めていきたいなと思っております。よろしいですか、こういう発言も。

座長： この問題も先ほど申し上げましたように、二者択一でこうやって提案をされました。私なりに理解をしているのは、私も長い間、つくば市と色々な形で関わらせていただいています。一番初めは、つくば市が、まだつくば市になる前ですね。総合運動公園計画というのが出されまして、そのときの委員になりました。本当にいろんな所、見て歩きました。職員の皆さん、そしてまた設計士の皆さん。多分今も手元にありますけれども、百何十ページぐらいの報告書、出しました。でも、全く進行をしないでボツになりました。でも、当時の委員にこういう理由でボツになったという報告も何にもないんですよ。何だったんだろう。何のためにこんなあちこち見て歩いて、そしてまたレポートまで書いて、俺たち何やってるのと。

恐らく一番難しいのは議会二元制だということに思います。今回なぜこれを提案されたか、1点、上郷高校というのを提案させていただいたのは、実は私も幸か不幸か、3年前につくば市の理事を仰せつかりました。それ以前、15年間だと思いますが、つくば市のスポーツ審議会の委員、そして会長も数期、務めさせていただきました。その時に委員の皆

さんにもずっとお願いを申し上げた一つは、つくば市のスポーツ振興担当委員だったらつくば市のスポーツ施設、全部見て歩けとお願い申し上げた。でも、皆さんから総スカン食って、「審議会の委員がそんなことするものじゃない」、「ああ、そういうものですか」、折れました。

幸か不幸か、つくば市のスポーツ振興担当理事として命を受けて、まず一番初めにやらせていただいたのが全てのスポーツ施設を見ることです。六十何か所、全部見て歩きました。本当につくば市大丈夫かよ、将来この施設をどうやって管理したりなくしていくんだ。僕は今、職員の皆さんに言っているのは、「いずれは施設のトリアージが必要でしょ。優先順位を付けて、造ることも必要だけれども、なくさなければいけないこと、誰がどうやって評価して伝達するんですか」、今、そういう話をしています。

そして一昨年ですか、廃校になる学校も全て見させていただきました。小学校なんか涙出ますよ、見に行って、『百何十年の歴史にありがとう』の横断幕、見て。子どもたちの作文が書いてある、絵が描いてある。五十嵐市長にも言ったんですね。「若い先生方とか、若い職員にはこの光景見せろ」って。でも、残念ながら実現してない。そういうことを含めて、今回、上郷高校はなぜ候補地になったのか。新たにべらぼうな予算を投入しなくても、ここだったら陸上競技場できそうぞという提案をさせていただきました。事務局は提案をした。行政もそれに乗って提案をした。でも、議会は反対をしたんです。それもいいでしょう。その背景には高エネ研があるじゃないの。もちろんあるのは分かっています。そしてあの広い土地に本当につくば市が総合運動公園のようなことを造って、あるいは陸上競技場のようなものを造って、将来に禍根を残さないでいくのであればやればいい。この会議の冒頭にもお願い申し上げました。行政って何だ、スピード感を持って要求していることに応

えることが行政の役割じゃないの。何年小学生、中学生が陸上競技だとか、記録会できるものが欲しいと言っているか。何年自治体はそれを反故にしているんですか。今回はそこには終止符を打ちたい。そして限りなく早くできる場所があるのであれば、これだったらちゃんとできるという場所を確保するのが僕は大人の役割であるし、行政の役割であると思います。

これからもう一回、高エネ研、まだ全く白紙じゃないんでしょうか。これからどうするかを決定する、方や地質調査まで終わって、こんなことだったらできるぞというところまで来ている。それがあって高エネと上郷という二者択一を提案させていただきました。大変厳しい選択だと思います。でも、何にプライオリティーを置いてジャッジをしていくか、その議論をここの委員の皆さんにはしていただければうれしいなと思います。あんまり議長がしゃべってはいけないのだけれども、言わしていただかなければいけないことは発言をさせていただきました。お願いします。

委員： 今回の事業はやっぱスピード感を持って実現していく必要があるということですね。私も同感です。それからこの資料は比較のために載せたんでしょうけど、この内容を見るともう火を見るより明らかですね、条件としては。完全にこの上郷高校跡地のほうがすぐに実現しやすいというのは見ていてもすぐ分かりますよね。また、コスト的にもかからない。多分、事務局は比較の資料っていうことで作ったんだと思いますが、もう選択の余地はないかなという感じを私は持ちます。

委員： 私、この資料を見させていただいて、両方とも実際に見に行かせていただきまして、特に上郷高校の跡地のほうですね、周辺の道路が非常に狭くて、大きな施設っていうのも、あそこに造るとなると非常にアクセス面で、まあ道路がないわけではないんですけども、ちょっと心配だ

などというところと、北側の土地と南側の土地の間に道路があるっていうところで、その活用も慎重に考えないと、やはり駐車場からのアクセスであったりとか、競技場とセミナーハウスの行き来であったりとかっていうところが非常に困難になる可能性もある。特に体育館なんかが、北側のグラウンドになる部分と逆側にある。校舎に関してもちょっとプールを挟んで非常に遠い所にあるって印象を受けましたので、そこに関してはちょっと議論する必要があるなというところと。

あとは校舎と体育館に関しては非常に老朽化が進んでいるように見えて、確かに改修により活用が可能とは書かれているんですけども、そこに関しては将来性というところでどのぐらいの耐用年数があるのか、あと安全性というところ、場合によっては広域避難所の役割も担うと考えたときに、どのぐらいのことができるかということは検討が必要だなというように感じました。

委員： 今、示していただいた比較案、これ、やはりコストの面とか諸々考えると、どちらかとなると、やはりスピードの面考えても上郷高校の跡地ということになるんだと思うんですけども、一つ心配しているのは、今のご意見とともに、つくばマラソンのことはあまり想定しなくてもいいんですかね。これ、市としても大変重要な事業で、人がたくさんいらっしゃる機会でもあって、市民全体への影響もすごい大きい重要な事業だと思うんですけど。もともと今回、最初から前提はつくば市の競技会ということ为前提に話が進んでいますので蒸し返すようなことになるんですけども、最終的にはつくばマラソン自体はつくば市の陸上競技場を利用するというのは想定しないということでもいいんでしょうか。つくばマラソンに関係する委員の方にもお聞きしたいんですけど、例えば上郷高校の跡地の場合に、つくばマラソンでの利用というのは可能性としてはどうなんでしょうか。

委員： 現状の道路の状況を見ると、また、集落の状況を見ると、上郷高校の跡地での、2万人からの選手を集めた事業は極めて難しいというように認識しています、私は。ですから、つくばマラソンを私はずっとやってきましたけども、筑波大学さんのほうにお世話になっているわけですが、もし上郷高校の所に陸上競技場が造られたとしても、ちょっとそこでは開催は難しいかなというのが認識です。

委員： ありがとうございます。

委員： 私も、今回、資料を見たときにかなり違和感がありまして、親子関係が逆だと思えますね。上で決まってこっちで決めているんですけど、そこがやっぱりかなり違和感を持ちました。それは別として、選択肢としてということではいろんな条件広げてやりましょうっていうことで考えたとしても、やっぱりスピード感ですよ、やはりすぐにでも始められること。造るならちゃんとしたものを造ってすぐやっちゃったほうがいいわけであって、私としてはもう上郷のほうがいいかなと思います。いずれにしても住民投票があったんで、かなりきな臭いところにここで議論を、委ねると言ったら変ですけど、なんかちょっとやっぱり抵抗がありますし、あと、当然これ、合意形成、えらい多分時間がかかると思います。そういう意味から考えるとリアリティーがない話であって、ならもう上郷高校なのかなと私は思います。

それと、先ほどの取り付け道路、多分こっちから石下に行く所の北からの、取り付け道路は裏側が使えると思いますので、そちらの道路拡幅をして、上郷の方に迷惑が掛からない、こっちと交わらないような道路建設、多分必須だと思いますので。当然いろんな調整が入るかと思いますが、そこはもう少しずつ進めていけば周辺地域に交通渋滞の迷惑は掛けない、手前で道路造れるはずですので、是非ご検討いただければなと思います。

委員：先ほども防災拠点って一つ発言したので、併せてこれも防災拠点、挙げておきたいと思いますけども、少し前に鬼怒川が氾濫しましたよね。この辺、避難所になっています。ずっと前には小貝川が氾濫しました。ちょうどあの辺りにこういう拠点が一つできるというのは市民の方々でかなり有効活用できると思いますので、それも一つ選択肢に入れると役に立つかなと思います。ちょっと外れてますけどね。

座長：他、いかがでしょうか。考え方によっては、場所は二者択一だというように先ほどから申し上げていますが、他の土地はないのかという考え方もきっとあるんだろうと思います。でも、その案は恐らく利用していない高エネ研というのがある以上、どこに提案をしても恐らく無理だろうと思うんですね。だったら高エネ研、使えばいいじゃないのって話になるんだろうというわけですね。だからそういうことを含めて今回、二つをご提案させていただいて、比較をさせていただいた。純粹にこうやって比較をしていってどっちが決定的にいいか、なかなかこれも先ほどの種別の問題と一緒に、それは絶対に広いほうがいいに決まっていますね、緑も多いし。だけれども、なぜ上郷にこだわっているかっていうと、廃校になった跡地って、これ、どういうふうに跡地利用をしていくかというのは行政の極めて重要な仕事ではないのでしょうか。使える所は限りなく多く、その廃校になった跡を利用すべきだというように思います。それが今、行政に課せられた大きな役割じゃないでしょうか。私は個人的にはそう思うんですね。

これからどんどん人口が減っていく。幸いなことに、つくば市は増え続けます。でも、それも28年後で終止符なんです。30年たたないで減少していくことがもう試算されているんですよ。その中で行政はどんなものを造って後世の人たちに、「これ、よかったね」と言ってもらえるものを残していくか。それは行政の役割じゃないのでしょうか。立派な

ものを造って、今、人がいる、財政的にもまだ我慢できるぞ、その時代だけのものではないと私は思います。政治は、僕は人にとって優しさを持つべきだと思います。「つくばって本当にいいね。この陸上競技場やっぱ造ってもらってよかったね」という陸上競技場を造るべきだと思います。大きさでも何でもなし、華美でも何でもなし、でもそこにあつて、本当に使い勝手が良くて、いつも清潔に保たれている。ここだったらみんな頑張つて走ろうかと思つてもらえるような競技場を造ることがつくば市の使命だというように思います。

今回もまた、場所も二者択一です。もう一度委員の皆さんには持ち帰っていただいて、ほぼ結論、出していただいているというようには思いますけれど、もう一回、冷静になつて考えていただいけませんか。そしてどちらがいいかという結論を出していただければいいんじゃないかなと思います。事務局、それでもいいですか。今日結論は出さなければいけないんですか。

事務局：次回、これまでの議論を取りまとめる予定であるため、ある程度もし今の考えをうかがえれば、ありがたいです。

委員： 選択してもいいかなと思います。これだけの資料、出てますから。そのほうが事務局がやりやすいと思うんですよね。

座長： では、諸々の日程を考えて、多くの意見の皆さんが上郷だろうとおっしゃっていただいたというように思つてよろしいですか。それがこの委員会の総意として上郷高校の跡地を陸上競技場の候補地とするということでもよろしゅうございますか。それでは上郷高校の跡地ですつていうことで推薦をいただいたということにしたいと思います。ありがとうございました。

用意しました議題は以上でございますけれども、委員の皆様から何かご意見、ご質問等ございますでしょうか。それでは間もなくちょうど2

時間になります。長い時間にわたりまして貴重なご意見いただいて、そしてまた重要な審議をしていただきまして、ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。1点は種別の問題、もう1点は候補地の問題。いずれにせよ頭の痛くなるような大変難しい問題に結論を出していただいたことを厚く御礼申し上げます。できるだけしゃべらないようにと思っていましたけれども、ちょっとしゃべり過ぎたかな、余計なことを申し上げたかなと反省もしていますけれども、長時間にわたりまして長い間お力添えいただきましたことを御礼申し上げます。ありがとうございました。

事務局： 長時間にわたり建設的なご意見、ご助言等いただきまして、ありがとうございました。次回、先ほど申しましたように、これまでの皆様のご意見をもとに、いよいよまとめの方向に入っていきたいと思います。今回は、資料が遅れてしまい本当に申し訳ございませんでした。次回は、できる限り早く委員の皆様にお配りして、中身をよく精査いただけるよう、努めてまいりますので今後ともよろしくお願ひしたいと思います。以上をもちまして、本日の会議を締めさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

一 同： ありがとうございました。

(以上)

31-2 陸上競技場整備基本構想策定支援業務委託

第3回 陸上競技場整備基本構想策定検討会議

【本編】

目次

1. スケジュール.....	2
2. 具体的整備内容案・・・第2回検討会議で整理された計画目標への対応.....	3
2.1 基本的な役割と付随的な役割／整備時の配慮事項等.....	3
2.2 具体的な整備内容案.....	4
2.2.1 施設内容と整備水準／整備上の留意点等.....	4
2.2.2 施設規模の想定.....	6
3. 候補地の比較検討.....	8
3.1.1 候補地の抽出.....	8
3.1.2 比較評価のとりまとめ（各候補地の課題等を含めた比較評価一覧表）.....	10

1. スケジュール

回数	予定時期	主な協議内容	提示予定資料
第1回	2020年 7月30日	<ul style="list-style-type: none"> ● 会議の主旨、スケジュール、これまでの検討状況等の確認 ● 計画条件の確認（社会状況の変化、上位計画と周辺施設との連携、市民ニーズと団体等の意向等）／課題と対応の考え方について意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> ● 計画条件のまとめ
第2回	9月24日	<ul style="list-style-type: none"> ● 計画目標の調整（管理運営イメージ等を含む目標イメージ、導入機能の重点と整備水準設定：誘致する大会カテゴリーの考え方等） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 目標像・整備理念案 ● 近隣自治体の整備事例（整備水準と運営管理面の課題と工夫等） ● 整備レベルごとのコストの比較
第3回	11月4日	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な整備内容案（敷地に即した施設内容と規模の設定及び平常時と大会時の利用形態想定と、これに伴う附帯施設の内容と規模の想定） ● 候補地の比較検討（整備目標達成に向けた適合性・利便性・コスト等） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 整備内容（導入施設内容と規模・整備水準） ● 候補地の比較検討案
第4回	12月上旬	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本構想案のまとめ ● 事業形態と資金計画を含む管理運営イメージの調整 ● 概算を含む段階整備イメージの調整 	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本構想案 ● 管理運営イメージ（案） ● 概算を含む段階整備イメージ（案）
2021年1月		<ul style="list-style-type: none"> ● パブリックコメント実施（広報つくば1月号掲載） 	
第5回	2021年 2月上旬	<ul style="list-style-type: none"> ● パブリックコメントの反映の考え方確認 ● 基本構想の最終まとめ案の調整 	<ul style="list-style-type: none"> ● パブリックコメントの速報結果と対応の考え方 ● 基本構想の最終まとめ案

2. 具体的整備内容案・・・第2回検討会議で整理された計画目標への対応

2.1 基本的な役割と付随的な役割／整備時の配慮事項等

【基本的役割】

市内の小中学生の公式陸上記録会・競技会及びつくば陸上競技選手権大会が開催可能であり、障害者や高齢者等誰もが利用できる施設

- 小中学生の公式記録が取れるとともに、つくば陸上競技選手権大会に含まれる投てき種目も実施できる施設整備
- SDGsの基本理念を取り入れ、障害者、高齢者、子どもたちなど市民の誰もが、安全・安心に利用できる施設整備（健常者と障害者が一体で利用できる環境づくり）

【整備上の
配慮事項】

- サブトラックとして活用できるウォームアップ空間/雨天時にも活用できる空間の確保
- ウォーキングに代表される健康の維持増進に対応した空間や日常的な軽い運動やトレーニング空間（球技のできる広場、遊具やアスレチック）の充実
- ライフスタイルの多様化に対応し、いつでも気軽に利用でき、スポーツに親しめる環境づくり（夜間照明施設の設置等）と自由度の高い管理運営を想定した施設計画（収益施設の併設等、民間ノウハウ活用）
- 上記と連携した多様な「スポーツプログラム」提供、参加型イベントや教室等の開催、それらにかかる情報提供の充実・・・ビジネスパーソン、女性、障害者等これまでスポーツに関わってこなかった人の誘引・スポーツ実施率向上につなげる整備

【付随的役割】

防災機能を備えた地域活性化拠点

- 災害に備えた対応（広域避難場所／物資輸送の中継地点等の役割を想定）

【整備上の
配慮事項】

- 避難・輸送を考慮した複数の入口とスムーズでゆとりある動線（バリアフリーにも配慮）の確保
- イベント・興行など多目的利用に取り組む場
- スポーツに加え、多様な集客イベントが開催可能な環境
- スポーツツーリズムへの波及
- 市内の既存公共スポーツ施設に加え、周辺のサイクリング道路、体育館、公園緑地、河川等との連携を意識した活動ネットワークの拠点として整備
- 環境に配慮した空間づくり（周辺地域との一体な景観形成）
- 再生可能エネルギーの活用による環境負荷低減
- 「つくばらしさ」への展開（科学技術の実証実験の場等）

2.2 具体的な整備内容案

2.2.1 施設内容と整備水準／整備上の留意点等

整備施設の想定【検討たたき台】			検討経緯・留意点等	
運動施設	陸上競技場	<ul style="list-style-type: none"> ● 400mトラック1面（全天候型舗装8レーン） ● インフィールド部は天然芝（サッカー等の多目的な球技の利用を想定） ● 雨天走路（テント掛け） 	<p>【全天候舗装とした理由】</p> <p>①大会や雨天時の利用、降雨直後の迅速な利用を考慮②障害のある方の使いやすさを考慮③市内中学生の大会が他市の全天候型舗装の施設で行われることが多いため、同様の環境を考慮</p> <p>【天然芝とした理由】</p> <p>①つくば陸上競技選手権大会に投てき種目があり、やり投げに対応（第4種以上の公認に必要な「投てき対応人工芝」と比べライフサイクルコストが割安）②つくば市は日本一の芝の産地でつくばらしさにつながる</p> <p>【レーン数の設定理由】</p> <p>コスト低減のため、全体を8レーンに変更</p> <p>【雨天走路を確保した理由】</p> <p>第3種・第4種では「無くても可」の施設であるが、「ウォームアップ空間」や「雨天時の活動空間」などの利用活性化を重視</p>	
		第3種公認	第4種公認（第3種相当整備）	
	用器具・備品等	第3種公認に必要な用器具	第4種公認に必要な用器具	【用器具の内容・数量】 公認に必要な最低限を確保
	観客席	<p>メインスタンド観客席 1,500 席</p> <p>芝生スタンド 2,500 席</p>		<p>【メインスタンドの客席数の設定】</p> <p>「市内の中学の陸上競技大会時の同時来場者数」に対応する規模を確保</p> <p>【芝生スタンドの設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「低コスト化も見据えて、つくば市らしく芝を主体とした整備」を重視 ● メインスタンド以外は芝生スタンドとすることで柔軟な利活用を促す。必要があれば大会等開催時には適切な席数を仮設対応可能とする <p>【メインスタンド・芝生スタンド】</p> <p>誰もが利用できることを基本に、座席仕様・視線計画・動線を含めたユニバーサルデザインに配慮</p>
	管理棟	<ul style="list-style-type: none"> ● 管理事務スペース（受付・医務室等を含む） ● 本部室、放送記録室、審判控室、多目的室、会議室、控室 ● トイレ（男・女・多機能）／更衣室・シャワー室 		<p>【施設の規模・配置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 必要最低限の施設面積とする。特別室等は、必要時のみ仮設対応可能とする ● 敷地形状・規模に合わせて（分散・多棟化も含めて）柔軟な施設配置を検討するとともに、施設の多機能化を考慮 <p>【更衣室・シャワー室】</p> <p>第4種では「無くても可」の設備であるが、利用者の利便性や快適性を考慮</p>
運動器具倉庫	第3種相当の用器具・備品の格納スペースを確保		【運動器具倉庫の規模】 将来的に多様な大会の開催を可能とするための余裕を確保する	

整備施設の想定【検討たたき台】			検討経緯・留意点等
園地	園路広場 ・ 休憩空間	<ul style="list-style-type: none"> ● 修景・休養・緑陰空間／遊戯空間／多目的広場 ● 入口・拠点広場／外周散策路、ジョギングコース 	<ul style="list-style-type: none"> ● 園地は「サブトラックとして利用できるウォームアップ空間」として利用するとともに、日常の憩い空間としての利用に配慮した整備 ● 敷地全体を一周できるコースを確保するとともに、魅力的な散策空間となるよう、線形や園路周辺の四季の景観変化に配慮
	防災機能	防災担当部署と調整して規模・内容を検討 (避難場所・防災備蓄倉庫)	日常的な利用だけでなく、災害時の避難場所としての活用を想定し、屋外トイレの配置を考慮
屋外 トイレ	災害対応も考慮した男・女・多機能の各施設		
便益施設	夜間照明 ・ 電気設備	いつでも気軽に利用できスポーツに親しめる施設として、夜間の利用に必要な照度を確保	【夜間照明】 夜間帯の利用を促すために、一般利用に必要な200lx程度の照度を常設確保 (LED照明の採用などメンテナンスコストの低減に配慮する) 【電気設備】 イベント時等の仮設を考慮した整備
	駐車場・ 駐輪場	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 普通車用 400～500 台程度 (バス 33 台分に転用できる 83 区画を含む) </div> <ul style="list-style-type: none"> ● 身体障害者用 10 台／駐輪場 100 台 ● 自動車利用率・最大時同時来場者数から想定した必要数の70%を提供 	利用者が少ない平常時の駐車場の扱いを考慮し、駐車場面積の1／3程度を芝または人工芝として、平常時には多目的広場として利用できるように整備
附帯施設	セミナー ハウス等	<ul style="list-style-type: none"> ● 会議室・研修室等 ● 地元企業との連携による物販施設も検討 	スポーツ以外の利用や地域活性化のためなど多様な機能を確保

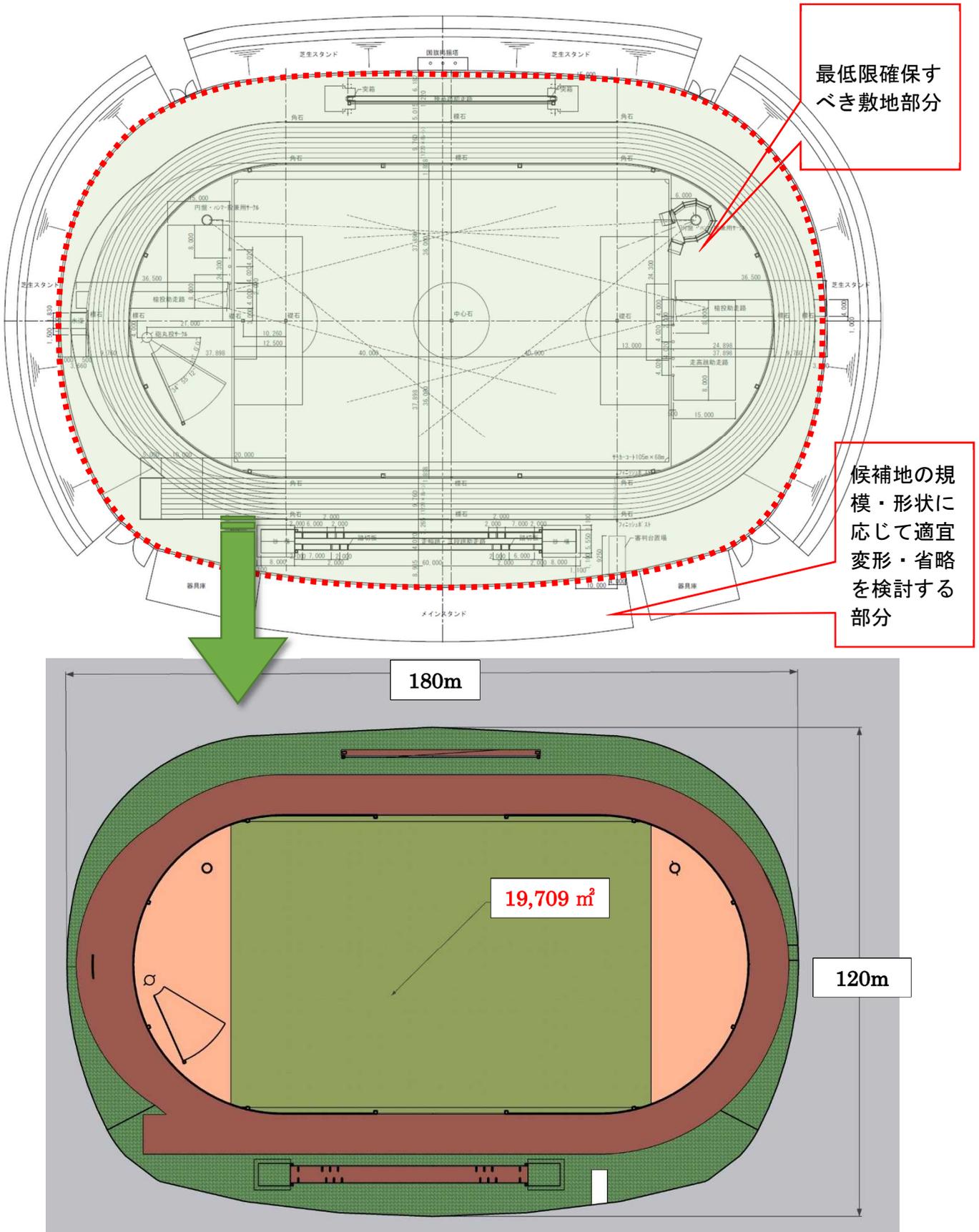
※バリアフリー対応：「茨城県ひとにやさしいまちづくり条例」に配慮した整備

2.2.2 施設規模の想定

(1) 陸上競技場：【第3種公認相当整備】に必要な敷地規模

① 運動施設

- 【陸上競技場本体】：第3種公認施設のモデルプランは下図に示すとおりである。このうち**競技場本体に必要な最低限の敷地**を抜き出すと、約180×120mの範囲で、**面積としては約2ha弱**となる。



② スタンド・観客席・管理棟・備品庫

- 競技場外周部には、メインスタンド（管理棟を含む）・芝生スタンド・倉庫等を配置する。ただしこの部分については前掲のように候補地の敷地規模および形状に応じて変形・縮小することも可能である。各要素個別には、下記の規模の面積が必要とされる。メインスタンドと管理棟の重なりも考慮すると、「運動施設」面積の合計は、2.3～2.4 ha程度と想定される。

● 【観客席】

- メインスタンドは $0.6\text{m} \times 1.2\text{m} \times 1,500\text{席} \doteq 1,100\text{m}^2$
- 芝スタンドは一般に $0.6 \sim 1.0\text{m}^2/\text{席}$ 程度の単位規模とされることから $2,500 \times 0.6 \sim 1.0 \doteq 1,500 \sim 2,500\text{m}^2$ が必要となる。

● 【管理棟】

- $300 \sim 500\text{m}^2$ 程度と想定され、メインスタンドの構造によっては、その下部に収めることも可能な規模である。

● 【用器具・備品庫】

- 第3種公認に必要な用器具・備品を収める倉庫の参考面積は、 $192\text{m}^2 \times 2\text{カ所} = 384\text{m}^2$

③ 園地

- 候補地の規模や敷地形状に応じて運動施設周辺には「サブトラックとして利用できるウォームアップ空間」を配置し、競技者以外の一般利用者もくつろげる休憩・散策・緑陰空間と多目的広場を含めて快適な日常利用環境を演出するために1.0～1.2haを確保する。

④ 便益施設

- 大面積を必要とする施設は駐車場である。500台分（バス駐車に転用可能な区画83台分、及び身障者用10台を含む）確保すると、1.25ha（ $25\text{m}^2/\text{台} \times 500\text{台}$ ）が必要となる。

(2) 附帯施設

- セミナーハウス等を整備する敷地として、0.5～1.0haを想定する。

(3) 集計

- 以上の全体を合計すると、最低限の敷地規模は次のように整理できる。

施設の種別等		最低必要面積	
運動施設	【競技場本体】	2.0ha	2.33～2.45ha (管理棟の屋根部分にメインスタンドを設置したとして計算)
	【管理棟・観客席・メインスタンド】	1,400～1,600 m ²	
	【観客席・芝スタンド】	1,500～2,500 m ²	
	【用器具・備品庫】	384 m ²	
園地	【ウォームアップ空間 ／修景・休養・緑陰空間】	1.0～1.2ha	2.25～2.45ha (駐車場と合わせて運動施設と同程度の規模を確保)
便益施設	【駐車場】	1.25ha	
附帯施設	セミナーハウス等		0.5～1.0ha
合計			5.08～5.9ha

3. 候補地の比較検討

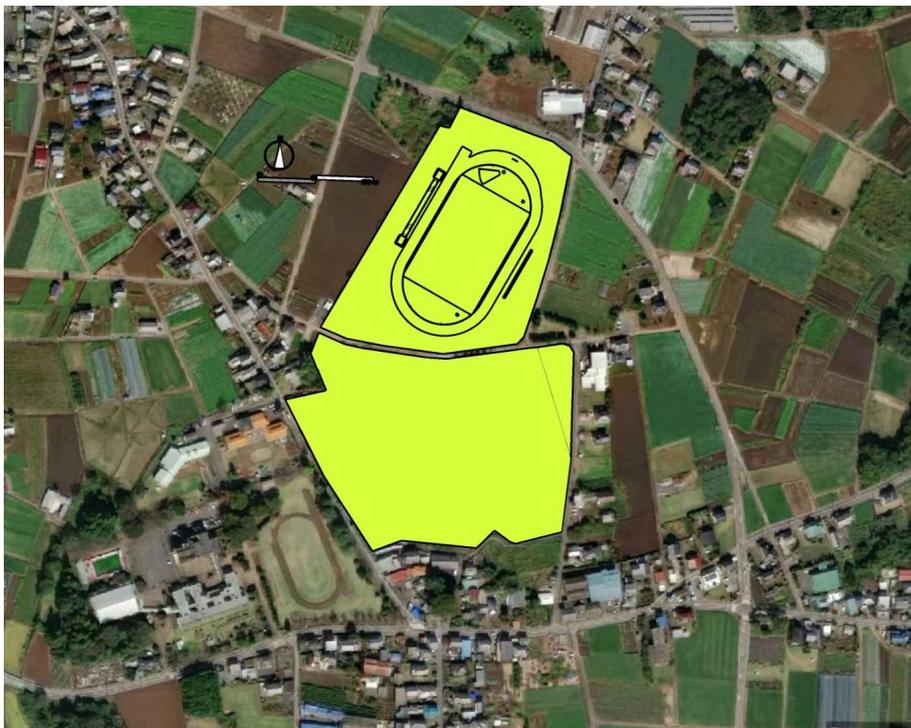
3.1.1 候補地の抽出

- 前掲の施設整備に必要な敷地規模を公的に活用可能な以下の2箇所を候補地として、評価を行う。
 - 過年度に検討を行った【1】上郷高校跡地（敷地規模約7.0ha）
 - 上記と同等以上の敷地を確保できる【2】高エネ研南側未利用地（全体面積約45.6haの内、上記と同程度の約7.0haを陸上競技場整備敷地としての活用を想定）

(1) 上郷高校跡地

- 北側敷地 約3.1ha + 南側敷地 約3.9ha＝約7.0ha

項目	内容
所在地	つくば市上郷 2494 番地 3
敷地面積	70,089.30 m ²
地目	学校用地
現況	校舎, 附属施設の敷地及び運動場
区域区分	市街化調整区域
建築制限	建蔽率 60% / 容積率 200%
交通アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ● つくばエクスプレス研究学園駅から約 8.0km ● つくばエクスプレス万博記念公園駅から約 6.9km ● 関鉄パープルバス：「上郷大宿」からつくばセンターまで約 30 分 ● つくバス：上郷シャトル「手子生」からつくばセンターまで約 50 分 / 西部シャトル「上郷台宿」から万博記念公園駅まで約 30 分 ● 圏央道常総 I C から約 5.8km ● 圏央道（仮称）つくばスマート I C（2022 年供用開始予定）から約 6.2km
上水道	● 整備中
下水道	● 整備済



配置イメージ

(2) 高エネ研南側未利用地

項目	内容
所在地	つくば市大穂2番1ほか37筆
敷地面積	455,754.03㎡
地目	宅地
現況	山林
区域区分	市街化区域
地域地区	用途地域：第二種住居地域
	特別用途地区：第二種文教地区
建築制限	建蔽率60%/容積率200%
交通アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ● つくばエクスプレスつくば駅から約8.0km ● 関鉄バス/関鉄パープルバス：「いちほら病院」からつくばセンターまで約20分 ● つくバス：北部シャトル「大穂窓口センター」からつくばセンターまで約30分 /吉沼シャトル「大穂窓口センター」から研究学園駅まで約35分 /小田シャトル「大穂窓口センター」からつくばセンターまで約60分 ● 常磐道土浦北ICから約12.0km ● 圏央道つくば中央ICから約11.0km
上水道	上水道給水区域に位置付け有り ※敷地内は未整備
下水道	公共下水道事業計画に位置付け有り ※敷地内は未整備



配置イメージ

3.1.2 比較評価のとりまとめ（各候補地の課題等を含めた比較評価一覧表）

抽出した候補地について、「基本条件」「コスト」「事業進捗の速度」「敷地内及び隣接部の条件」「関連施策等との関係」「環境・景観条件」等で評価を行った。

(1) 基本条件

評価項目		【1】上郷高校跡地	【2】高エネ研南側未利用地
①立地	市内全域からのアクセス性（自家用車での上り下り時間）	<ul style="list-style-type: none"> ● 平均時速 40km/h で自家用車利用を想定すると、20分圏内に市内の大部分を収められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 平均時速 40km/h で自家用車利用を想定すると、20分圏内に市内の大部分を収められる。
	公共交通機関（鉄道・路線バス・つくバス等）とのネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ● つくばエクスプレス研究学園駅から約 8.0km ● 万博記念公園駅から約 6.9km ● 関鉄パープルバス：「上郷大宿」からつくばセンターまで約 30分 ● つくバス：上郷シャトル「手子生」からつくばセンターまで約 50分 ／西部シャトル「上郷台宿」から万博記念公園駅まで約 30分 	<ul style="list-style-type: none"> ● つくばエクスプレスつくば駅から約 8.0km ● 関鉄バス／関鉄パープルバス：「いちほら病院」からつくばセンターまで約 20分 ● つくバス：北部シャトル「大穂窓口センター」からつくばセンターまで約 30分 ／吉沼シャトル「大穂窓口センター」から研究学園駅まで約 35分 ／小田シャトル「大穂窓口センター」からつくばセンターまで約 60分
②インフラ状況	上水道・下水道の整備状況と活用のしやすさ	<ul style="list-style-type: none"> ● 上水道は整備中である。 ● 下水道は整備済である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 上水道は未整備だが、上水道給水区域に位置付けされている。 ● 下水道は未整備だが、公共下水道事業計画に位置付けされている。
③道路状況	周辺の道路状況（近接する幹線道路と入口の位置関係、アプローチ道路の配置、幅員）、高速道路のアクセス	<ul style="list-style-type: none"> ● メインアプローチ道路と想定される敷地東側に近接する道路は、幅員にゆとりがある。 ● 近接する幹線道路との接続部が狭い。 ● 圏央道は常総 IC から約 5.8km、（仮称）つくばスマート IC から約 6.2km（2022 年から併用開始予定） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 4車線の学園東大通りと面している。 ● 幹線道路から直接進入する既存道路をメインアプローチとして活用可能 ● わかりやすくアクセス性は高い。 ● 常磐道の土浦北 IC から約 12km、圏央道のつくば中央インターから約 11km。

(2) コスト

評価項目		【1】上郷高校跡地	【2】高エネ研南側未利用地
①土地取得費用	敷地購入に係る費用	<ul style="list-style-type: none"> ● 既に取得済みであるため、購入費用は不要。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 土地開発公社に対して土地購入費用を支払う必要がある。 (購入代金+これまでの利子分を合わせて <u>45.6ha</u> の全体の土地価格が 68 億円であることから、<u>本施設整備面積(約 7.0ha)</u> で按分すると約 10 億 5 千万円)
②基盤整備費用	整地、造成 雨水排水施設、汚水排水施設、インフラ(電気、ガス等)の整備費用 道路拡幅	<ul style="list-style-type: none"> ● 既存建物の解体費用は必須だが、更地のため、整地、造成は容易。 ● 既存施設を活用可能で、インフラにかかる大きな整備費用はかからない。 ● 敷地内へのアクセス道路は一部拡幅が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 既存樹木の伐採・伐根費用がかかる。 ● インフラ引き込み等の基盤整備に係る費用がかかる。 (参考価格：<u>45.6ha</u> の全体の基盤整備費概算が約 49 億円とされており、<u>本施設整備面積(約 7.0ha)</u> で按分すると約 7 億 5 千万円 「平成 30 年度 高エネ研南側都市計画変更検討調査」報告書より) ● 陸上競技場へのアクセス道路で、一部拡幅が必要。
③関連附帯整備費用	セミナーハウスの建設	<ul style="list-style-type: none"> ● 教室棟、体育館棟は改修により活用が可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ● セミナーハウス等の附帯施設については、すべての施設整備を新たに比較検討するところからスタートする必要がある、設計費用も含めて多大なコストがかかる。

(3) 事業進捗の速度

評価項目		【1】上郷高校跡地	【2】高エネ研南側未利用地
①基盤整備	<p>整地・造成</p> <p>雨水排水施設、汚水排水施設、インフラ（電気・ガス等）の基盤整備に係る期間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 既存のインフラ関連施設が活用でき、大規模な造成も不要なため、短期間で整備が進められる。 ● 一部既存施設等の撤去期間が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 既存樹林の伐採・伐根、整地が必要なため、本体工事の前に時間がかかる。 ● 雨水排水調整池の整備／インフラ引き込み等の基盤整備が必要なために、全体敷地の中の施設整備用地の設定調整および計画・設計検討期間も含めると、整備完了までに数年程度の期間が想定される。
②施設整備	<p>施設整備にかかる期間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設整備について、基盤整備が短期間で完了するため、早く整備が進められる。 ● セミナーハウス等の附帯施設を建設する場合、既存建物（旧校舎）を活用できるため、短期間で整備できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 全て一から新設する必要があるため、計画・設計は、基盤整備と並行して進められるが、施設整備は、基盤整備完了後のスタートとなるため、全ての施設整備完了までに基盤整備の計画検討開始から数年程度の期間が見込まれる。 ● 都市計画法上の用途制限に適合させるための法手続き等の期間が必要。

(4) 敷地内及び隣接部の条件

評価項目		【1】上郷高校跡地	【2】高エネ研南側未利用地
①基本となる機能の導入しやすさ	<p>地形・敷地の規模と形状：400mトラック (3種公認または4種公認(3種相当)の規模)の配置の可否</p> <p>付帯施設・空間の確保しやすさ(敷地の余裕)</p> <p>利用集散拠点となる広場・付帯施設等の配置しやすさ(アプローチ、駐車場との関係・動線のスムーズさ)</p> <p>確保可能な駐車場の規模</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 校舎の取り壊しを行わずに、北側敷地にトラックの配置が可能。 ● 敷地内に400～500台の駐車場の確保が可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 現時点で45.6haの一部を利用することから、敷地の設定に関して自由度が高く、主競技場や付帯施設等配置が容易 ● 敷地内に400～500台の駐車場の確保が可能。 ● 恒常的な風の軽減策として、既存林の活用等も考えられる。
	<p>臨時駐車場の確保しやすさ(隣接敷地の活用を含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● イベント時の臨時駐車場として上郷小学校などを活用することが可能となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● イベント時等に限定した臨時駐車場として、活用する用地の確保は困難
	<p>大会時等の交通渋滞の影響について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設アクセスに利用する交差点から駐車場までの距離が十分とれ、この道路沿いのほとんどが農地であるため、渋滞による周辺的生活環境への悪影響は少ないと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 主なアクセス道路は4車線の学園東大通りであることから、大会時の渋滞による影響は少ないと考えられる。
②日常利用、大会等のスムーズな開催	<p>周辺地域への騒音、光害等の影響</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 敷地北東及び南西側に民家が点在するため、ハードソフト両面で騒音、光害等にかかる配慮が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 距離はやや離れているが、敷地南側には住宅地が立地することから、騒音、光害等にかかる配慮が必要。

(5) 関連施策等との関係

評価項目		【1】上郷高校跡地	【2】高エネ研南側未利用地
①上位計画との整合性・まちづくりとの連携等	つくば市未来構想や都市計画マスタープランとの整合性	<ul style="list-style-type: none"> ● 未来構想では保有資産の有効活用が取り上げられている。 ● 都市計画マスタープランでは、豊里コミュニティとして設定され、上郷高校跡地の活用方策の検討が取り上げられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 未来構想では保有資産の有効活用が取り上げられている。 ● 都市計画マスタープランでは、大穂コミュニティとして設定され、高エネ研南側未利用地の土地利用方策検討が取り上げられている。
	周辺市街地活性化施策（R8）との連携 地域コミュニティの活性化	<ul style="list-style-type: none"> ● 上郷市街地と近く、周辺地域と連携して地域活性化も期待される。 ● 陸上競技場整備とともに、南側敷地の校舎を改修し活用することで、地域活動の拠点となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 既成市街地や住宅地からやや離れているため、コミュニティ活動の拠点としての役割を担うのは難しい。
②地域防災計画（防災関連機能）	避難場所や物資輸送の中継地点としての機能（敷地形状・入口のわかりやすさ・アクセス性）	<ul style="list-style-type: none"> ● 周辺の広域避難場所や物資輸送の中継地点としての機能を担う上で、位置・形状等は問題ない。 ● 避難圏域となる住民にとって、入口のわかりやすさ・アクセス性はほぼ問題ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 周辺の広域避難場所や物資輸送の中間点としての機能を担う上で、位置・形状等は問題ない。 ● 避難圏域となる住民にとって、入口のわかりやすさ・アクセス性に優れている。
	敷地の安全性（揺れやすさ、洪水の危険度）	<ul style="list-style-type: none"> ● 揺れやすさマップで震度6強のエリアである。 ● 洪水ハザードマップでは、洪水による浸水の恐れはないエリアである。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 揺れやすさマップで震度6強のエリアである。 ● 洪水ハザードマップでは、洪水による浸水の恐れはないエリアである。

(6) 環境・景観条件

評価項目		【1】上郷高校跡地	【2】高エネ研南側未利用地
①想定される連携資源とのネットワーク・回遊性	周辺関連施設・連携活動資源の存在	<ul style="list-style-type: none"> 敷地北側の2~3km圏内には、野球場のある大崎公園、テニスコートのある台山公園が立地している。 	<ul style="list-style-type: none"> 敷地北側約2kmにつくばウェルネスパークが、敷地の南1km以内に大穂体育館が位置し、これらの施設との連携が想定される。
	自然環境ネットワーク等との連携／都市観光拠点としての可能性等	<ul style="list-style-type: none"> 自然豊かな場所に立地している。 敷地の北西1km圏内に上郷ジオサイト川口公園（小貝川の恵まれた自然環境を生かした水辺公園）が立地している。 	<ul style="list-style-type: none"> 距離はやや離れているが、筑波山やつくばりんりんロードと連携して多様な活動展開が考えられる。

31-2 陸上競技場整備基本構想策定支援業務委託

第3回 陸上競技場整備基本構想策定検討会議

【参考資料】

目次

1. 参考資料.....	2
1.1 公認種別による開催可能大会及び概算費用比較表.....	2
1.2 考えられる補助金・助成金等	3
1.3 候補地の状況把握（両敷地の比較対照）	4
1.3.1 候補地の立地：アクセス等	4
1.3.2 関連施策等との関係	12
1.3.3 環境・景観条件等	18
1.4 他自治体の大会開催の状況と日常利用状況.....	20

1. 参考資料

1.1 公認種別による開催可能大会及び概算費用比較表

公認種別による開催可能大会及び概算費用比較表

仕様	第3種				第4種 (第3種相当整備)				第4種				第4種L			
	全天候舗装		全天候舗装		全天候舗装		全天候舗装		全天候舗装		全天候舗装		土質			
	天然芝	人工芝 (投てき可能)	天然芝	人工芝 (投てき可能)	天然芝	人工芝 (投てき不可)										
メインスタンド・設備等の条件	1,500席	1,500席	1,500席	1,500席	芝生	芝生										
更衣室	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×
シャワー室	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×
雨天走路	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×
小学生の公式記録会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△
つくば陸上競技選手権大会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△
障害者スポーツ大会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×
中高生の地区大会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△
大会会場の選定しやすさ	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	×	×
大会時の投てき競技	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
競技場の快適性	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×
インフィールドの利用 (稼働率)	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○
整備費 (競技場本体) ※ ¹	16億3200万円	18億2200万円	16億8000万円	17億9800万円	16億8000万円	17億9800万円	11億7700万円	9億6400万円	11億7700万円	6億6600万円	8億8100万円	4億4900万円	4億4900万円	5億700万円	4億4900万円	5億700万円
整備費 (内、トラック路面)	2億5300万円	2億5300万円	2億5300万円	2億5300万円	2億5300万円	2億5300万円	1億8700万円	1億8700万円	1億8700万円	1億8700万円	1億8700万円	4900万円	4900万円	4700万円	4900万円	4700万円
整備費 (内、インフィールド路面)	1億4000万円	2億2600万円	1億4000万円	2億2600万円	1億4000万円	2億2600万円	1億8000万円	1億8000万円	1億8000万円	1億8000万円	2億4300万円	8200万円	8200万円	1億2700万円	8200万円	1億2700万円
整備費 (内、その他) ※ ²	1億2400万円	1億1000万円	1億2400万円	1億1000万円	1億2400万円	1億1000万円	1億1900万円	1億1900万円	1億1900万円	1億1900万円	1億600万円	1億1400万円	1億1400万円	8200万円	1億200万円	8200万円
整備費 (内、備用品器具費)	7700万円	7700万円	7700万円	7700万円	7700万円	7700万円	5300万円	5300万円	5300万円	5300万円	5300万円	5300万円	5300万円	5200万円	5300万円	5200万円
年間維持管理費 (トラック・インフィールド)	1,000万円	60万円	1,000万円	1,300万円	1,300万円	360万円	1,300万円	360万円								
公認料 (新設)	150,000円	150,000円	150,000円	150,000円	150,000円	150,000円	50,000円	50,000円	50,000円	50,000円	50,000円	50,000円	50,000円	50,000円	50,000円	50,000円
公認料 (継続)	75,000円	75,000円	75,000円	75,000円	75,000円	75,000円	25,000円	25,000円	25,000円	25,000円	25,000円	25,000円	25,000円	25,000円	25,000円	25,000円
トラック舗装材打替え※ ³	5年毎部分OL 1,700万円 15年目全面OL 9,900万円	5年毎部分OL 1,700万円 15年目全面OL 7,400万円	5年毎部分OL 1,700万円 15年目全面OL 7,400万円	5年毎部分OL 1,700万円 15年目全面OL 7,400万円	5年毎部分OL 1,700万円 15年目全面OL 7,400万円	5年毎部分OL 1,700万円 15年目全面OL 1,000万円	5年毎部分OL 300万円 15年目全面OL 1,000万円									
インフィールド芝張替え※ ⁴	15年目 2,000万円 1億6000万円	15年目 1,500万円 1億6000万円	15年目 2,000万円 1億6000万円	15年目 1,500万円 1億6000万円	15年目 2,000万円 1億6000万円	15年目 1,500万円 1億6000万円	15年目 2,000万円 1億6000万円	15年目 2,000万円 1億6000万円	15年目 2,000万円 1億6000万円	15年目 2,000万円 1億6000万円	15年目 1,500万円 1億6000万円	15年目 2,000万円 1億6000万円				
15年間の費用 計※ ⁵	19億3600万円	21億2500万円	19億1200万円	21億1000万円	19億1200万円	21億1000万円	14億4300万円	12億4300万円	14億4300万円	14億5500万円	11億1200万円	8億9800万円	8億9800万円	6億8100万円	11億1200万円	6億8100万円

※ トラックのレーン数は、近隣自治体の周辺施設を参考に、どの種別も直走路8レーン、曲走路8レーンで統一した。
 ※ 整備費等の工事費は直接工事費+諸経費 (直接工事費の60%) で計算し、直接工事費は他市の事例を参考に算出した。
 ※¹整備費 (競技場本体) には、トラック及びフィールドの他、スタンド、照明、排水施設、散水施設、緑石、付帯施設、電気設備、雨天走路及び備品を含む。なお、整備費 (競技場本体) には、土地購入費や造成費、駐車場や園路等周辺設備の整備費は含まない。(陸上競技場本体以外の整備費は建設地の地形等に合わせ別途試算が必要となる)
 ※²整備費 (内、その他) は、排水施設、散水施設、緑石、付帯施設、電気設備にかかる費用を算出した。
 ※³トラック舗装材は、他施設の実績をみると、全天候舗装では15年ごとに表層のみの全面打ち替え、土質舗装は15年ごとに全面打ち替えを行っている。なお、全天候舗装は25~30年ごとに基盤整正を含めた全面打ち替えを行う。
 ※⁴インフィールドは、他施設の実績をみると、どの種別も15年ごとに全面張替えを行っている。
 ※⁵ (整備費+維持管理費+公認料+※3+※4)

1.2 考えられる補助金・助成金等

- 本構想に沿ったスポーツ施設整備を対象として活用可能な補助金・助成金等は下表のようにまとめられる。

陸上競技場補助金について

交付元	①文部科学省	②独立行政法人日本スポーツ振興センター (toto)	
補助金名	学校施設環境改善交付金	地域スポーツ施設整備助成	
補助事業名	地域屋外スポーツセンター新改築事業	A天然芝生化新設事業	Bスポーツ施設等整備事業
要件	<ul style="list-style-type: none"> ・一般利用に供する ・屋外運動場は陸上競技場、野球場及びコートを除く球技場又は多目的運動場であること ・照明施設は、非照明面積に対し、二辺以上の方向から、平均照度200ルクス以上で照明されること 	<ul style="list-style-type: none"> ・芝生化する面積が運動・スポーツ活動の主要部分となること ・散水設備、排水設備を整備すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の身近なスポーツ活動の場となる競技施設の新設で、競技の実施に直接必要なスペースの整備を伴うこと ・助成対象経費の合計額が10,000千円以上
必要施設	<ul style="list-style-type: none"> ・照明施設 ・クラブハウス（管理室、談話室、トレーニング室、更衣室、シャワー室、便所、用具室等をすべて備える） 	<ul style="list-style-type: none"> ・散水設備（スプリンクラーや散水栓等） ・排水設備（暗渠排水網や表面排水勾配） 	特になし
必要面積	グラウンド面積5,000㎡以上	特になし	特になし
交付金算定割合	1/3	4/5	2/3
交付金等上限	運動場：グラウンド面積10,000㎡ 照明施設：被照明面積10,000㎡ クラブハウス：床面積330㎡	対象経費限度額60,000千円 →助成金限度額48,000千円	対象経費限度額30,000千円 →助成金限度額20,000千円
補助単価	令和元年度 グラウンド：2,800円/㎡ 照明施設：5,100円/㎡ クラブハウス：81,200円/㎡	特になし	特になし
補助額	約35,200千円 (グラウンド面積10,000㎡+被照明面積10,000㎡+管理棟床面積330㎡)	48,000千円 (インフィールド等の芝生舗装工事を対象)	20,000千円 (インフィールド以外の工事を対象)
備考	①②の併用は不可だが、AとBの併用は可能		

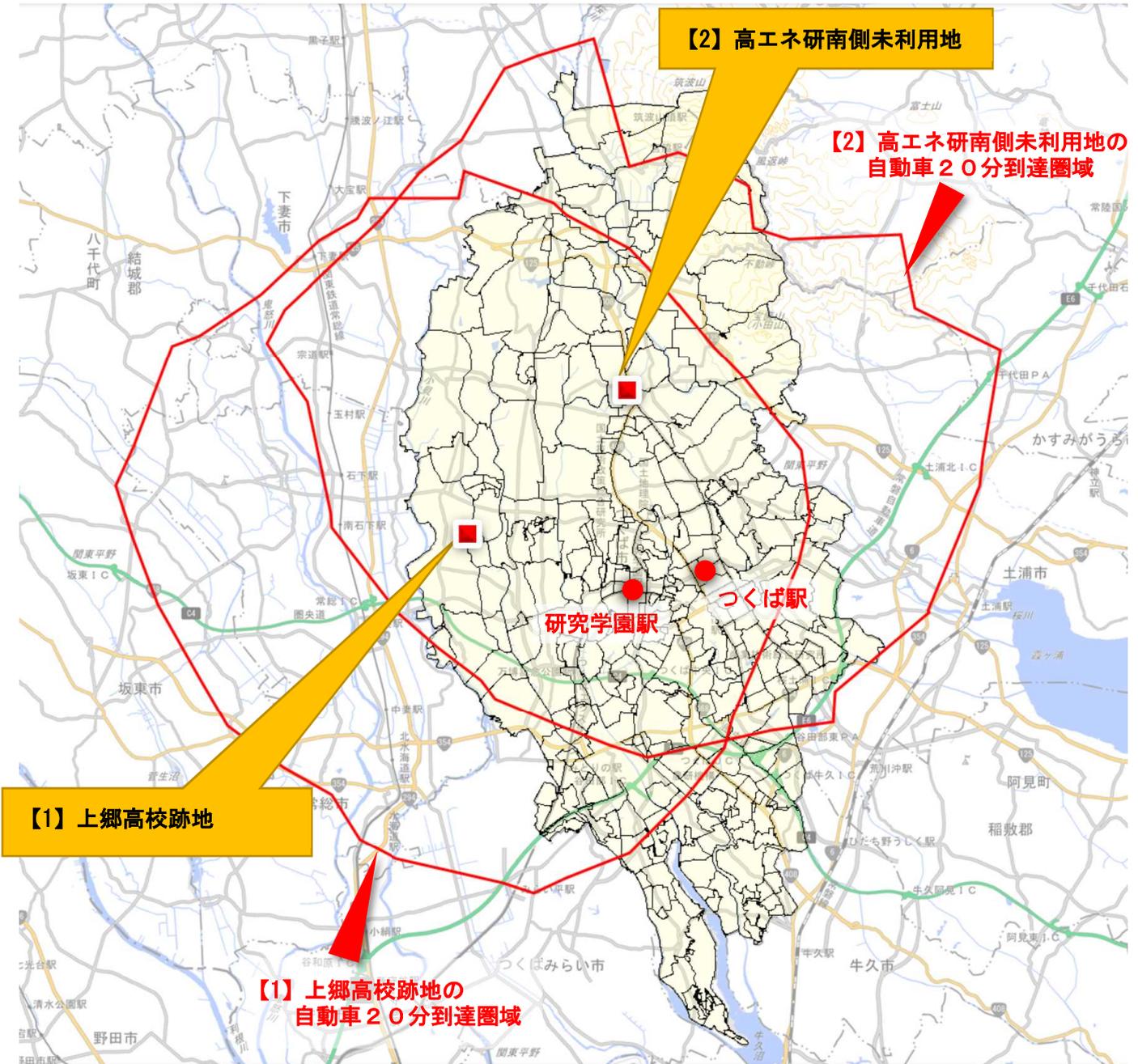
- この他に候補となるのは社会資本整備総合交付金である。この交付金には、①道路事業、②港湾事業、③河川事業、④砂防事業、⑤地すべり対策事業、⑥急傾斜地崩壊対策事業、⑦下水道事業、⑧その他総合的な治水事業、⑨海岸事業、⑩都市再生整備計画事業、⑪広域連携事業、⑫都市公園・緑地等事業、⑬市街地整備事業、⑭都市水環境整備事業、⑮地域住宅計画に基づく事業、⑯住環境整備事業の16の基幹となる交付対象事業があり、主にスポーツ施設の整備に活用されるのは⑫都市公園・緑地等事業である。
- ただし本計画は、都市公園事業としての整備を想定しておらず、都市公園系統が十分に整備済のつくば市において、本計画を大規模な運動公園として計画を位置づけることは今後も困難と思われるため、その活用は考えにくい。

1.3 候補地の状況把握（両敷地の比較対照）

1.3.1 候補地の立地：アクセス等

(1) 自動車による20分での到達圏

- 下図に示したとおり、自家用車利用を想定すると、平均時速40km/hで20分圏内に市内の大部分を収められる。（総務省「地図による小地域分析」で作成）



(2) 公共交通アクセス（鉄道・バス）

- 両候補地周辺のバスアクセスは以下のようにまとめられる。
- 【上郷高校跡地】は最寄り停留所と活用可能路線・便数が少なく、
【高エネ研南側未利用地】は最寄り停留所・活用可能路線・便数ともに多い。また路線バスによる主要駅からの所要時間も高エネ研南側未利用地の方がやや短い。
- それぞれの停留所の位置関係は、次ページ以降に整理したとおりである。

【上郷高校跡地】

運行会社	路線名	区間	運行頻度・往復計 (便/日)	最寄り停留所	T X 駅からの所要時間
関東鉄道(株)路線バス	● 石下・土浦線	● 石下駅～上郷 ～つくばセンター ～土浦二高～土浦駅	● 平日6 ● 休日6	● 上郷大宿	● 約30分 (つくばセンター)
つくば市コミュニティバス(つくバス)	● K上郷シャトル	● つくばセンター ～とよさと病院	● 平日・休日 18	● K18手子生	● 約50分 (つくばセンター)
	● Se西部シャトル	● みどりの駅 ～とよさと病院	● 平日・休日 18	● Se32上郷台宿 (上郷小学校入口)	● 約30分 (万博記念公園駅)

【高エネ研南側未利用地】

運行会社	路線名	区間	運行頻度・往復計 (便/日)	最寄り停留所	T X 駅からの所要時間
関東鉄道(株)路線バス	● つくば・テクノパーク大穂	● (土浦駅東口)～ つくばセンター～テ クノパーク大穂	● 平日19 ● 休日10	● 高エネルギー加速 器研究機構 ● いちはら病院	● 約20分 (つくばセンター)
関東鉄道(株)路線バス	● 下妻・つくばセンター	● 下妻駅～筑波記念 病院～学園並木	● 平日15 ● 休日8		
つくば市コミュニティバス(つくバス)	● H北部シャトル	● つくばセンター～ 筑波山口	● 平日・休日 54	● H06大穂窓口セン ター ● H07高エネルギー 加速器研究機構	● 約30分 (つくばセンター)
	● Y吉沼シャトル	● 研究学園駅 ～とよさと病院	● 平日・休日 22	● Y12大穂窓口セン ター	● 約35分 (研究学園駅)
	● O小田シャトル	● つくばセンター～ 筑波交流センター	● 平日・休日 30 (このうち022大 穂窓口センターに 停車する便は往復 7便)	● O22大穂窓口セン ター	● 約60分 (つくばセンター)

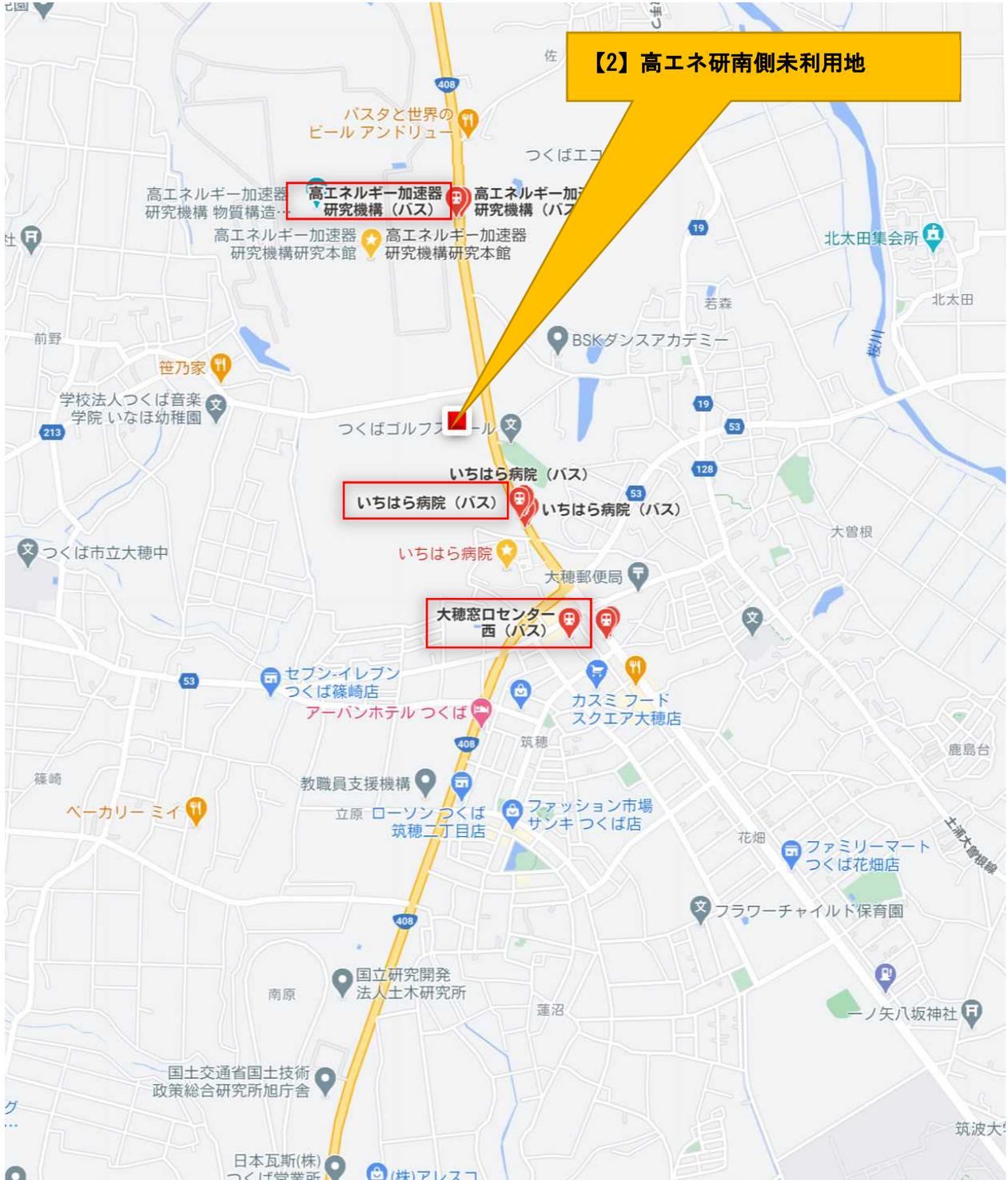
①【上郷高校跡地】付近の関東鉄道の路線バスルート

- 関鉄パープルバス（株）の【石下・土浦線】石下駅～上郷～つくばセンター～土浦二高～土浦駅のルートがあり、上郷高校跡地の北側にバス停『上郷大宿』がある。



②【高エネ研南側未利用地】付近の関東鉄道の路線バスルート

- 高エネ研南側未利用地の東側に接する国道408号には、関東鉄道バスの【つくばセンター～テクノパーク大穂線】、【土浦駅東口～テクノパーク大穂線】および関鉄パープルバスの【下妻・つくばセンター線（下妻駅～筑波記念病院～学園並木）】の3路線があり、候補地北側に『高エネルギー加速器研究機構』南側に『いちはら病院』『大穂窓口センター』バス停がある。



③ コミュニティバス（つくバス）路線でのアクセス

- コミュニティバス路線でのアクセスは下図のとおり。

- 【1】上郷高校跡地は、「K上郷シャトル」「Se西部シャトル」の2路線が使える。研究学園で旧谷田部町方面と接続できる。
- 【2】高エネ研南側未利用地は、「H北部シャトル」「Y吉沼シャトル」「O小田シャトル」の3路線が使える。

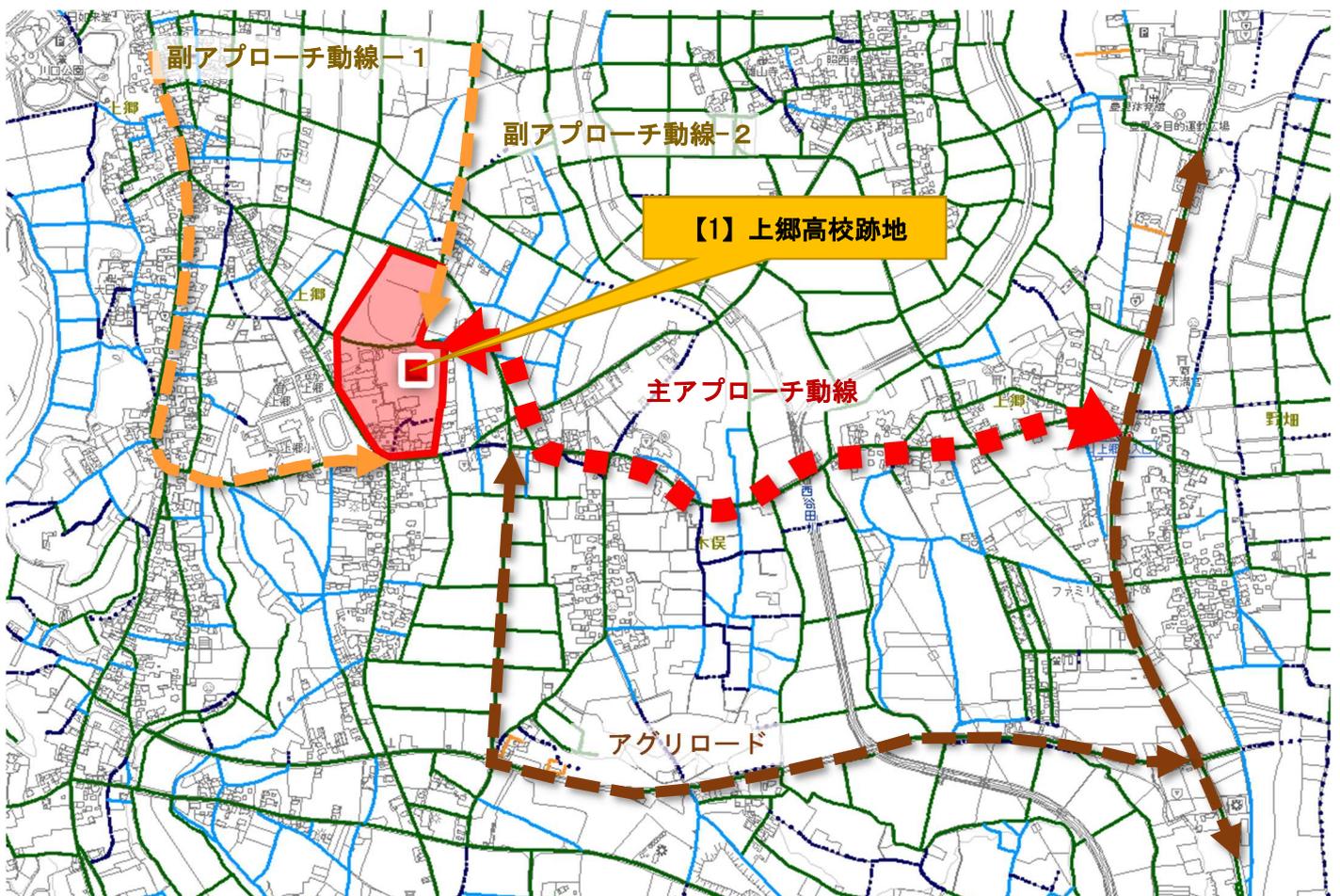
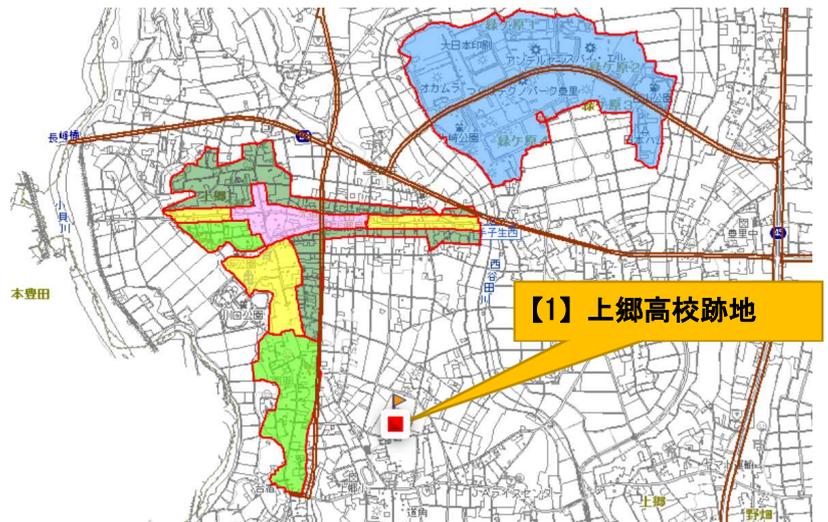


令和2年(2020年)4月1日現在の「つくバス路線図」

(3) 周辺の道路状況等

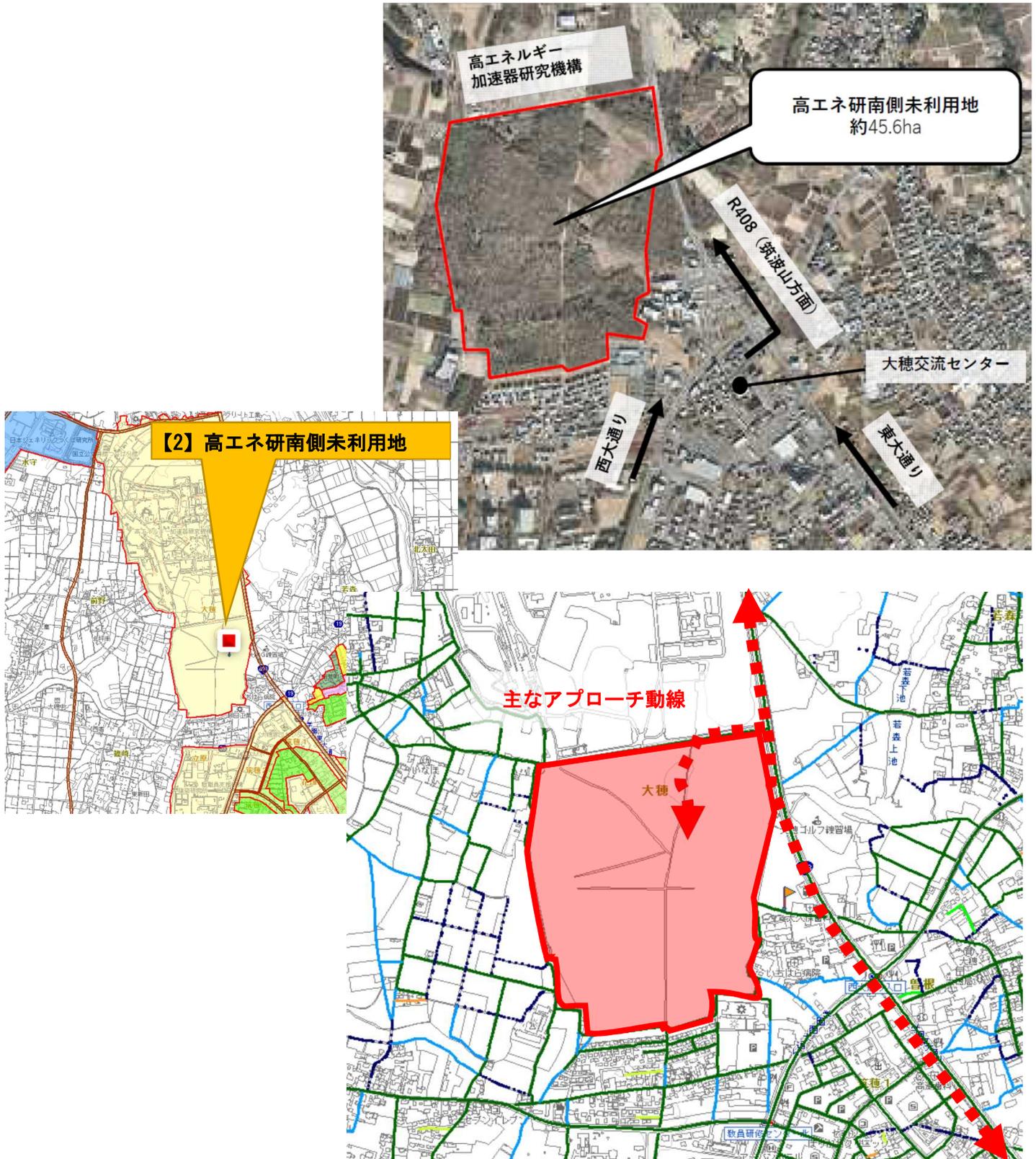
① 上郷高校跡地周辺の道路状況等

- 幹線道路と主入口の位置関係、アプローチ道路の位置と幅員（敷地形状・入口のわかりやすさ・アクセス性）は次図に示したとおりである。（出典：つくば市の都市計画情報の公式HP）
- 市街地及び主要道路からのわかりやすいアクセスは、下図のように東側からとなり、南および南東方向の市街地中心部からの道路アクセス道路はやや狭い。
- また、北側および北西方向からもアクセスできる。



② 高エネ研南側未利用地周辺の道路状況等

- 下図に示すようにつくば市を南北に貫く幹線道路である国道408号（学園東大通り）に接しており、大変わかりやすく自動車でのアプローチが容易である。



(4) 鉄道駅・高速道路インターチェンジとの位置関係

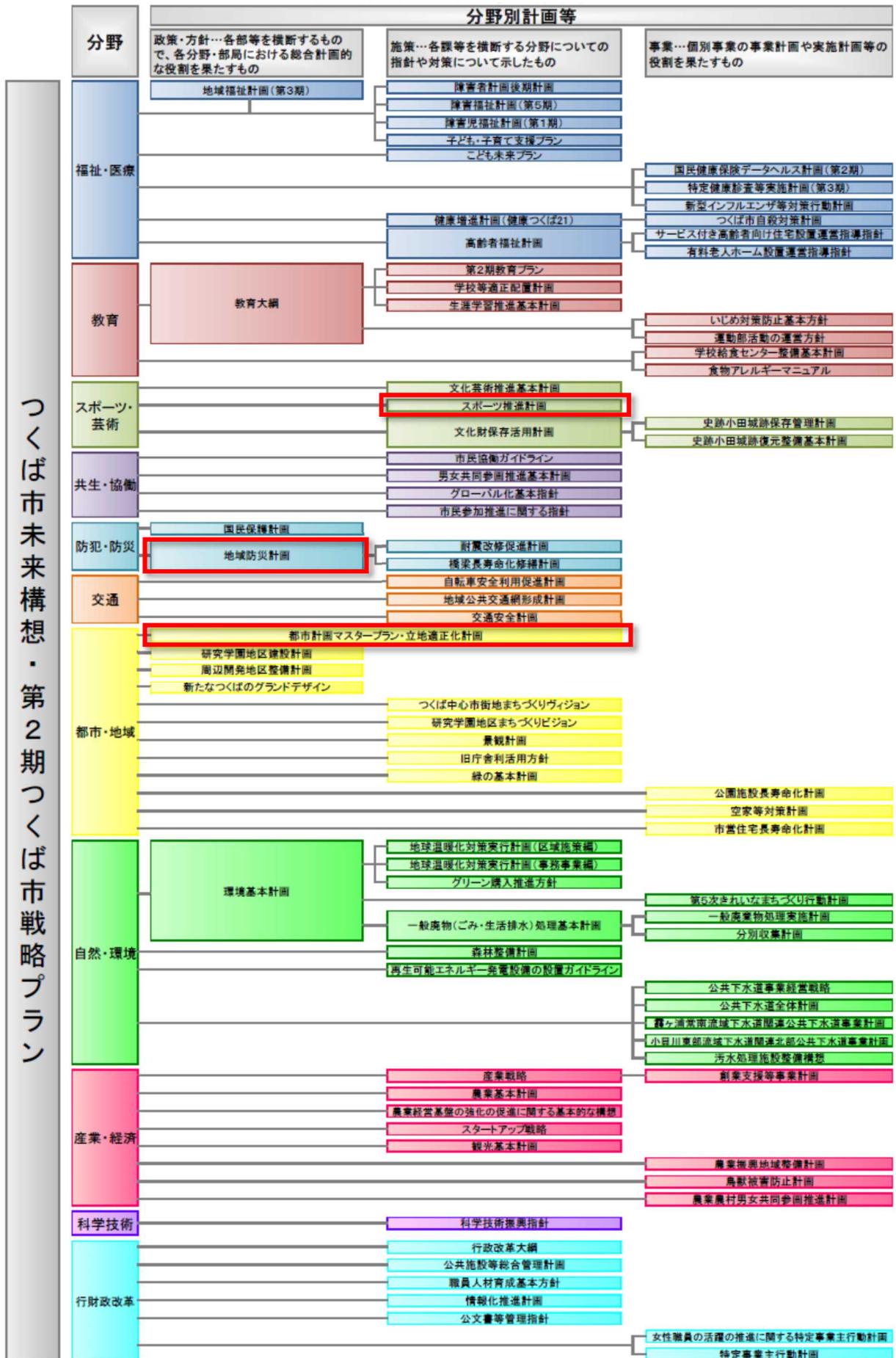
- 主要な鉄道駅・インターチェンジからの自動車アクセスは下図に示したとおり。上郷高校跡地は8.0km以内（自動車で10分強）、高エネ研南側未利用地は8.0～12.0km（自動車で15分程度）で、わずかに遠い。



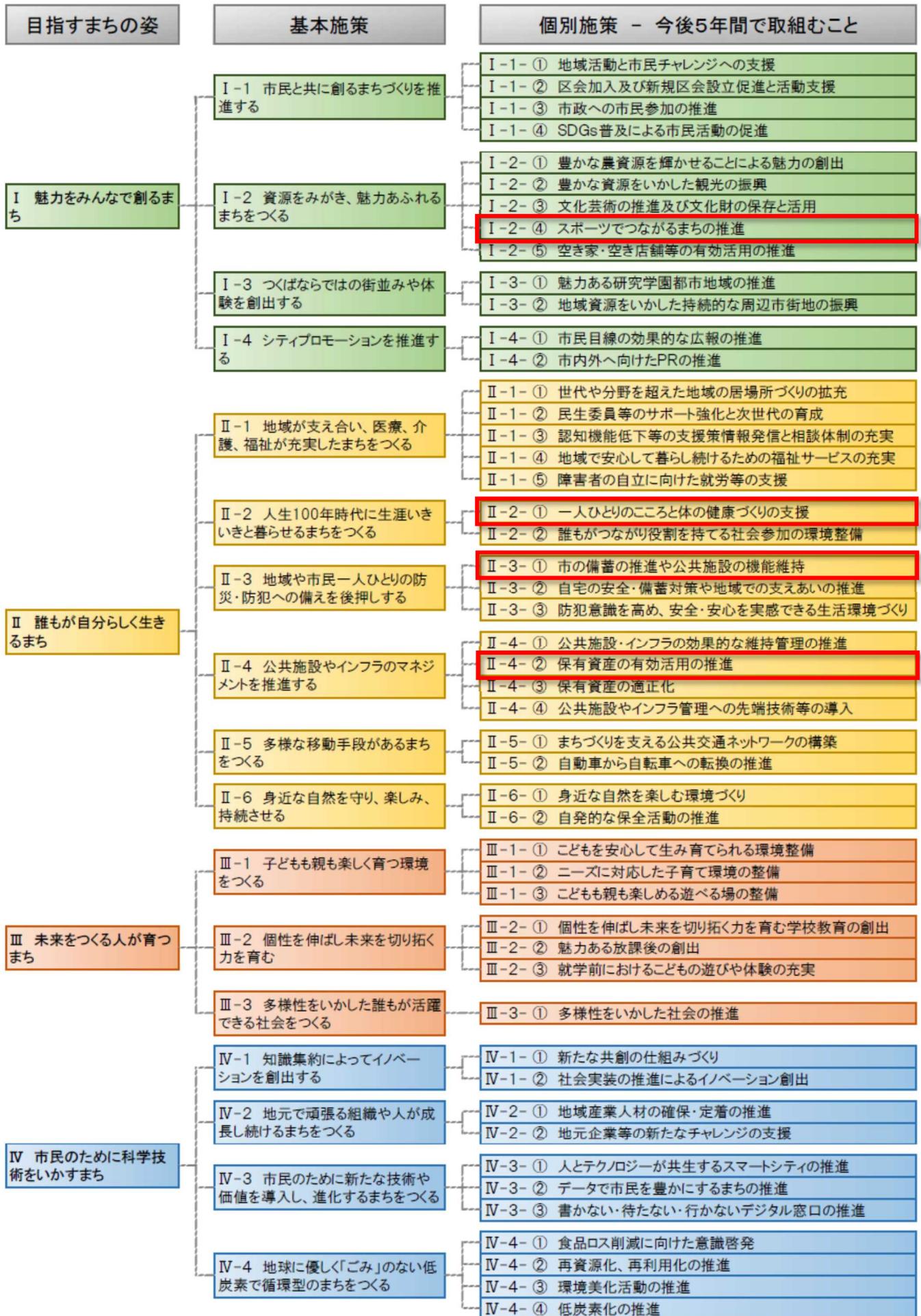
1.3.2 関連施策等との関係

(1) つくば市未来構想・第2期つくば市戦略プラン

① 個別計画の分野と相関



② 未来構想・戦略プランの合体構成



③ 個別施策Ⅰ-2- ④ スポーツでつながるまちの推進

■ 主要プロジェクト

- ③スポーツ施設等の改修及び公共施設として不足しているスポーツ施設等の整備検討
つくば市公共施設等総合管理計画」における基本方針に基づき、既存スポーツ施設等の計画的な改修を行います。また、陸上競技場の整備について、市民ニーズを踏まえながら、関係機関等との検討を行います。

④ 個別施策Ⅱ-2- ① 一人ひとりのこころと体の健康づくりの支援

■ 主要プロジェクト

- ②健康づくりのための運動・スポーツの推進
多様なライフスタイルに合わせたスポーツ教室の実施、生涯学習の考えを含めた指導者紹介・育成、ウォーキング・ランニングコースの啓発、健康マイレージの更なる活用、NPOなどの団体の支援、民間企業との連携（会場や施設、指導者のシェア）により、運動・スポーツへの無関心層を含むすべての市民（「こども」「高齢者」「障害者」「成人」）が健康づくりのための運動・スポーツに親しむことができる環境整備に取り組みます。

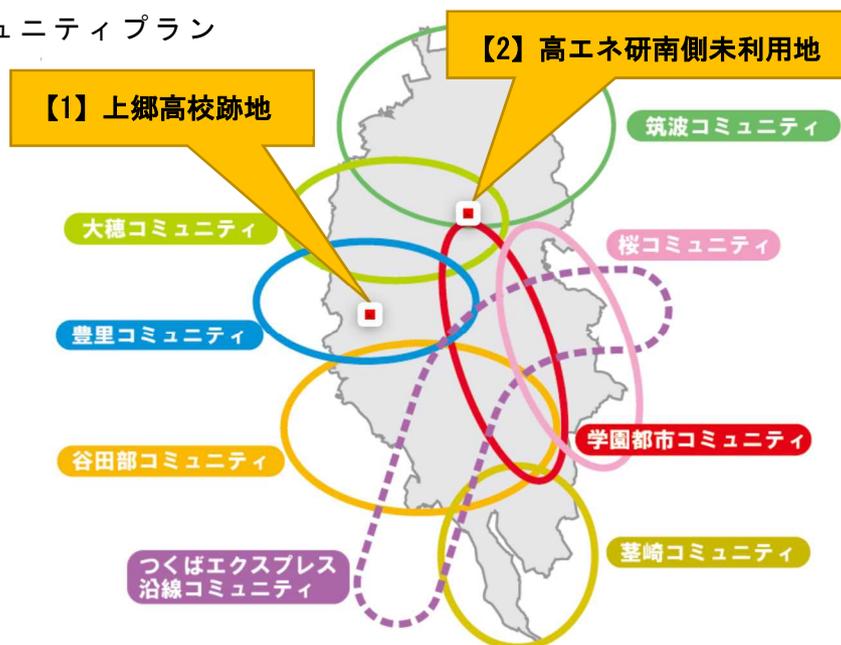
⑤ 個別施策Ⅱ-4- ② 保有資産の有効活用の推進

■ 個別施策の目的と方向性

遊休資産を経営資産として捉え、未利用財産の貸付等による財源の確保及び保有財産の縮減による維持管理費用の削減を図ります。また、多様な市民ニーズに対応する利用策の検討や公共施設の改修等による安全確保、バリアフリー・ユニバーサルデザインへの対応、省エネルギー対策の実施など公共施設価値の向上を図り、利用者数の増加に取り組みます。

(2) 都市計画マスタープラン

① 候補地が立地するエリアのコミュニティプラン



豊里コミュニティプラン

【1 上郷高校跡地】に対応

豊里コミュニティは、河川や広大な農地、広く点在する平地林や伝統的集落等を有しています。

市街地としては、上郷地区に既成市街地が形成されているとともに、住宅地と研究団地が土地区画整理事業により一体的に整備された東光台研究団地、工業団地であるテクノパーク豊里、市街化調整区域の大規模開発による住宅団地であるつくば豊里の杜が整備されています。

- ◆ 伝統的集落とその背後に広がる広大な優良農地が織りなす田園景観の保全
- ◆ 上郷地区の居住環境の保全と地域生活拠点の強化、県道赤浜谷田部線のバイパス整備による交通アクセス強化
- ◆ 上郷高校跡地の活用方策の検討
- ◆ 東光台研究団地での居住環境と研究所等が調和した都市環境の向上
- ◆ つくば豊里の杜での自然環境と調和した良質な居住環境の形成及び維持・保全
- ◆ 豊かな田園景観を形成する農地、斜面林、平地林の維持・保全・活用
- ◆ 自然・緑とふれあえる拠点となるゆかりの森の保全・活用
- ◆ 小貝川の水辺を保全・活用した親水空間形成の検討
- ◆ つくばテクノパーク豊里の景観形成と緑地保全、公共交通の利便性の確保
- ◆ 都市計画道路西平塚高野線(県道土浦境線)、都市計画道路真瀬今鹿島線(県道つくば真岡線)の整備促進、県道赤浜谷田部線の機能強化検討

大穂コミュニティプラン

【2 高エネ研南側未利用地】に対応

大穂コミュニティは、広大な農地や点在する平地林、小貝川や桜川等の豊富な自然環境に恵まれています。

市街地としては、大曾根地区、吉沼地区に既成市街地が形成されているとともに、土地区画整理事業により整備された筑穂地区や花畑地区には、住宅地のほか、商業・業務施設が立地しています。

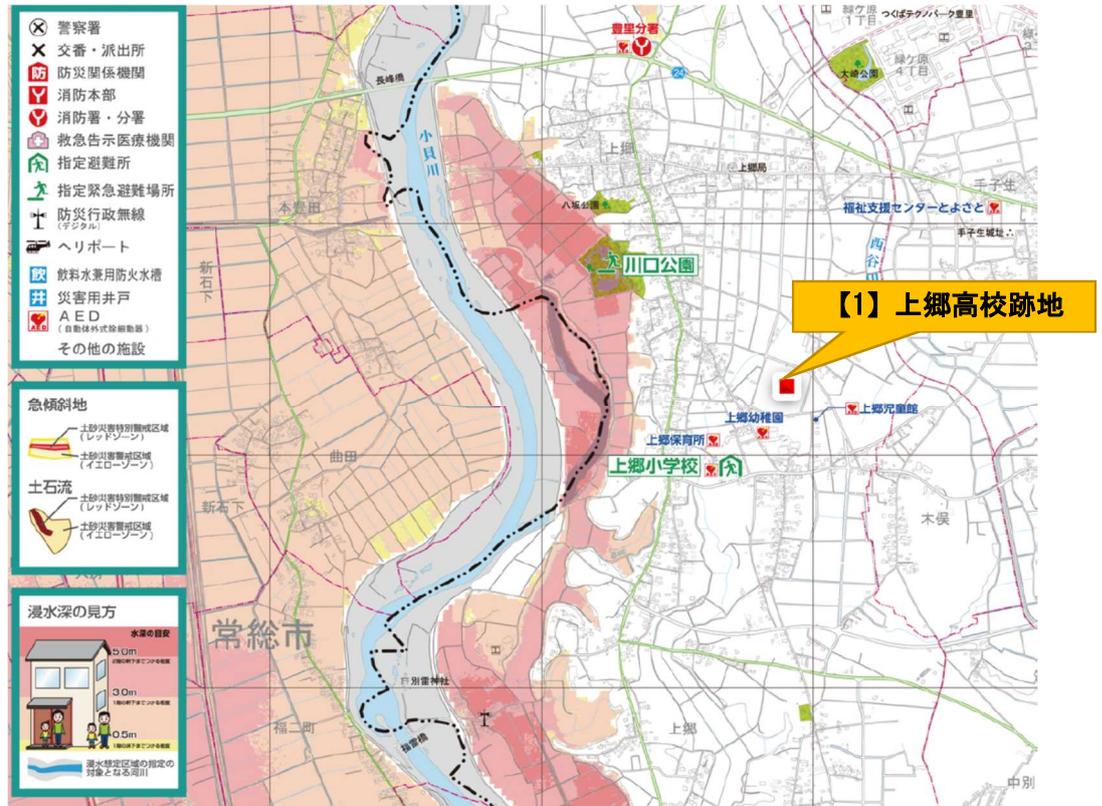
- ◆ 大曾根地区の居住環境の保全と地域生活拠点の強化、隣接する薬師地区、花畑地区、筑穂地区等との市街地機能の補完・連携による拠点性向上
- ◆ 筑穂地区の商業施設や業務施設の立地を含む魅力的で拠点性のある住宅地形成
- ◆ 旧大穂庁舎の交流機能維持及び拠点性向上
- ◆ 吉沼地区の居住環境の保全と地域生活拠点の強化、街並みや歴史的・文化的資源の保全・活用
- ◆ 農地と平地林、川沿いの緑が一体となった田園景観形成と小貝川や桜川の水辺を活用した親水空間形成検討
- ◆ つくばメモリアルホール周辺での環境と調和した施設整備及び進入路となる道路整備の検討
- ◆ 高エネルギー加速器研究機構南側未利用地の土地利用方策検討
- ◆ 筑波北部工業団地、つくばテクノパーク大穂の景観形成と緑地保全、公共交通の利便性向上の検討
- ◆ 都市計画道路酒丸上沢線の整備推進、県道赤浜谷田部線等の機能強化検討

(3) 防災関連の条件

① 上郷高校跡地周辺の条件

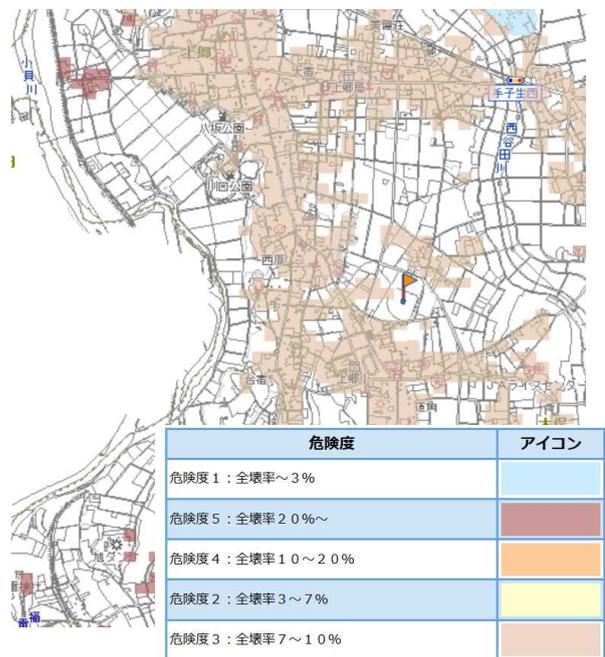
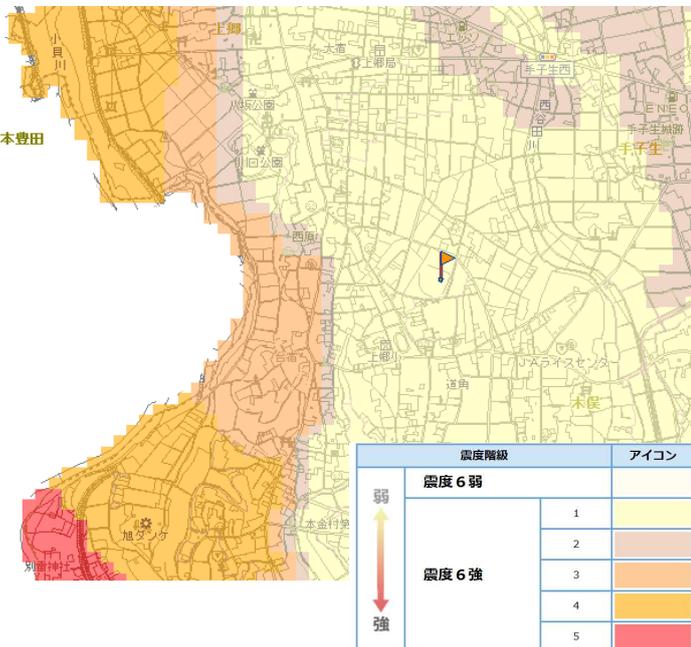
a 洪水ハザードマップ

- 隣接する小貝川の洪水に対して、浸水の恐れがない安全な区域である。



b 地震防災：揺れやすさマップと倒壊危険度

- **震度6強1**：【人間：立っていることができず、這わないと動くことができない。】【木造建物：耐震性の低い住宅では、倒壊するものが多い。耐震性の高い住宅でも、壁や柱がかなり破損するものがある。】【鉄筋コンクリート造建物：耐震性の低い建物では、倒壊するものがある。耐震性の高い建物でも、壁や柱が破損するものがある。】
- **周辺の倒壊危険度3**：周辺は農地が広がっており、倒壊危険度の高い建物の分布はまばらである。

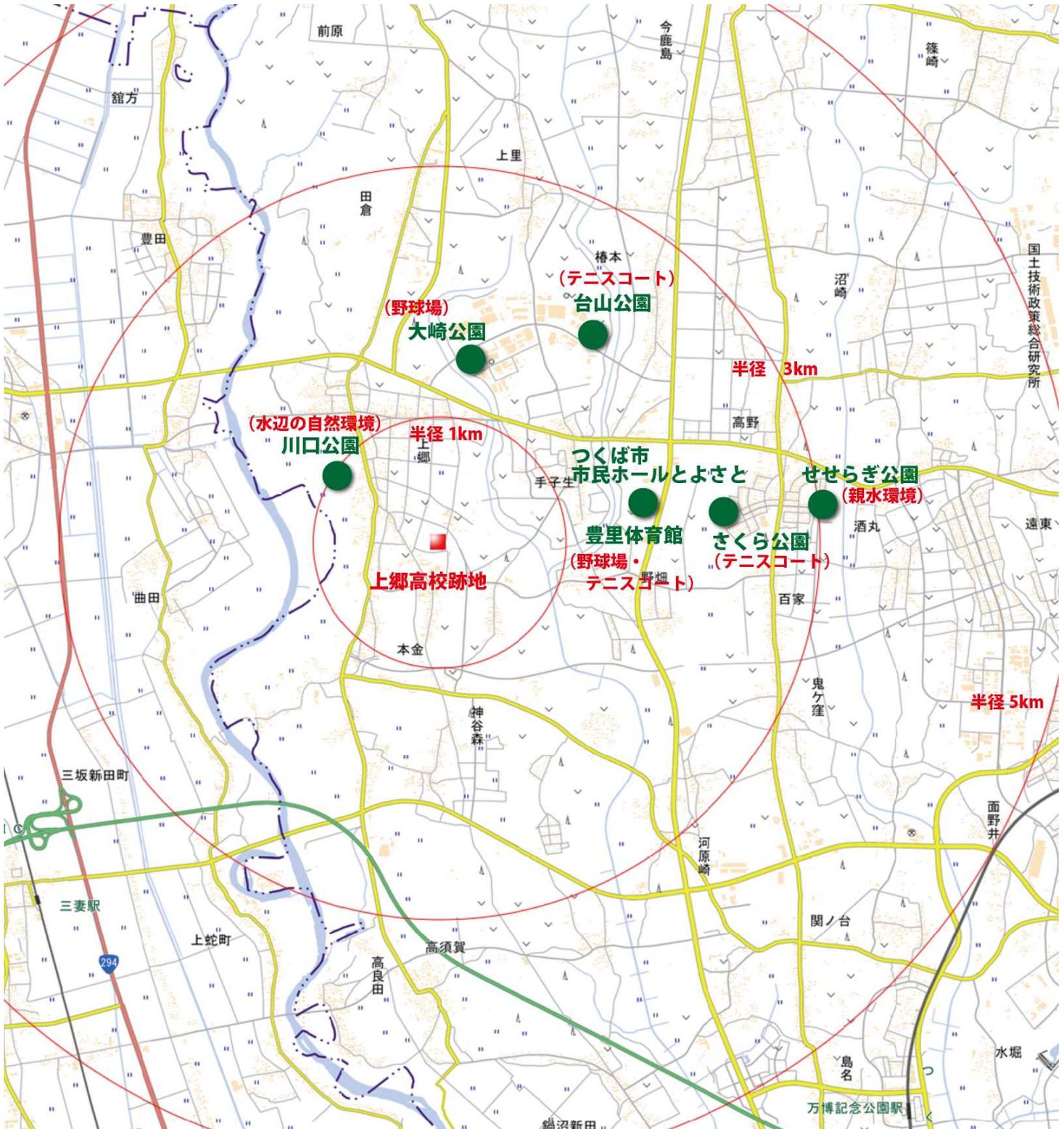


1.3.3 環境・景観条件等

(1) 周辺施設との連携利用ネットワーク等

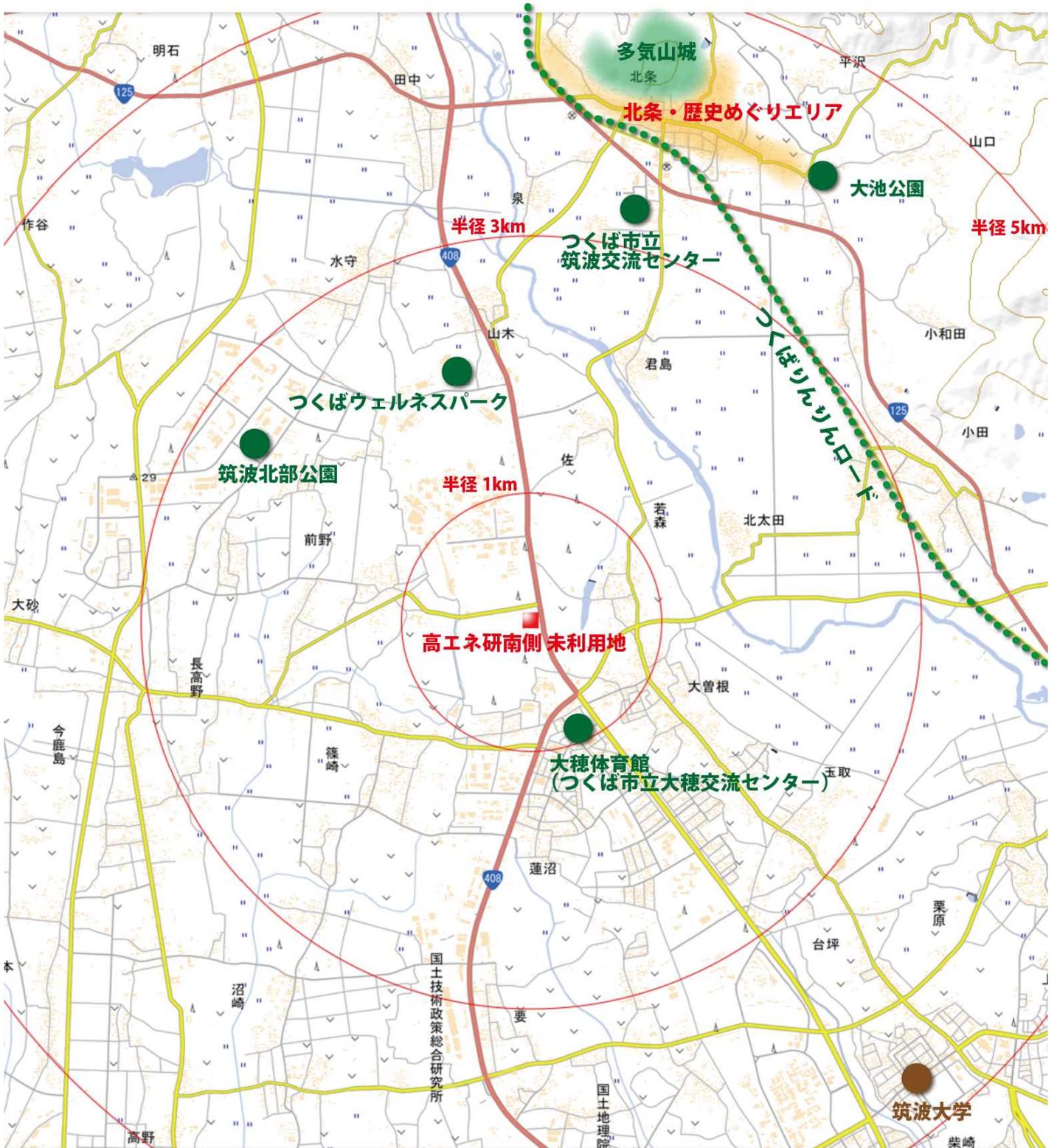
① 上郷高校跡地の周辺条件等

- 【広域利用ネットワーク】 下図に示す多様な施設が近接しており、これらと連携した文化活動や健康づくりのネットワークが想定される。施設をつなぐルートはジョギング・ウォーキングコースとしての活用が考えられる。



② 高エネ研南側未利用地の周辺条件等

- 【広域利用ネットワーク】「つくばウェルネスパーク」「大穂体育館」との連携が想定され、ジョギング・ウォーキングコースとして活用することも考えられる。さらにつくばりんりんロードとの連携が想定される。



1.4 他自治体の大会開催の状況と日常利用状況

	大会・イベントの開催状況 (陸上競技関連)	日常利用状況 ①陸上競技場とそれ以外の比 ②団体利用と個人利用の比 ③日中と夜間利用の比 ④年間利用者数等	インフィールドの 利用状況	芝生養生期間
古河市中央 運動公園・ 陸上競技場 古河市 (142,401人 R2.8月1日 現在)	中学校・高校県西地区大会、 下総記録会、 はなももマラソン大会など	①陸上競技場 80%: それ以外 20% (サッカー、企業運動会など) ②団体利用 30%、個人利用 70% ③開場時間 9:00～19:00 (冬期 11月～2月は 17時まで) 夜間利用なし ④70,908人(R1)	サッカー大会、 ラグビー大会 など	4月1日～6月30 日芝養生のため使用 禁止 ※トラックは利用可
龍ヶ崎市陸 上競技場た つのコフィー ルド 龍ヶ崎市 (76,810人 R2.8月1日 現在)	【陸上】:流通経済大学陸上 競技会、 茨城県南高等学校陸上競技 大会、 茨城県南高等学校新人陸上 競技大会 など 【サッカー】:日本フットボール リーグ(JFL)、 関東大学サッカーリーグなど 観客数:26,613人 【イベント】:市民スポーツ・レ クリエーションまつり、 ランニングクリニック、 ウォーキングイベントなど	①データなし ②団体利用 95%:個人 5% ③夜間利用なし ④利用者数合計 43,747人 (団体利用人数 41,748人 個人利用人数 1,999人) 稼働率:58%	陸上競技、 サッカー ラグビー グラウンドゴルフ ランニング(ウォ ーキング)教室 陸上教室 サッカー教室、 市スポーツイベン ト など	インフィールド利用不 可期間:芝生養生期 間 7月・10月(約1 ヶ月程度)
石岡運動公 園陸上競技 場 石岡市 (74,019人 R2.8月1日 現在)	市内:小中体育連盟主催事 業・市陸連主催事業 市外:近隣市小中体育連盟 主催事業・茨城県南地区記 録会等 ※観客数については、各事業 主催者による参加制限によ る。	①原則陸上競技専用 ②回答無し ③夜間利用なし ④約 22,500人(R1)	原則陸上競技専 用	無し
阿見町総合 運動公園陸 上競技場 阿見町 (47,865人 R2.8月1日 現在)	陸上協議関連の大会、イベン トは特に無し。 (小中学校の陸上記録会が 昨年から行われなくなった)	①サッカー50%、陸上 30%、グラ ウンドゴルフ 20% ②団体 9割:個人 1割 ③夜間利用なし ④33,055人(R1)	サッカーの試合 グラウンドゴルフ	インフィールド利用不 可期間:芝生養生期 間 12月上旬～2月 下旬

※上記施設のインフィールドは、すべて天然芝である。